

令和元年度 浜松市文化財調査報告

令和元年度の文化財保存・活用事業の要点

第1部 文化財年報

第1章 文化財保護事業報告

第2章 市内指定文化財等の動向

1 新指定の文化財

(1) 光明山古墳

(2) 鳥居松遺跡出土金銀装円頭大刀

(3) 袈裟襷文銅鐸3口

2 新登録の文化財

(1) 方広寺本堂 ほか

(2) 大福寺庫裏

3 文化財の主な整備・保存修復事業

4 文化財の継承事業

5 浜松地域遺産の認定

第3章 浜松市地域遺産センター年報

第2部 埋蔵文化財調査報告

第1章 埋蔵文化財調査の概要

第2章 本発掘調査概要

第3章 試掘・確認・立会等調査報告

第4章 詳細報告

1 増楽遺跡 11・12次調査報告

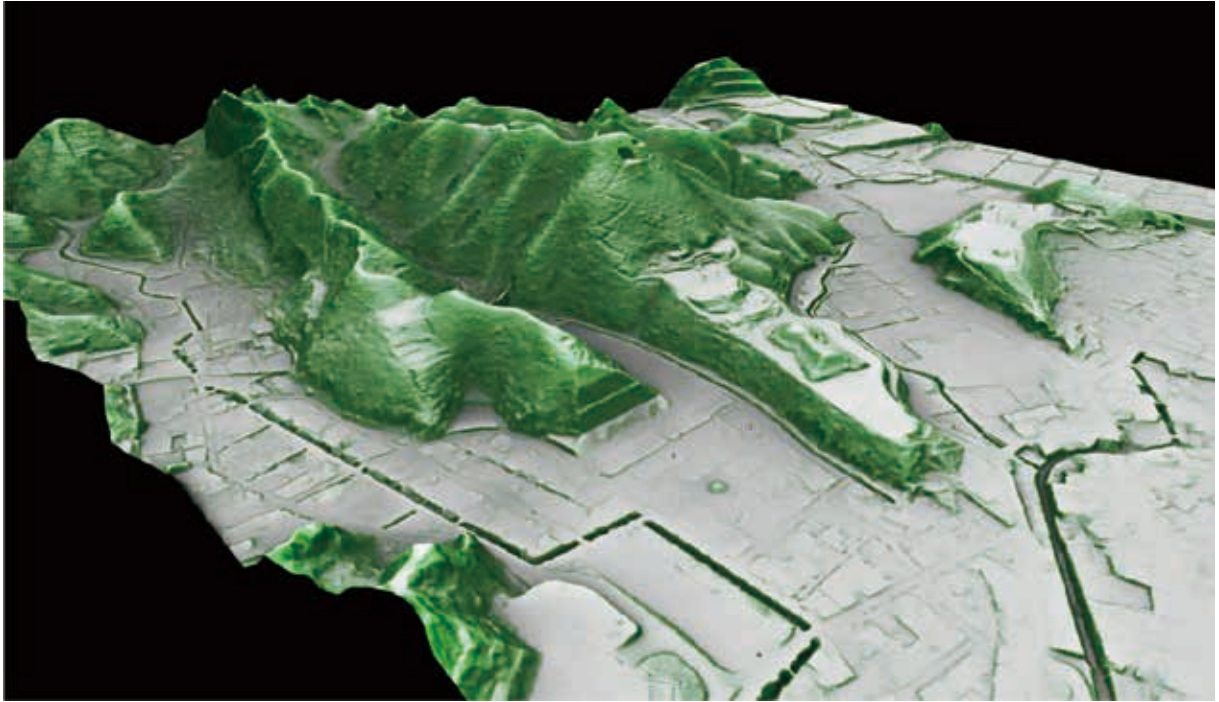
2 若林町村西遺跡 14・15次調査報告

3 恒武西宮遺跡 26・28・29次調査報告

4 浜松城下町遺跡 12次調査報告

2021

浜松市教育委員会



1 光明山古墳南西上空から



2 光明山古墳全景



3 光明山古墳立体図



1 金銀装円頭大刀



柄頭・柄間詳細
(佩表)



柄頭・柄間側面
(背側)



柄頭・柄間詳細
(佩裏)



柄頭・柄間側面
(刃側)



2 袈裟襴文銅鐸 (七曲り 1 号)



3 袈裟襴文銅鐸 (七曲り 2 号)



4 袈裟襴文銅鐸 (不動平出土)



1 方広寺本堂

写真 静岡県伝統建築技術協会



2 大福寺庫裡

写真 富田正行



1 寶林寺仏殿



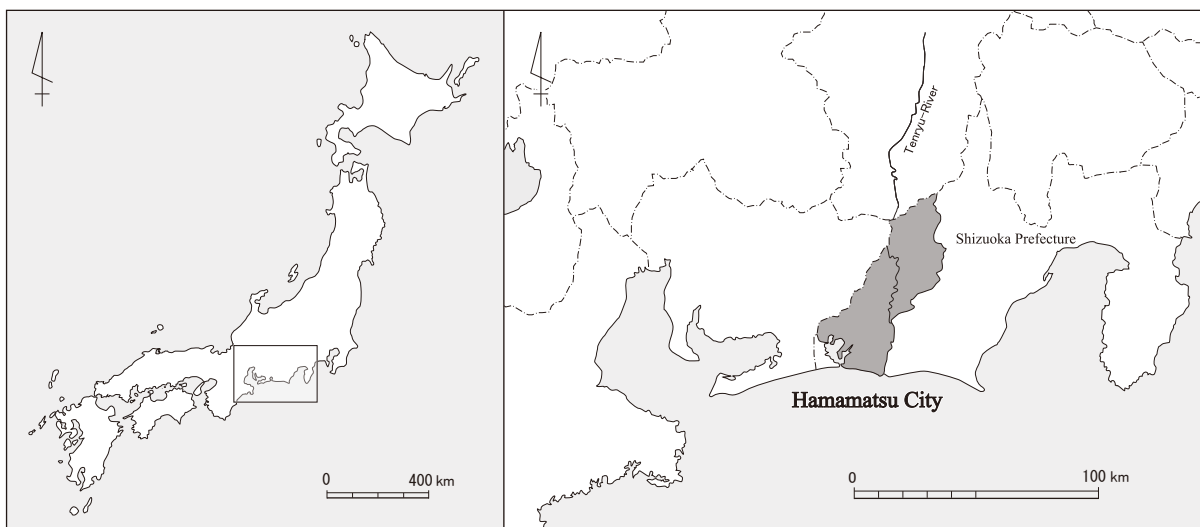
2 宝林寺増長尊天菩薩 修理後



3 宝林寺毘沙門天菩薩 修理後

例 言

1. 本書は、浜松市教育委員会（市民部文化財課が補助執行）が令和元（2019）年度に実施した市内における文化財調査や保護事業等の報告集である。
2. 第1部の文化財年報では、令和元（2019）年度に実施した市内文化財の保存、活用事業等について報告しており、第1章には、市内文化財の保護事業報告、第2章には、新たに指定された文化財の概要、文化財の主な整備・保存修復事業や継承事業の概要、新たに認定された浜松地域遺産の一覧、第3章には、浜松市地域遺産センターの概要及び実施した業務内容を掲載している。
第2部の埋蔵文化財調査報告では、令和元（2019）年度に実施した埋蔵文化財調査について報告しており、第1章には、埋蔵文化財調査の概要及び一覧、第2章には、本発掘調査の概要、第3章には、試掘・確認調査・工事立会の報告、第4章には、小規模本発掘調査や重要な成果が得られた試掘・確認調査・工事立会について詳細な報告を掲載した。
3. 試掘・確認調査は、国の補助金を得て実施した調査、市単独費で実施した調査、原因者負担で実施した調査があり、その全てを掲載した。
4. 本書の編集は、渡邊三恵（浜松市市民部文化財課）が行い、岡本佳枝（同）、安川あや（同）が補佐した。執筆は浜松市市民部文化財課職員が分担して行い、第2部第4章のみ文責を文末に記した。
5. 本書にかかわる遺跡の調査記録と出土遺物は、浜松市地域遺産センターで保管している。



浜松市の位置

令和元年度 浜松市文化財調査報告

目 次

巻頭図版

例言

令和元年度の文化財保存・活用事業の要点	1
---------------------	---

【第1部 文化財年報】

第1章 文化財保護事業報告	5
第2章 市内指定文化財等の動向	17
1 新指定の文化財	17
2 新登録の文化財	29
3 文化財の主な整備・保存修復事業	33
4 文化財の継承事業	46
5 浜松地域遺産の認定	47
第3章 浜松市地域遺産センター年報	53

【第2部 埋蔵文化財調査報告】

第1章 埋蔵文化財調査の概要	61
調査位置図	61
調査一覧表	63
第2章 本発掘調査概要	65
第3章 試掘・確認・立会等調査報告	73
第4章 詳細報告	133
1 増楽遺跡11・12次調査報告	133
2 若林町村西遺跡14・15次調査報告	137
3 恒武西宮遺跡26・28・29次調査報告	141
4 浜松城下町遺跡12次調査報告	157

令和元年度の文化財保存・活用事業の要点

1 文化財保護法の改正と計画の作成

平成31年4月1日、改正文化財保護法が施行された。改正文化財保護法の要点はいくつかあるが、都道府県に対しては、域内の文化財の保存と活用に関する総合的な施策の大綱を定めることができた（改正文財保護法第183条の2第1項）。これを受けて静岡県は「静岡県文化財保存活用大綱」を令和2年3月に策定した。大綱には文化財の保存及び活用に関する広域的な方針や保存活用のための措置、域内の市町村への支援の方針、防災・災害発生時の対応、文化財の保存及び活用の推進体制などが示されている。

一方、市町村に対しては当該市町村の区域における文化財の保存及び活用に関する総合的な計画を作成し、文化庁長官の認定を申請することができることとした（同法第183条の3第1項）。本市も令和元年度から「浜松市文化財保存活用地域計画」の作成に取り掛かり、令和2年度の作成、令和3年度の国認定申請を目標とした。また、平成30年度から、本市では、文化財課と都市整備部土地政策課と共同のもと、国土交通省・農林水産省・文化庁の三省庁共管事業である「歴史的風致維持向上計画」の策定作業を開始した。両計画は密接に関係し、本市の文化財行政の指針を示すものと位置付けられる。

令和元年度は個別文化財の保存活用計画の作成にも取り組んだ。平成29年度に国史跡に指定された二俣城跡及び鳥羽山城跡（天竜区）の保存活用計画は、平成30年度及び令和元年度の2か年で作成し、令和2年3月に国の認定を受けた。

『史跡二俣城跡及び鳥羽山城跡保存活用計画』は文化財保護法の改正後、国の認定を受けた史跡保存活用計画の第1号であった。両城跡の整備に関しては、令和2年度以降、整備基本計画の作成に取り組む。

2 文化財の指定・登録・認定の動き

令和元年度には、国、県、市それぞれ新たな指定文化財が誕生した。国指定史跡として光明山古墳（天竜区）が、県指定有形文化財（考古資料）として鳥居松遺跡出土金銀装円頭大刀が、市指定有形文化財（考古資料）として袈裟襷文銅鐸（中川滝峯七曲り出土、中川不動平出土）の2件3口が加わった。また、国登録文化財としては、方広寺本堂（北区）など建造物22件、大福寺庫裏1棟（北区）が新規に登録された。

平成28年度から開始した浜松市認定文化財

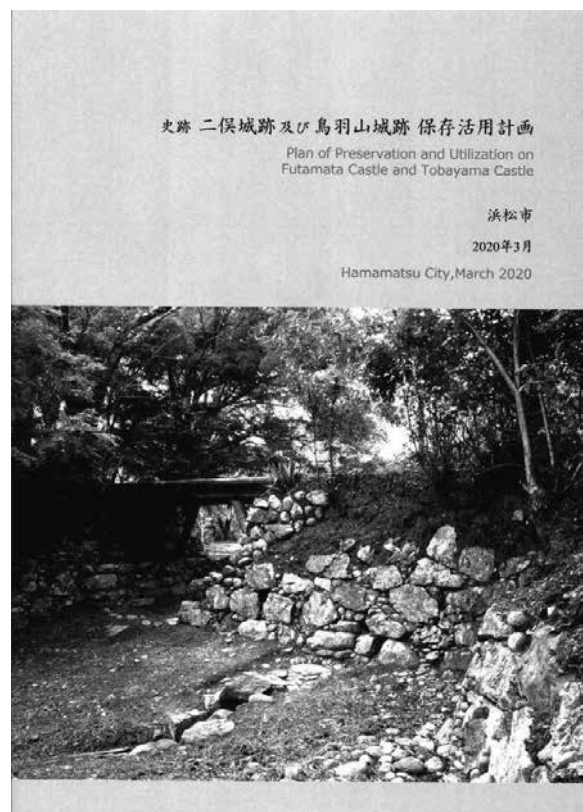


図1 『史跡二俣城跡及び鳥羽山城跡保存活用計画』

制度（浜松地域遺産認定制度）は4年目を迎え、市域に広く浸透した。令和元年度は新たに66件を認定し、認定文化財の総数は308件を数えるようになった。本年度は、食文化などの領域を網羅する「伝統的生活文化」の枠を設け、「水窪じゃがた」、「光明勝栗」（ともに天竜区）などを新たに文化財として認定した。

認定文化財の活用動きも活発化している。令和元年度に行われた関連事業として、天王町東自治会屋台保存会（東区）が実施した「浜松市文化遺産屋台分解・組立技法継承地域振興事業」や、二俣未来まちづくり協議会（天竜区）が企画した「二俣のまち並みと地域遺産フォトコンテスト」などが挙げられる。いずれも市民団体が中心となって行われたものであり、文化財を身近に親しむ動きとして、今後も様々な企画が拡散、展開されることを期待する。

3 有形文化財の保存修理

令和元年度も市内の寺院が所有する有形文化財の保存修理が行われた。修理が完了した主要な文化財としては、寶林寺仏殿（北区、国指定）、龍潭寺伽藍の井伊家霊屋（北区、県指定）、木造増長天菩薩・毘沙門天菩薩（北区、県指定）、瑞雲院鐘楼（天竜区、市指定）が挙げられる。寶林寺仏殿や井伊家霊屋は修理中の見学会を実施し、それぞれ100人近い見学者を迎えた。修理が完了したこれらの文化財は、現地で公開されている。

4 埋蔵文化財の調査

令和元年度の開発行為に先立つ市内の遺跡照会の件数は6084件を数えた（前年比108%）。開発に先立つ埋蔵文化財の手続きについては、文化財保護法93条の届出（民間開発）が230件（前年比128%）、同94条の通知（公共事業）が29件を数えた。埋蔵文化財に関する手続きが着実に周知されていることがうかがえる。

注目できる発掘調査としては、元城小学校跡地で開始された浜松城跡の確認調査（26次調査）が挙げられる。当該調査は、浜松城公園長期整備構想（主管：都市整備部緑政課）に伴うもので、現地調査は令和4年度まで実施する。このほか浜松城跡における発掘調査は複数箇所が行われ、27・29次調査地点で堀の跡が確認できるなど大きな成果があがった。26次調査と27次調査については同時に現地説明会を開催した。当日は雨天にも関わらず、410人もの見学者を迎えることができ、城跡の調査に係る関心の高さがうかがえた。

5 地域遺産センターの展開

地域遺産センターにおける活動も、軌道に乗りつつある。同センターでは、埋蔵文化財に関わる調整、調査研究を進めるほか、文化財の情報収集、公開活用事業を進めている。指定文化財や認定文化財に関する情報公開を随時進めたほか、新指定を契機とした速報展示を行った。また、令和元年度には農村歌舞伎の企画展を行い、展示や映像の紹介、ワークショップ、見学会など複合的なイベントを開催した。

【第 1 部 文化財年報】

第1章 文化財保護事業報告

1 文化財の調査と顕彰

(1) 浜松地域遺産の認定

地域での貴重な文化資源を指定文化財とは別の枠組みで「浜松地域遺産」として認定し顕彰することで、後世への保存継承と地域活性化への活用により、個性ある地域の創造への寄与を期待するもの。令和元年度は推薦 68 件のうち 66 件を認定した。区別及び分類別の認定数は右記のとおり。

※詳細は第2章(47頁)に掲載。

※令和元年度認定の「袖ヶ浦三十三観音霊場の観音像」は東区と浜北区に重複して計上。

区 別	
中区	4
東区	15
西区	6
南区	4
北区	8
浜北区	14
天竜区	16
重複※	-1
合計	66

分類別	
建造物	4
美術工芸品	18
有形民俗文化財	14
無形民俗文化財	6
史跡	13
名勝	3
天然記念物	1
文化的景観	1
伝統的建造物群	1
近代化遺産	1
伝承地	2
伝統的生活	2
合計	66



浦川の街並み（令和元年度認定文化財）



水窪じゃがた（串いも）（同左）

(2) 指定文化財等の現状調査

適切な保護事業の推進及び新たな文化財指定の検討材料とするため、下記の指定文化財及び指定文化財候補等について調査、情報収集を行った。

区 分	種 別	文化財の名称	所在地
国指定	建造物	浜名惣社神明宮本殿ほか	北区三ヶ日町三ヶ日
市指定	建造物	甘露寺中門	東区中郡町
市指定	建造物	旧浜松銀行協会	中区栄町
国指定	彫刻	木造千手観音立像ほか	北区三ヶ日町摩訶耶
市指定	史跡	亀塚古墳	西区呉松町
県指定	史跡	光明山古墳	天竜区山東
県指定	天然記念物	シブカワツツジ群落	北区引佐町渋川
市指定	天然記念物	奥山のムクノキ	北区引佐町奥山
市指定	無形民俗	犬居つなん曳	天竜区春野町堀之内
国指定	無形民俗	川名のひよんどり	北区引佐町川名
国指定	無形民俗	寺野のひよんどり	北区引佐町渋川
国指定	無形民俗	懷山のおくない	天竜区懷山
国指定	無形民俗	西浦の田楽	天竜区水窪町奥領家

区 分	種 別	文化財の名称	所在地
県指定	無形民俗	呉松の大念仏	西区庄内町
県指定	無形民俗	滝沢の放歌踊	北区滝沢町
県指定	無形民俗	滝沢おくない	北区滝沢町
県指定	無形民俗	川合花の舞	天竜区佐久間町川合
県指定	無形民俗	横尾歌舞伎	北区引佐町横尾・白岩
市指定	無形民俗	遠州大念仏	中区鹿谷町ほか
市指定	無形民俗	勝坂神楽	天竜区春野町豊岡
市指定	無形民俗	妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講	北区細江町中川
未指定	無形民俗	水窪の念仏踊〈神原の虫送り〉	天竜区水窪町奥領家
未指定	無形民俗	浦川歌舞伎	天竜区佐久間町浦川
未指定	無形民俗	息神社の田遊祭	西区雄踏町宇布見
未指定	無形民俗	神澤のおくない	天竜区神沢
未指定	無形民俗	雄踏歌舞伎「万人講」	西区雄踏町宇布見

2 文化財の保護と継承

(1) 文化財保護審議会の開催

文化財保護法第190条第1項の規定に基づき設置する附属機関（浜松市文化財保護条例第43条）。教育委員会の諮問に応じて、浜松市内の文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議し、これらの事項に関して教育委員会に建議した。

審議会委員 任期：令和元年～2年の2箇年

分 野	氏 名	所属・役職等	備 考
社会学	笹原 恵	静岡大学副学長	会長 2期目
歴史学	西田 かほる	静岡文化芸術大学国際文化学科長	副会長 1期目
古文書・歴史学	小木 香	元春野町史執筆委員	2期目
美術史	片桐 弥生	静岡文化芸術大学文化政策学部教授	1期目
考古学	篠原 和大	静岡大学人文社会科学部教授	2期目
建築	中谷 悟	静岡県文化財建造物監理士	1期目
民俗	中山 正典	静岡県立農林環境専門職大学准教授	2期目
樹木	藤下 章男	樹木医	1期目

審議会開催状況

回	開催日	内 容
第1回	令和元年8月8日	平成30年度の実績、令和元年度の事業計画
第2回	令和元年12月19日	令和元年度事業報告（上半期）、浜松地域遺産（認定文化財）の申請状況、袈裟禪文銅鐸の現地視察
第3回	令和2年2月21日	諮問 袈裟禪文銅鐸の市指定、浜松地域遺産（認定文化財）の意見聴取



袈裟禪文銅鐸
(中川滝峯七曲り出土)



袈裟禪文銅鐸
(中川不動平出土)

(2) 文化財の管理

文化財等の維持管理・整備 市内の文化財等の保存状態や見学的环境を整えるため、除草、清掃、設備の保守点検など日常的な維持管理を行ったほか、臨時的な修繕や整備等を実施した。主な事業は以下の通り。

区	実施状況
中区	追分一里塚（市史跡）及び住吉南古墳（市史跡）の除草及び清掃
東区	蛭子森古墳（市史跡）の除草及び清掃
南区	米津台場（市史跡）の除草及び清掃
西区	入野古墳（市史跡）の樹木伐採、火穴古墳（市史跡）、東大山一里塚（市史跡）及び東海道の松並木（市史跡）の除草及び清掃、中村家住宅（国有形）及び舞坂宿脇本陣（市有形）の修繕
北区	【細江町】滝峯才四郎谷銅鐸公園（県史跡）、伝堀川城跡（市史跡）、井伊直親の墓及び細江文化財倉庫の除草及び清掃 【引佐町】三岳城跡（国史跡）、渭伊神社境内遺跡（県史跡）、シブカワツツジ群落（県天然記念物）、北岡大塚古墳（市史跡）、馬場平古墳（市史跡）及び白山1号墳（市史跡）の除草及び清掃 【三ヶ日町】凌苔庵跡（市史跡）、本坂一里塚（市史跡）、宇志北大里遺跡（市史跡）、姫街道、千頭ヶ峯城跡（県史跡）及び西山古墳（市史跡）の除草及び清掃
浜北区	北浜の大カヤノキ（国天然記念物）の樹幹部治療・土壌改良、二本ヶ谷積石塚群（県史跡）の史跡公園維持管理、赤門上古墳（県史跡）・向野古墳（市史跡）等の除草及び清掃
天竜区	旧王子製紙製品倉庫（県指定）、ヒラシロ遺跡（市史跡）史跡公園の維持管理、高瀬のニッケイ（市天然記念物）の除草及び清掃、高根城跡（市史跡）除草及び修繕



二本ヶ谷積石塚群（浜北区）



ヒラシロ遺跡公園（天竜区）

現状変更等への対応 指定文化財及びその指定地内で行われる現状変更や所在地変更などの各種申請・届出等については、法令に基づき事務処理を行った。件数は以下のとおり。

区分	種 別	内 容	件数	文化財名称（数の記載がないものは1件）
国 指 定	記念物	現状変更	4	北浜の大カヤノキ、二俣城跡及び鳥羽山城跡、龍潭寺庭園、蜷塚遺跡
		滅失	13	ニホンカモシカ×13
		き損	2	二俣城跡及び鳥羽山城跡×2
	有形文化財	所有者変更	1	鈴木家住宅
		き損	1	木造釈迦如来及両脇侍像
県 指 定	記念物	現状変更	4	シブカワツツジ群落、浜名湖×3
	有形文化財	所在場所変更	3	紙本著色独湛禅師画像、絹本著色近藤貞用（語石）夫妻画像×2
		損傷	2	浜名惣社神明宮天羽槌雄神社、龍潭寺伽藍のうち開山堂
		修理	1	龍潭寺伽藍のうち開山堂
市 指 定	記念物	現状変更	4	奥山のムクノキ、姫街道の松並木、浜松城×2
国 登 録	有形文化財	き損	2	天竜浜名湖鉄道機関車扇形車庫、天竜浜名湖鉄道運転区浴室

(3) 文化財保存事業に対する補助金

文化財の管理者が修理や保護、維持管理等に必要とする費用について、国や県とともに補助金を交付したほか、国や民間の補助・助成制度の活用についても促した。

文化財の保存修理に対する補助金

区分	種別	事業名	交付先	市交付額
国指定	建造物	寶林寺仏殿保存修理事業	宗教法人 寶林寺	2,721 千円
国指定	建造物	寶林寺仏殿保存修理事業（繰越）	宗教法人 寶林寺	13,920 千円
県指定	建造物	龍潭寺伽藍のうち井伊家霊屋保存修理等事業	宗教法人 龍潭寺	7,054 千円
県指定	美術工芸品	木造増長尊天菩薩・毘沙門天菩薩保存修理等事業	宗教法人 宝林寺	2,015 千円
市指定	建造物	瑞雲院鐘楼保存修理事業	宗教法人 瑞雲院	1,097 千円
県指定	建造物	摂社天羽槌雄神社保存修理事業	宗教法人 浜名惣社神明宮	208 千円
市指定	建造物	秋葉神社神門保存修理事業	宗教法人 秋葉山本宮秋葉神社	1,685 千円
市指定	建造物	実相寺庚申堂保存修理事業	宗教法人 実相寺	13,776 千円
市指定	美術工芸品	木造十一面観音立像美術工芸品保存修理等事業	伊平自治会	162 千円



龍潭寺霊屋修理見学会の様子

記念物の保護に対する補助金

区分	種別	事業名	交付先	市交付額
市指定	天然記念物	奥山のムクノキ記念物保存修理等事業	個人1人	225 千円

文化財の管理事業に対する補助金

区分	種別	事業名	交付先	市交付額
国指定	建造物	寶林寺仏殿・方丈管理事業	宗教法人 寶林寺	213 千円
国指定	建造物	方広寺七尊菩薩堂管理事業	宗教法人 方広寺	12 千円
国指定	建造物	浜名惣社神明宮本殿管理事業	宗教法人 浜名惣社神明宮	30 千円
県指定	史跡	陣座ヶ谷古墳管理事業	陣座ヶ谷古墳管理	30 千円
県指定	名勝	実相寺庭園指定文化財管理事業	宗教法人 実相寺	22 千円
市指定	史跡	伝橘逸勢墓管理事業	本坂自治会	30 千円
市指定	史跡	伝井伊共保出生井管理事業	宗教法人 龍潭寺	30 千円

無形民俗文化財の保存伝承・活用に対する補助金

区分	事業名	交付先	市交付額
国指定	寺野のひよどり保存伝承・活用等事業	寺野伝承保存会	70 千円
国指定	川名のひよどり保存伝承・活用等事業	川名ひよどり保存会	70 千円
国指定	懷山のおくない保存伝承・活用等事業	懷山おくない保存会	70 千円
国指定	西浦の田楽保存伝承・活用等事業	西浦田楽保存会	120 千円
県指定	滝沢の放歌踊保存伝承・活用等事業	滝沢放歌踊保存会	70 千円
県指定	川合花の舞保存継承・活用等事業	川合花の舞保存会	70 千円
県指定	川合花の舞保存継承・活用等事業	川合花の舞保存会	60 千円
県指定	今田花の舞保存伝承・活用等事業	今田花の舞保存会	30 千円
県指定	横尾歌舞伎保存伝承・活用等事業	横尾歌舞伎保存会	445 千円
県指定	横尾歌舞伎保存伝承・活用等事業	横尾歌舞伎保存会	70 千円

区分	事業名	交付先	市交付額
市指定	勝坂神楽保存伝承・活用等事業	勝坂神楽保存会	70 千円
市指定	犬居つなん曳保存伝承・活用等事業	犬居自治会龍勢社	74 千円
市指定	妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講保存伝承・活用等事業	妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講保存会	70 千円
その他	天竜地域無形民俗文化財保存伝承・活用等事業	浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会	70 千円

国・民間からの補助金・助成金

補助・助成元の名称	事業名	補助・助成先	補助・助成額
国（文化芸術振興費補助金）	浜松市中山間地域の文化遺産活用推進事業	浜松市中山間地域の文化遺産活用実行委員会	9,552 千円
一般財団法人伊豆屋伝八文化振興財団（文化財修理保存等助成事業）	木造増長尊天菩薩・毘沙門天菩薩美術工芸品保存修理等事業	宗教法人 宝林寺	150 千円
	実相寺伽藍のうち庚申堂建造物保存修理事業	宗教法人 実相寺	200 千円
	龍潭寺霊屋建造物保存修理事業	宗教法人 龍潭寺	200 千円
公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団	宝林寺木造増長尊天菩薩・毘沙門天菩薩保存修理事業	宗教法人 宝林寺	300 千円

3 文化財等の公開

（１）文化財建造物の公開

以下の文化財建造物を公開し、必要な維持管理等を実施した。

区分	施設名	所在地	事業内容	入場者数
国指定有形文化財	鈴木家住宅	北区引佐町的場	燻蒸、消防設備保守点検、建造物保存修理のための地盤調査・耐震診断等	383 人
国指定有形文化財	中村家住宅	西区雄踏町宇布見	警備、植栽管理、施設修繕等	1,197 人
市指定有形文化財	舞坂宿脇本陣	西区舞阪町舞阪	警備、消防設備保守点検等	4,456 人
国登録有形文化財	田代家住宅	天竜区二俣町鹿島	樹木管理、施設修繕、施設管理等	2,853 人



中村家住宅



舞坂宿脇本陣

（２）賀茂真淵記念館の運営

国学者賀茂真淵の業績及び関係資料を紹介するため、展示や講座等を開催した。なお、（一社）浜松史蹟調査顕彰会が指定管理者として施設の運営を行った。入館者数：7,340 人。



賀茂真淵記念館



同展示室

(3) 内山真龍資料館の運営

国学者内山真龍の業績を紹介するため特別展1回、常設展3回を開催したほか、施設の維持管理、収蔵庫の空調機の更新工事を行った。入館者数：1,230人。



内山真龍資料館



同展示室

(4) 浜松市地域遺産センターの運営

埋蔵文化財をはじめとする市内の文化財に関する保存・活用事業を行う施設である浜松市地域遺産センターの運営・管理を行った。入館者数7,339人。※詳細は第3章（53頁）に掲載。

4 文化財の災害対策

(1) 普及啓発

将来予想される災害に際して文化財の被災の可能性や減災、救済の必要性を案内する講座や講演会、フィールドワーク等を開催した。

文化財防災ボランティア養成講座 修了者は静岡県文化財等救済支援員に登録することができる講座（全3回）を開催したが、第3回については、新型コロナウイルスの感染症対策により延期した。

回	日	内 容	受講者数
1	令和2年2月15日	県文化財等救済支援員について、浜松の災害古記録	6人
2	令和2年2月22日	文化財の梱包方法（実技）	6人
3	延期	文化財の修復方法（実技）、市内の文化財保護の課題について	—

(2) その他の災害対策

文化財防火デー訓練 文化財防火デーである1月26日とその前後で重要文化財中村家住宅（西区雄踏町）、方広寺（北区引佐町／重要文化財方広寺七尊菩薩堂）等で消防訓練を実施した。

文化財防災物品の備蓄 災害発生時の文化財救済作業で使用する中性紙封筒などの物品を購入し、地域遺産センター等へ備蓄した。

5 地域と連携した文化財の保存と活用

(1) 市指定天然記念物「アカウミガメ」及びその産卵地の保護

遠州灘海岸でアカウミガメの保護に努めている特定非営利活動法人サンクチュアリーエヌピーオーとの相互連携や業務委託によって、以下の事業を実施した。

保護監視と生態調査 指定区域内のアカウミガメ及びその産卵地の保護監視、生態及び産卵状況の調査等を行い、25 の産卵巣を確認し、3,040 個の卵を保護した。

親と子のウミガメ教室 文化財や自然保護への理解を深めるため、ウミガメ講座、海岸ウォッチング、早朝の産卵調査、子ガメの放流会等の教室を3回開催した。実施状況は右記のとおり。

開催日	大人	子ども	合計
6月29日	139人	156人	295人
7月13日	136人	153人	289人
8月18日	135人	157人	292人
合計	410人	466人	876人



ウミガメ教室の様子



産卵した卵

(2) 地域資源散策コース「遠州山辺の道」の整備と活用

浜北区内で設定している地域資源散策コース「遠州山辺の道」について、地域住民が参加している市民団体「遠州山辺の道の会」との相互連携や業務委託により、月1回のワークショップの開催、ウォーキングイベントの開催、案内看板の整備、ベンチの設置、ボランティアガイドの派遣等を行った。また、遠州山辺の道来訪者が安全に散策できる事を目的として、エリア案内看板を2基設置した。



講演会の様子



ウォーキングイベントの様子

(3) 無形民俗文化財の活性化

市内各所で無形民俗文化財を伝承している各地域の保存団体の自主的な取組を支援することにより、民俗芸能の確実な伝承と地域の活性化を図った。

浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会事務局の運営 各保存団体の相互連携や情報交換を図るために設置されている連絡会の事務局として運営補助・調整等を行った。

- ・理事会 平成 31 年 4 月 17 日（水）会場：天竜区役所
- ・総 会 令和元年 5 月 22 日（水）会場：領家公民館（西区雄踏町宇布見）

参加団体

団体名称	文化財名称	所在地	指定区分
寺野伝承保存会	遠江のひよんどりとおくない（寺野のひよんどり）	北区引佐町渋川	国指定
川名ひよんどり保存会	遠江のひよんどりとおくない（川名のひよんどり）	北区引佐町川名	国指定
懐山おくない保存会	遠江のひよんどりとおくない（懐山のおくない）	天竜区懐山	国指定
西浦田楽保存会	西浦の田楽	天竜区水窪町奥領家	国指定
遠州大念仏呉松組	呉松の大念仏	西区呉松町	県指定
滝沢放歌踊り保存会	滝沢の放歌踊	北区滝沢町	県指定
横尾歌舞伎保存会	横尾歌舞伎	北区引佐町横尾・白岩	県指定
川合花の舞保存会	川合花の舞	天竜区佐久間町川合	県指定
西浦の念仏踊保存会	西浦の念仏踊	天竜区水窪町西浦	県指定
遠州大念仏保存会	遠州大念仏	中区鹿谷町	市指定
妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講保存会	妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講	北区細江町中川	市指定
犬居自治会	犬居つなん曳	天竜区春野町堀之内	市指定
勝坂神楽保存会	勝坂神楽	天竜区春野町豊岡	市指定
滝沢おくない保存会	滝沢のシシウチ行事	北区滝沢町	国選択
今田花の舞保存会	今田花の舞	天竜区佐久間町奥領家	県選択
神澤おくない継承同好会	神澤おくない	天竜区神沢	未指定
東久留女木地区	東久留女木のおくない	北区引佐町東久留女木	未指定
雄踏歌舞伎保存会万人講	雄踏歌舞伎「万人講」	西区雄踏町宇布見	未指定
浦川歌舞伎保存会	浦川歌舞伎	天竜区佐久間町浦川	未指定
有玉神社流鏝馬神事保存会	有玉神社流鏝馬神事	東区有玉南町	未指定
雄踏息神社田遊祭	息神社の田遊祭	西区雄踏町宇布見	未指定



息神社の田遊祭



雄踏歌舞伎「万人講」

情報の発信 無形民俗文化財広報誌「山と里の民俗」（第 13 号・第 14 号）を発刊し、関係各所にて配布した。発行部数：各 4,000 部

出場激励金の交付 大会やイベント等へ参加した団体に以下のとおり激励金を交付した。

団体名称	大会等名称	開催地	金 額
横尾歌舞伎保存会、川合花の舞保存会、神澤おくない継承同好会	伝統芸能こどもサミット	静岡市	150 千円

横尾歌舞伎保存会	日本母親大会 in 静岡	静岡市	150 千円
横尾歌舞伎保存会	ふじのくに伝統芸能フェスティバル	静岡市	150 千円
雄踏歌舞伎保存会「万人講」	企画展「農村歌舞伎・地芝居」オープニングイベント	市内（北区）	100 千円
西浦田楽保存会	南信州伝統芸能フォーラム	長野県	100 千円
西浦田楽保存会	東栄フェスティバル	愛知県	100 千円



伝統芸能こどもサミット



横尾歌舞伎 日本母親大会 in 静岡
(グランシップ大ホール)

三遠南信ふるさと歌舞伎交流豊橋大会の開催 令和元年 11 月 17 日（日）に愛知県豊橋市の穂の国とよはし芸術劇場 PLAT において開催した。入場料は無料で約 400 人の来場があった。出演団体及び演目は以下のとおり。

団体名	地 域	演 目
大鹿歌舞伎保存会	長野県下伊那郡大鹿村	忠臣講釈 幕図 宅兵衛上使の段
湖西歌舞伎保存会	静岡県湖西市	伽羅先代萩 政岡忠義の場
下條歌舞伎保存会	長野県下伊那郡下條村	菅原伝授手習鑑 寺子屋の段
田峯観世音奉納歌舞伎谷高座	愛知県北設楽郡設楽町	菅原伝授手習鑑 吉田社頭車引の場
雄踏歌舞伎保存会万人講	浜松市西区雄踏町	恋飛脚大和往来 新口村の場
豊橋素人歌舞伎保存会	愛知県豊橋市	信州川中島合戦 輝虎配膳の場

次世代への継承 浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会への業務委託により、学校と地域の保存会との連携による次世代への継承事業（民俗芸能の体験等）を実施した。

委託先（保存会）	学校名	内 容
川名ひよどり保存会 横尾歌舞伎保存会	井伊谷小学校 引佐南部中学校 浜松学院大学ほか	川名のひよんどり、横尾歌舞伎の歴史について、歴史の学習、舞の所作や演奏の練習、楽器や道具類の管理や手入れについての体験などを行い、その成果を本番や校内発表会で披露した。
懐山おくない保存会 神澤おくない継承同好会	清竜中学校	懐山のおくない、神澤のおくないについて、歴史の学習、舞の所作や演奏の練習、楽器や道具類の管理や手入れについての体験などを行い、その成果を本番や校内発表会で披露した。

（４）城跡等史跡の整備活用

古墳や城郭をはじめとする史跡等を歴史・文化資源、観光資源として有効に活用するため、調査研究を進めるとともに、平成 30 年 2 月に国指定史跡となった二俣城跡及び鳥羽山城跡の保存活用計画の策定を行った。また、光明山古墳の発掘調査成果等をもとに、国指定への意見具申を行い、令和 2 年 3 月 10 日付で国史跡の指定を受けた。

発掘調査 二俣城跡及び鳥羽山城跡に続き、同じ地域に所在する市内最大の前方後円墳である光明山古墳について、国史跡指定の準備事業として、指定に必要な遺跡の情報を得るための発掘調査を行った。

浜松城跡の石垣調査 熊本地震による熊本城石垣崩壊、大阪府のブロック塀倒壊事故を受け、石垣の安全性に関心が高まっていることから、安全対策を講じるとともに、適正な保存・活用を図るため、浜松城跡の石垣の現況調査と石垣カルテ作成を実施した。

保存活用計画の策定 二俣城跡及び鳥羽山城跡を適切に保存活用していくため、保存活用計画の策定を行った。策定作業を円滑に進めるため、有識者を集めた保存活用検討会を開催し、事務局と参加者による討議を行った。策定した計画は令和2年3月19日付で文化庁から認定を受けた。

二俣城跡及び鳥羽山城跡保存活用検討会名簿

分野	氏名	所属等
建築学	寒竹 伸一	静岡文化芸術大学副学長兼大学院デザイン研究科教授
考古学	北野 博司	東北芸術工科大学歴史遺産学科教授
城郭考古学	千田 嘉博	奈良大学文化財学科教授
遺跡整備・庭園史	高瀬 要一	琴ノ浦温山荘園理事長
地域史	坪井 俊三	元浜松市史編纂執筆委員・元市文化財保護審議会委員
公開活用	山下 治子	株式会社アム・プロモーション常務取締役・「ミューゼ」編集長
歴史地理学	山村 亜希	京都大学大学院人間・環境学研究科教授

※五十音順／所属等は平成31年4月現在

6 埋蔵文化財の保存と活用

(1) 調整・管理

埋蔵文化財包蔵地に関する照会対応 開発事業者及び市役所内部等からの照会に対して対応した。

照会地	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区	全市合計
件数	1,874件	1,088件	762件	729件	572件	766件	186件	6,084件
前年度比	116%	100%	101%	108%	103%	104%	132%	108%

土木工事等への対応 埋蔵文化財包蔵地内において土木工事等の計画を有する事業者等との間で遺跡への適切な措置が図られるよう協議を行った。また、民間事業者から提出される文化財保護法第93条に基づく届出を受理し指示を行う（230件、前年度比128%）とともに、市役所の各部署から公共事業に伴い静岡県教育委員会へ提出される同法第94条に基づく通知については、進達・副申・伝達を行った（29件、前年度比88%）。

埋蔵文化財包蔵地の管理 発掘調査等の結果、範囲等の変更を要する埋蔵文化財包蔵地については、静岡県知事あてに内容変更を求める協議書を提出した（7件）。

出土遺物の管理 発掘調査等により遺物を発見した際には、発見地の所管警察署へ文化財保護法第100条に基づく文化財の発見通知書を提出した（37件）。

(2) 調査

遺跡の状況を把握するための試掘・確認調査や現地踏査、記録保存のための本発掘調査や工事立会等を実施し、出土品や記録類の整理作業・報告書編集を行った。（調査の詳細は第2部を参照）。

(3) 公開・活用

調査成果の整理と報告書等の刊行・公開 前年度より引き続き、郷ヶ平6号墳（北区都田町）出土埴輪の整理作業を進めて発掘調査報告書を刊行したほか、実施した発掘調査の報告書を刊行した。報告書は市内及び全国の自治体、大学、研究機関、図書館等へ配布した。普及啓発用のパンフレット・リーフレット類は、地域遺産センター等に配架した他、講座や見学会等の際に参加者へ配布した。

また、奈良文化財研究所がインターネット上で報告書データを公開している「全国遺跡報告総覧」において、既刊の報告書等のPDFデータを公開することに努めた。

種別	名 称	概要・趣旨
発掘調査報告書	浜松城下町遺跡 2	東海道沿いで行った 11 次調査の報告
発掘調査報告書	梶子遺跡 23 次	伊場大溝を調査した 23 次調査の報告
発掘調査報告書	城山遺跡	奈良時代の集落跡を調査した 16 次調査の報告
発掘調査報告書	高塚町村西遺跡	8 次調査の報告
発掘調査報告書	上新屋遺跡 2	7～8 世紀の集落跡を調査した 5 次調査の報告
発掘調査報告書	郷ヶ平 6 号墳	須恵質埴輪を出土した調査の報告
パンフレット	まいぶんガイドブック（改訂）	埋蔵文化財保護についてのこども向け解説書
リーフレット	浜松城跡発掘通信No.8～10	浜松城跡 26 次調査の状況について紹介
リーフレット	光明山古墳発掘通信No.5	航空レーザ測量の成果を紹介



浜松城発掘通信No. 9



光明山古墳発掘通信 No. 5



まいぶんガイドブック

展示会 地域遺産センターを中心に、考古資料を活用した展示会を開催した。

会 期	名 称	会 場	来場者数
5月25日～7月15日	発掘調査速報展（企画展「はままつの文化財 2019」の一部）	地域遺産センター	976 人
5月31日～6月28日	「都田川流域の遺跡」	都田図書館	未計測
7月8日～7月22日	「三ヶ日町の遺跡」	三ヶ日協働センター	未計測
11月16日～3月29日	光明山古墳国指定記念展示	地域遺産センター	2,075 人
11月16日～11月29日	光明山古墳国指定記念展示	天竜区役所	未計測



発掘調査速報展



光明山古墳国指定記念展示

見学会 発掘調査の現地説明会や遺跡の見学会を実施して、調査成果の公開に努めた。

開催日	名 称	来場者数
4月15日	天白磐座遺跡見学会	15人
10月19日	浜松城跡26・27次調査現地説明会	410人



浜松城跡26次・27次調査現地説明会

講座・シンポジウム 主催・共催事業のほか、依頼を受けて担当者を講師として派遣した。

開催日	講座名称	講 師	会 場	来場者数
5月25日	「浜松市の文化財の近況・熊本城跡復旧事業報告」	市担当者	地域遺産センター	45人
6月20日	「東区の文化財」	市担当者を派遣	蒲協働センター	20人
6月21日	「細江町の文化財」	市担当者を派遣	みをつくし文化センター	100人
6月22日	「発掘された都田川流域の遺跡」	市担当者を派遣	都田図書館	15人
7月9日	「二俣城と鳥羽山城の調査」	市担当者を派遣	二俣協働センター	32人
8月5日	「浜松市の文化財」	市担当者を派遣	引佐多目的研修センター	100人
10月1・8・15日	「郷土学習講座」	市担当者を派遣	引佐協働センター	20人
11月14・21日	「浜松城の発掘調査」	市担当者を派遣	浜松城	40人
12月7日	「浜松城の発掘調査」	市担当者を派遣	流通元町図書館	20人
1月18日	「光明山古墳の発掘調査」	市担当者	引佐協働センター	150人
1月19日	「上新屋遺跡の発掘調査」	市担当者を派遣	宝珠寺	60人



発掘速報展ギャラリートーク



講座「光明山古墳の発掘調査」

イベント・ワークショップ 埋蔵文化財への興味・関心を促進するため普及啓発事業を開催した。

開催日	名 称	概要・趣旨	参加者数
4月27日～5月5日	GWキッズイベント	発掘体験、整理作業体験など	648人
7月20日～8月25日	夏休み体験イベント「井伊谷夏の陣」	考古学体験、クイズラリー、自由研究相談など	1,037人
9月8日	浜松城発掘体験	小学生向けの講座と発掘体験	20人
11月9・10日	展示&体験「おおむかしの人形」	人形・動物形埴輪の展示とミニ埴輪づくりなど	611人
2月9日	ワークショップ「銅鏡チョコをつくろう」	チョコを用いた画文帯神獣鏡等の铸造模擬体験	15人



考古学体験



浜松城発掘体験

第2章 市内指定文化財等の動向

1 新指定の文化財

(1) 光明山古墳

区 分 国指定史跡

種 別 史跡

員 数 1 基

所有者 宗教法人 光明寺ほか

所在地 浜松市天竜区山東 2878 ほか 20 筆及び道路敷 5 本

年 代 古墳時代中期中頃から後半（5 世紀中頃から後半）

指定日 令和 2 年 3 月 10 日

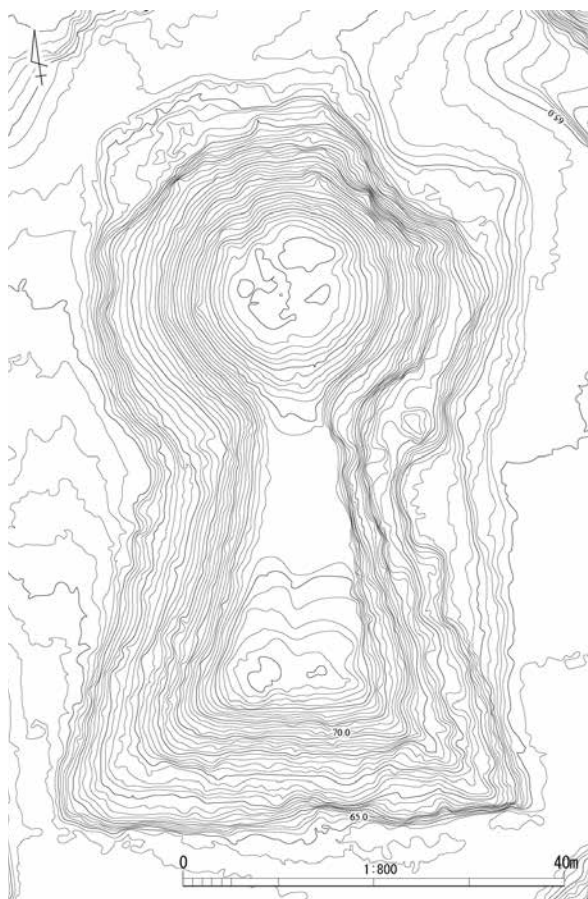
概 要 光明山古墳は浜松市天竜区山東に所在する墳長 83 m の前方後円墳である。古墳は山間部の小盆地に突き出た丘陵先端に築かれており、比較的眺望が開けた地にあたる。南北方向に主軸をとっており、後円部を北側に、前方部を南側に向けている。墳丘の残存状況は良好で、表面形状からも段築の存在がうかがえる。古墳の表面には墳丘の斜面を覆っていた葺石の石材と、埴輪の破片が散布しており、かつての威容を今に伝えている。

光明山古墳がある天竜区山東は南に接する天竜区二俣町とともに、山間部と平野部を繋ぐ政治や経済の中心地として栄えてきた。古墳の眼下には秋葉街道がある。この道は、古くから信濃と遠江を繋ぐ陸上交通路として、人びとの往来と物資、情報の交流を支えてきた。また、光明山古墳の丘陵を隔てた西側には、天竜川が南流している。天竜川の豊富な水量を利用した舟運は、大量の物資を運搬する手立てとして中世から近代にかけて多くの人びとに利用されている。

光明山古墳の南側には直径 32 m の造り出し付き円墳である光明山 2 号墳がある。この古墳では、1971 年に公共施設建設に伴う発掘調査が行われ、墳丘上部が失われた。2015 年、施設は廃止され、古墳とその周辺は平坦に造成されている。古墳の北側には、古墳名称のもとになった、曹洞宗光明山光明寺が立地する。現在、光明山古墳が立地する丘陵上面は寺院境内に連なり、山林に囲まれた自然環境を残す場として多くの市民に親しまれている。



墳丘復元図



光明山古墳測量図

光明山古墳と光明山2号墳では、1954年以降、測量調査や発掘調査が繰り返し実施されている。とくに2018年に浜松市教育委員会が実施した一連の発掘調査によって、光明山古墳の規模や構造が明確になり、光明山2号墳についても周溝や造り出しが地中に残存していることが判明した。

発掘調査の結果、光明山古墳は後円部、前方部ともに2段築成であること、上段と下段の斜面には葺石があること、中段平坦面と墳頂平坦面には埴輪が樹立されていることが明らかになった。なお、埋葬施設は未調査であり、過去の伝承を含めその情報は知られていない。

発掘調査で得られた各部の計測値は以下の通りである。墳長83m、後円部直径48m、後円部高8.5m、前方部高8.3m（高さはいずれも主軸上での計測値）。下段墳丘と上段墳丘の高さの比率は後円部北側で1：4である。墳丘斜面の傾斜角は後円部、前方部ともに近似しており、下段墳丘が26～28°、上段墳丘が30～32°である。

中段平坦面の幅は約2.2mであり、その標高は後円部、前方部ともにほぼ水平である。

葺石は長軸20cmほどの角礫を用いている。各段の基底石には一回り大きい長軸30～40cmほどの石材を使用する。後円部北側の調査区では極めて良好な遺存状態を残す上段墳丘の葺石を確認した。この調査区では、縦方向に延びる区画石列を確認している。区画石列は主軸からは若干斜方向に振れているが、基底部から墳頂部まで6m以上を一直線に結んでいる。

光明山古墳の墳丘は、丘尾切断型の墳丘構築方法を採用している。南側に舌状に延びる丘陵を切断し、後円部の墳裾をめぐる周縁部を幅10m程度、平坦に造成している。前方部南側も墳裾から幅約10mにわたって、深さ10～20cmの造成面を形成している。光明山古墳が立地する尾根は東西に痩せており周溝は伴わないが、北側と南側の状況を勘案すると、墳裾の外周には幅10mほどの造成面が巡っているとみられる。光明山古墳の墳丘は下部が地山削り出し、上部が盛り土で形成されている。また、後円部では、下段墳丘の葺石基底部の外側に、高さ25～50cmほどの地山削り出しの基壇が巡っている。

発掘調査では円筒埴輪と朝顔形埴輪が出土した。円筒埴輪は突帯を2条めぐらした3段構成のもので、基底部に製作時の痕跡である段をもつ淡輪技法が採用されている。埴輪には黒斑は認められず、窯によって焼成されたものとみられる。円筒埴輪や朝顔形埴輪は、幅が狭い原体を用いたヨコハケを胴部のみならず突帯上にも施している。ヨコハケには明瞭な静止痕は認められない。また、突帯は幅が広く低平な形状を呈するものが多い。全体形状や調整技法、特徴的な突帯形状など、一般的な円筒埴輪や朝顔形埴輪と比べると特異な点が目立つ。光明山古墳では、発掘調査によって多くの埴輪が出土したが、現在までのところ、形象埴輪が全く確認できていない。形象埴輪の樹立位

置に発掘調査が及んでいない可能性は否定できないが、墳丘には円筒埴輪と朝顔形埴輪の二者を限定的に並べていたとみられる。円筒埴輪の製作時期から判断して、光明山古墳の築造時期は古墳時代中期中頃から後半（5世紀中頃から後半）と考えられる。この築造時期に限定すれば、光明山古墳は静岡県内で最大の前方後円墳であり、東海地方においても屈指の規模を誇る。

光明山2号墳は直径32mの造り出し付き円墳である。造り出しは墳丘の南側にあり、造り出しを含む全長は38mである。葺石や埴輪を持たず、埋葬施設も不明である。出土遺物が明確でないことから、厳密な築造時期は不明確である。ただし、光明山古墳と光明山2号墳はともに主軸の方向が共通し、相互に関連が高い位置関係にあることは留意すべきである。また、直径32mをはかるような比較的大規模な造り出し付き円墳は遠江においては古墳時代後期以降に降る事例がない。さらに、その墳形についても当地においては古墳時代中期に多くの事例が集中する。以上のことから、光明山2号墳は光明山古墳の構築と近接する時期に築造されたものと判断できる。

光明山古墳は内陸性の地理的条件をもつ天竜の地に築かれた唯一の前方後円墳である。光明山2号墳を含めた同一勢力の墳墓として光明山古墳はその前後に首長系譜を認めることができず、独立性が高い点にも特徴がある。この特異性を理解する上で、古墳のすぐ脇を通る秋葉街道の存在は無視できない。光明山古墳が立地する天竜の地は、遠江南部や信濃への通行にとどまらず、奥三河や遠江東部にも繋がる交通の要衝である。古墳の立地からは、光明山古墳の被葬者には陸上交通網の開拓や掌握が期待されていたと捉えられる。

光明山古墳の墳丘形態には近畿地方中枢部と共通する設計原理が見出せ、倭王権との密接な関係がうかがえる。いっぽうで、古墳の段築数は2段であり、円筒埴輪と朝顔形埴輪を限定的に用い、独特の形状をみせる埴輪群を採用していることなど、階層的な差異や個性も見いだせる。このように、光明山古墳は内陸部に立地する古墳時代中期中頃から後半の地域首長墳として特徴ある姿を示しており、古墳時代の歴史を知る上で学術的価値が高い。



光明山古墳の全景（後円部北から）



円筒埴輪



朝顔形埴輪



主な出土遺物

(2) 鳥居松遺跡出土金銀装円頭大刀

区 分	静岡県指定有形文化財
種 別	考古資料
員 数	1 口
所有者	浜松市
所在地	浜松市中区蛸塚四丁目 22-1
年 代	古墳時代後期（6 世紀）
指定日	令和 2 年 3 月 27 日

概 要 金銀装円頭大刀は、浜松市中区森田町の鳥居松遺跡から出土した。鳥居松遺跡は伊場遺跡群を構成する遺跡で、2008 年に実施した 5 次調査で自然河川「伊場大溝」が確認された。大刀は伊場大溝の川底部分から、鞘が抜かれた状態で出土した。「抜き身」の状態でも川底に沈められたものと考えられる。同一層位より出土した土器から、大刀が沈められた時期は 6 世紀後半頃とみられる。

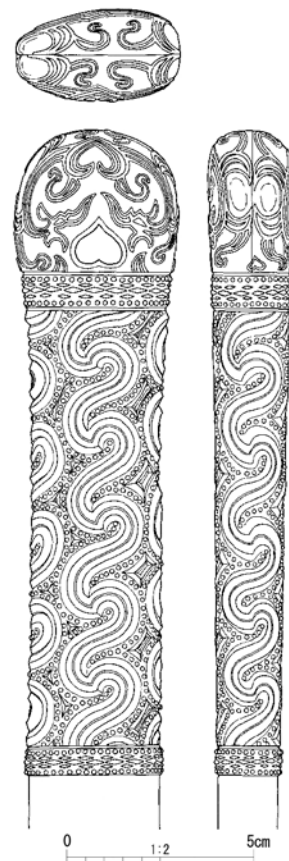
大刀の長さは 79.5cm、幅は 4.4cm である。柄はカエデ属を用い、木彫金銀張技法によって製作されている。柄頭には、猪目形の懸通穴を挟み 2 頭の龍が表現され、高純度の金板で覆われている。柄間には連続波頭文が刻まれ、銀板が被せられている。類似した特徴をもつ装飾付大刀は国内に例がなく、関連する資料から、朝鮮半島において 6 世紀前葉頃に製作されたものと考えられる。

柄頭には、補修のために、純度がやや低い金板が張り直され、金や銀の鉾が打たれている。X 線画像では外形が鮮明な金の鉾と外形がにじんでいる銀の鉾の 2 者が明確である。金板部分に用いられている鉾は鏃のような形態をなすものがあり、補修技法として珍しい。

本例は美術工芸的に傑出しているだけでなく、祭祀に用いられた装飾大刀として貴重であり、製作時期と製作地、補修を伴う使用過程、儀礼に伴う廃棄など、その履歴が明確にあとづけられる点でも重要である。



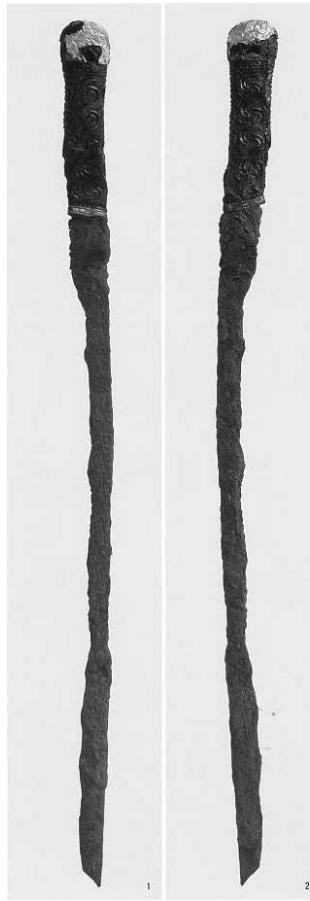
円頭大刀出土状況



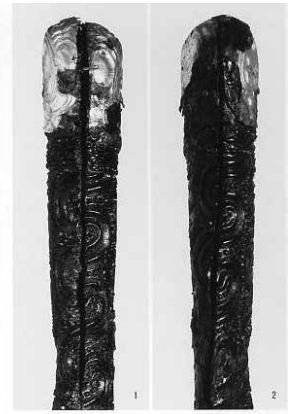
円頭大刀復元図



柄頭・柄間詳細 (1: 佩表 2: 佩裏)



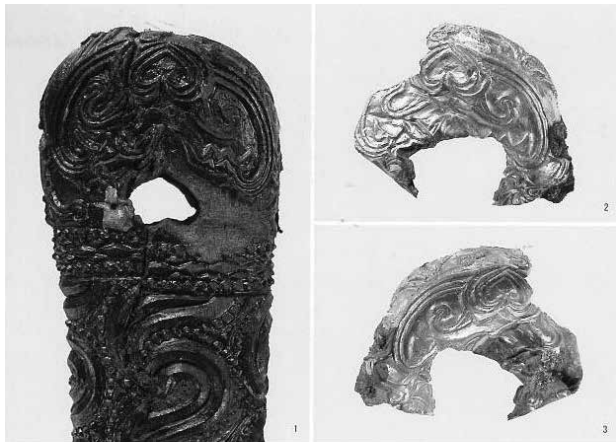
大刀全景 (1: 佩表 2: 佩裏)



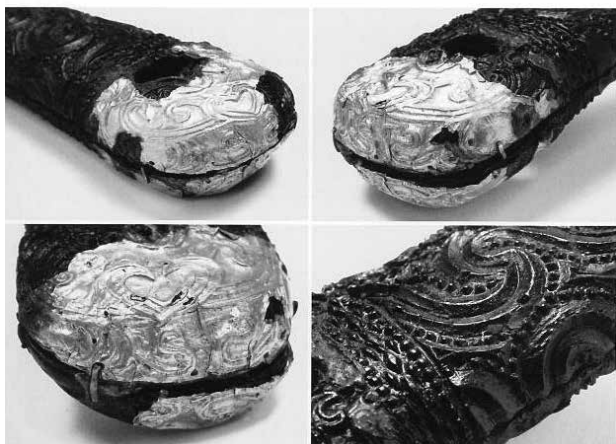
柄頭・柄間側面 (1: 背側 2: 刃側)



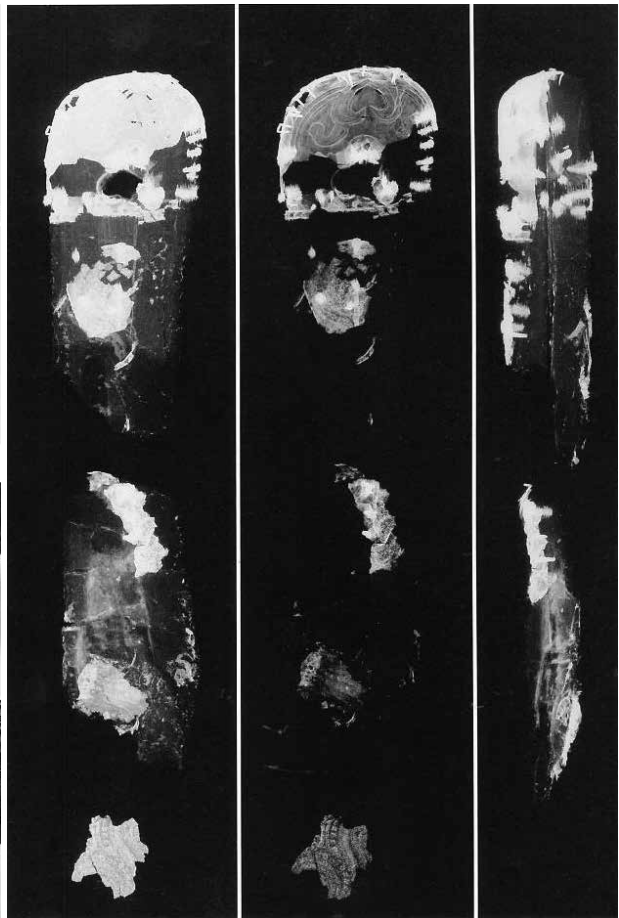
責金具 (1: 詳細 2: 装着状態)



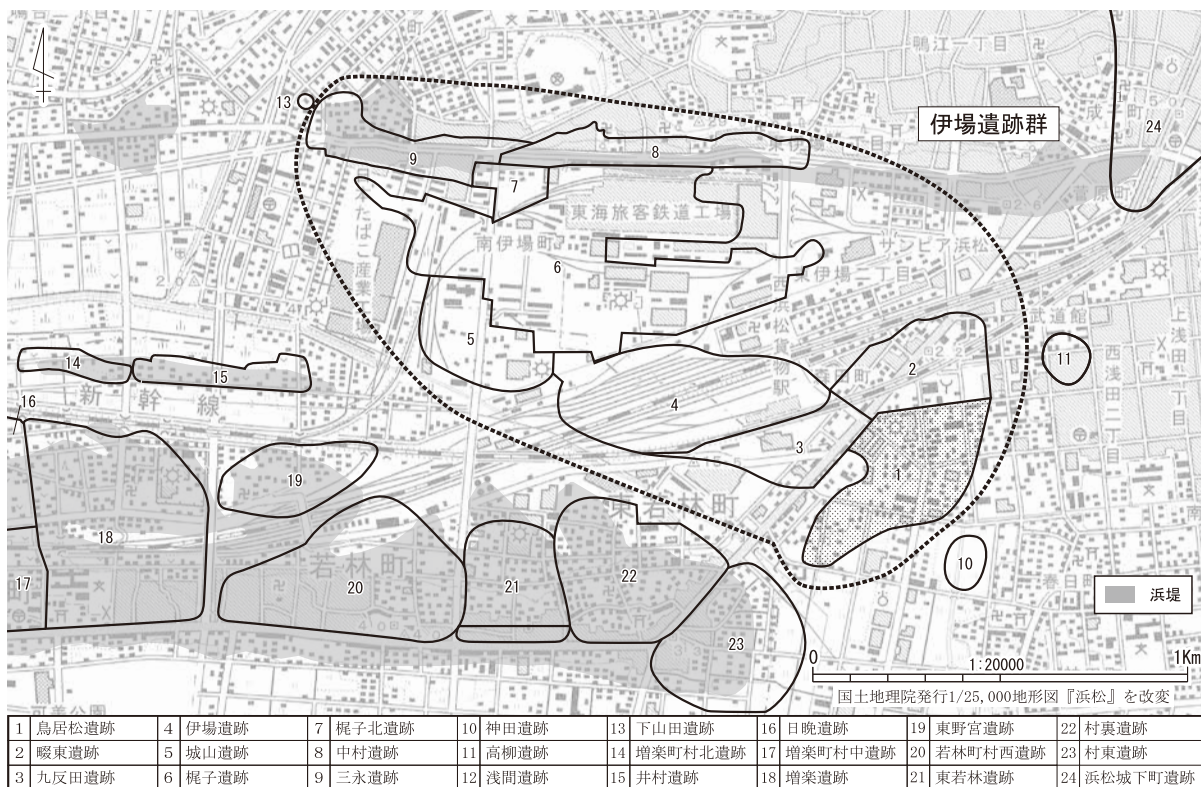
柄頭詳細 (1: 金板なし 2: 金板表面 3: 金板裏面)



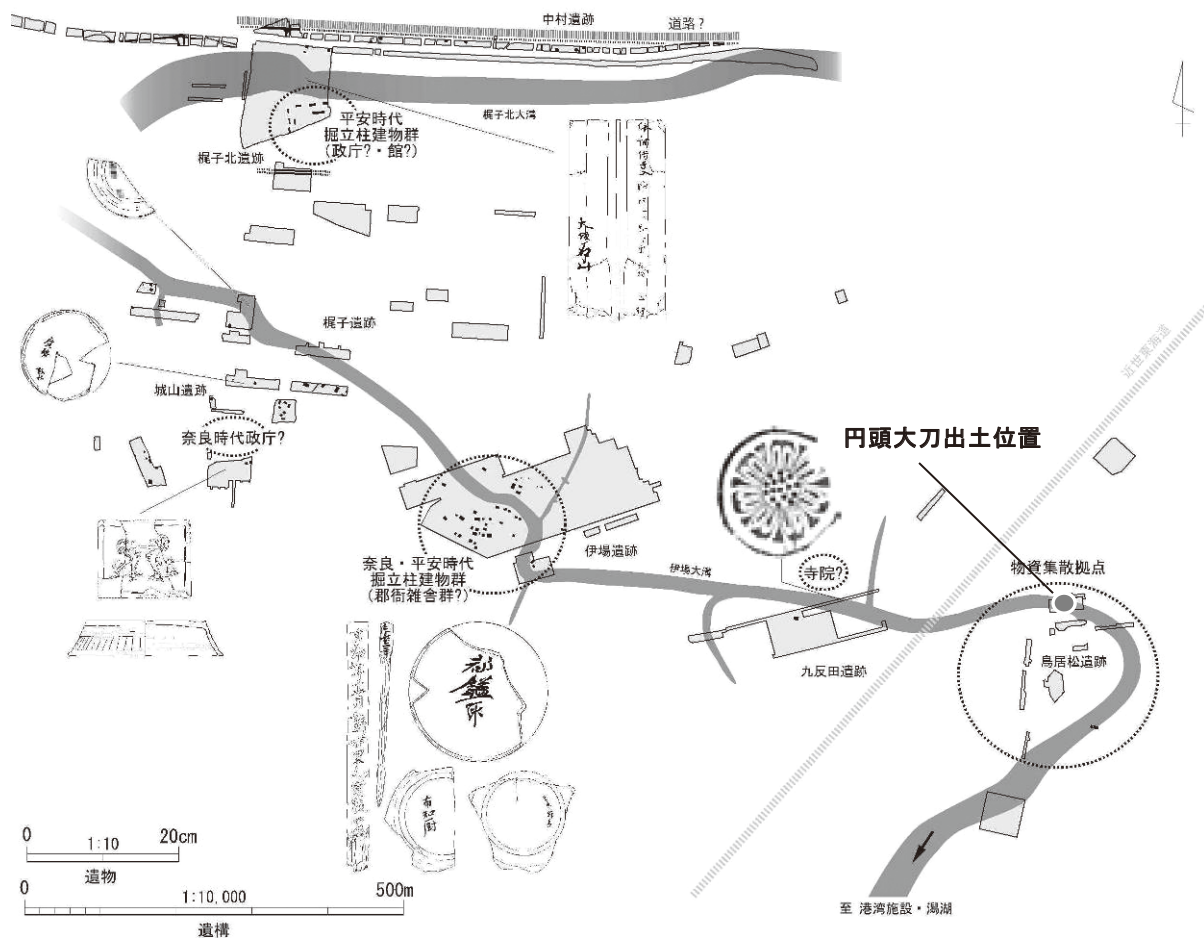
柄頭・柄間詳細

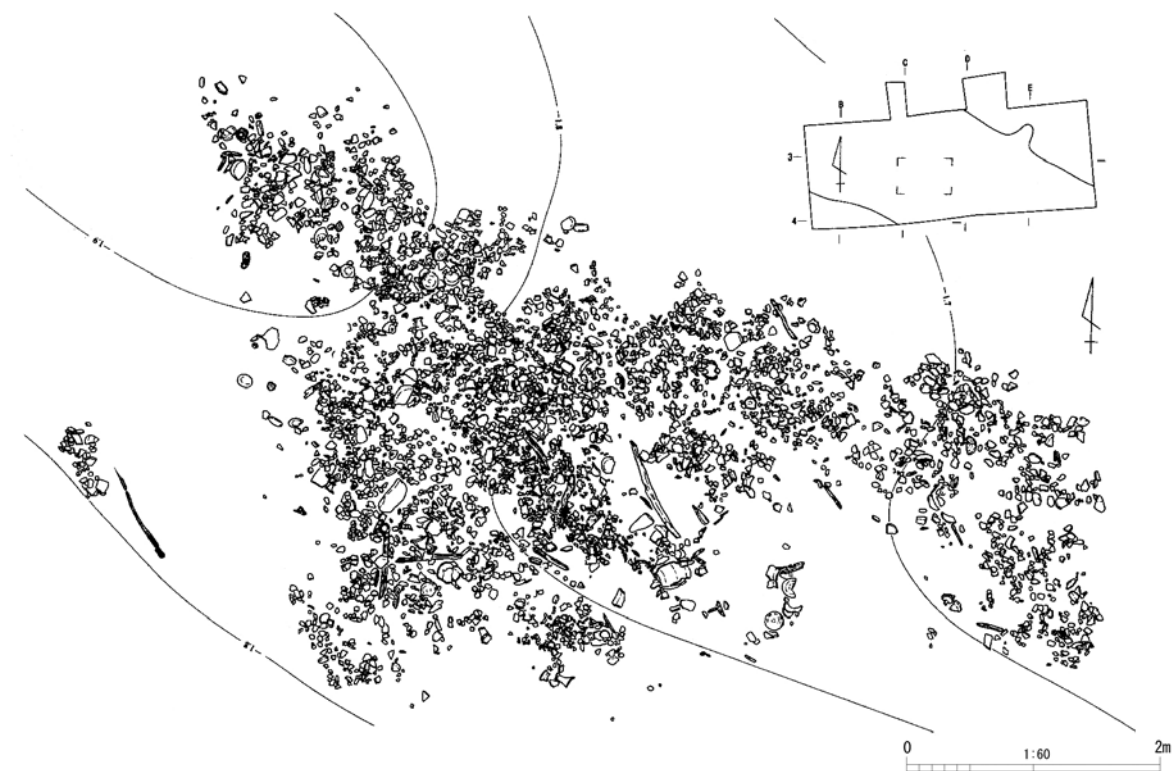
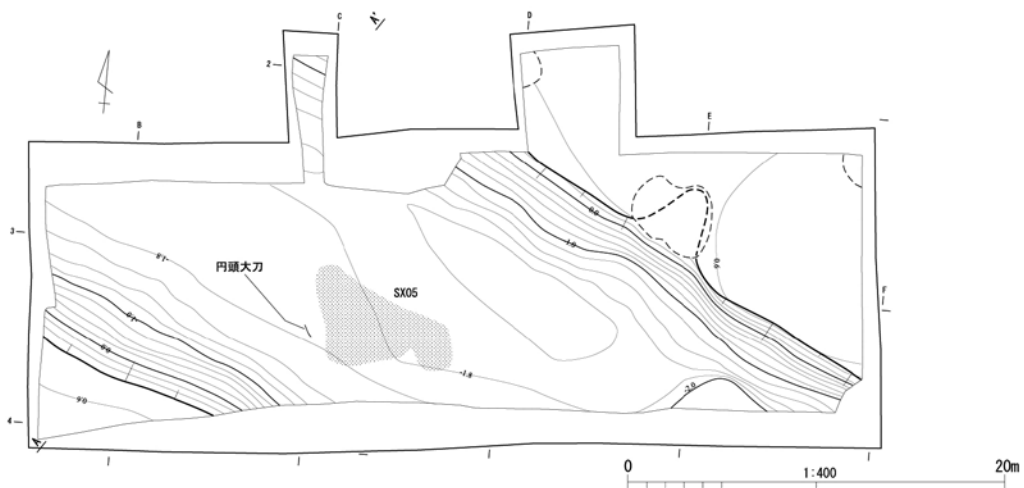


柄頭・柄間X線透過画像

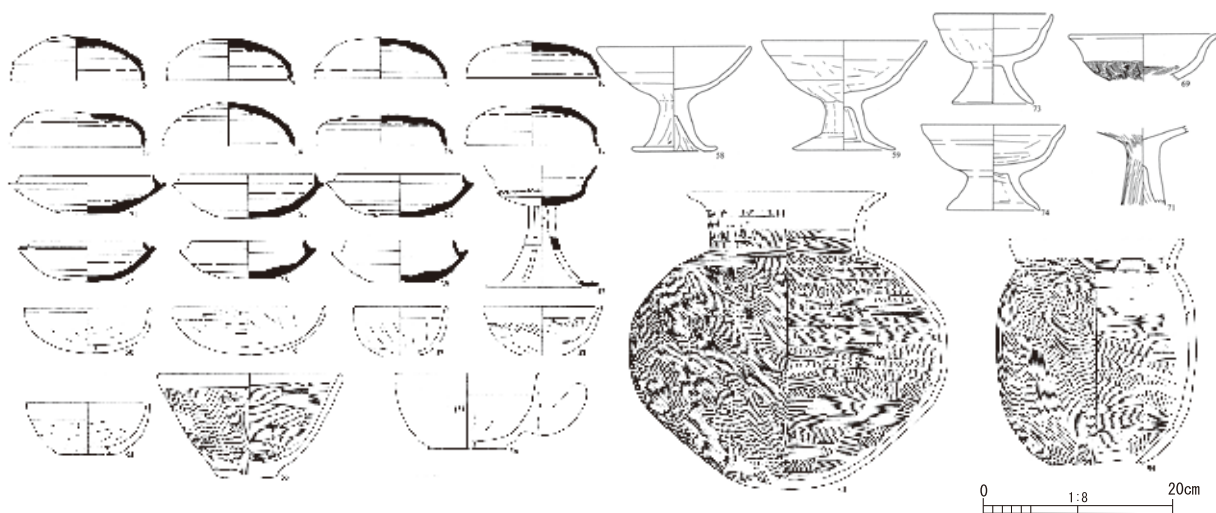


伊場遺跡群の位置 伊場遺跡群は遠州灘海岸から4kmほど遡った沖積平野に位置する。東西2km、南北1kmほどの大きさがあり、伊場大溝と呼ばれる小河川がその中央を貫いている。





鳥居松遺跡 伊場大溝 円頭大刀出土状況と土器集積 (SX05)



円頭大刀の出土状態と同一層位の土器群 円頭大刀は、伊場大溝の川底から出土した。同一層位からは、6世紀後半の土器が大量に出土しており、川底に沈めた時期を明らかにすることができる。

(3) 袈裟襷文銅鐸（中川滝峯七曲り出土）

袈裟襷文銅鐸（中川不動平出土）

区 分 浜松市指定有形文化財

種 別 考古資料

員 数 袈裟襷文銅鐸（中川滝峯七曲り出土） 2 口

袈裟襷文銅鐸（中川不動平出土） 1 口

所有者 浜松市

所在地 浜松市北区細江町気賀 1015-1 浜松市姫街道と銅鐸の歴史民俗資料館

年 代 弥生時代

指定日 令和 2 年 3 月 24 日

概 要 銅鐸は2件3口で、いずれも浜松市北区細江町にある滝峯の谷において、昭和 41 年（1966）～昭和 42 年（1967）に出土したものである。

浜松市北区細江町中川滝峯七曲り（滝峯の谷に含まれる）からは2口の銅鐸が出土している。発見順から1号鐸、2号鐸とする。ともに青銅製である。

1号鐸は、残存高 68.0cm（復元高 69.6cm）、残存幅 35.5cm（復元幅 39.0cm）の近畿式銅鐸である。製作時期は弥生時代後期（突線鈕3式）で、昭和 41 年（1966）1 月、造成工事中に出土した。

2号鐸は復元高 66.0cm、復元幅 35.5cm の三遠式銅鐸である。製作時期は弥生時代後期（突線鈕3式並行）である。昭和 41 年 7 月、1号鐸出土地から 30 m ほど離れた造成後の畑から 200 片以上に分かれて発見され、同年 9 月には出土地点の発掘調査が行われた。平成元年（1989）度には、保存処理が施され、破片を接合し、完形に復元された。なお、本体に接合されていない破片が 78 片ある。

浜松市北区細江町中川不動平（滝峯の谷に含まれる）からは1口の銅鐸が出土している。青銅製で、高さ 72.3cm、残存幅 33.5cm（復元幅 38.2cm）の近畿式銅鐸である。製作時期は弥生時代後期（突線鈕3式）である。昭和 42 年 1 月、浜松市北区細江町中川不動平（滝峯の谷に含まれる）で行われた造成工事中に出土した。片側は出土時に破損しており、欠損部分の破片が本体とは別に 20 片ある。全体に破損時の歪みがあるが、全体形状をうかがうことに問題はない。

弥生時代の青銅器を代表する銅鐸は、中国四国地方から東海地方にかけて主に分布しており、銅鐸分布圏の東限にあたる浜松市では 19 口が出土している。本例は、近畿式銅鐸と三遠式銅鐸の双方を含み、銅鐸祭祀や青銅器流通過程の実態をうかがうことができる。

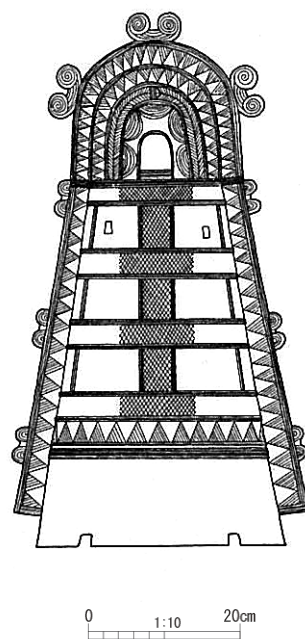
本例は銅鐸の全体形状がうかがえ、形態的特徴から製作時期が弥生時代後期に特定できる。いずれも造成工事によって出土したものであるが、発見時の情報が明確で、出土地点が特定できる。また、3口とも銅鐸の集中埋納事例として全国的にも著名な滝峯の谷出土銅鐸群を構成するものであり、銅鐸祭祀の実態を知る上でも貴重である。以上のことから、本例は、銅鐸分布圏の東限域にあたる当地の歴史をうかがう上で学術的な価値が高いと判断できる。



袈裟襴文銅鐸（七曲り1号鐸）の本体の現状



袈裟襴文銅鐸（七曲り1号鐸）の破片



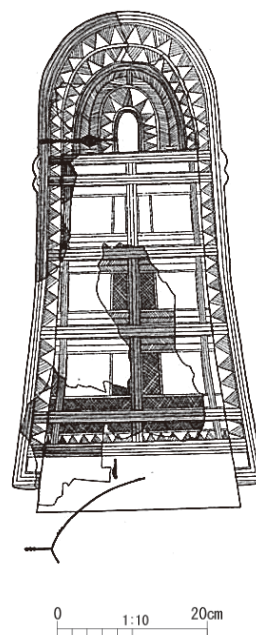
袈裟襴文銅鐸（七曲り1号鐸）の実測図



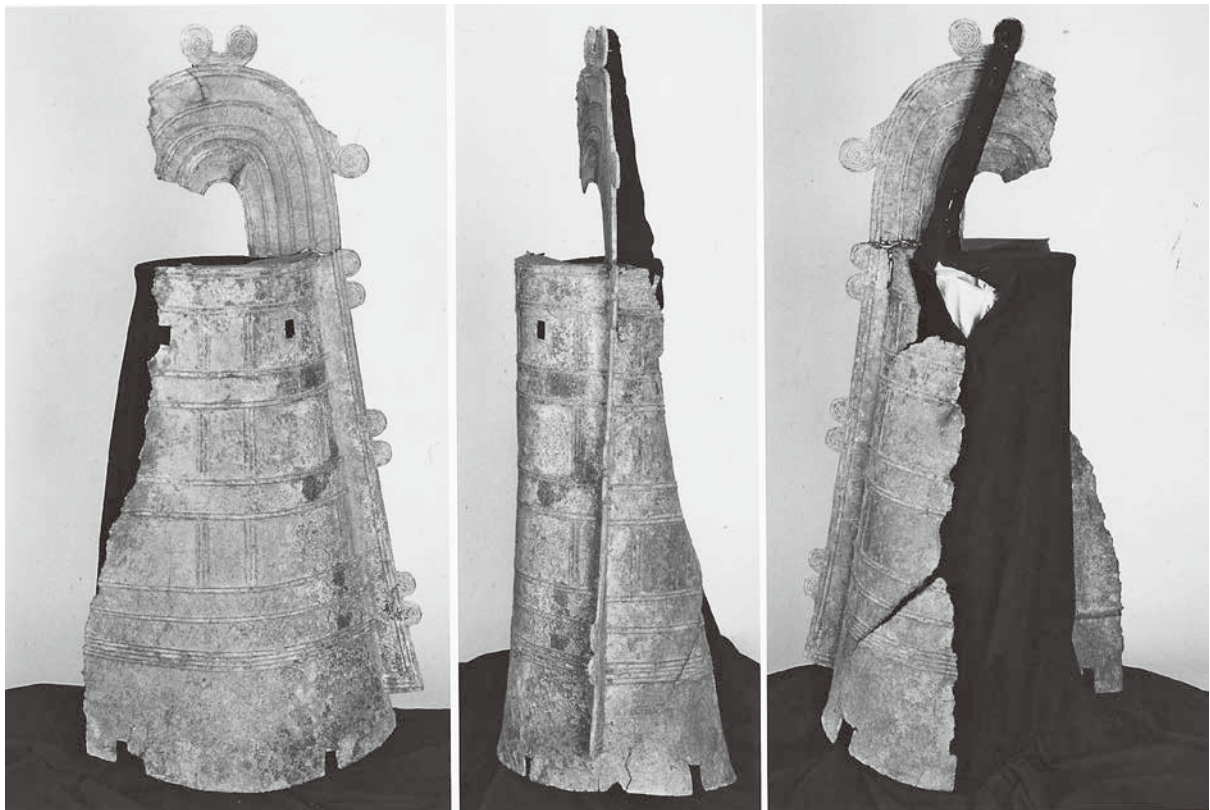
袈裟襴文銅鐃（七曲り2号鐃）の本体の現状



袈裟襴文銅鐃（七曲り2号鐃）の破片



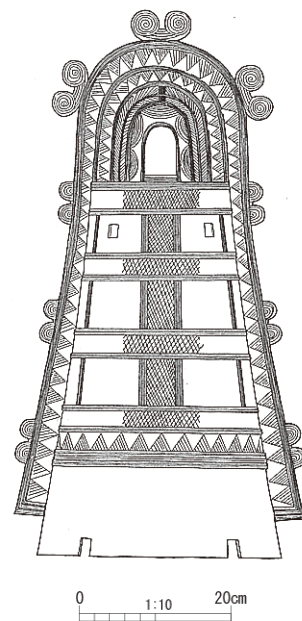
袈裟襴文銅鐃（七曲り2号鐃）の実測図



袈裟襷文銅鐸（不動平出土）の本体の現状



袈裟襷文銅鐸（不動平出土）の破片



袈裟襷文銅鐸（不動平出土）の実測図

2 新登録の文化財

(1) 方広寺本堂 ほか

区 分 国登録有形文化財

種 別 建造物

員 数 22 件（別表）

所有者 宗教法人 方広寺

所在地 浜松市北区引佐町 1577 - 1

年 代 本堂 大正 4 年ほか（別表）

登録日 令和元年 9 月 10 日

概 要 方広寺は浜松市内北西部の山あいにある臨済宗方広寺派の大本山。主要な建造物全体が登録となった。大正 4 年建立の本堂は、舞台状に張り出す高欄付きの縁側や入母屋造り棧瓦葺きの大屋根、三重の梁をもつ妻飾りなど大本山の威容を示す。周辺には大庫裡や開山堂などの堂宇が立ち並び、壮大な景観を形成する。境内には三重塔や山門などが効率的に配置され、近代的な整備が図られた寺院の様相を伝えている。

写 真

1 本堂 巻頭カラー掲載



2 勅使玄関



3 知客寮



4 大庫裡（だいくり）



5 三笑閣（さんしょうかく）



6 宗務本院（しゅうむほんいん）



7 行在所（あんざいしょ）



8 禅堂



9 観音堂



10 勅使門



11 開山堂（かいさんどう）



12 昭堂（しょうどう）



14 半僧坊真殿



13 半僧坊拝殿



15 札場



16 神楽堂



17 水屋



18 鐘楼



19 七尊菩薩堂



20 三重塔



21 山門



22 総門

写真 静岡県伝統建築技術協会

* 告示内容に年代や屋根形状等の情報を追記しています

番号	名称（よみ 一部略）	員数	構造、形式及び大きさ等	建設年代、大規模な改修及び増築年代
1	方広寺本堂（ほんどう）	1棟	木造平屋建、入母屋造、棧瓦葺、 建築面積 735 m ²	大正 4 年（1915） 平成 22 年（2010）大改修
2	方広寺勅使玄関（ちょくしげんかん）	1棟	木造平屋建、唐破風造、本瓦葺、 左右築地塀付、建築面積 26 m ²	大正 4 年（1915） 平成 22 年（2010）改修
3	方広寺知客寮（しかりょう）	1棟	木造平屋建、入母屋造、棧瓦葺、 建築面積 123 m ²	大正 4 年（1915）
4	方広寺大庫裡（だいくり）	1棟	木造平屋建、一部小屋裏物置、切妻 造下屋付、棧瓦葺、建築面積 513 m ²	大正前期 平成 2 年（1990）頃改修
5	方広寺三笑閣（さんしょうかく）	1棟	木造二階建、一部地階通路、入母屋 造、棧瓦葺、建築面積 524 m ²	大正後期
6	方広寺宗務本院（しゅうむほんいん）	1棟	平屋平屋建、一部小屋裏物入、切妻 造下屋付、棧瓦葺、建築面積 78 m ²	明治中期
7	方広寺行在所（あんざいしょ）	1棟	木造平屋建、寄棟造下屋付、棧瓦葺、 切妻起り屋根玄関付、 建築面積 167 m ²	明治元年（1868） 明治 18 年（1885）移築 昭和前期改修
8	方広寺禅堂（ぜんどう）	1棟	木造平屋建、入母屋造、棧瓦葺、 建築面積 105 m ²	昭和 8 年（1933）
9	方広寺観音堂（かんのんどう）	1棟	木造平屋建、宝形造、棧瓦葺、 建築面積 17 m ²	明治中期
10	方広寺勅使門（ちょくしもん）	1基	木造、銅板一文字葺、 間口 4.1m 四脚門、左右築地塀付	明治 40 年（1907） 昭和 10 年（1935）改修
11	方広寺開山堂（かいさんどう）	1棟	木造平屋建、入母屋造、本瓦葺及び 瓦棒銅板葺、建築面積 141 m ²	昭和 10 年（1935）
12	方広寺昭堂（しょうどう）	1棟	木造平屋建、宝形造、瓦型銅板葺、 建築面積 24 m ²	明治中期
13	方広寺半僧坊拝殿 （はんそうぼうはいでん）	1棟	木造平屋建、入母屋造、瓦型銅板葺 及棧瓦葺、建築面積 183 m ²	明治 19 年（1886）
14	方広寺半僧坊真殿 （はんそうぼうしんでん）	1棟	木造平屋建、入母屋造、棧瓦葺、 建築面積 34.91 m ²	明治 21 年（1888）
15	方広寺札場（ふだば）	1棟	木造平屋建、入母屋造、 銅板一文字葺、建築面積 45.45 m ²	明治 21 年（1888）頃 昭和 49 年頃改修
16	方広寺神楽堂（かぐらどう）	1棟	木造平屋建、入母屋造、棧瓦葺、 建築面積 31.81 m ²	明治中期
17	方広寺水屋（みずや）	1基	木造平屋建、切妻造、棧瓦葺、 建築面積：11.01 m ²	明治 26 年（1893）頃
18	方広寺鐘楼（しょうろう）	1棟	木造 2 階建、入母屋造、棧瓦葺、 建築面積 15.09 m ²	大正 11 年（1922）頃
19	方広寺七尊菩薩堂拝殿 （しちそんぼさつどうはいでん）	1棟	木造平屋建、切妻造、棧瓦葺、 建築面積 35 m ²	大正 4 年（1915）頃
20	方広寺三重塔（さんじゅうのとう）	1棟	木造、三間三重塔婆、本瓦葺、 周囲門塀付、建築面積 11 m ²	大正 12 年（1923） 昭和中期増築 平成 11 年（1999）改修
21	方広寺山門（さんもん）	1棟	木造、本瓦葺、三間一戸二重門、 建築面積 34 m ²	昭和 28 年（1953）
22	方広寺総門（そうもん）	1基	木造、棧瓦葺、間口 4.4m 高麗門、 左右袖塀付	明治中期

(2) 大福寺庫裏

区 分 国登録有形文化財

種 別 建造物

員 数 1 件

所有者 宗教法人大福寺

所在地 浜松市北区三ヶ日町福長 219

構 造 木造2階建、寄棟造り、瓦葺、玄関部分が張り出しで入母屋造
間口 24.6 m、奥行 10.30 m の 1 階部分に間口 23.04 m、奥行 9.10 m の 2 階部分が載
る大型の木造住宅。深い軒は出桁で支えられている。

年 代 大正後期、戦後まもなく現在地へ移築

登録日 令和元年 12 月 5 日

概 要 大福寺は、浜名湖を構成する猪鼻湖を望む北側斜面に位置する真言宗寺院。山号瑠璃山、本尊薬師如来。平安時代に富幕山（三ヶ日町只木）に前身の幡教寺を開創し、鎌倉時代（承元元年 1207 頃）に現在地に移り「大福寺」と称したとされる。庫裏は、豊橋市二川町で、製糸工場の事務所や仲買商の商談・接待等に用いていた工場建物の一部を、第二次世界大戦後に移築したものと伝わる。現在は寺務や会合、寺関係者の住まいとして使用されている。

写 真



大福寺庫裏

写真 富田正行

3 文化財の主な整備・保存修復事業

(1) 寶林寺 仏殿建造物保存修理事業

区 分	国指定重要文化財
種 別	建造物
指定日	昭和 56 年 6 月 5 日
補助事業者	宗教法人 寶林寺
所在地	浜松市北区細江町中川 65-2
事業期間	平成 31 年 4 月 1 日から令和元年 12 月 31 日まで (全体 平成 30 年 2 月 1 日から令和元年 12 月 31 日まで 23ヵ月)
工事期間	平成 31 年 4 月 1 日から令和元年 12 月 31 日まで (全工事 平成 30 年 3 月 2 日から令和元年 12 月 31 日まで 22ヵ月)
設計監理	文化財建造物保存技術協会
施 工	田中社寺株式会社
構 造	桁行 5 間 梁間 6 間一重 入母屋造 柿葺き
工事概要	屋根葺替、及び、耐震補強工事、塗装、部分修理、外溝整備
修理公開	保存修理現場見学会 令和元年 9 月 23 日 参加 97 人
報告書	屋根葺替のため報告書作成は無し（平成 2 年の全解体修理時に報告書を刊行）

写 真 竣工写真 巻頭カラー掲載



修理前 北側屋根の傷み



修理前 軒裏板・軒付積の傷み



修理中 屋根解体（北西側）



修理中 葺き替え状況（南東側）

〔耐震補強〕

平成 29 年度の地盤調査、及び、平成 30 年度の耐震診断により耐震補強が必要とされたため、軸組補強により耐力を保持させ、小屋裏の木造軸材と鋼製ブレースで水平構面を構成することにより、水平力を構造体全体に伝達させることとした。



横架材 接合部補強（抜け防止）



内部南面壁 木製ブレース



天井裏 鋼製ブレース

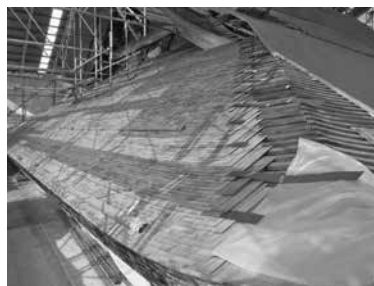
〔葺込銅板〕

平成 2 年の全解体修理時に設けられた北面の銅製の避雷針の導体に沿って、その周辺の柿材の状態が良かったことなどから、今回修理においては銅板の葺込を行った。屋根の方角により日当たり等の条件が異なるため、葺き足は屋根面の環境を考慮して次のとおりとした。

葺板幅 1 尺前後、葺足 1 寸（30 mm）、葺込銅板の出 南面なし、東西面 3 mm、北面 6 mm



銅板葺込の検討



銅板葺込の様子

〔見学会〕

文化財修理現場を公開することにより、修理の必要性や地域で大切に守ることの必要性を案内した。参加者はヘルメットを着用して足場上がり、屋根葺替えの施工状況や職人の技を見学した。また、柿材の割り出しや柿葺きなどの作業を体験した。



見学会 柿葺きの体験



見学会 柿葺き作業の見学

(2) 宝林寺 木造増長尊天菩薩・毘沙門天菩薩美術工芸品保存修理等事業

区 分	静岡県指定有形文化財
種 別	彫刻
造像年代	江戸時代
作 者	康祐（または康祐工房）
指定日	平成 23 年 12 月 2 日
補助事業者	宗教法人 宝林寺
所在地	浜松市北区細江町中川 65-2
事業期間	平成 31 年 4 月 17 日から令和 2 年 3 月 26 日まで
施工期間	令和元年 5 月 16 日から令和 2 年 3 月 26 日まで（1 年度間）
施 工	本軀：公益財団法人 美術院（紙製納入品：株式会社 松鶴堂）
保存修理の経緯	約 350 年前に造像され部材脱落や塗りの剥落など損傷が著しい状態であったため、適切な保存ができるよう保存修理を実施した。

像の概要

〔増長尊天菩薩〕像高 121.8 cm。桧材、寄木造。漆箔及び彩色。彫眼。頭軀は別材。頭部は前後二材矧ぎ。軀幹部は主材一材に後面材を矧ぎ付けてから左右に割り矧ぐ。頭軀を通し、内剥りを施す。兜の房飾・火焰飾、天衣遊離部は各別材製。兜正面の飾金具は金属製。台座は木製。上框は四方組付、天板を張る。胴部は側板四方組付、前左右の正面と側面・後左右の側面に束材を貼る。下框は四方組付。胴部正面見付部に蓮花唐草文様透彫り（新補）を施した別材を付ける。下框の下に廻脚（新補、四方組付）を設ける。

〔毘沙門天菩薩〕像高 122.9cm。桧材、寄木造。漆箔及び彩色。彫眼。頭軀は別材。頭部は兜鉢を含め大略一材製、両耳前・顎下を通る線で面部を割り矧ぐ。軀幹部は主材一材に後面材を矧ぎ付け、左右に割り矧ぐ。頭軀を通し、内剥りを施す。兜の房飾（房飾上の標識部は新補）・火焰飾、天衣遊離部、持物（新補）は各別材製。兜正面の飾金具は金属製。台座は木製。上框は四方組付、天板を張る。胴部は側板四方組付、前左右の正面と側面・後左右の側面に束材を貼る。下框は四方組付。胴部正面見付部に牡丹唐草文様透彫りを施した別材を付ける。下框の下に廻脚（四方組付）を設ける。

修理前の状況

- (1) 全体に経年の埃が付着していた。
- (2) 像各所で漆箔・彩色が浮き上がり、剥落進行中であった。また、表面層（ザクロ石・紙繕等を含む）の脱落断片が別保存されていた。
- (3) 像各所で矧ぎ目の緩む箇所がみられた。また、矧ぎ目に打ち付けられる鉄釘・鉄鋌が腐食する箇所がみられた。

増長尊天：頭軀、右肩、左広袖外側に矧ぎ目の緩みがみられた。左腰天衣結び紐に鉄釘・鉄鋌が腐食する箇所がみられた。

毘沙門天：両肩に矧ぎ目の緩みがみられた。右広袖の先端結び部先の矧ぎ材が脱落していた。右腰前に残る一材の釘が鉄錆により劣化して緩み、動揺していた。

- (4) 像の一部に欠失・亡失箇所がみられた。

増長尊天：兜頂上の房飾の房先、左手肘から先、左広袖前縁部、右手持物、下甲の左下部の

貼り付け材、左足柄左側前後、後方に翻る天衣、左右垂下天衣に欠失・亡失箇所が見られた。
毘沙門天：兜房飾り上部、兜両側の火焰飾り、兜正面右方加飾、左手首先、右手第三・四指先、左右手持物、後方に翻る天衣、腰下に垂下する天衣、腰帯に結ぶ部分の天衣に欠失・亡失箇所が見られた。

- (5) 台座の構造が脆弱で、像の安置に不安があった。
- (6) 台座表面の漆箔が浮き上がり、剥落が著しく進行していた。また、正面の透彫り部に割損、脱落、亡失、欠失がみられた。
- (7) 経年の間に脱落し、別保存される部材がみられた。
- (8) 頭部内割り内部に巻紙が納入されていることが確認され、別途修理が必要な納入品であることが判明した。

修理の内容

- (1) 像全体に付着する埃を刷毛・筆等で清掃した。
- (2) 漆箔・彩色の浮きは樹脂等で剥落止を行った。
- (3) 矧ぎ目の弛む箇所は取り離し後、膠や漆等で接合した。
- (4) 欠失・亡失箇所は、別保存部材を精査し、適合するものがあれば取り付けた。適合するものがない場合は、修理時知見により構造上必要な箇所または根拠が得られる箇所を補足した。その他は検討の結果現状のままとした。
増長尊天：兜房飾りの房先・下甲の左下部・左足柄左側前後を桧材で補足した。左手肘からは別保存材を元に復元し前膊半ばより先は製作時期の近い図像を元に補足した。後方に翻る天衣は欠失部を補足し軀部へ取り付けた。左広袖前縁部・右手持物・左右垂下天衣は補足せず現状のままとした。
毘沙門天：兜房飾り上部・兜正面右方加飾・右手第三、四指先・右手持物を桧材で補足した。左手首先は一部分を別保存材で復元し、欠失箇所を桧材で補足した。腰下に垂下する天衣の左方は別保存材を復元した。兜両側の火焰飾り・左手持物・後方に翻る天衣・垂下天衣右方・腰帯に結ぶ部分の天衣は補足せず現状のままとした。
- (5) 台座は必要な箇所のみ一旦解体し、膠・漆で強固に接合した。台座表面の漆箔が浮き上がる箇所は、剥落止めを行った。正面の透彫り部が脱落するものは元の位置に復元し、割損部は膠で接合し、亡失・欠失箇所のうち必要な箇所は桧材で補足した。
増長尊天：台座内部に天板及び本軀足柄を受ける束状の材を設け、安定させた。天板裏面・左足柄穴左・回脚の亡失・欠損部を桧材で補足した。台座胴部正面の透彫り部材は、取り付け痕跡及び他像の台座との比較から意匠を推測し、蓮花唐草模様を新補した。
毘沙門天：座内部に天板及び本軀足柄を受ける束状の材を設け、安定させた。天板裏面・左足柄穴左・押さえ木の亡失・欠損部を桧材で補足した。天板後部の虫蝕部は、充填材を空洞部に充填した。強度の必要な廻脚の虫蝕部は、樹脂を用いて材質強化を行い、虫穴に木屎漆及びタブ粉木屎を充填し補修した。
- (6) 修理箇所は古色仕上げとした。
- (7) 頭部内割り内部から取り出した納入品は、修理を施した上、柿渋紙で外側を包み、頭部内割り内に再納入した。

増長尊天：本紙 10 点、包紙 1 点、紙縫 1 点

毘沙門天：本紙 2 点、包紙 1 点

《修理工程》

1. 本紙を湿紙に挟んだ状態で緩やかに加湿し、折皺等を伸ばした状態でプレスした。
2. 欠失箇所のうち、本紙の保存に支障となる箇所を本紙と同質の補修紙で補修・補強した。
3. 継ぎの外れた箇所の継ぎ直しを行った。
4. 各本紙・包紙を元通りに折り畳み、渋紙製の包紙及び紙縫りを作製して全体を包んだ。



増長尊天菩薩 修理前 全影



増長尊天菩薩 完成 全影



毘沙門天菩薩 修理前 全影



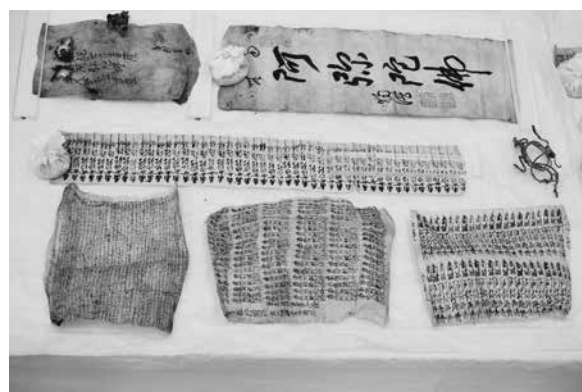
毘沙門天菩薩 完成 全影



増長尊天菩薩 解体状況



増長尊天菩薩 納入品納入状況



増長尊天菩薩 納入品開封



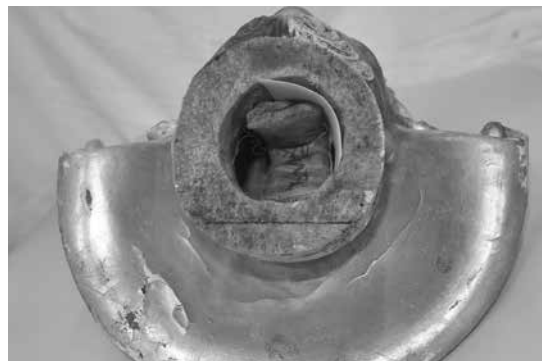
増長尊天菩薩 左手亡失部 処置前



増長尊天菩薩 左手 一部復位、補足後



毘沙門天菩薩 解体状況



毘沙門天菩薩 納入品納入状況



毘沙門天菩薩 納入品開封



毘沙門天菩薩 頭部 処置前



毘沙門天菩薩 頭部 処置後

* 本稿は施工した美術院および松鶴堂の補助事業に際しての報告によります

(3) 龍潭寺	伽藍のうち井伊家霊屋敷建造物保存修理事業
区 分	静岡県指定有形文化財
種 別	建造物
指定日	平成7年3月20日
補助事業者	宗教法人 龍潭寺
所在地	浜松市北区引佐町井伊谷 1989
事業期間	平成31年4月12日から令和2年3月31日まで（平成30年度からの2ヵ年度事業）
工事期間	平成31年4月12日から令和2年3月25日まで （全工事 平成30年6月6日着工 工期1年10ヵ月）
設計監理	静岡県伝統建築技術協会
施 工	株式会社 塚本工務店
構 造	桁行3間 梁間3間 方形造、棧瓦葺 背面に奥行2.47尺の内陣、正面に切目縁付。室内床は畳敷き一部板張り。
工事概要	礎石基礎を含む全ての解体、基礎工事、木部の修理組み立て、屋根工事、建具工事、耐震補強工事等を実施した。詳細は修理報告書に掲載した。
現状変更	1 礎石の損傷が著しいため礎石の交換を行った。これに伴い事前に試掘調査を行った（次頁参照）。 2 瓦の損傷が著しいもの等について瓦を焼成し交換した。 3 内部の塗装箇所について新たに元の状況が判明したため、漆塗及び胡粉塗を行った。
修理公開 報告書	令和元年 井伊谷小 7月16日6年生59人、7月18日5年生57人 『静岡県指定有形文化財 龍潭寺井伊家霊家保存修理工事報告書』（宗教法人龍潭寺、令和2年）国会図書館、静岡県立図書館、浜松市立図書館等へ納本

写 真



竣工（正面南側）



竣工（正面北面）



竣工（右側東面）



修理前 腰長押隅部分



修理前 棧瓦



修理前 露盤

写真 静岡県伝統建築技術協会

建造物保存修理事業に伴う試掘調査報告

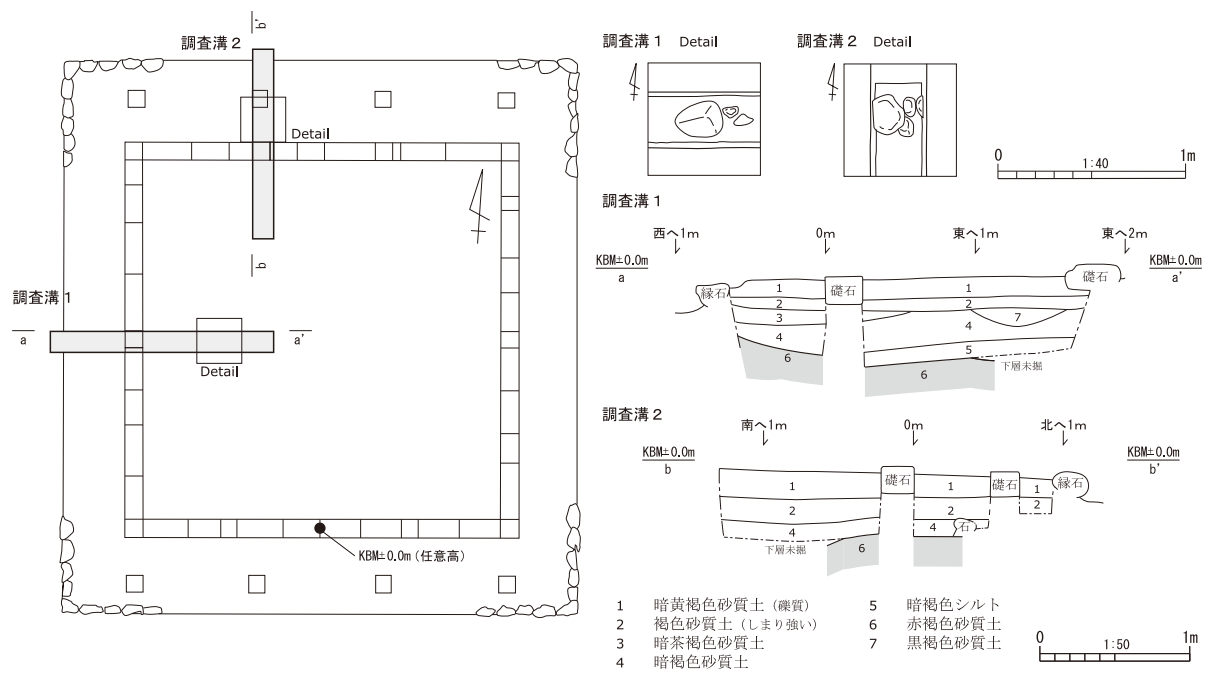
井伊家霊屋敷建造物保存修理事業の実施過程において、建物を解体したところ、霊屋の基壇及び礎石が検出された。礎石の石材は凝灰岩系の岩石を使用しているが、風化が著しく建物の再建に際して石材交換の必要が生じたことから、礎石の埋設状況を確認するとともに、基壇そのものの構造を解明するための試掘調査を実施した。

調査は、霊屋の基壇に2箇所の調査溝を設定し、人力で基盤層上面まで層位的に掘削したのち、基壇の土層断面の観察と遺物の有無について確認を行った。調査終了後は埋め戻し、旧状に復帰した。発掘作業は平成30年11月6日に実施した。調査面積は約2㎡である。

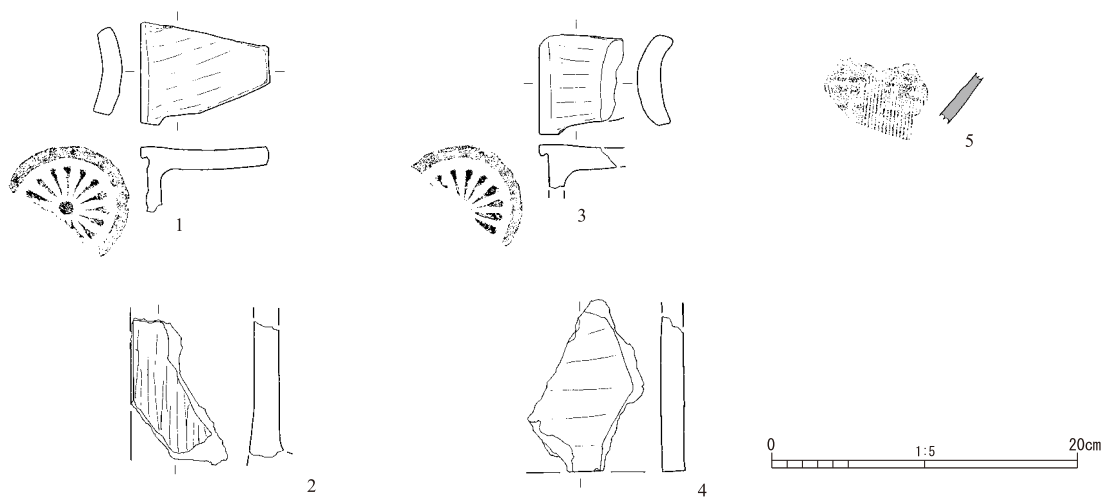
調査溝1は基壇の東西方向、調査溝2は基壇の南北方向に掘削を行った。調査溝内の土層堆積状況は、上層は暗黄褐色の砂質土で、外周の縁石や礎石の間を充填するように全面に敷かれていた。その下はしまりの強い褐色砂質土で、礎石はこの層の上面に据え置かれていたことから、基壇の地業層と考えられる。地業層の下は、暗褐色砂質土の堆積で、この層中より瓦片や、播鉢片が出土した。さらに下は、暗褐色シルトの堆積が存在し、基盤層である赤褐色砂質土となっていた。基壇について、性質の異なる土砂を交互に積み上げた版築様の構造は確認できず、水平に整地を行ったのち、礎石及び縁石を配置し、間に土砂を充填して構築されたものと考えられる。

遺物は調査溝1から1と2が、調査溝2から3～5が出土した。1は菊花紋軒瓦、2は棧瓦である。3は菊花紋軒瓦、4は平瓦、5は瀬戸美濃産の播鉢片である。

今回の調査の結果、霊屋の基壇の構造が明らかになった。基壇の造成土中からは軒瓦等の屋根瓦が出土しており、現状の基壇を造成する以前に瓦葺きの建物が存在したことを示唆するものである。



調査溝配置図及び土層断面図



出土遺物



調査箇所全景



調査溝 1 掘削状況

(4) 浜名惣社神明宮 摂社天羽槌雄神社建造物保存修理事業

区 分	静岡県指定有形文化財
種 別	建造物
指定日	昭和 54 年 11 月 19 日
補助事業者	宗教法人 浜名惣社神明宮
所在地	浜松市北区三ヶ日町三ヶ日 122
事業期間	令和 2 年 2 月 10 日から令和 2 年 3 月 23 日まで
工事期間	令和 2 年 2 月 29 日から令和 2 年 3 月 12 日まで
設計監理	静岡県伝統建築技術協会
施 工	山喜建築
構 造	桁行 1 間 梁間 1 間 神明造 流し板葺目板打 自然石基壇に建つ古式の板倉造形式の神明造、破風板が伸びて千木とする 棟木上に堅魚木 3 本を置く
保存修理の経緯	昭和 61・62 年度の保存修理工事から 30 年以上を経過し、屋根の割れや腐朽 などが著しく、放置すれば雨漏りや建物全体への傷みの進行が懸念されたた め、屋根修理を行った。なお、平成 17 年にも屋根板修理を行っている。
修理公開	無し
報告書	一般向け報告書の発行は無し
工事概要	屋根板、下地板、棟木、破風板、千木等について、割れや腐朽が進行した箇 所を取り除いて木材の取替あるいは矧木を行い、木材保護の塗装を行った。 木材は着手前と同種材を用いた。 屋根板・妻板・押板・端板・板受材・棟木・・・スギ赤身 下地板・・・ヒノキ

写 真



竣工



修理前 屋根板の腐朽（背面）



修理前 全景（前面）



修理前 全景（背面）



修理中 下地板・破風板・千木・軒先の取替と嵌木（左 前面 右 背面）

写真 静岡県伝統建築技術協会

(5) シブカワツツジ群落整備事業

区 分 静岡県指定天然記念物

種 別 天然記念物

指定日 昭和 33 年 9 月 2 日（昭和 46 年 8 月 3 日追加指定）

補助事業者 浜松市

所在地 浜松市北区引佐町渋川

施工期間 令和 2 年 1 月 16 日から令和 2 年 3 月 4 日

施 工 引佐町森林組合

保存修理の経緯 シブカワツツジ群落の位置する渋川地区は、蛇紋岩が多く見られる地質である。そのため、痩せた土壌でも育つツツジ類やアカマツを主とする蛇紋岩地帯特有の植生がみられる。

近年、シブカワツツジ群落の指定地内では雑木が繁茂しており、それらが放置された結果、雑木から発生する落ち葉等により腐葉土が作り出され、蛇紋岩地帯特有の植物の育成に適さない富栄養化した厚い土壌が形成されつつあった。また、繁茂した雑木により風通しが悪くなった結果、湿気によりシブカワツツジの根が腐る状況となっていた。そのため、早急にシブカワツツジ周辺に繁茂する雑木を伐採する必要があった。

平成 30 年度には、指定地のうち、昭和 46 年に追加指定を受けた約 5,000 m²の範囲で中低木の伐採を行った。伐採に当たっては、事前に静岡県文化財審議会委員よりシブカワツツジとその他雑木の見分け方や作業方法に関する指導を受け、一部シブカワツツジヘマーキングを行った上で実施した。また、当該地には市指定天然記念物であるギフチョウが生息しており、ギフチョウの幼虫の食草であるヒメカンアオイが自生している。そのため、施工の際にはヒメカンアオイを傷つけないよう注意した。

概 要 令和元年度には、平成30年度と同じ範囲で、高木の伐採を行った。事業の実施にあたっては、静岡県文化財審議会委員の指導を受けた。

中低木及び高木伐採の結果、シブカワツツジへの日照が確保され風通しが改善されたほか、腐葉土の原料となる落葉の絶対数も減り、生育環境が改善された。



シブカワツツジ群落地



シブカワツツジ群落地

4 文化財の継承事業

(1) 無形民俗文化財の外部公演

横尾歌舞伎「グランシップ公演」 令和元年8月25日（日）に行われた「第65回日本母親大会 in 静岡」の文化行事として横尾歌舞伎少年団が出演し、演目「白浪五人男 稲瀬川勢揃の場」を披露した。会場のグランシップ大ホールには約5,000人収容の客席の前に舞台が設置され、横尾歌舞伎保存会の持ち込んだ遠見幕と土手幕、桜が設営された。また、舞台の背面には大型スクリーンが設置され、演者の動きに合わせたカメラワークで上演の様子を会場全体に伝えていた。



上演の様子（左：南郷力丸役 右：五人男と捕り手）

会場全景

伝統芸能こどもサミット 令和元年8月23日（金）に静岡県文化プログラム「ふじのくに伝統芸能フェスティバル」関連企画として、伝統芸能の継承に取り組む子供たち県内10団体と県外1団体の総勢31名がグランシップに集まり、日頃の活動における課題等について、コーディネーターの大学生によるサポートのもと子供の視点による意見交換や提案を行い、最後に4つの声明文にまとめ発表を行った。市からは「横尾歌舞伎」、「川合花の舞」、「神澤おくない」で継承の活動をしている小中学生が参加し、横尾歌舞伎の戸田さんが議長をつとめた。



こどもサミットの参加者



上：議長（横尾歌舞伎：戸田さん）
下：サミットの様子

声明文

○私たちは、伝統芸能を継承していくために、正しく習い、多くの舞台に積極的に立ち、お客さんを巻き込んで伝えていきます。

○私たちは、伝統芸能の楽しさを伝えるために、VRやSNSを使って活動の宣伝をします。

○私たちは、伝統芸能を途絶えさせないために、お祭りや伝統芸能の行事に積極的に参加します。

○私たちは、伝統芸能をより多くの人に知ってもらうために、楽しいことも大変なことも、みんなに体験してもらいます。

5 浜松地域遺産の認定

(1) 浜松地域遺産認定制度の概要と経過

浜松地域遺産認定制度の概要 浜松市は、平成 28 年度から、従来の国・静岡県・浜松市の指定文化財、また国の登録文化財という文化財保護制度とは別に、地域とともにゆるやかな保護・活用をはかる制度として「浜松地域遺産」の認定を開始した。毎年度、地域の団体からご推薦をいただき、その年度中に浜松市教育委員会が認定する。まだ指定文化財ほどには知られていないとしても、それぞれの地域で長く親しまれ愛護されてきた貴重な歴史文化資源を認定し、「地域の宝（地域遺産）」として顕彰する制度である。指定文化財と同様の種別を対象とするが、近代化遺産や伝承地なども取り上げて、幅広く認定するゆるやかな制度としている。認定を契機に、所有者と地域団体が協力して「わが町の宝」に注目した地域活性化が展開されることを期待している。また、幅広く認定した文化財のうちから、将来の新たな指定文化財候補が見出されることは十分にありうる。

令和元年度からは、改正文化財保護法を受けて、浜松市も文化財保存活用地域計画の策定に着手している。また先行して歴史的風致維持向上計画の策定も進捗しており、地域遺産の認定は、両計画のための市内の未指定文化財の悉皆調査としても反映されている。

浜松地域遺産認定制度の経過 平成 28 年度の 7 月から 10 月まで募集した第 1 期には、年度末に 91 件を認定した。ついで 29 年度は 101 件、30 年度も 50 件を新たに認定した。

令和元年度も 7 月 1 日から 10 月 31 日を募集期間とし、自治会や郷土史研究会を中心に地域の団体からの推薦を受けて、66 件を 31 年 2 月 18 日の市教育委員会で報告して新たに認定した。これにより、4 年間の総数は、308 件となった。令和 2 年度以降も募集と認定を継続する予定である。

平成 17 年に 12 市町村が合併した浜松市は、合併前の各市町村が指定した文化財をすべて引き継ぎ、当時 423 件の指定文化財と 9 件の国の登録文化財が所在する都市となった。政令市施行とともに成立した 7 つの区別に見れば、指定・登録文化財とも市北半にあたる北区と天竜区に集中し、浜北区以南の市南半には比較的少なかった。市南部は戦災の影響が大きかったとはいえ、数多くの文化財が埋もれているものと推定される。4 年間に認定された文化財の状況を見ると、東区や浜北区など、従来の指定文化財が少なかった地域からも積極的な推薦が得られている（図 1）。

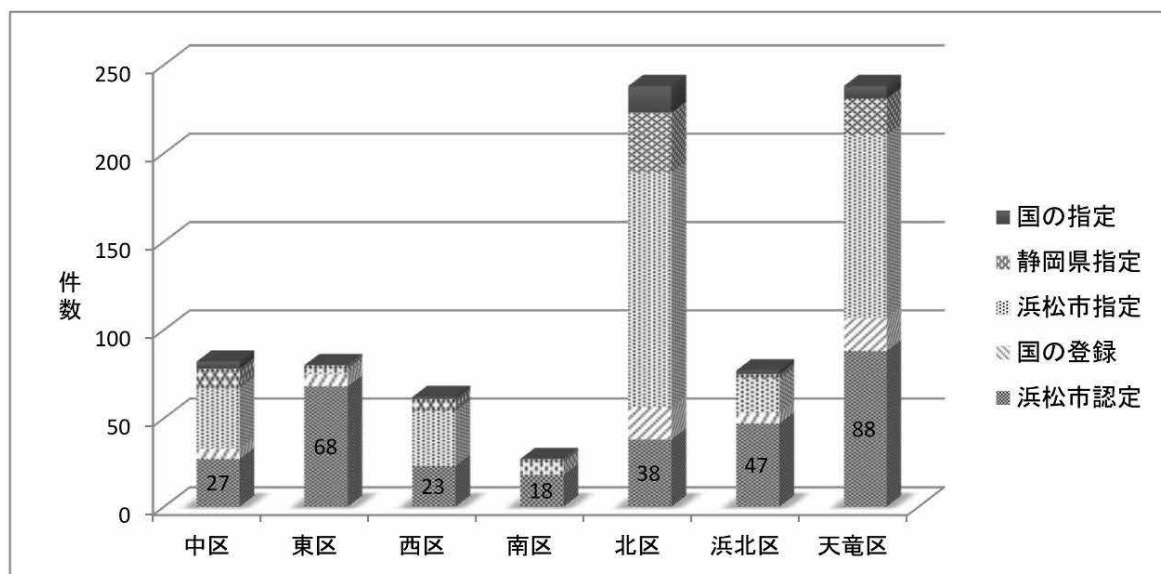


図 1 浜松市各区分 指定文化財等件数（令和2年3月27日現在）

（２）認定した地域遺産の特徴と今後の課題

これまでの認定文化財の特徴 地域ごとに見れば、４年間に各区とも二桁の認定を得ることができ、指定や国の登録ではない地域の埋もれた文化財を顕彰する制度として、地域の遺産を累積してきたと言える。それでも、将来の指定候補またバッファゾーンとしての機能も期待していくとなると、さらに多くの認定が望まれる。市内にはそれだけの潜在的な地域遺産があると認識している。

種別ごとに見れば、「新羅神社境内」をはじめとする史跡、近世近代の建造物、地域の寺院の仏像や石造文化財、歴史資料などの有形文化財、地域の祭りやその道具を推薦した民俗文化財（無形・有形とも）が過半を占める。それに対し、指定文化財では市内にまだ事例がない文化的景観や伝統的建造物群が少しずつ認定を増やしている。認定文化財のみの種別である近代化遺産や伝承地、ついで「水窪じゃがた」など伝統的生活文化も認定を得ることができた。しかしながら、保持者の死去によってしばらく指定件数が０となっている無形文化財は、認定文化財の種別にあってもまだ推薦がない（図２）。



新羅神社（史跡：2020年認定、南区）

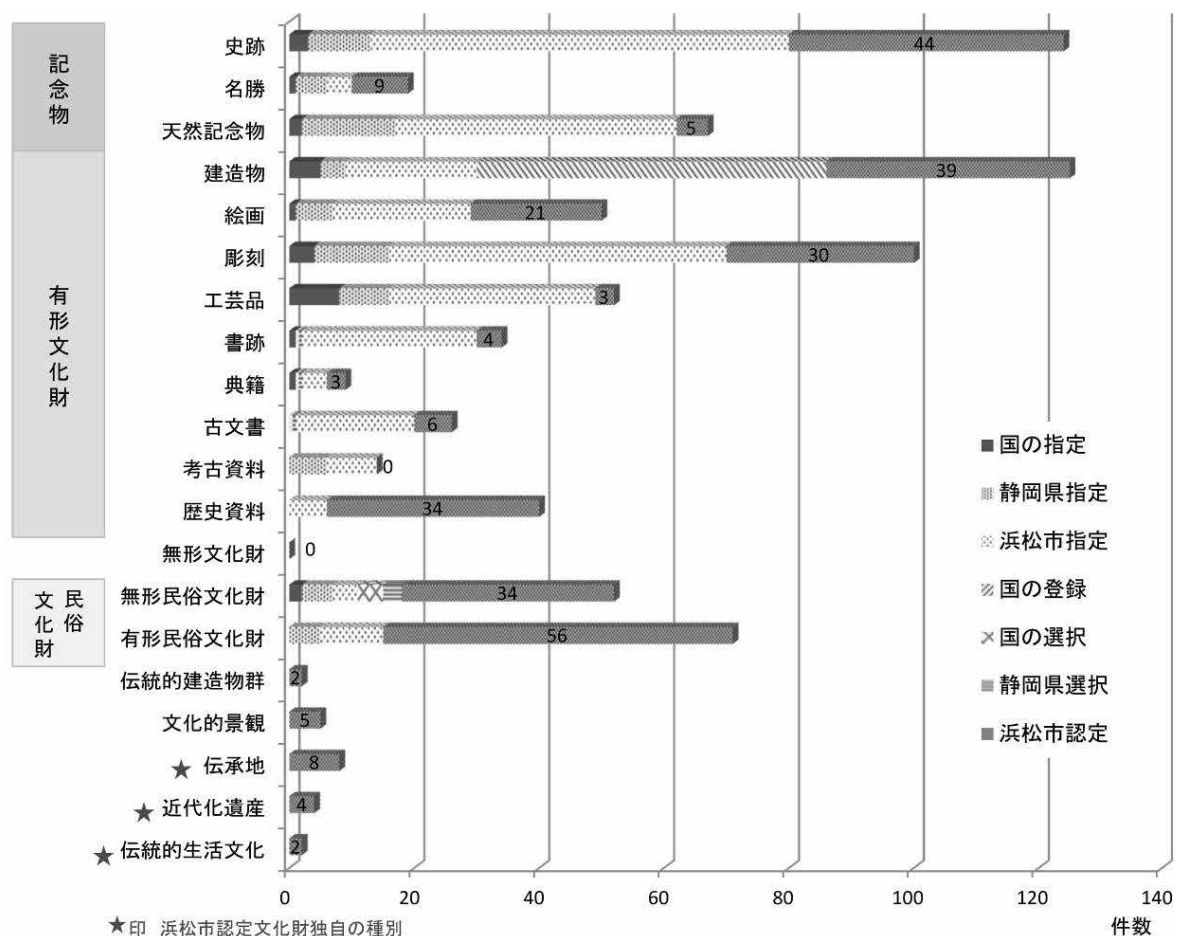


図２ 種別ごとに見た浜松市内の指定等文化財件数（令和2年3月27日現在）

今後の課題 認定された地域遺産は、翌年度に浜松市地域遺産センター（北区引佐町）にて概要を紹介してきた。広報紙上で一部は掲載し、本誌でも報告している。ただ、308件という個々の特色を十分に紹介できるところに至っていない。指定文化財も含め、市内の文化財の全体をご紹介できる機会を早急に設けていかなければならない。

浜松市は合併以降も国・県・市の指定436件、国の登録79件と文化財を漸増してきた。さらに、認定文化財は制度導入以後の4年間で308件を認定し、今後も認定文化財と同様のものを含めて各種別とも積極的に認定していくつもりである。市内の各地域・団体が事例を見て、さらに地域の歴史文化遺産を掘り起こし、今後も申請が継続されることを期待する。

申請の少ない種別については、文化財課や市文化財保護審議会からも積極的に照会し、しかるべき文化財の認定に向けて次年度以降も働きかけていく。



茂三塚（史跡：西区、2020年認定）



小山みい 頌徳灯籠（歴史資料…東区）

二俣古城連の屋台（有形民俗文化財…天竜区）



水窪じゃがた
（伝統的生活文化…天竜区）



初生衣神社おんぞ祭り
（無形民俗文化財…北区）

令和元年度認定文化財の例示（いずれも2020年認定）

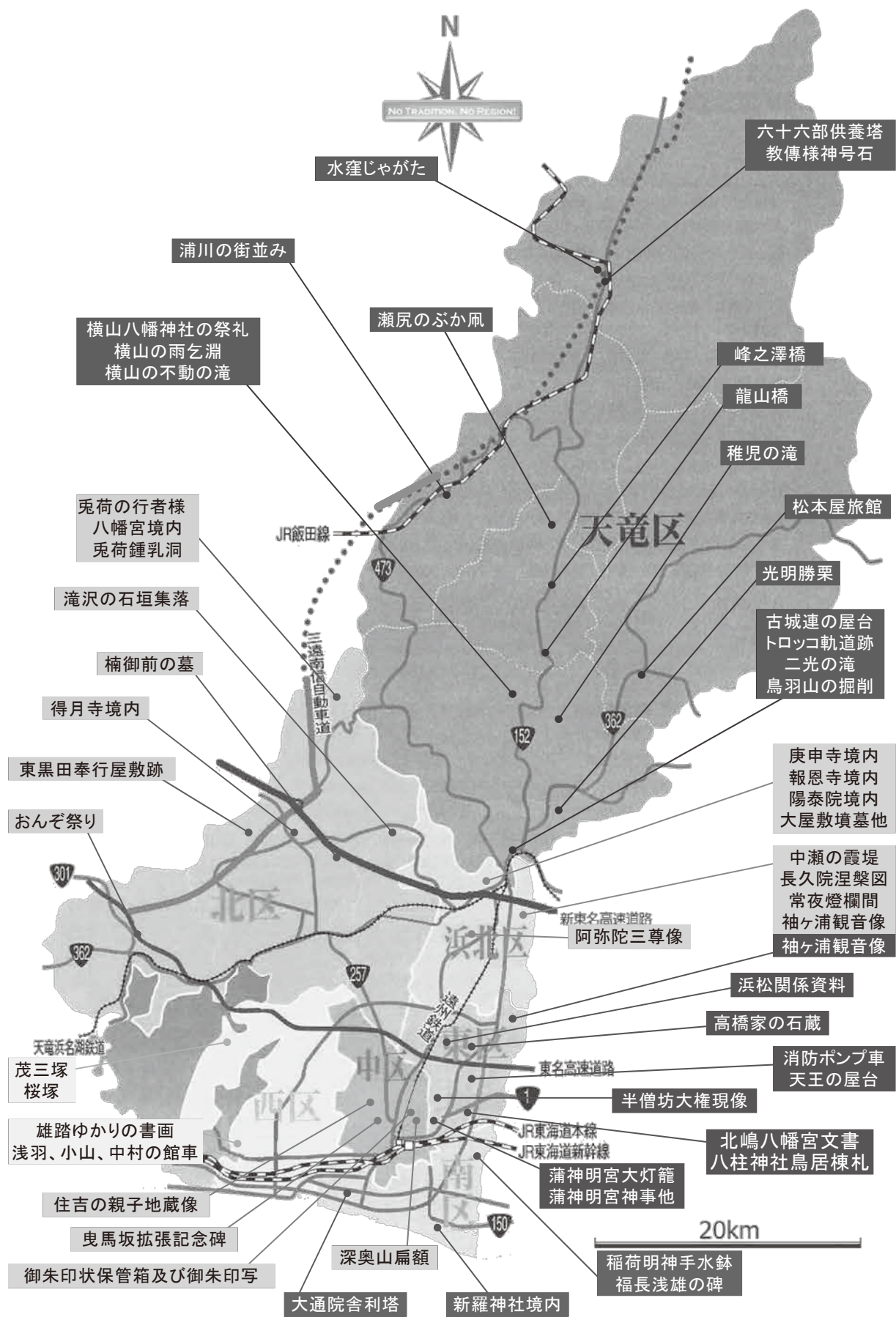


図3 令和元年度浜松市認定文化財の略位置（区別に記載）

令和元年度「浜松地域遺産」認定一覧

所在地等	名 称	種 別	説 明
中区			
高町	曳馬坂拡張記念碑	歴史資料	昭和 6 年道路拡張工事記念。若槻礼次郎揮毫。
住吉	住吉の親子地藏像	有形民俗	大正 12 年建立、武士の親子を祀るという。
佐藤	深奥山扁額	書跡	方広寺大火後の復旧のため山岡鉄舟が書いた。
助信町	御朱印状保管箱及び御朱印写	歴史資料	助信村に浜松藩から発給された文書の保管箱。
東区			
上石田町	上石田高橋家の石蔵	建造物	昭和 2 年、伊豆石の蔵。敷地は広場として開放。
中郡町	近世近代浜松関係資料	歴史資料	個人蔵、計 103 点。浜松に関わるものを認定。
天王町	手押し消防ポンプ車及び刺し子	歴史資料	大正 13 年製。「下堀」という旧地名を記す。
天王町	天王町中の屋台	有形民俗	明治 19 年製。天王新田の大工が製造した。
上新屋町	宝珠寺半僧坊大権現像	彫刻	半僧坊の信仰を集めた宝珠寺の木造立像。
薬師町	北嶋八幡宮文書	古文書	慶長 6 年、伊奈備前守忠次他連署の安堵状。
薬師町	薬師町八柱神社烏居壱門棟札	古文書	1901 年に神仏分離令による改修した記録。
神立町	蒲神明宮の大灯籠	歴史資料	天保 4 年、当時の寄進した村々を記す。一対。
神立町	小山みい頌徳灯籠	歴史資料	明治 33 年、遠州織物に功績あるみゑを記念。
神立町	蒲神明宮の御田打ち	無形民俗	元日の朝、田打ちから田植えまでの所作をする。
植松町	蒲大神の碑	歴史資料	東海道筋に建立、神明宮の前身を祀る。
神立町	蒲神明宮の庭上座礼	無形民俗	10 月例大祭、玉石の上に筵を敷き神事を行う。
神立町	蒲神明宮の神楽	無形民俗	庭上座礼で 16 名の子女が袖と扇子で踊る。
大蒲町	大蒲町のまつり道	伝承地	蒲静並の邸宅跡から神明宮までの道と伝える。
豊町ほか	袖ヶ浦三十三観音霊場の観音像	有形民俗	豊町蔵泉寺ほか 22 体の観音像が現存する。
西区			
雄踏町	雄踏町ゆかりの書画	絵画／書跡	旧雄踏町教委が郷土に関係する書画を集めた。
雄踏町	雄踏町浅羽の館車	有形民俗	明治 36 年東京で製造、静岡七間町から購入。
雄踏町	雄踏町小山の館車	有形民俗	明治 22 年天王新田の大工が製造した。
雄踏町	雄踏町中村の館車	有形民俗	江戸時代、掛塚で使用。明治 22 年に購入。
舘山寺町	茂三塚	史跡	姉川の戦いで討死した中安兵部の宝篋印塔。
舘山寺町	桜塚	史跡	大永 2 年、佐田城落城の際の女性の墓と伝う。
南区			
新橋町	大通院舍利塔	工芸品	大正 15 年に仏舎利を格納するために製作した。
大塚町	福長浅雄建立謝恩の碑	歴史資料	飛行機製造の協力者に福長が感謝した記念碑。
大塚町	大塚稻荷明神の手水鉢	歴史資料	享保 4 年(1719)の年号がある。石製。
江ノ島町	新羅神社境内	史跡	小笠原源太夫が享保 8 年に勧請した。
北区			
引佐町	東黒田奉行屋敷跡	史跡	近藤家の山奉行だった宮田家の屋敷跡。
引佐町	楠御前の墓	伝承地	三岳城で宗良親王に従った女性の墓と伝わる。
引佐町	兎荷薦ノ巢山の行者様	有形民俗	山頂の大岩の下に鎮座する。10 月に祭祀。

所在地等	名 称	種 別	説 明
引佐町	得月寺境内	史跡	伊平の寺院、応永 32 年の開創と伝わる。
引佐町	兎荷六所神社境内	史跡	神社の裏山に雨の岩戸と呼ぶ磐座がある。
引佐町	兎荷鍾乳洞	天然記念物	全長 190m、飲料水源のため立入は不可。
三ヶ日町	初生衣神社おんぞ祭り	無形民俗	赤引き糸を使った絹織物を伊勢神宮に奉納。
滝沢町	滝沢の石垣集落景観	文化的景観	戦国末期に山の南斜面を開発した集落。
浜北区			
中瀬ほか	袖ヶ浦三十三観音霊場の観音像	有形民俗	小島観音堂ほかに 22 体の観音像が現存。
新原	新原の阿弥陀三尊塚	有形民俗	正徳 2 年新原村結衆中善願と刻む。
豊保	中瀬四塔の秋葉山常夜灯鞘堂の欄間	有形民俗	令和元年に取り壊された鞘堂の欄間のみ保存。
中瀬	中瀬の霞堤	史跡	天竜川の洪水を減災するための堤防が現存。
中瀬	長久院涅槃図	絵画	廃寺となった寺院の絵図を保管、安政 4 年制作。
宮口	庚申寺境内	史跡	明徳元年の開創、江戸時代の境内景観を残す。
宮口	報恩寺境内	史跡	宝永 4 年の再興。本堂は安政 5 年の建立。
宮口	宮口洗沢の秋葉山常夜灯鞘堂	有形民俗	昭和 5 年に建立。切妻造りの屋根。
宮口	宮口土取の賓頭盧尊者像	有形民俗	安永 3 年の石仏、かつてここに徳林寺があった。
宮口	大屋敷墳墓	史跡	鎌倉時代の五輪塔がある積み石の墳墓。
宮口	陽泰院境内	史跡	永正 3 年開創、三十三観音霊場。
宮口	宮口三十三観音霊場の観音像	有形民俗	8 か所に複数の石仏を配置。嘉永 3 年と刻む。
宮口	宮口野口辻の傍示木	歴史資料	「ぼんじぎ」と呼ぶ。文化 5 年、秋葉街道沿い。
宮口	九勇士の碑	歴史資料	アメリカ軍に撃墜された旧陸軍の乗員慰霊碑。
天竜区			
二俣町	二俣古城連の屋台	有形民俗	明治 30 年建造。水引幕は大正 14 年に製作。
横山町	横山八幡神社の祭礼	無形民俗	8/14,15 に神輿渡御と屋台引き回しがある。
山東・只来	光明勝栗(こうみょうかちぐり)	伝統的生活文化	天正 3 年光明村が徳川家康に献上した搦栗。
龍山町	峰之澤橋	建造物	橋長 157m、昭和 30 年代初めの人道吊橋。
龍山町	龍山橋	建造物	橋長 164m、1971 年に建設した人道吊橋。
水窪町	水窪じゃがた	伝統的生活文化	水窪に伝わるジャガイモの在来種、小ぶり。
龍山町	瀬尻のぶか凧	無形民俗	江戸時代後期に始まる、初節句を祝う凧あげ。
水窪町	六十六部供養塔及び教傳様神号石	有形民俗	享保年間(1726 頃)の山岳修験者の記念塔。
二俣町	旧太田製作所のトロッコ軌道跡	近代化遺産	二俣でさかんだった製材工場のレールが残る。
横山町	横山の雨乞淵	名勝	落差 12m、雨ごいで大蛇が雨を降らせたと伝う。
横山町	横山の不動の滝	名勝	落差 6m、行者の修行の場。不動尊を祀る。
佐久	佐久の稚児の滝	名勝	落差 15m、光明寺の稚児が修行したと伝わる。
二俣町	鳥羽山の掘削	史跡	寛政元年、袴田喜長が掘削した二俣川放水路。
二俣町	二光の滝	史跡	昭和 7 年、二俣川の流路を付替えて生じた段差。
佐久間町	浦川の街並み	伝統的生活文化	養蚕や木材の集散地として商人宿の面影残す。
春野町	松本屋旅館	建造物	明治 10 年創業、大正 3 年大火後の移築。

※通常時には見学できない文化財も含むので留意されたい。

第3章 浜松市地域遺産センター年報

1 施設の概要

(1) 施設の概要

地域遺産センターは、埋蔵文化財の調査や整理事業を行うほか、歴史・文化的な資料の保管、文化財全般の普及啓発、情報発信などを担う文化財保護の拠点施設である。市施設の再編によって空が生じることとなった3階建て建物の1・2階を改修して平成29年1月に開館しており、市文化財課の職員が常駐している。

また、施設の所在する北区引佐町井伊谷は歴史豊かな地域であり、周辺に残る三岳城跡（国史跡）、龍潭寺庭園（国名勝）、遠江のひよんどりとおくない（国重要無形民俗文化財）、渭伊神社境内遺跡（県史跡）、井伊谷城跡（市史跡）など豊富な文化財のサイトミュージアム的な役割も担っている。

(2) 施設の構造・設備

構 造 本体：鉄筋コンクリート造 地上3階建

トラックヤード棟：鉄骨造 平屋建

面 積 建築面積 1,239.91 m²、延床面積 3,115.71 m²

収蔵庫 24時間の温湿度管理を行っている。

トラックヤード・荷捌場 4 tトラックが入庫可能。

展示室 各種資料の展示を行う。開館時間中の温湿度管理を行うことができる。

ガイダンスコーナー 大型スクリーンを備え、映像の放映、講座、展示等多目的な事業を行うことができる。

エントランスホール 顔出しボード、飲料自動販売機、コインロッカー、アンケートコーナー等を備え、展示や体験のスペースにも利用される。

ロビー 休憩スペース、案内カウンター、ショップ、大河ドラマメモリアルコーナー、チラシ等を配架した情報コーナー等を備え、展示や体験のスペースにも利用される。

（※キッズコーナー、VRコーナー、図書閲覧コーナーは新型コロナウイルス感染防止の観点から、令和3年3月現在休止中）

事務室・作業室 職員が常駐して施設運営業務と埋蔵文化財保護業務を行う。

駐車場 64台（隣接する引佐協働センターと共用）

エレベーター 1基

便 所 3箇所（うち1箇所多目的トイレ）

授乳室 おむつ交換台、給湯可能な洗面台を備える。



施設外観



展示室



ガイダンスコーナー



エントランスホール



ロビー

2 管理運営業務

(1) 運営体制

浜松市地域遺産センターの運営は、文化財課職員が埋蔵文化財業務を行いながら直営で実施した。展示公開エリアの案内・販売・日常清掃等は（公社）浜松市シルバー人材センターへ委託し、設備保守管理等は民間業者へ委託した。また、館内外の案内はボランティアガイドにご協力いただいた。



館内の案内を行うスタッフと
ボランティアガイド

(2) 開館日時・観覧料等

開館時間 午前9時から午後5時（最終入館午後4時30分）

休館日 毎週月曜日（祝日の場合翌日）、年末年始、展示更新・設備点検に伴う臨時休館

観覧料 無料。ただし、体験事業等で材料を必要とする場合には参加料を徴収

(3) 建物・設備の保全

当施設は竣工から35年以上が経過した建物を改修しているため、各所に老朽化が目立っている。建物の長寿命化を図る対策の一つとして、給水設備改修工事を行った。

(4) 図書やグッズの販売

2階の受付カウンター付近に販売コーナーを設け、文化財課で制作した刊行物のほか、旧引佐町時代に発行された刊行物、浜松市博物館の図録など図書を販売した。また、浜松の伝統産業である綿織物製品や注染染めの手ぬぐい、歴史関連の文具や雑貨などもあわせて販売した。



販売コーナー

3 埋蔵文化財保護業務

2階の事務室・作業室にて埋蔵文化財の調整・調査・整理作業等の業務を行った。（詳細は第1部第1章6及び第2部を参照）

4 公開普及業務

(1) 展 示

常設展「戦国の井伊谷」

展示室にて、戦国時代を中心とした中世の井伊氏や井伊谷にかかわる展示を継続して行った。ジオラマへのプロジェクションマッピングと音声で解説する「井伊谷戦国絵巻」や、中世の井伊谷の遺跡出土品、井伊氏ゆかりの笛のレプリカなどを展示している。また、井伊谷へ史跡見学等に訪れる方のガイダンス機能も果たしている。



プロジェクションマッピング



伝井伊直親所有の笛レプリカ



中世の井伊谷の遺跡出土品

企画展「はままつ文化財速報展 2019」

(5月25日～7月15日・ガイダンスコーナー)

浜松市内で行われた文化財保護の取り組みの成果や出来事を紹介するため開催した。新指定・登録文化財の概要、文化財の修理事業や保存伝承事業の取り組みの紹介、市認定文化財「浜松地域遺産」に認定された文化財の紹介のほか、同時開催「浜松市発掘調査速報展」では、光明山古墳（天竜区山東）、梶子遺跡（中区西伊場町）、浜松城跡（中区元城町）などの出土遺物を展示した。

また、平成30年度の1年間、浜松市から熊本市へ文化財担当職員1名が復興支援のため派遣され、特別史跡熊本城跡の復旧事業に携わっていたため、熊本城跡復旧事業を紹介するパネル展も併せて実施した。

期間中の観覧者976人。5月25日にはギャラリートークを開催して44人の参加を得た。



「はままつ文化財速報展2019」チラシ



展示会場の状況



熊本城跡復旧事業の展示

企画展「農村歌舞伎と地芝居～舞台道具と映像・資料～」

(9月14日～11月24日・ガイダンスコーナー)

地域遺産センターの近くで、住民主体で行われている静岡県指定無形民俗文化財「横尾歌舞伎」(北区引佐町横尾・白岩地区)をはじめ、浦川歌舞伎(天竜区佐久間町浦川)や雄踏歌舞伎「万人講」(西区雄踏町)など市内の農村歌舞伎や地芝居で用いられている舞台道具・台本・衣装等を展示しながら、大型スクリーンによる映像によって、それぞれの公演の様子や、地域の人々が保存伝承に努めている様子などを紹介した。

期間中の観覧者 1,864 人。また、関連事業として以下の事業を行った。

【関連事業1】 オープニングイベント

開催日：9月14日(土) 参加者数：20人

雄踏歌舞伎「万人講」にお越しいただき、『寿式三番叟』を実演と解説をしていただいた。

【関連事業2】 体験コーナー

開催日：期間中 参加者数のべ35人

①隈取りを描いてみよう

紙製の面に絵の具で好きな隈取りを描く体験を行った。

②エビを書いてみよう

歌舞伎公演の際に寄付者名と金額を記入し、朱書の海老を描いて会場に貼る「えび紙」を書く体験を行った。

【関連事業3】 現地見学会

開催日：9月23日(月・祝) 参加者数10人

浦川歌舞伎の開催地である佐久間町浦川にて、浦川歌舞伎にゆかりのある江戸時代の歌舞伎役者「尾上栄三郎」の墓を訪ね、浦川歌舞伎の舞台を見学した。

その他の展示

中・小規模なコーナー展示をガイダンスコーナーやロビーなどで開催したほか、市内の図書館や庁舎など外部での出張展示も行った(一部再掲)。



「農村歌舞伎と地芝居」チラシ



オープニングセレモニーの様子



体験コーナーの様子



展示「こどもたちの郷土学習」の様子

会 期	名 称	概 要	観覧者数
5月25日～7月15日	出張展示「都田川流域の遺跡」	都田図書館で開催	未計測
7月8日～22日	出張展示「三ヶ日町の遺跡」	三ヶ日協働センターで開催(共催)	未計測
7月20日～8月25日	「記念物100年と浜松」	記念物保護制度100年記念事業	1,037人
11月16日～1月29日	「光明山古墳国史跡指定記念展示」	出土埴輪や小型模型で調査成果を紹介	660人
2月1日～3月8日	「こどもたちの郷土学習」	小中学生による郷土学習成果の展示	581人

（２）講 座

地域遺産センターは講座室を有していないため、隣接する引佐協働センター等を利用して開催したほか、依頼に応じて外部へ講師を派遣した。詳細は第１章６を参照いただきたい。

（３）現地見学会

幅広い年代層にさまざまなジャンルの文化財等をわかりやすく紹介するために、見学会「へりさんぽ ～Heritage Walk～」を開催した。なお、他にも２回予定していたが、荒天や新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となった。詳細は以下の通り（一部再掲）。



「方広寺の文化財」開催状況

日程	回数・タイトル	内容・参加者数
7月22日	21 方広寺の文化財	国登録有形文化財の建造物を中心に、方広寺所蔵の文化財を案内。95人。
9月23日	22 浦川歌舞伎	前掲。企画展「農村歌舞伎と地芝居」関連行事として開催。

（４）体験事業・その他イベント

ゴールデンウィークや夏休み、隣接する施設で行われる「いなさ人形劇まつり」当日などに、こども向けのクラブ体験やクイズラリー、発掘や整理作業の模擬体験、バックヤードツアーなどを開催した。また、スイーツの調理を通じて考古資料の製作技法を学ぶ体験事業を開催した。実施状況は第１章６や本項（１）を参照いただきたい。



夏休みイベント「涼み処井伊ノ屋」

（５）情報発信

チラシ・広報誌等の紙媒体 年２回発行するイベントカレンダーや各事業のポスター・チラシを、市内外の公共施設や学校、民間施設等に配布した。また、「広報はままつ」で事業の周知を図った。

インターネット 市ホームページ、フェイスブック、ツイッターを活用したほか、外部のウェブサイトにも施設やイベント等の情報の掲載を依頼した。

マスメディア等への対応 以下の通りラジオ等マスメディアの取材を受けた。また、事業の開催情報の周知について依頼し、新聞、雑誌等で取り上げられた。

時 期	メディア	概 要
6月27日	K-Mix（FMラジオ）	企画展「はままつ文化財速報展2019」の紹介
7月8日	中日新聞動画サイト	市内の古墳について説明
9月26日	K-Mix（FMラジオ）	企画展「農村歌舞伎と地芝居」の紹介
12月10日	浜松ケーブルテレビ	光明山古墳関連展示の紹介

5 利用状況

（１）入館者数と傾向

令和元年度の入館者数は前年比３割強の減となった。大河ドラマの影響の低下が主因とみられるが、多くの人に来館してもらえるような魅力のある事業展開が求められる。

アンケートボードで測定した入館者の年代別比率は、10代約15%、20～30代約20%、40～50代約30%、60代以上約35%で、以前よりも若年層が増加している。地域別比率は市内約45%、県内含む中部圏約30%、関東圏約15%で、以前よりも近隣圏の比率が増加している。

	令和元年度		平成30年度		前年比	
	入館者 (人)	人/日	入館者 (人)	人/日	入館者 (人)	比率 (人/日)
計	7,339	26	11,259	38	-3,920	68%
累計	119,029					

(2) 団体利用

学校をはじめ団体等の利用があり、説明などの対応を行った。

月日	団体利用者名・人数	月日	団体利用者名・人数
5月10日	井伊谷小学校 59人	10月31日	井伊谷小学校 14人
6月28日	篠原小学校 29人	11月21日	浜松日体中学校 16人
7月10日	伊目小学校 20人	12月6日	全国農業担い手サミット 40人
10月29日	北浜中学校 6人	2月4・6日	井伊谷小学校 70人

(3) 資料・画像等の提供・資料熟覧対応

資料の貸出しや画像等の提供、資料熟覧への対応などを行った。

対応日	種別	申請者	内 容
4月26日	画像提供	個人	刊行物掲載のため、伊場木簡の実測図を提供
5月23日	画像提供	個人	刊行物掲載のため、恒武西宮遺跡の図・写真を提供
8月20日	資料熟覧	個人	研究のため、郷ヶ平古墳群出土埴輪の熟覧
9月20日	資料貸出	団体	展示のため、万斛西遺跡出土遺物を貸出
10月28日	資料熟覧	個人	研究のため、神内平1号墳出土埴輪の熟覧
11月14日	資料熟覧	個人	研究のため、岡の平遺跡出土遺物の熟覧
11月24日	資料熟覧	団体	研究のため、梶子遺跡・東原遺跡等出土の弥生土器の熟覧
1月16日	画像提供	個人	刊行物掲載のため、松東遺跡出土銅鐸の写真を提供
2月6日	資料熟覧	個人	研究のため、釜下古窯出土遺物の熟覧
2月20日	画像提供	出版社	刊行物掲載のため、岡の平遺跡出土石棒の写真を提供

6 今後の課題

(1) 施設の管理

本センターは、建設から35年以上経過した建物を改修して再活用しているため、各所で老朽化が進行している。今後は不具合箇所の緊急性や優先度を考慮した修繕計画を策定し実施していく必要がある。また、未改修である3階部分の活用による、資料保管場所やボランティア等市民協働の活動場所の確保や、開館当初の大河ドラマ仕様の展示設備の更新による文化財展示スペースの拡充などが図れるように、館内の改修・更新を検討していく必要がある。

(2) 事業の運営

3月以降の新型コロナウイルスの感染拡大によって、不特定多数が触れるハンズオン展示等の休止や、多数の人が集まる講座の中止など、事業への影響が生じている。今後は、オンラインでの情報提供の拡充や、少人数で実施可能な事業の開催など、感染拡大を防止しながらも多くの人へ文化財の魅力が届けられるような運営の工夫が求められる。

【第 2 部 埋蔵文化財調査報告】

第1章 埋蔵文化財調査の概要

浜松市では、令和元年度に本発掘調査をはじめとした、埋蔵文化財発掘調査に係る事業を実施した。各事業における実施件数は、以下のとおりである。

（１）埋蔵文化財本発掘調査事業

開発に伴う事前の発掘調査 12 件（内訳は次のとおり）

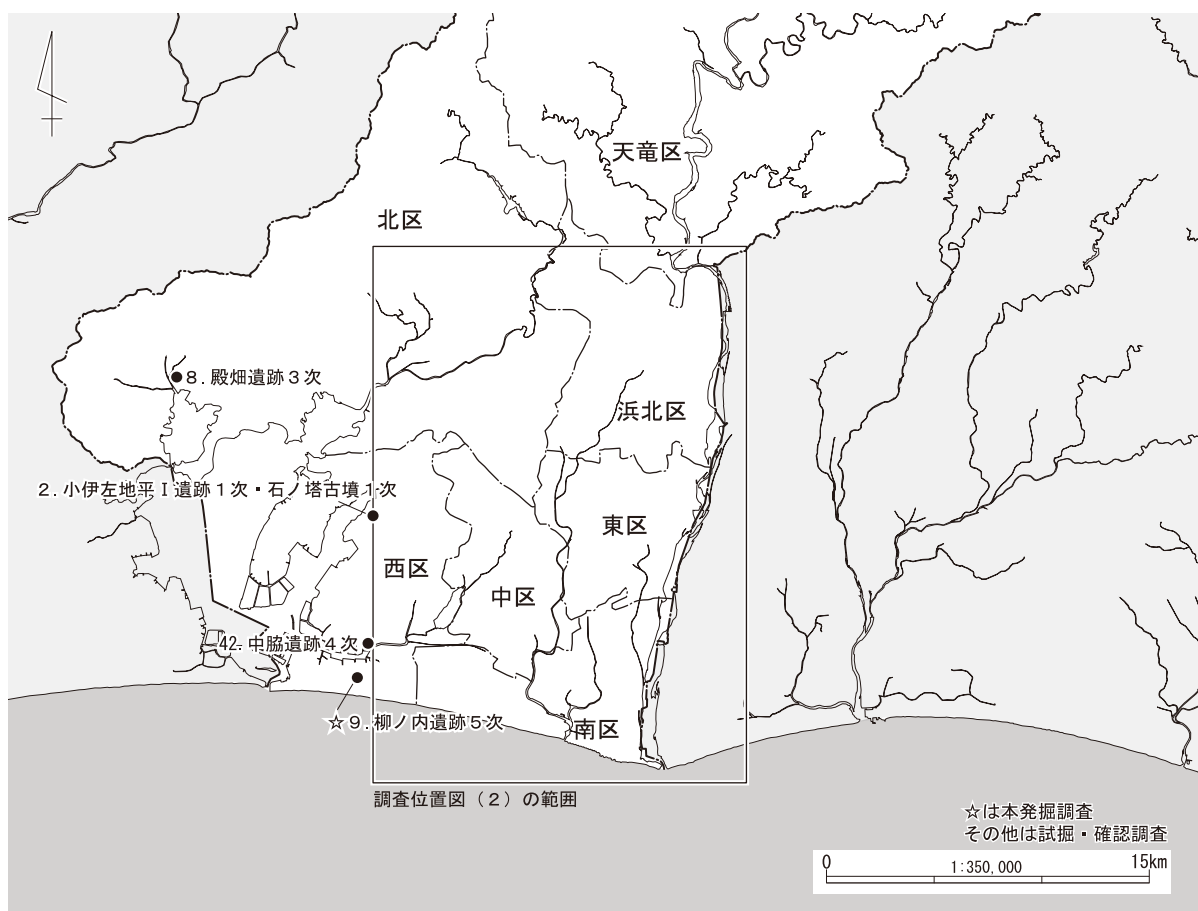
- ・民間委託による本発掘調査 3 件 浜松城跡 27 次（中区元城町）ほか
- ・市の直営による本発掘調査 9 件 高塚町村西遺跡 8 次（南区増楽町）ほか

（２）埋蔵文化財試掘・確認調査、工事立会等調査事業

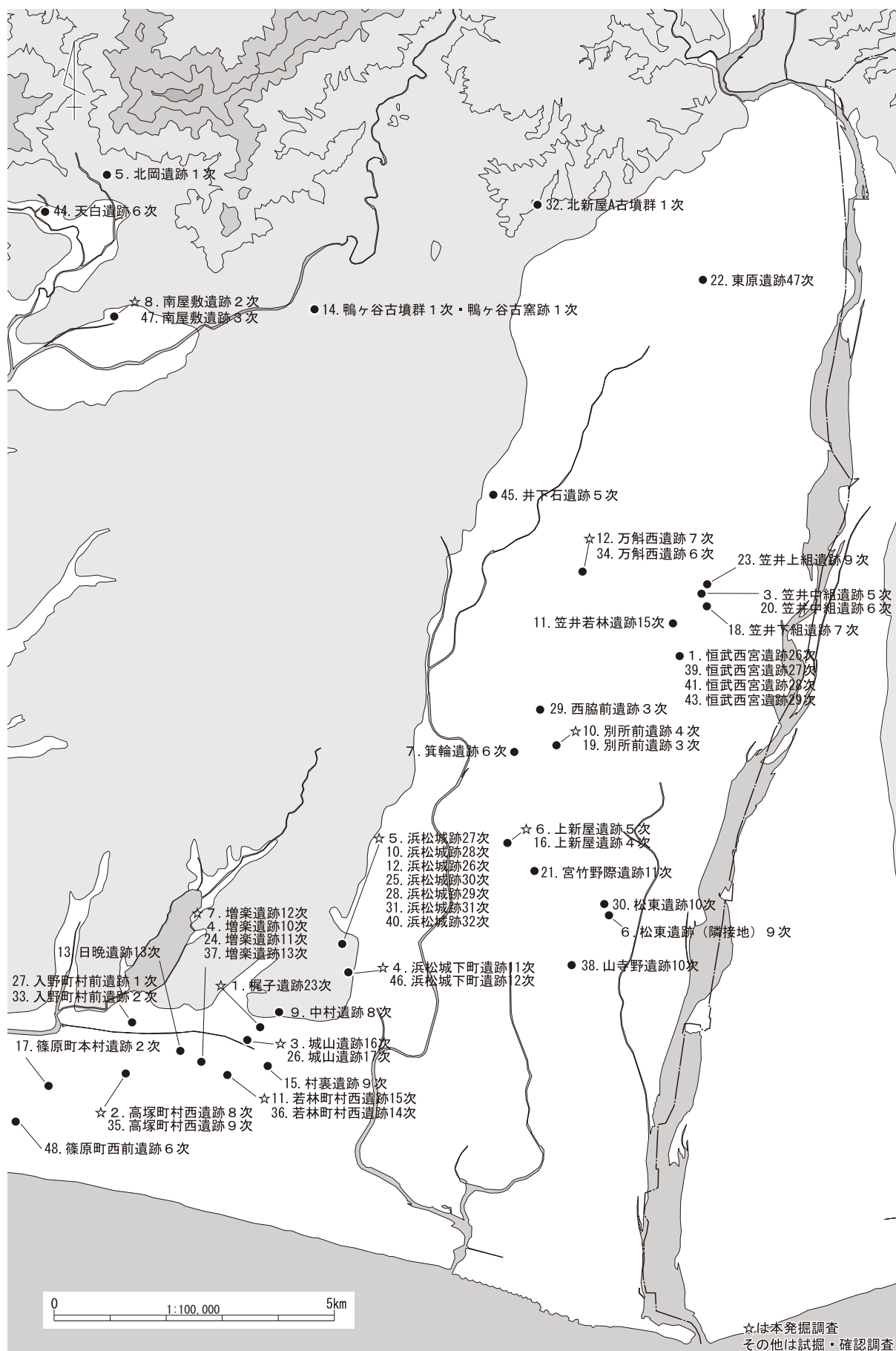
①調査 48 件（内訳は次のとおり）

- ・開発に伴う試掘確認調査 47 件 恒武西宮遺跡 26 次（東区恒武町）ほか
- ・保存目的の確認調査 1 件 浜松城跡 26 次（中区元城町）ほか

②開発に伴う工事立会い 77 件 将監名遺跡 7 次（東区将監町）ほか



調査位置図（１）



調査位置図 (2)

令和元年度本発掘調査一覧

No.	遺 跡 名	所 在 地	調 査 月 日	調査原因	区 分	調査面積 (約㎡)	掲載頁
1	梶子遺跡23次	中区西伊場町	2019年6月～2020年3月	宅地造成に伴う道路建設工事	整理事業・報告書刊行	720	65
2	高塚町村西遺跡 8 次	南区高塚町	2019年3月13日～12月	集合住宅建設	整理事業・報告書刊行	104	65
3	城山遺跡16次	中区南伊場町・南区若林町	2019年5月7日～27日、10月18日	寄宿舎建設	現地作業	380	66
4	浜松城下町遺跡11次	中区塩町・旅籠町・伝馬町	2019年7月2日～11月7日	国道257号線改良工事	現地作業	381	66
5	浜松城跡27次	中区元城町	2019年7月16日～2020年3月19日	本店新築工事	現地作業	1,700	68
6	上新屋遺跡 5 次	東区上新屋町	2019年9月3日～19日	公道移管	現地作業	150	69
7	増楽遺跡12次	南区増楽町	2019年10月1日、2日	個人住宅建設	現地作業	63	69・133
8	南屋敷遺跡 2 次	北区細江町三和	2019年10月16日、21日、26日、30日	下水道管理設	現地作業	16	70
9	柳ノ内遺跡 5 次	西区坪井町	2019年10月31日	防火水槽設置	現地作業	1	71
10	別所前遺跡 4 次	東区市野町	2019年11月5日～20日	公道移管	現地作業	198	71
11	若林町村西遺跡15次	南区若林町	2019年12月12日、13日	個人住宅建設	現地作業	13	72・137
12	万斛西遺跡 7 次	東区中郡町	2020年1月20日～22日	道路拡幅工事	現地作業	38	72

令和元年度試掘・確認調査一覧

No.	遺 跡 名	所 在 地	調 査 月 日	調査原因	調査面積 (約㎡)	掲載頁
1	恒武西宮遺跡26次	東区貴平町	2019年4月8～11日	墓地増設	53	73・141
2	小伊左地平Ⅰ遺跡1次・石ノ塔古墳1次	西区伊左地町	2019年4月15日、16日、5月20日、22日～27日	土砂採取	734	73
3	笠井中組遺跡 5 次	東区笠井町	2019年4月23日	個人住宅建設	8	76
4	増楽遺跡10次	南区若林町	2019年4月25日	個人住宅建設	16	76
5	北岡遺跡 1 次	北区引佐町井伊谷	2019年5月14日、15日	個人住宅建設	16	77
6	松東遺跡（隣接地）9次	東区天龍川町	2019年5月20日	天竜川駅南口整備事業	4	78
7	箕輪遺跡 6 次	東区小池町	2019年6月3日	宅地分譲	36	78
8	殿畑遺跡 3 次	北区三ヶ日町三ヶ日	2019年6月6日	個人住宅建設	5	80
9	中村遺跡 8 次	中区東伊場一丁目	2019年6月10日	個人住宅建設	9	80
10	浜松城跡28次	中区元城町	2019年6月12日	事務所建設	25	81
11	笠井若林遺跡15次	東区笠井町	2019年6月17日	個人住宅建設	16	82
12	浜松城跡26次	中区元城町	2019年6月20日～2020年3月19日	確認調査	2,000	83
13	日晩遺跡13次	南区増楽町	2019年6月25日	個人住宅建設	7	84
14	鴨ヶ谷古墳群 1 次・鴨ヶ谷古窯跡 1 次	北区都田町	2019年6月28日	太陽光発電施設建設	46	84
15	村裏遺跡 9 次	南区東若林町	2019年7月2日	個人住宅建設	7	86
16	上新屋遺跡 4 次	東区上新屋町	2019年7月4日	宅地造成	16	86
17	篠原町本村遺跡 2 次	西区篠原町	2019年7月17日	個人住宅建設	5	87
18	笠井下組遺跡 7 次	東区笠井町	2019年8月5日	宅地造成	32	87
19	別所前遺跡 3 次	東区市野町	2019年8月6日	宅地造成	40	89
20	笠井中組遺跡 6 次	東区笠井町	2019年8月8日	個人住宅建設	8	90
21	宮竹野際遺跡11次	東区上西町	2019年8月29日	道路拡幅	12	90
22	東原遺跡47次	浜北区新原	2019年9月17日、18日	店舗建設	145	91
23	笠井上組遺跡 9 次	東区笠井町	2019年9月25日	宅地造成	32	93
24	増楽遺跡11次	南区増楽町	2019年9月30日	個人住宅建設	8	94・133
25	浜松城跡30次	中区元城町	2019年10月23日	社屋建設	8	94
26	城山遺跡17次	南区若林町	2019年10月25日	下水道管工事	6	95
27	入野町村前遺跡 1 次	西区入野町	2019年10月28日	個人住宅建設	8	95
28	浜松城跡29次	中区元日町	2019年10月28日～31日	集合住宅建設	27	96
29	西脇前遺跡 3 次	東区市野町	2019年10月31日	賃貸住宅建設	19	97
30	松東遺跡10次	東区天龍川町	2019年11月7日	市道拡幅	16	97
31	浜松城跡31次	中区元城町・紺屋町	2019年11月18日	集合住宅建設	31	98
32	北新屋A古墳群 1 次	浜北区四大地	2019年11月26日	倉庫建設	21	98
33	入野町村前遺跡 2 次	西区入野町	2019年12月3日	集合住宅建設	16	99
34	万斛西遺跡 6 次	東区中郡町	2019年12月3日	市道拡幅	21	100
35	高塚町村西遺跡 9 次	南区高塚町	2019年12月5日	集合住宅建設	8	101
36	若林町村西遺跡14次	南区若林町	2019年12月11日	個人住宅建設	9	102・137
37	増楽遺跡13次	南区若林町	2019年12月12日	集合住宅建設	8	102
38	山寺野遺跡10次	南区飯田町	2019年12月24日	集合住宅・事務所建設	24	103
39	恒武西宮遺跡27次	東区恒武町	2020年1月27日	店舗建設	16	104
40	浜松城跡32次	中区元城町	2020年1月28日、30日	社屋建設	40	105
41	恒武西宮遺跡28次	東区恒武町・上石田町・笠井新田町	2020年2月25日、26日	工場建設	120	105・141
42	中脇遺跡 4 次	西区志都呂町	2020年3月2日	個人住宅建設	12	105
43	恒武西宮遺跡29次	東区恒武町	2020年3月5日、6日	整備工場新設	68	106・141
44	天白遺跡 6 次	北区引佐町井伊谷	2020年3月9日	個人住宅建設	10	107
45	井下石遺跡 5 次	浜北区内野	2020年3月9日	個人住宅建設	14	108
46	浜松城下町遺跡12次	中区利町	2020年3月16～19日、24日、25日	確認調査	179	108・157
47	南屋敷遺跡 3 次	北区細江町三和	2020年3月23日	個人住宅建設	21	109
48	篠原町西前遺跡 6 次	西区篠原町	2020年3月24日	個人住宅建設	6	109

令和元年度工事立会一覧

No.	遺 跡 名	所 在 地	調 査 月 日	検出遺構/出土遺物	掲載頁
1	恒武西宮遺跡	東区貴平町	2019年4月15日	なし／かわらけ、時期不明土器	110
2	恒武西宮遺跡	東区恒武町	2019年4月16日	なし	110
3	恒武西宮遺跡	東区恒武町	2019年4月17日	なし	110
4	篠原町西前遺跡	西区篠原町	2019年4月18日	なし	110
5	山ノ花遺跡	東区恒武町	2019年4月18日	なし	111
6	増楽遺跡	南区増楽町	2019年4月22日	なし	111
7	伊場遺跡	中区東伊場二丁目・南区東若林町	2019年5月8日～17日	なし/土師器	111
8	宮竹野際遺跡	東区上西町	2019年5月9日	なし	111
9	大屋敷遺跡	浜北区宮口	2019年5月15日	なし	112
10	中屋遺跡	浜北区根堅	2019年5月15日	なし	112
11	恒武西宮遺跡	東区貴平町	2019年5月16日、6月3日	なし	112
12	将監名遺跡	東区神立町	2019年5月23日	なし	112
13	村裏遺跡	南区東若林町	2019年5月27日	なし	113
14	宮竹野際遺跡	東区宮竹町	2019年6月3日	なし	113
15	大通西遺跡	東区豊町	2019年6月5日	なし	113
16	国方遺跡	西区篠原町	2019年6月11日	なし	113
17	井村遺跡	南区若林町	2019年6月24日	なし	114
18	大畑貝塚	南区白羽町	2019年6月25日	なし	114
19	八反田遺跡	西区入野町	2019年6月28日	なし	114
20	村裏遺跡	南区東若林町	2019年7月2日	なし	114
21	天王遺跡	東区天王町	2019年7月2日	なし	115
22	橋爪遺跡	東区中郡町	2019年7月13日	なし	115
23	篠原町西前遺跡	西区篠原町	2019年7月29日	なし	115
24	大塚古墳群	中区住吉五丁目	2019年7月29日	なし	115
25	天王中野遺跡	東区原島町	2019年7月31日～8月2日	なし/陶器	116
26	増楽遺跡	南区増楽町	2019年8月2日	なし	116
27	笠井上組遺跡	東区笠井町	2019年8月2日	なし	116
28	城山遺跡	中区南伊場町	2019年8月2日	なし	116
29	殿畑遺跡	北区三ヶ日町	2019年8月5日	なし	117
30	増楽町村中遺跡	南区増楽町	2019年8月6日	なし	117
31	中屋遺跡	浜北区根堅	2019年8月20日	なし	117
32	井伊氏館跡	北区引佐町井伊谷	2019年8月23日	なし	117
33	笠井若林遺跡	東区笠井町	2019年8月30日	なし	118
34	若林町村西遺跡	南区若林町	2019年9月17日	なし	118
35	井伊氏館跡	北区引佐町	2019年9月25日～10月24日	なし	118
36	大屋敷遺跡	浜北区宮口	2019年9月30日	なし	118
37	芝本遺跡	浜北区於呂	2019年10月8日、11月8日	なし	119
38	椋木遺跡	東区子安町	2019年10月16日	なし	119
39	高塚町村東遺跡	南区高塚町	2019年10月23日	なし	119
40	浜松城跡	中区紺屋町・元城町	2019年10月25日	小穴/瓦片	119
41	浜松城跡	中区元城町	2019年10月28日	なし	120
42	長者平遺跡	西区雄略町	2019年10月31日	なし	120
43	鳥居松遺跡	中区森田町	2019年11月1日	なし	120
44	上新屋遺跡	東区上新屋町	2019年11月13日	なし	120
45	増楽遺跡	南区増楽町	2019年11月26日	なし	121
46	本屋敷遺跡	北区引佐町金指	2019年11月28日、12月3日	なし	121
47	日晩遺跡	南区高塚町	2019年11月29日	なし	121
48	恒武西宮遺跡	東区貴平町	2019年12月3日	なし	121
49	権現谷遺跡	中区和合町	2019年12月6日	なし	122
50	東若林遺跡	南区若林町	2019年12月9日	なし	122
51	畷東遺跡	中区森田町	2019年12月11日	なし	122
52	鳥居松遺跡	中区森田町	2019年12月19日、20日	なし	122
53	東畑屋遺跡	東区有玉南町	2019年12月19日～2020年1月16日	土坑/山茶碗、かわらけ	123
54	万斛西遺跡	東区中郡町	2019年12月23日	なし	123
55	落合遺跡	北区細江町気賀	2020年1月9日、20日	なし/土師器小片	123
56	将監名遺跡7次	東区将監町	2020年1月14日～2月14日	土坑/弥生土器（中期・後期）	123
57	国方遺跡	西区篠原町	2020年1月27日	なし	127
58	笠井下組遺跡	東区笠井町	2020年1月29日	なし/須恵器・土師器（表採）	127
59	増楽町村中遺跡	南区増楽町	2020年1月29日、2月14日	なし	127
60	東若林遺跡	南区東若林町	2020年1月30日	なし	128
61	大屋敷遺跡	浜北区宮口	2020年2月3日	落ち込み2ヶ所/なし	128
62	柳ノ内遺跡	西区馬郡町	2020年2月3日	なし	128
63	中屋遺跡	浜北区根堅	2020年2月10日	なし	128
64	笠井若林遺跡	東区笠井町	2020年2月10日	なし/土師器	129
65	浜松城跡	中区元城町	2020年2月12日、13日	なし	129
66	井通遺跡	北区細江町	2020年2月12日、13日	なし	129
67	寺西遺跡	南区飯田町	2020年2月13日	なし	129
68	笠井上組遺跡	東区笠井町	2020年2月14日	なし	130
69	中脇遺跡	西区志都呂町	2020年2月18日	なし	130
70	増楽遺跡	南区若林町	2020年2月25日	なし	130
71	入野町村前遺跡	西区入野町	2020年2月25日	なし	130
72	宮東遺跡	浜北区寺島	2020年2月26日	なし	131
73	国方遺跡	西区篠原町	2020年3月5日	なし	131
74	浜松城跡	中区元城町	2020年3月9日	なし	131
75	恒武西宮遺跡	東区恒武町	2020年3月11日、17日、27日	なし/土師器、近世陶器	131
76	西脇貝塚	南区白羽町	2020年3月26日	なし	132
77	半田山CDEF古墳群	東区半田山一丁目	2020年3月31日	なし	132

第2章 本発掘調査概要

1 梶子遺跡23次（かじこいせき）

所在地 中区西伊場町
調査期間 2019年6月～2020年3月
調査原因 宅地造成に伴う道路建設工事
作業内容 資料整理・報告書刊行作業
調査概要 平成30年度に現地調査を行った23次調査の遺構・遺物について整理作業を実施した。

古代の自然流路である伊場大溝から出土した木簡（「筆墨納櫃」と墨書された箱の蓋）や、「主政川前」と記された墨書土器など古代敷智郡家に関わる資料のほか、大溝形成前の下層からは弥生時代中期の土器や高杯、鍬や鋤、梯子、タモなどの木製品等が多数出土した。
※詳細は『梶子遺跡23次』（2020年3月刊行）に掲載。



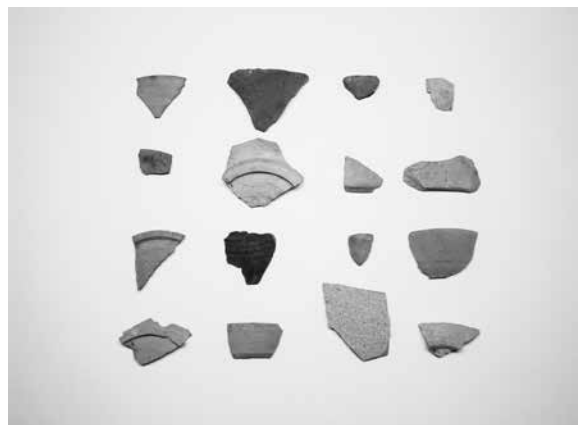
墨書土器『主政川前』



木簡「筆墨納櫃」

2 高塚町村西遺跡8次 （たかつかちょうむらにしいせき）

所在地 南区高塚町
調査期間 2019年3月13日～2019年12月
調査原因 集合住宅建設
作業内容 資料整理・報告書刊行作業
調査概要 平成30年度に現地調査を行った8次調査区の遺構・遺物について整理作業を実施した。奈良時代の須恵器・土師器、鎌倉時代の山茶碗などが出土した。※詳細は『高塚町村西遺跡』（2019年12月刊行）に掲載。



主な出土遺物

3 城山遺跡16次 (しろやまいせき)

所在地 中区南伊場町、南区若林町

調査期間 2019年5月7日～27日、10月18日

調査原因 寄宿舎建設 **調査面積** 380 m²

調査概要 小穴を中心とした多くの遺構を確認した。遺物は、7～8世紀代のものが中心を占めるが、平安時代～江戸時代の遺物も少量ながら出土した。調査区内の地形は、調査区の東から西に向かって舌状に張り出した地形であり、当該地は集落の縁辺部にあたると考えられる。

※詳細は『城山遺跡 10 -16 次調査の成果-』(2020年3月刊行)に掲載。



調査区全景 (南西から)



位置図 (2,500分の1)



主な出土遺物

4 浜松城下町遺跡11次 (はままつじょうかまちいせき)

所在地 中区塩町、旅籠町、伝馬町

調査期間 2019年7月2日～2019年11月7日

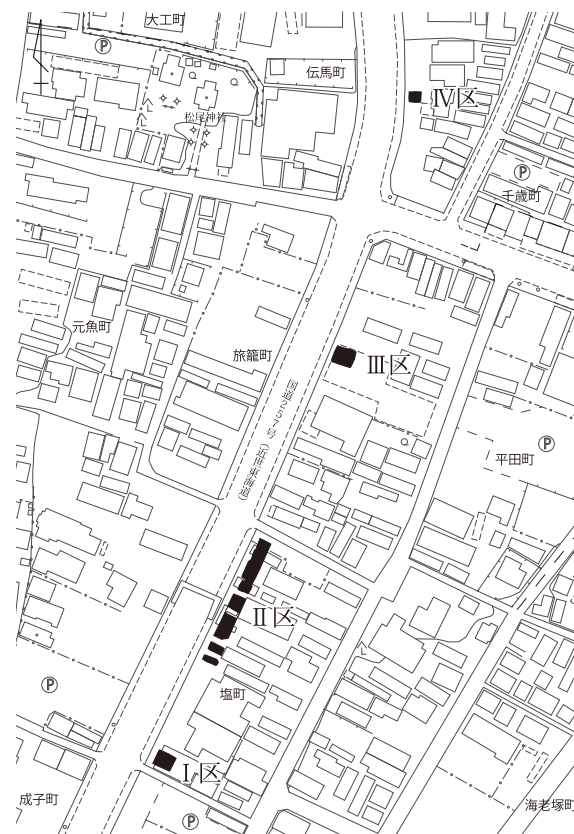
調査原因 国道257号改良工事

調査面積 380.7 m²

調査概要 近世東海道沿いにおいて確認調査で遺構・遺物が確認された部分について、Ⅰ～Ⅳ区に分割して本発掘調査を実施した。

調査の結果、Ⅰ～Ⅱ区を中心として、鎌倉～江戸時代の井戸や溝、土坑、柱穴とみられる小穴を検出した。また、Ⅳ区では土師器を一括廃棄したとみられる江戸時代の集積遺構も確認した。遺物は、近世の陶磁器・土師器に加え、銅銭や煙管、鉄滓なども出土した。また、鎌倉時代の山茶碗や渥美産陶器、戦国時代の陶器や土師器も確認された。特に16世紀後葉の当地の地方窯である初山窯(北区細江町中川)製品が多くみられ、城下町の形成過程を知る上で興味深い成果がみられた。

※詳細は『浜松城下町遺跡 2』(2020年3月刊行)に掲載。



位置図 (3,000分の1)



調査区（Ⅱa区）全景（南西から）



I区西壁断面土層堆積状況（東から）



I区SE01断面（西から）



Ⅱc区南部 SP157遺物出土状況（北東から）



城下町形成期の主な出土遺物



Ⅳ区Ⅲ-4層土器集積状況（東から）



近世城下町の主な出土遺物

5 浜松城跡27次（はまつじょうあと）

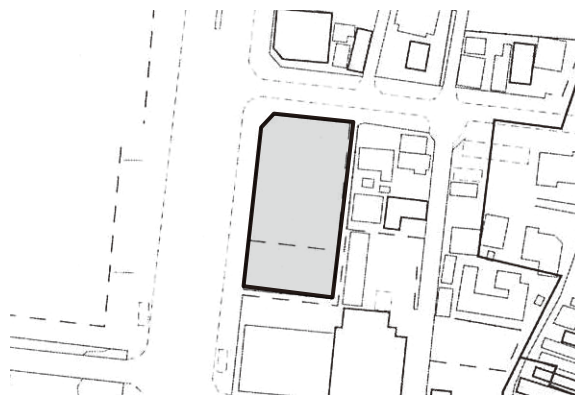
所在地 中区元城町

調査期間 2019年7月16日～2020年3月19日

調査原因 本店新築

調査面積 1,700 m²

調査概要 調査対象地の北と西側で堀跡を確認した。堀の埋土からは、15世紀後半～16世紀後半を中心とした遺物が多数確認され、引間城に係る遺構の可能性が想定される。その他にも、溝、井戸及び礎石と考えられる石材を含む小穴等が確認された。※詳細は2022年3月に報告書刊行予定。



位置図（2,500分の1）



北側の堀跡（東から）



西側の堀跡（北から）



SD04遺物出土状況



主な出土遺物

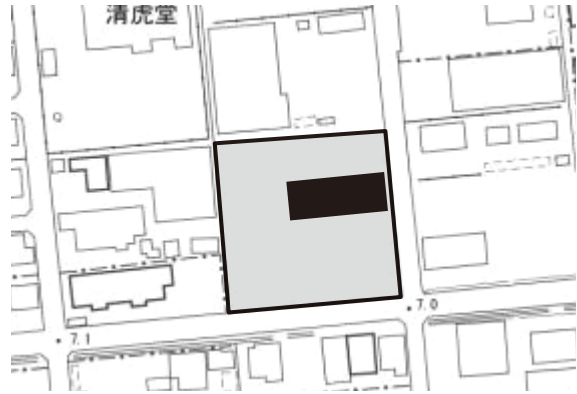
6 上新屋遺跡5次（かみあらやいせき）

所在地 東区上新屋町

調査期間 2019年9月3日～9月19日

調査原因 公道移管 **調査面積** 150 m²

調査概要 古墳時代後期～奈良時代の竪穴住居跡、溝、土坑、小穴等を検出し、須恵器・土師器・管状土錘が出土した。特筆すべき点としては、本遺跡で初めて竪穴住居跡が確認されたこと、遺跡範囲の東端と考えられていた地点で遺構・遺物が確認されたことが挙げられる。※詳細は『上新屋遺跡2』（2020年3月刊行）に掲載。



位置図（2,500分の1）



調査区全景（北東から）



SB01（南西から）

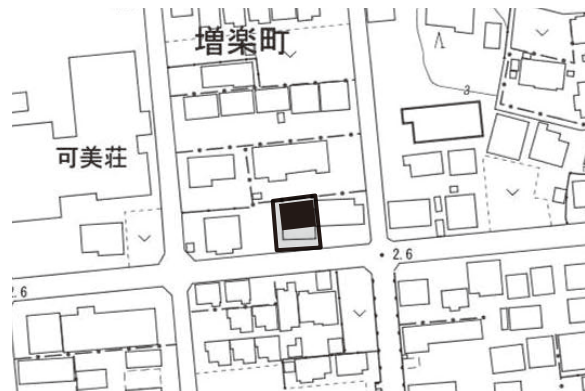
7 増楽遺跡12次（ぞうらいせき）

所在地 南区増楽町

調査期間 2019年10月1日、10月2日

調査原因 個人住宅建設 **調査面積** 63 m²

調査概要 奈良時代を中心とした土坑8基、溝4条を検出した。出土遺物は、奈良時代の須恵器と土師器が中心を占めるが、古墳時代に遡る須恵器や灰釉陶器、かわらけ等も含まれ、多岐に渡り遺跡が営まれていたと考えられる。※詳細は第4章1（133頁）に掲載。



位置図（2,500分の1）



調査区東部（北西から）



主な出土遺物

8 南屋敷遺跡 2 次（みなみやしきいせき）

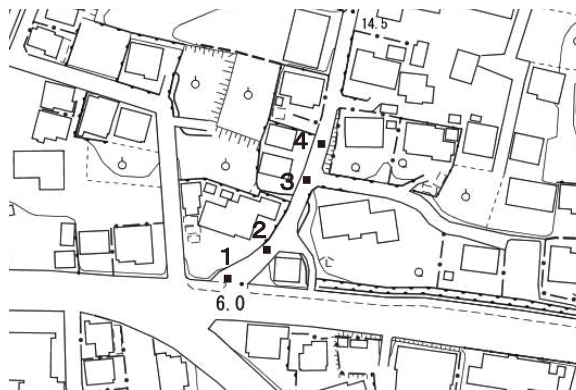
所在地 北区細江町

調査期間 2019年10月16日、21日、26日、30日

調査原因 下水道管理設

調査面積 16 m²

調査概要 南屋敷遺跡は、洪積層の丘陵上に立地し、5世紀代の土師器が採集された遺跡である。丘陵末端の谷から丘陵上に登る道路の、下水道のマンホールを設置する4か所を調査した。調査区2で古墳時代中期の土師器が出土したが、遺構はどの調査区も確認できなかった。まず丘陵裾（谷の入口）に位置する調査区1は、遺跡の範囲外と考えられる。次に調査区2は、尾根末端の南向きの急斜面で、出土した遺物は、丘陵上の遺跡から転落し堆積したものと思われる。丘陵上の調査区3と4は、地形的には遺跡の範囲と認識できるが、後世の攪乱を受けたか、遺構、遺物の希薄な地点と思われる。

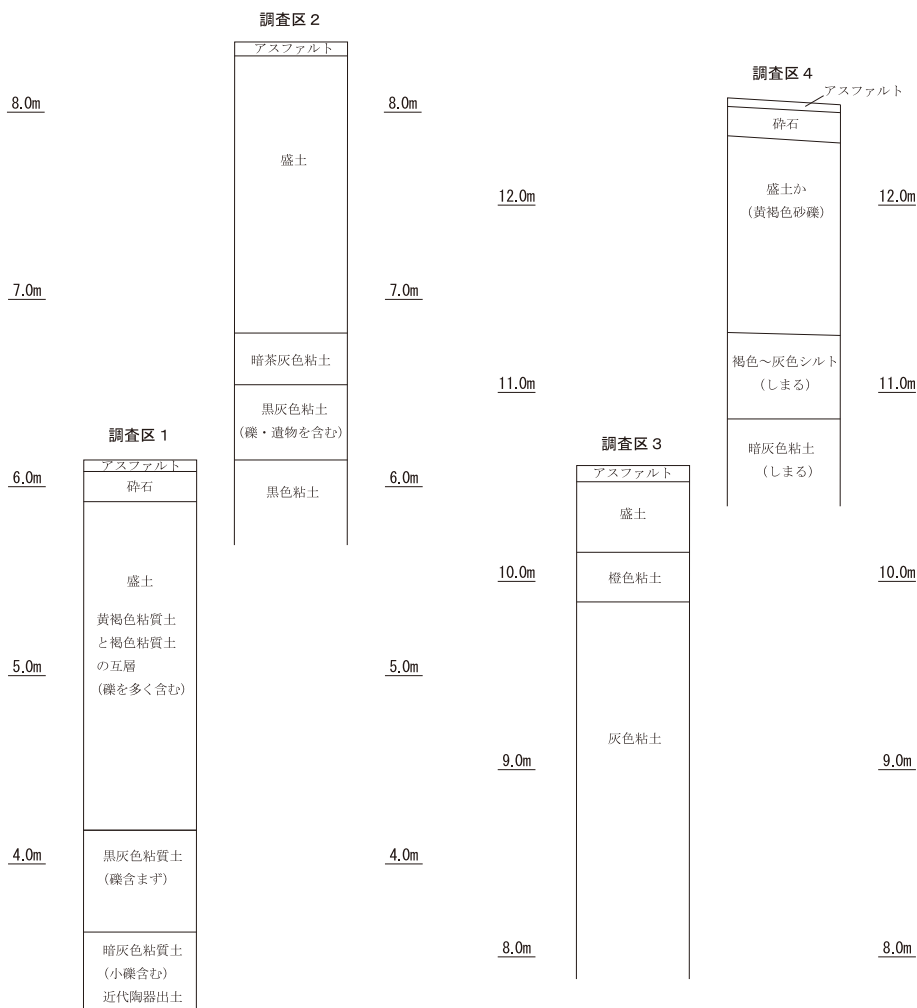


位置図 (2, 500分の1)



1: 土師器 (甕)

出土遺物実測図 (S=1/4)



土層柱状図 (S=1/40)

9 柳ノ内遺跡 5 次（やなぎのうちにせき）

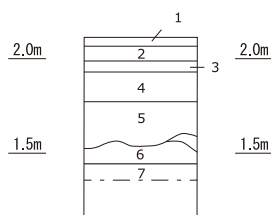
所在地 西区坪井町

調査期間 2019 年 10 月 31 日

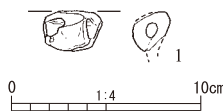
調査原因 防火水槽設置

調査面積 1.3 m²

調査概要 遺物は 4 層、耕作土から内耳鍋の小片が一点出土したのみで、遺構は検出せず、遺構、遺物の希薄な地点と判断する。今回の調査地点は、6 層の層相から安定した地盤ではなかったとみられ、200 m 西の 3 次調査地点同様「湿地帯であった」と想定される。遺物は、標高の高い南側の遺跡範囲からの流れ込みと思われる。



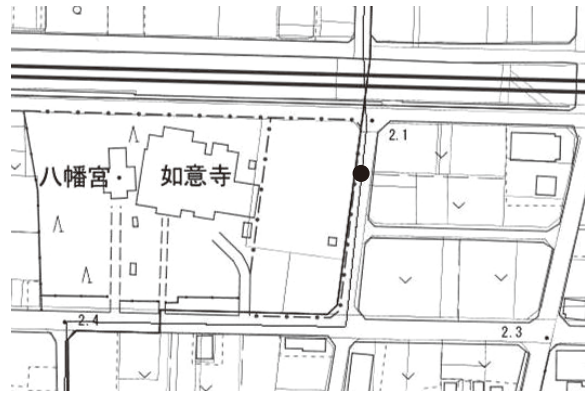
- 1 アスファルト舗装
- 2 路盤の碎石
- 3 黄色土（盛土）
- 4 褐色砂泥（耕作土）
- 5 暗褐色砂
- 6 黒褐色砂に灰色砂や褐色砂が波を描いて縞状に混入する
- 7 褐色砂泥（基盤層）



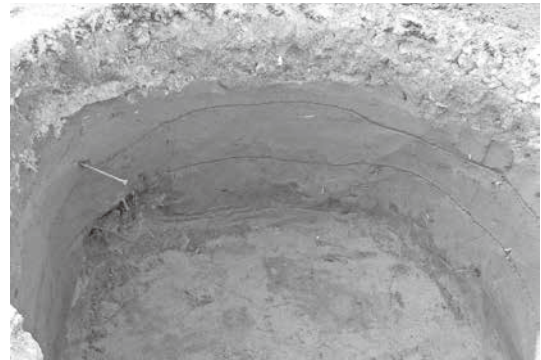
1: 土師器（鍋）

土層柱状図 (S=1/40)

出土遺物実測図 (S=1/4)



位置図 (2, 500分の1)



調査区完掘状況

10 別所前遺跡 4 次（べっしょまえいせき）

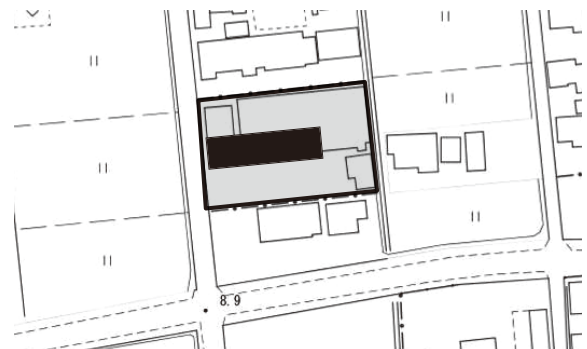
所在地 東区市野町 2215 番 1

調査期間 2019 年 11 月 5 日～20 日

調査原因 公道移管

調査面積 198 m²

調査概要 弥生時代後期と考えられる遺構を数多く検出した。出土遺物は、弥生時代後期の土器に加えて、銅鏃を 1 点確認した。※詳細は『別所前遺跡』（2020 年 7 月刊行）に掲載。



位置図 (2, 500分の1)



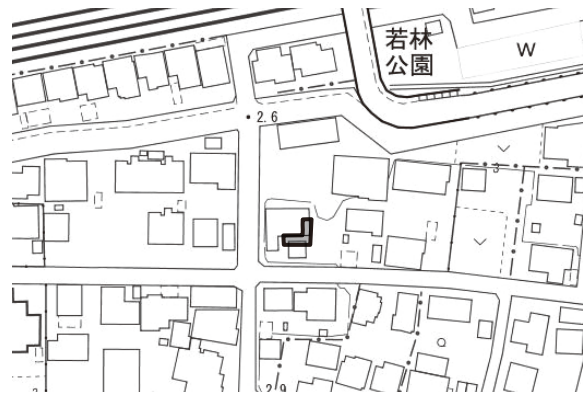
調査区全景（北東から）



SD02出土状況

11 若林町村西遺跡15次 (わかばやしちょうむらにしいせき)

所在地 南区若林町
調査期間 2019年12月12日、13日
調査原因 個人住宅建設
調査面積 13 m²
調査概要 後世の攪乱の影響を受けていたものの、奈良時代と考えられる小穴3基、土坑4基、溝2条を検出し、同時期の須恵器と土師器を確認した。
 ※詳細は第4章2(137頁)に掲載。



位置図 (2,500分の1)



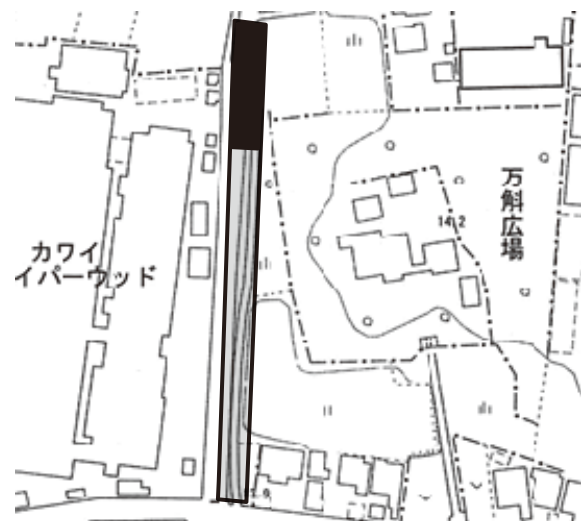
調査区東部(南から)



主な出土遺物

12 万斛西遺跡7次(まんごくにししいせき)

所在地 東区中郡町
調査期間 2020年1月20日～22日
調査原因 道路拡幅工事
調査面積 38 m²
調査概要 調査区は近世の庄屋屋敷である鈴木家屋敷跡の北西隅部に位置する。主な調査成果として、既往の調査で確認されていた奈良時代の遺構の広がり把握できたこと、土師器皿を意図的に埋めた鎌倉時代の祭祀的な遺構の確認、江戸時代の屋敷を区画する溝の検出などが挙げられる。
 ※詳細は今後発刊予定の報告書に掲載予定。



位置図 (2,500分の1)



調査区全景(南から)



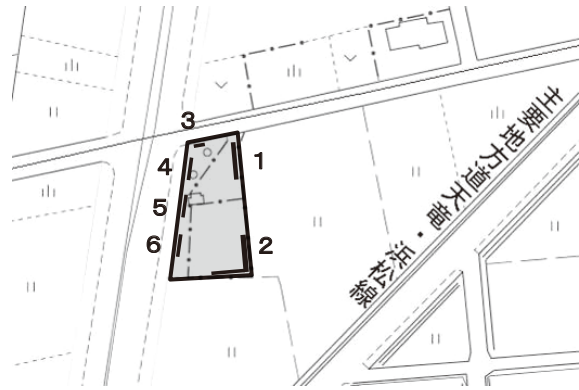
鎌倉時代の小穴 遺物出土状況

第3章 試掘・確認・立会等調査報告

試掘・確認調査報告

1 恒武西宮遺跡26次（つねたけにしみやいせき）

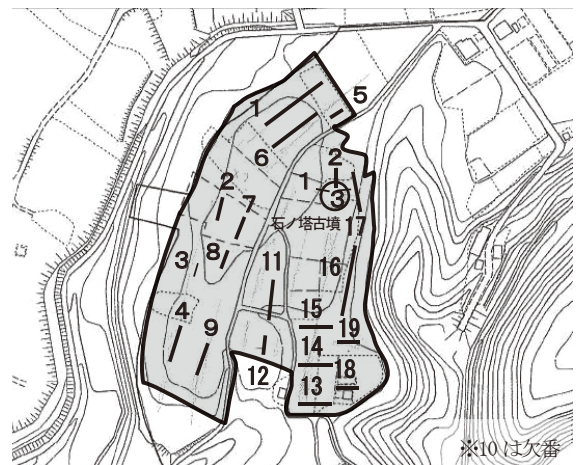
所在地 東区貴平町字柳橋 1756-2 外
調査期間 2019年4月8日～11日
調査原因 墓地増設
調査面積 53 m²
検出遺構 溝・土坑
出土遺物 須恵器、土師器、勾玉形石製品、砥石
調査結果 一定量の遺構・遺物が検出された。
 当該地は遺跡の端部ではあるが、北東部に古墳時代後期を主体とする遺構・遺物が存在すると考えられる。
 ※詳細は第4章3（141頁）に掲載。
調査担当 鈴木京太郎



位置図（2,500分の1）

2 小伊左地平Ⅰ遺跡1次・石ノ塔古墳1次 （こいさぢひらいちいせき・いしのとうこふん）

所在地 浜松市西区伊左地町 7901 外
調査期間 2019年4月15日、16日、5月20日、5月22日～27日
調査原因 土砂採取 **調査面積** 734 m²
検出遺構 古墳（横穴式石室天井石残存）
出土遺物 なし
調査結果 石ノ塔古墳は、周溝下から高さ2.8mの墳丘が残存する直径約13mの円墳であることが明らかになった。特定できる遺物はないが7世紀以降のものと捉えられる。
 ※2021年報告書刊行予定。
調査担当 和田達也



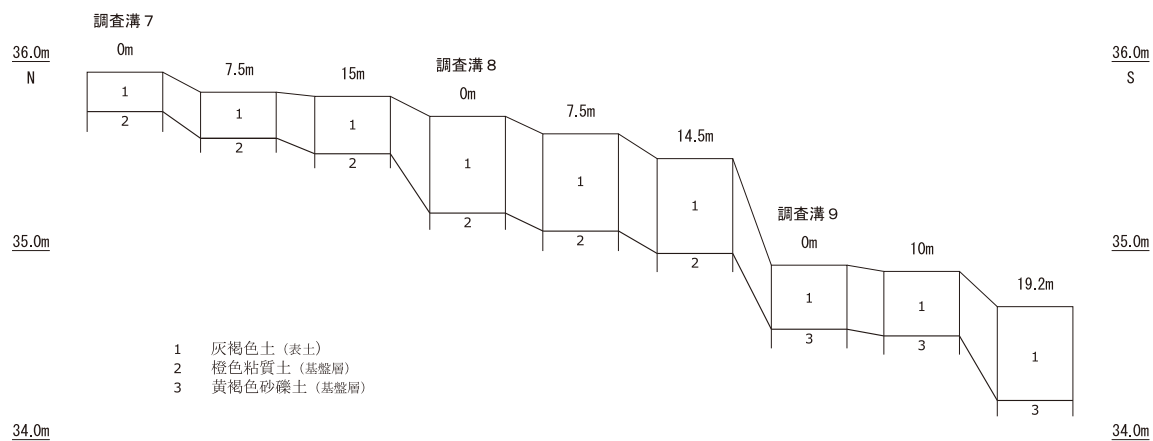
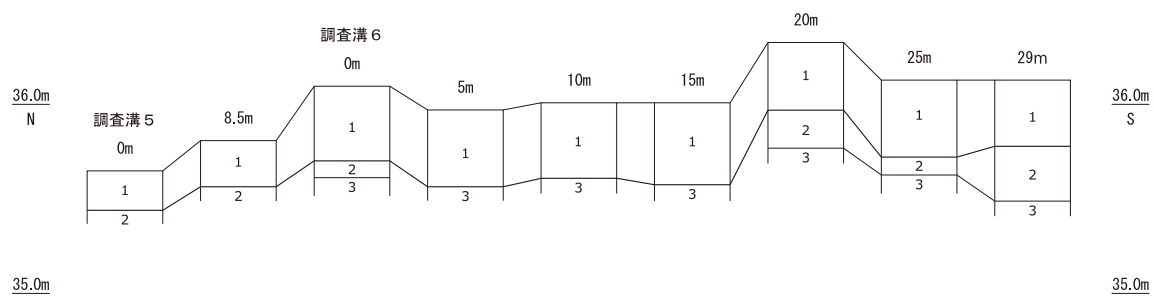
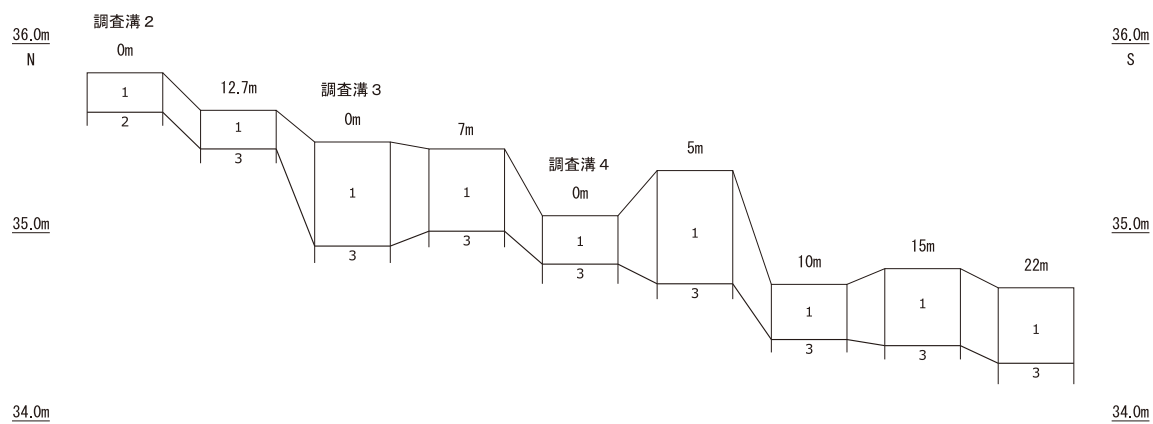
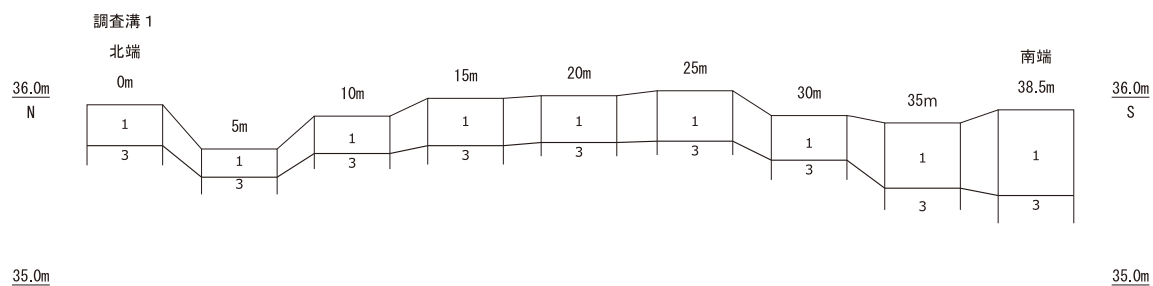
位置図（2,500分の1）



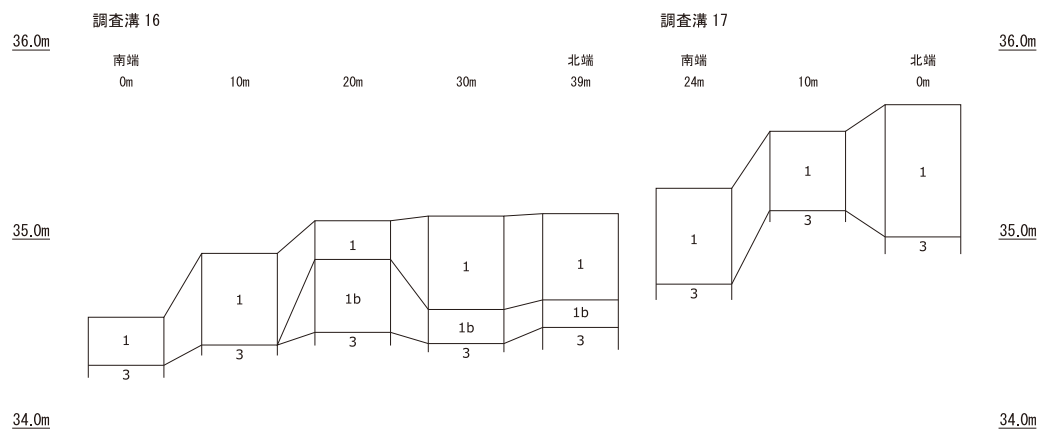
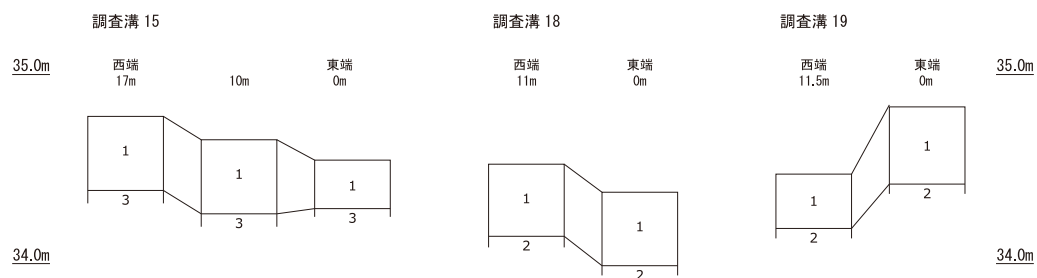
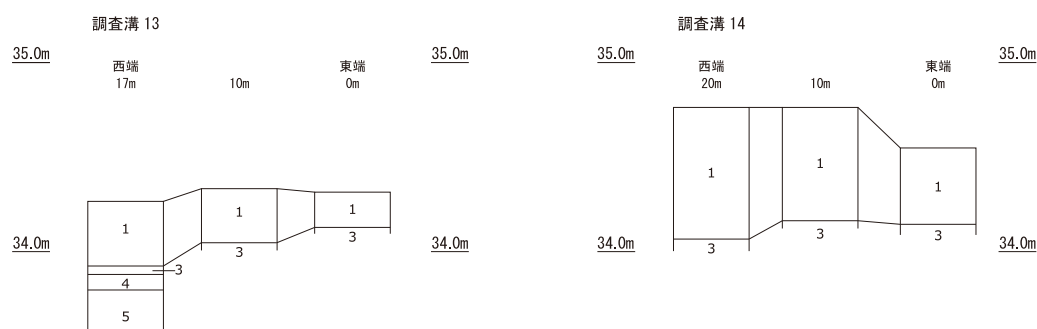
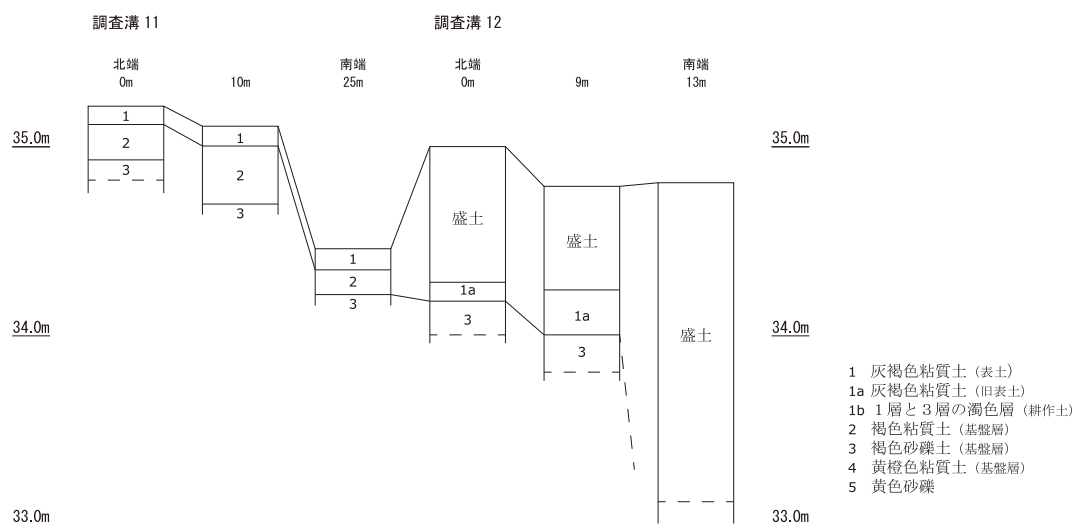
石ノ塔古墳調査溝2北半調査状況



石ノ塔古墳天井石検出状況



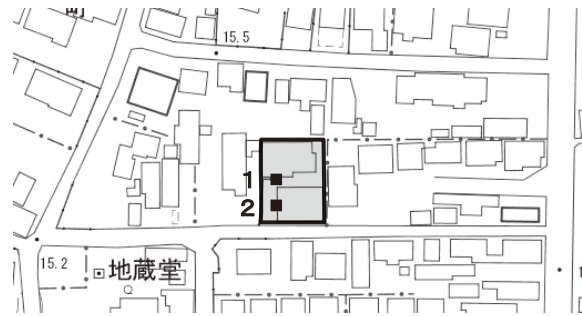
土層柱状図 (S=1/40)



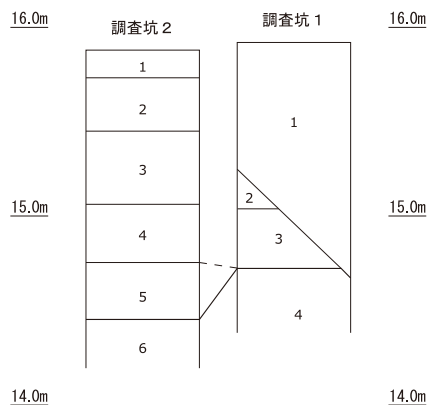
土層柱状図 (S=1/40)

3 笠井中組遺跡5次（かさいなかぐみいせき）

所在地 東区笠井町 272-5 外
 調査期間 2019 年 4 月 23 日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 8 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。
 調査担当 栗原雅也



位置図 (2, 500分の1)



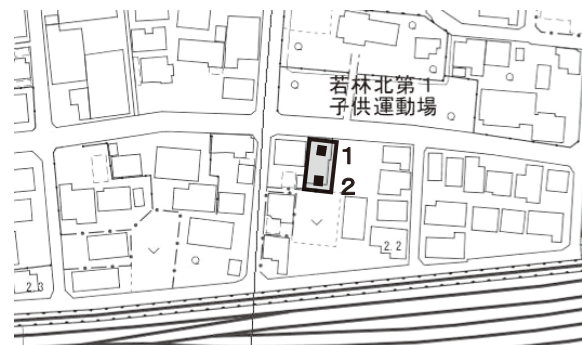
調査坑 1
 1 攪乱層
 2 黄褐色砂泥
 3 灰褐色砂泥
 4 黄褐色砂 (上面) 灰色砂 (下部) (基盤層)

調査坑 2
 1 表土
 2 暗茶褐色砂質土 (整地層)
 3 黒褐色砂質土 (整地層)
 4 茶褐色砂質土 (径3cm～5cmの小礫を含む)
 5 暗茶灰色砂
 6 灰色砂 (基盤層)

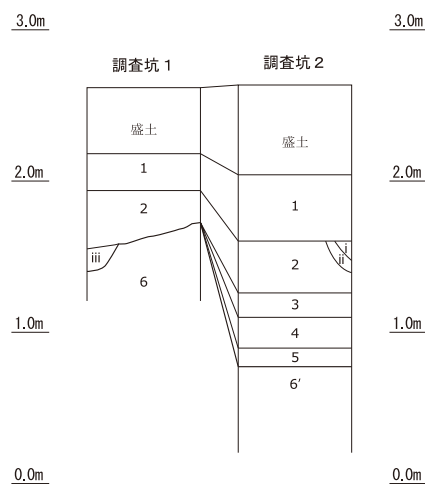
土層柱状図 (S=1/40)

4 増楽遺跡10次（ぞうらいせき）

所在地 南区若林町 1702-2
 調査期間 2019 年 4 月 25 日
 調査原因 個人住宅建設 調査面積 16m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 須恵器・土師器・灰釉陶器・土師質土器
 調査結果 調査坑 2 周辺において古代～中世の遺物包含層が残存していることが判明した。
 調査担当 鈴木京太郎



位置図 (2, 500分の1)



1 暗灰褐色砂質土 (旧表土)
 2 灰褐色砂質土 (近代)
 3 暗灰褐色シルト (古代～中世包含層)
 4 黒色粘土 (未分解植物多含)
 5 暗灰色粘土
 6 褐灰色細砂 (基盤層)
 6' 青灰色微砂 (基盤層)
 i 緑灰色砂
 ii 暗褐色シルト
 iii 暗褐色砂

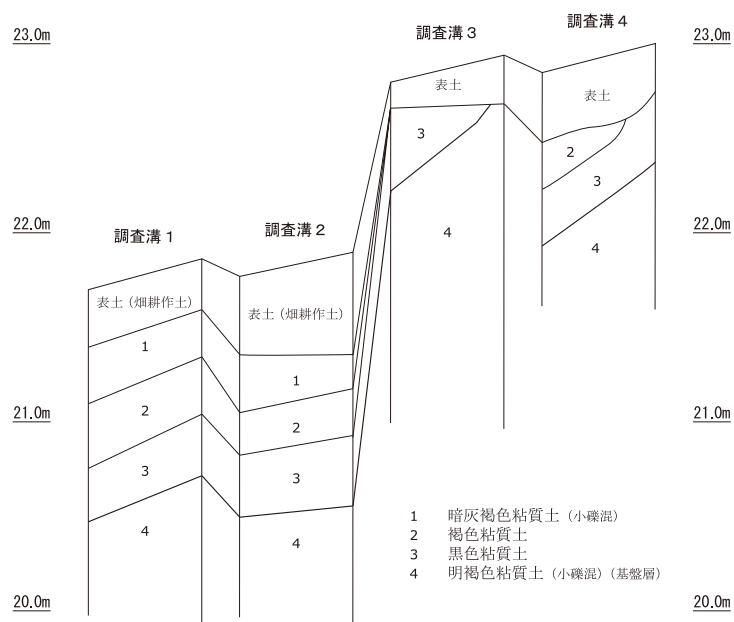
土層柱状図 (S=1/50)

5 北岡遺跡1次（きたおかいせき）

所在地 北区引佐町井伊谷字北岡 4061-3
 調査期間 2019年5月14日、15日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 16 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 土師器片、陶器片
 調査結果 遺構は検出されず、遺物は極めて微量で表土からの出土であることから遺跡の北端部の遺構・遺物が希薄な地点と判断される。
 調査担当 鈴木京太郎



位置図（2,500分の1）



土層柱状図（S=1/40）



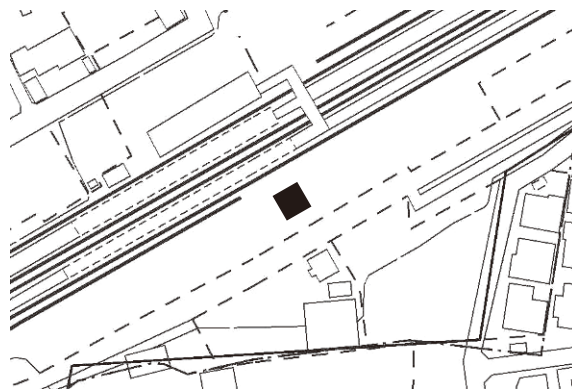
調査溝2 土層堆積状況



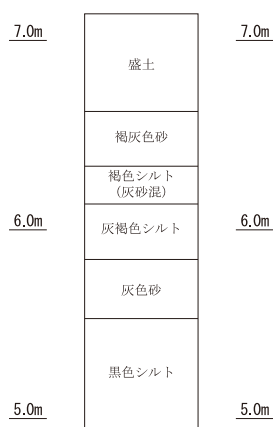
出土遺物

6 松東遺跡（隣接地）9次 （まつひがしいせきりんせつち）

所在地 東区天龍川町地内
調査期間 2019年5月20日
調査原因 天竜川駅南口整備事業
調査面積 4 m²
検出遺構 なし
出土遺物 なし
調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。
遺跡の範囲外と考えられる。
調査担当 鈴木京太郎



位置図（2,500分の1）



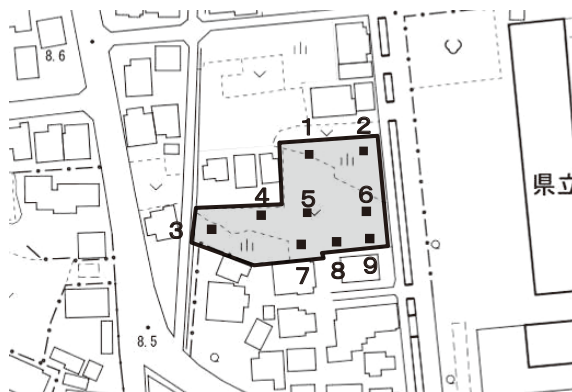
土層柱状図（S=1/40）



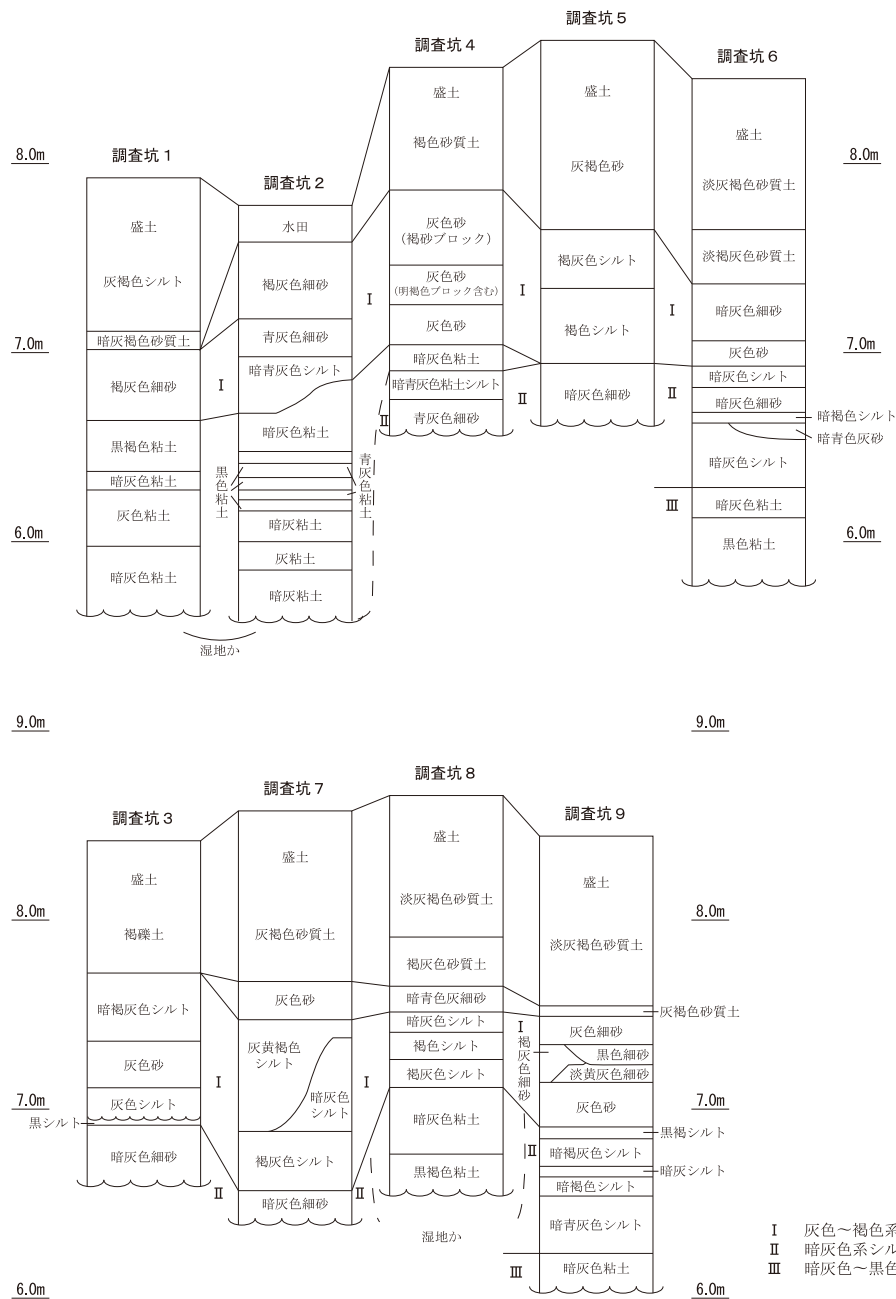
調査坑土層堆積状況

7 箕輪遺跡6次（みのわいせき）

所在地 東区小池町2500-1外
調査期間 2019年6月3日
調査原因 宅地分譲
調査面積 36 m²
検出遺構 なし
出土遺物 なし
調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。
遺跡の範囲外と考えられる。
調査担当 鈴木京太郎



位置図（2,500分の1）



土層柱状図 (S=1/40)



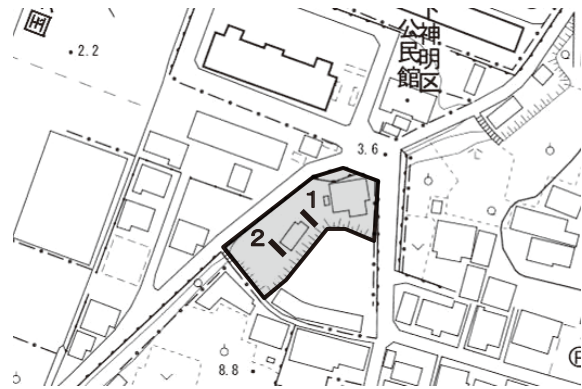
調査坑 7 完掘状況



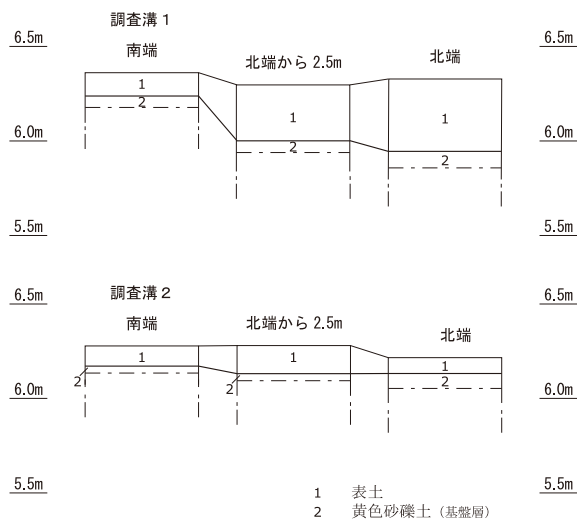
調査坑 9 土層堆積状況

8 殿畑遺跡3次（とのばたいせき）

所在地 北区三ヶ日町三ヶ日 248
 調査期間 2019年6月6日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 5 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 現況地形及び土地所有者の証言から、当該地は現代の大幅な改変により、すでに遺跡は消滅したと判断できる。
 調査担当 川西啓喜



位置図 (2,500分の1)



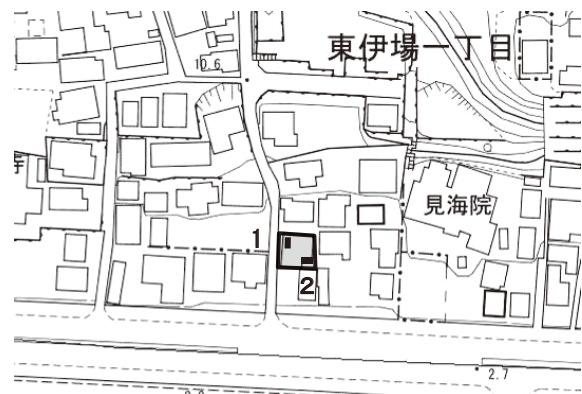
土層柱状図 (S=1/40)



調査溝1完掘状況

9 中村遺跡8次（なかむらいせき）

所在地 中区東伊場一丁目 4417-10 外
 調査期間 2019年6月10日
 調査原因 個人住宅建設 調査面積 9 m²
 検出遺構 溝（方形周溝墓か）
 出土遺物 土師質土器
 調査結果 遺構や遺物が確認できた。対象地内には弥生時代から中世にかけての遺跡が展開したと捉えられる。
 調査担当 和田達也



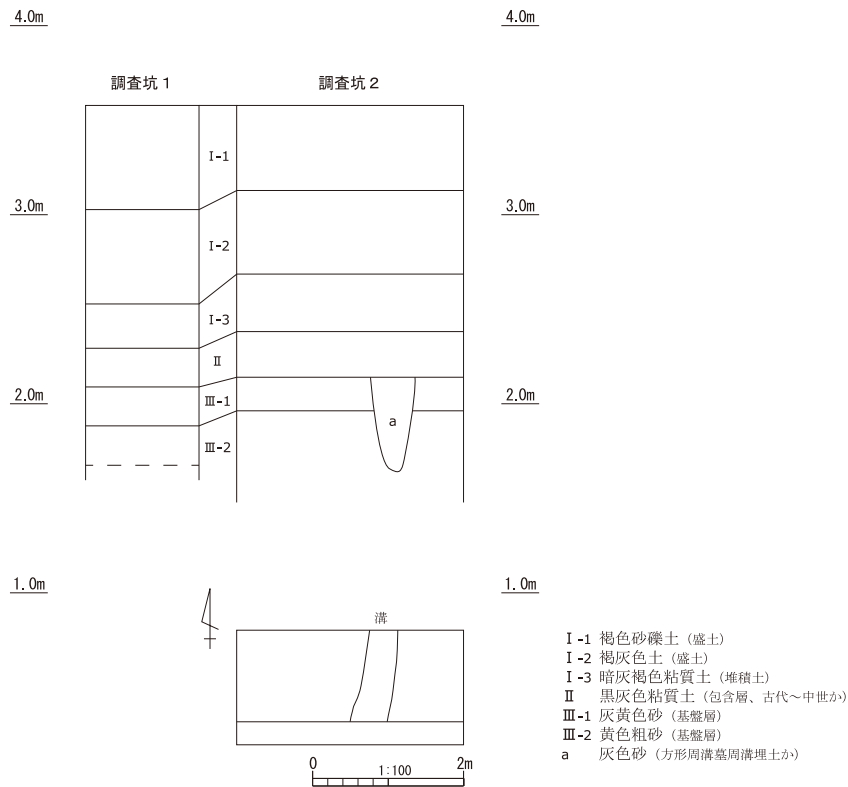
位置図 (2,500分の1)



調査坑2遺構検出状況



出土遺物



土層柱状図（S=1/40）及び平面図（S=1/100）

10 浜松城跡28次（はまつじょうあと）

所在地 中区元城町 111-3、111-4
 調査期間 2019 年 6 月 12 日
 調査原因 事務所建設
 調査面積 25 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。
 調査担当 和田達也



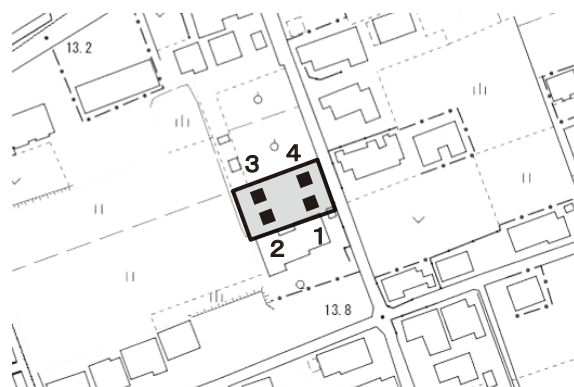
調査溝 1-1 土層堆積状況



調査溝 2 土層堆積状況



所在地	東区笠井町字若林 1585
調査期間	2019 年 6 月 17 日
調査原因	個人住宅建設
調査面積	16 m ²
検出遺構	なし 出土遺物 土師器
調査結果	当該地は遺跡の範囲から外れる低地に位置する可能性が高い。
調査担当	鈴木京太郎

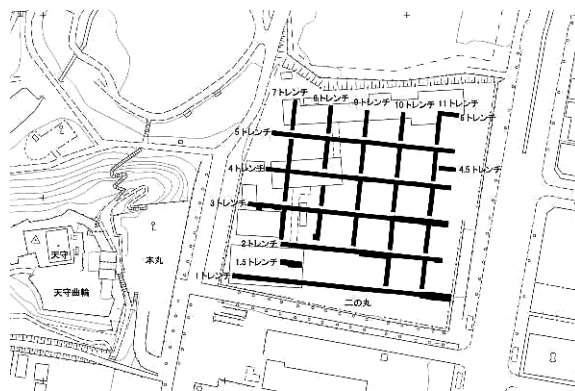


位置図 (2, 500分の1)



12 浜松城跡26次（はまつじょうあと）

所在地 中区元城町地内
 調査期間 2019年6月20日～2020年3月19日
 調査原因 確認調査 調査面積 2,000 m²
 検出遺構 石垣、堀跡、瓦溜り、礎石
 出土遺物 瓦、陶磁器、土師質土器
 調査結果 本丸、御誕生場、二の丸の構造が復元できる調査成果が得られた。浜松城にかかわる痕跡が残存していることを確認した。※詳細は『浜松城跡26次調査の概要』（2020年3月刊行）に掲載。
 調査担当 和田達也



位置図 (2,500分の1)



調査地全景



5 トレンチ瓦出土状況



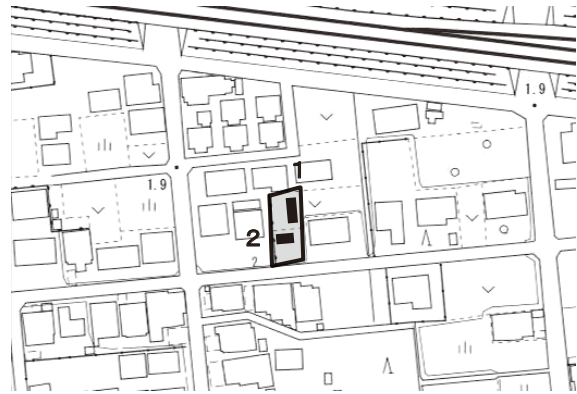
二の丸礎石検出状況



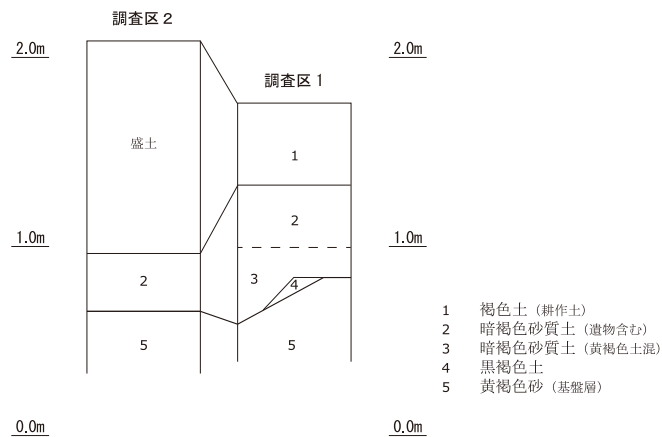
主な出土遺物

13 日晩遺跡13次（ひばんいせき）

所在地 南区増楽町 1683、1686
 調査期間 2019 年 6 月 25 日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 7 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 土師質土器片
 調査結果 当該地は遺跡の範囲外である可能性が高い。
 調査担当 栗原雅也



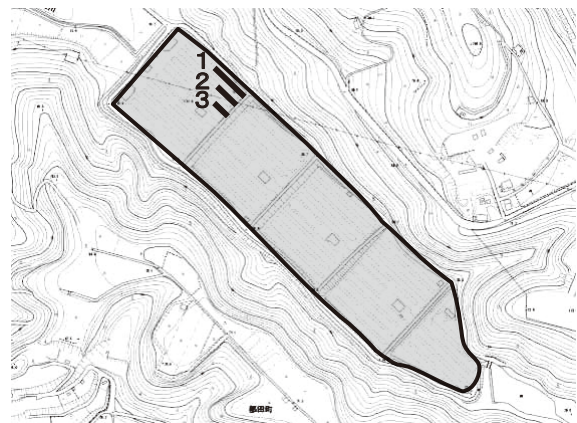
位置図（2,500分の1）



土層柱状図（S=1/40）

14 鴨ヶ谷古墳群 1 次・鴨ヶ谷古窯跡 1 次 （かもがやこふぐん・かもがやこようあと）

所在地 北区都田町字鴨ヶ谷 1700-1 外
 調査期間 2019 年 6 月 28 日
 調査原因 太陽光発電施設建設
 調査面積 46 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 対象地に存在したとされる古墳及び窯跡は、過去の造成によって削平されており、現存していないと考えられる。
 調査担当 鈴木京太郎



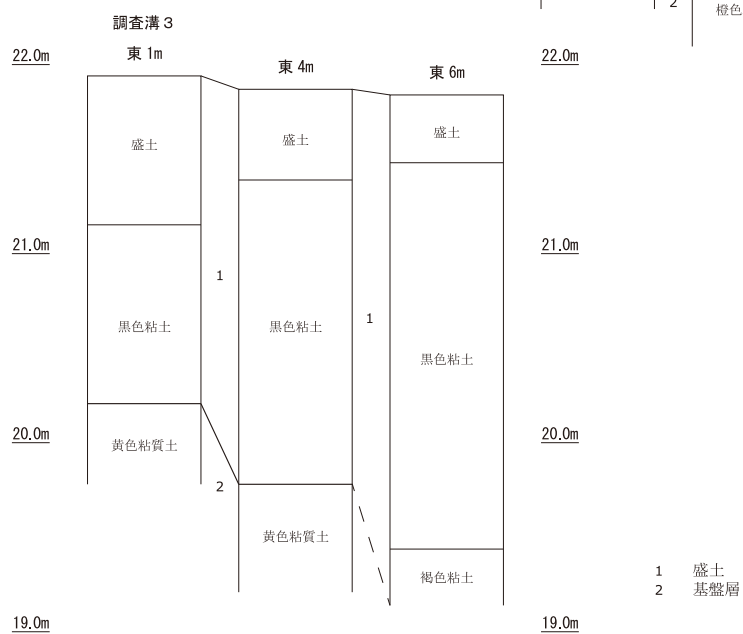
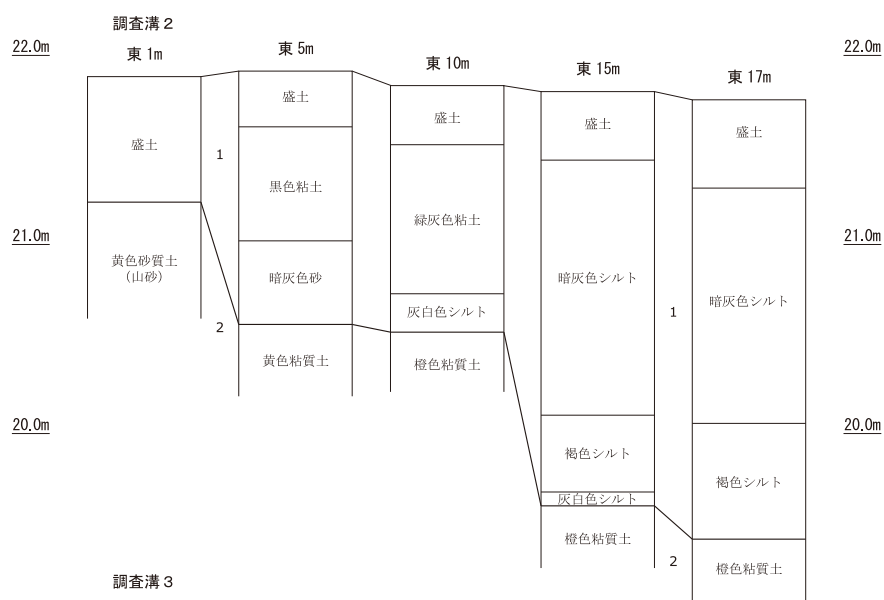
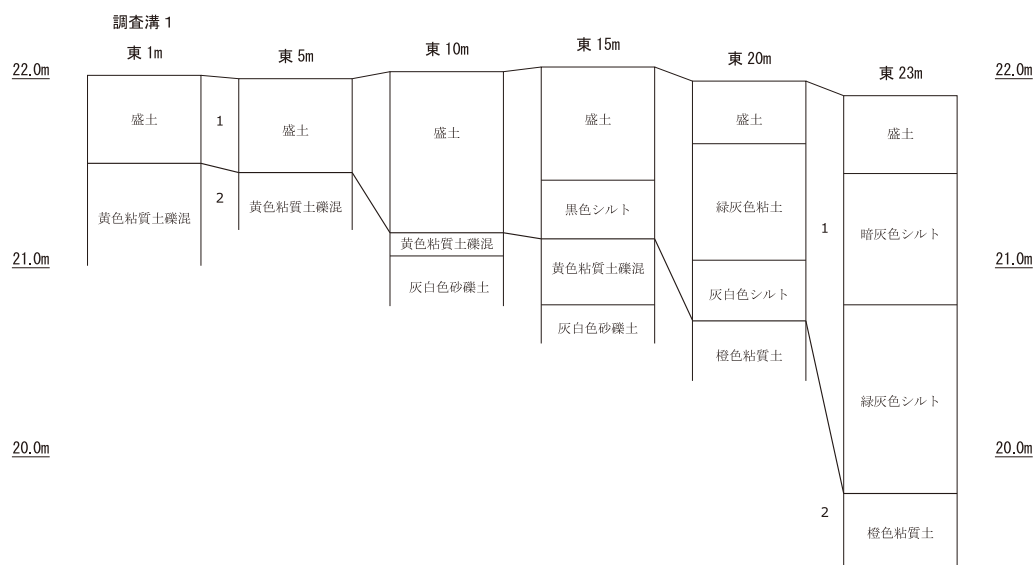
位置図（10,000分の1）



調査溝 1 完掘状況



調査溝 2 完掘状況



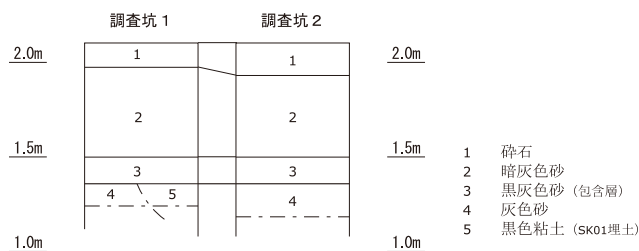
土層柱状図 (S=1/40)

15 村裏遺跡9次（むらうらいせき）

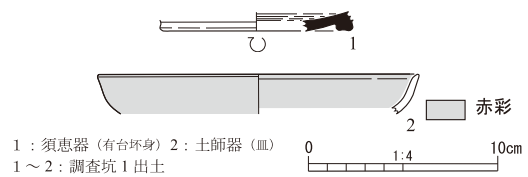
所在地 南区東若林町 666
 調査期間 2019 年 7 月 2 日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 7 m²
 検出遺構 土坑
 出土遺物 須恵器、土師器、山茶碗
 調査結果 当該地は遺跡の範囲内にあたり、古代から中世にかけての遺跡が良好に残存していると考えられる。
 調査担当 川西啓喜



位置図 (2, 500分の1)



土層柱状図 (S=1/40) 及び調査坑1平面図 (S=1/80)



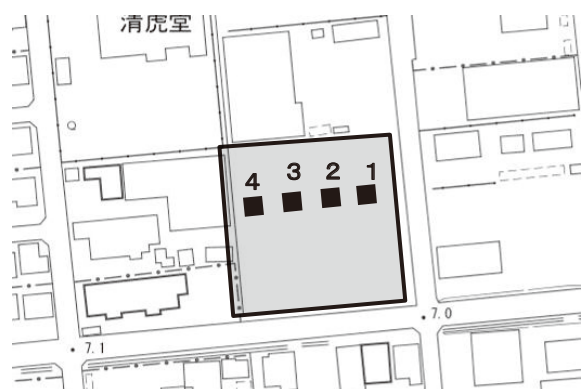
出土遺物実測図 (S=1/4)



調査坑1 遺構検出状況

16 上新屋遺跡4次（かみあらやいせき）

所在地 東区上新屋町字高川 145 外
 調査期間 2019 年 7 月 4 日
 調査原因 宅地造成
 調査面積 16 m²
 検出遺構 土坑
 出土遺物 土師器、須恵器、灰釉陶器
 調査結果 包含層及び遺構が確認されたことから、遺跡の範囲内であり、かつ遺跡の範囲はさらに東へ延びる可能性がある。
 ※詳細は『上新屋遺跡2』（2020 年 3 月刊行）に掲載。
 調査担当 川西啓喜



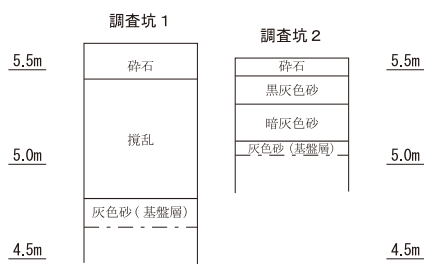
位置図 (2, 500分の1)

17 篠原町本村遺跡 2 次 (しのはらちょうほんむらいせき)

所在地 西区篠原町字本村 3789
 調査期間 2019 年 7 月 17 日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 5 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。
 遺跡の範囲外の可能性も考えられる。
 調査担当 川西啓喜



位置図 (2, 500分の1)



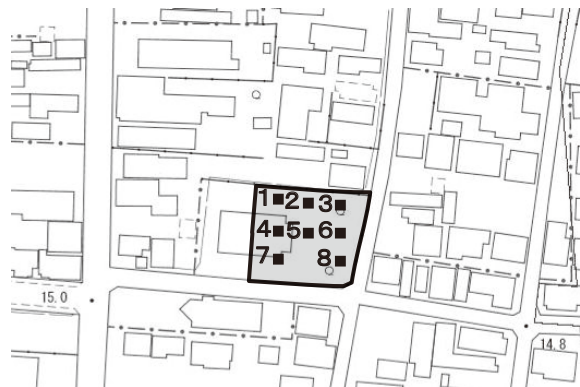
土層柱状図 (S=1/40)



調査坑 2 土層堆積状況

18 笠井下組遺跡 7 次 (かさいしもぐみいせき)

所在地 東区笠井町 69-1、71-1
 調査期間 2019 年 8 月 5 日
 調査原因 宅地造成
 調査面積 32 m²
 検出遺構 土坑
 出土遺物 須恵器、土師器、灰釉陶器
 調査結果 遺物の出土量が比較的多いことから
 遺跡の中心部と考えられる。
 調査担当 鈴木京太郎



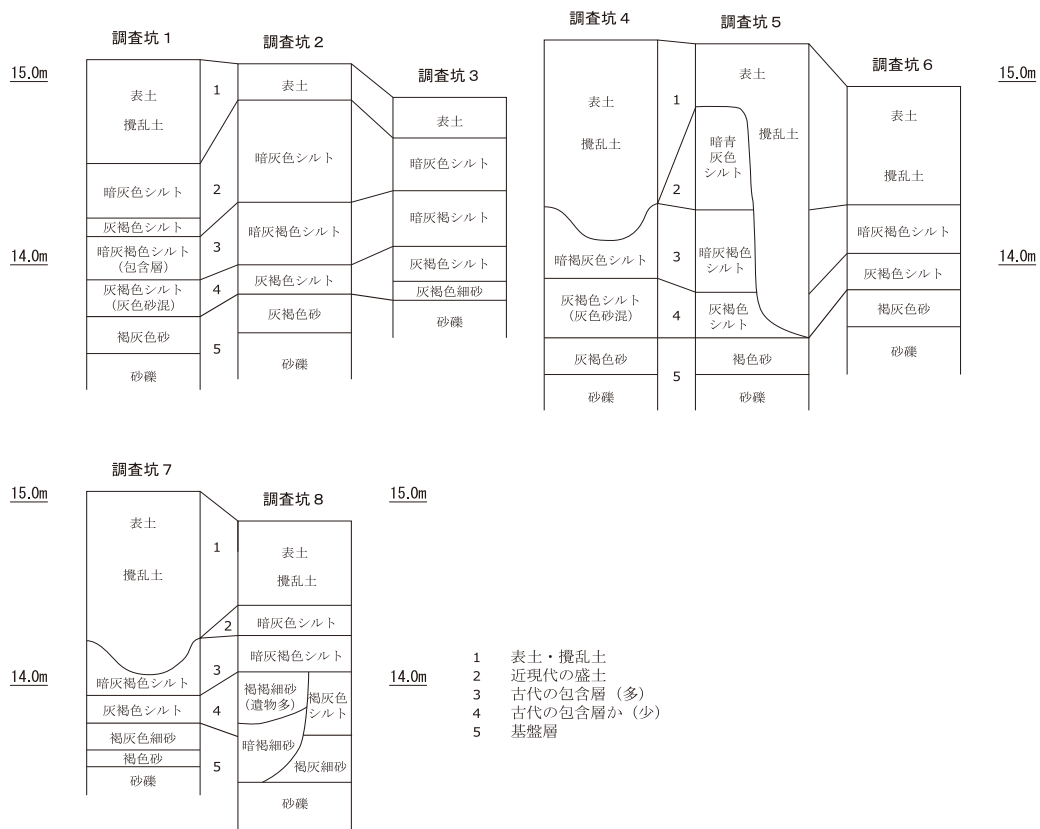
位置図 (2, 500分の1)



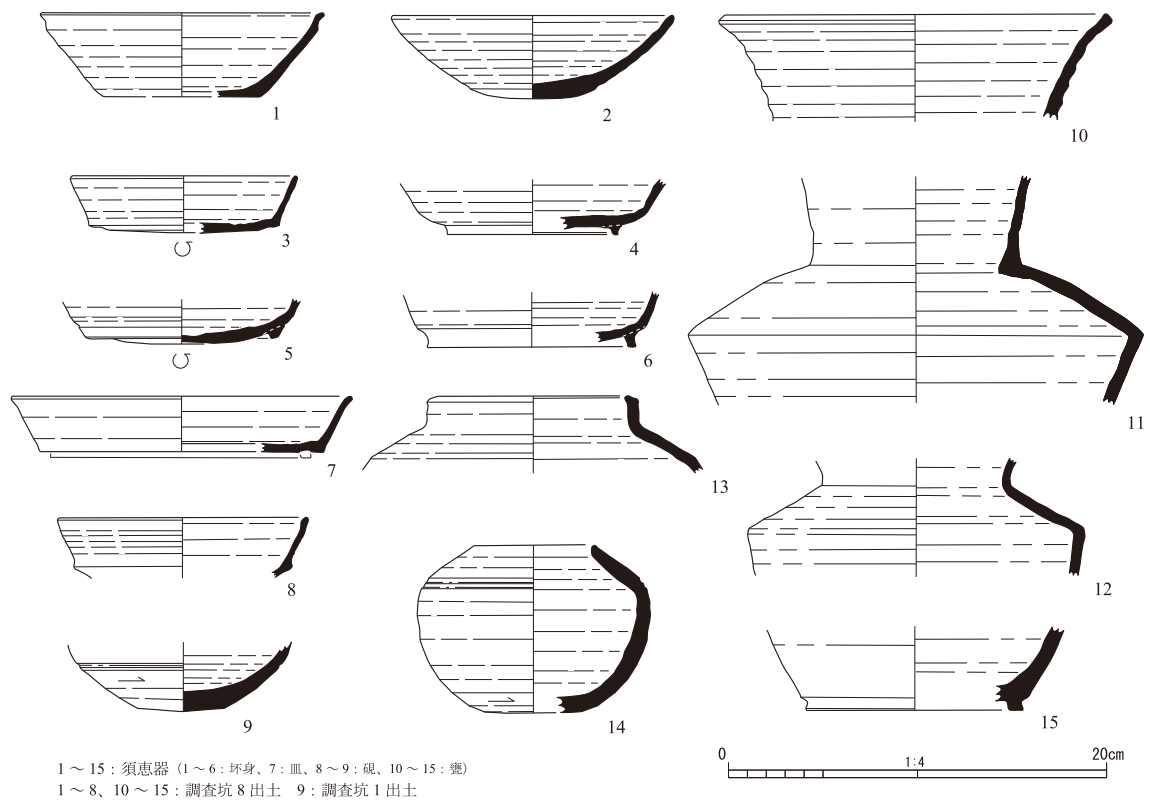
調査坑 8 土層堆積状況



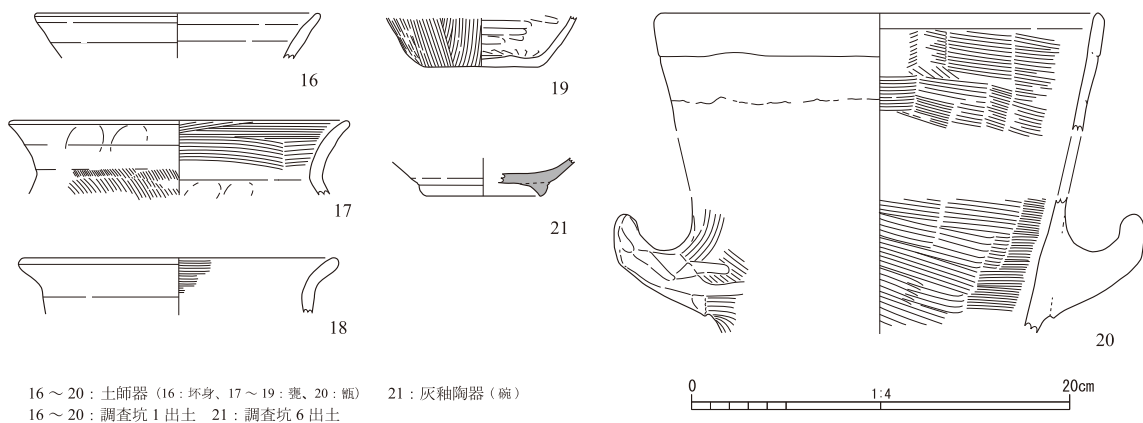
出土遺物



土層柱状図 (S=1/40)



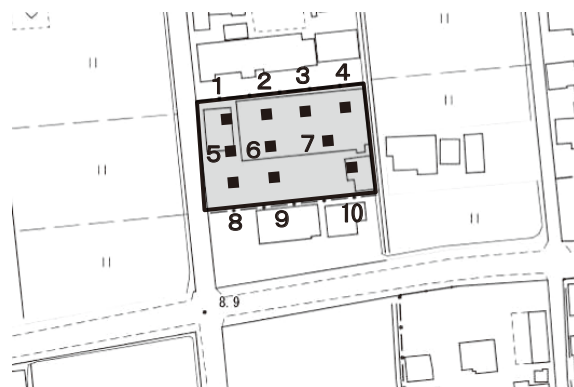
出土遺物実測図 (1) (S=1/4)



出土遺物実測図 (2) (S=1/4)

19 別所前遺跡 3 次 (べっしょまえいせき)

所在地 東区市野町 2215-1
調査期間 2019 年 8 月 6 日
調査原因 宅地造成
調査面積 40 m²
検出遺構 土坑
出土遺物 台付甕、壺、山茶碗、山皿
調査結果 対象地の全域で遺物包含層が確認できたことから遺跡の範囲内と考えられる。 ※詳細は『別所前遺跡』(2020 年 7 月刊行) に掲載。
調査担当 川西啓喜



位置図 (2, 500分の1)



調査坑 2 SK01 検出状況



調査坑 6 土層堆積状況



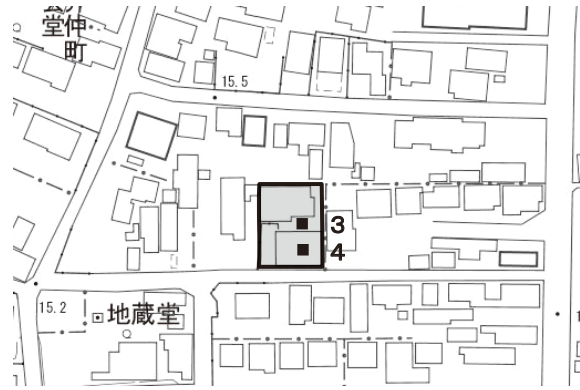
調査坑 8 土層堆積状況



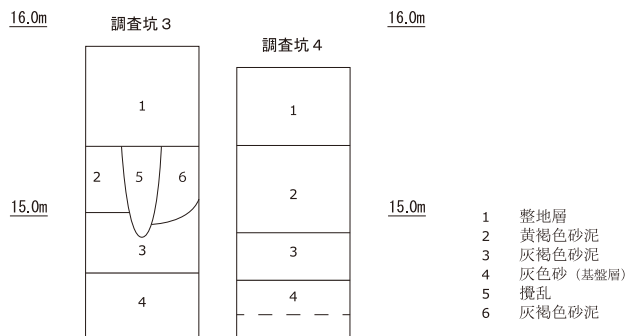
主な出土遺物

20 笠井中組遺跡 6 次（かさいなかぐみいせき）

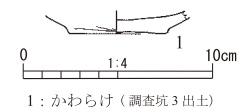
所在地 東区笠井町 272-6 外
 調査期間 2019 年 8 月 8 日
 調査原因 個人住宅建設 調査面積 8 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 かわらけ片
 調査結果 遺物包含層を確認した。わずかに遺物が出土したが、対象地は遺跡の密度が薄い地域と考えられる。（5 次調査と同一開発計画地内での調査）
 調査担当 栗原雅也



位置図 (2, 500分の1)



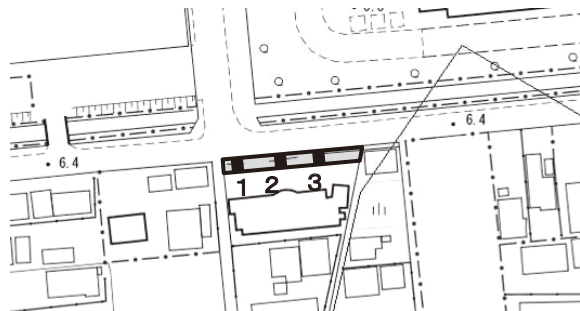
土層柱状図 (S=1/40)



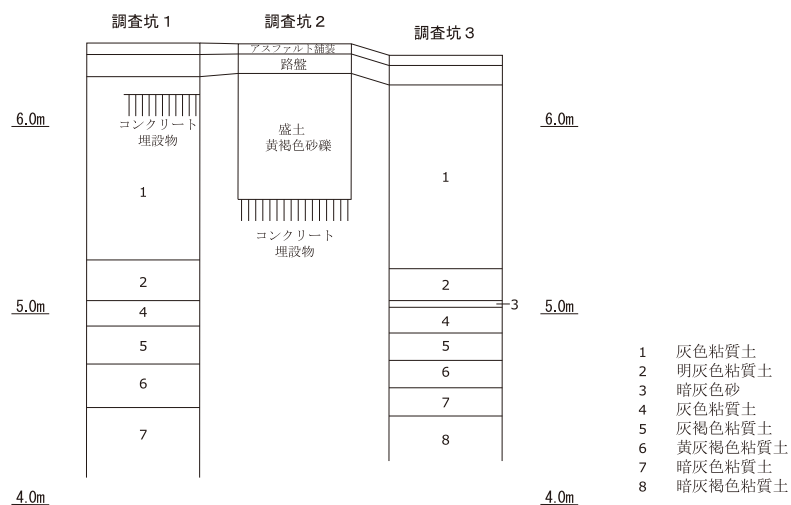
出土遺物実測図 (S=1/4)

21 宮竹野際遺跡11次 (みやたけのぎわいせき)

所在地 東区上西町地内
 調査期間 2019 年 8 月 29 日
 調査原因 道路拡幅 調査面積 12 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。
 調査担当 栗原雅也



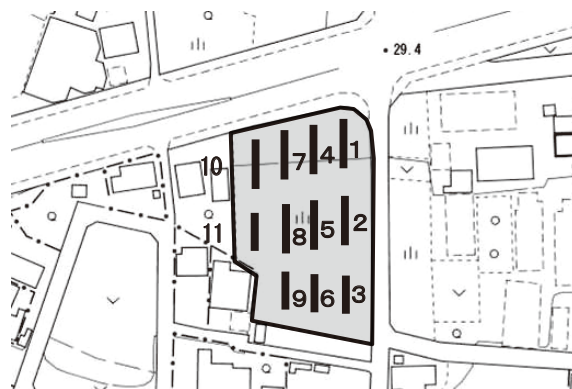
位置図 (2, 500分の1)



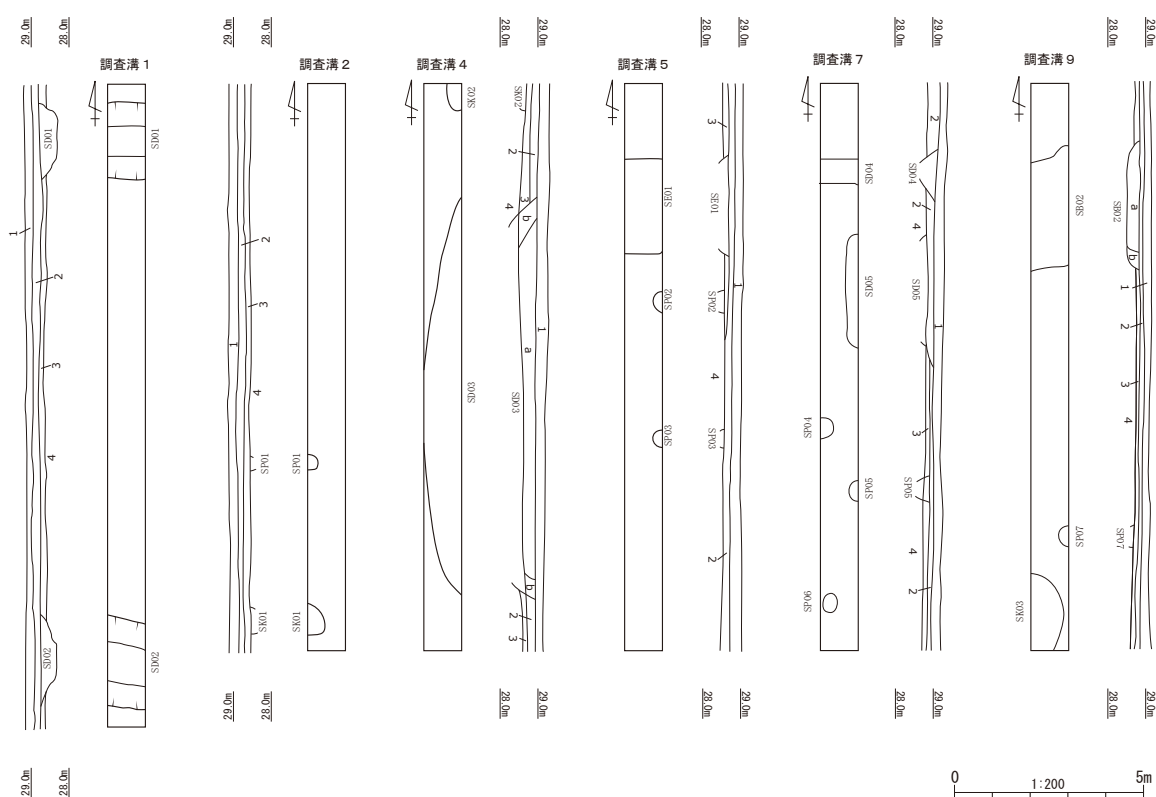
土層柱状図 (S=1/40)

22 東原遺跡47次（ひがしばらいせき）

所在地 浜北区新原 5243 外
 調査期間 2019 年 9 月 17 日、18 日
 調査原因 店舗建設
 調査面積 145 m²
 検出遺構 方形周溝墓、竪穴住居跡、土坑、小穴、溝
 出土遺物 弥生土器、須恵器、土師器
 調査結果 遺物は方形周溝墓の溝などから弥生土器、住居跡や土坑から須恵器・土師器が出土している。
 調査担当 鈴木京太郎

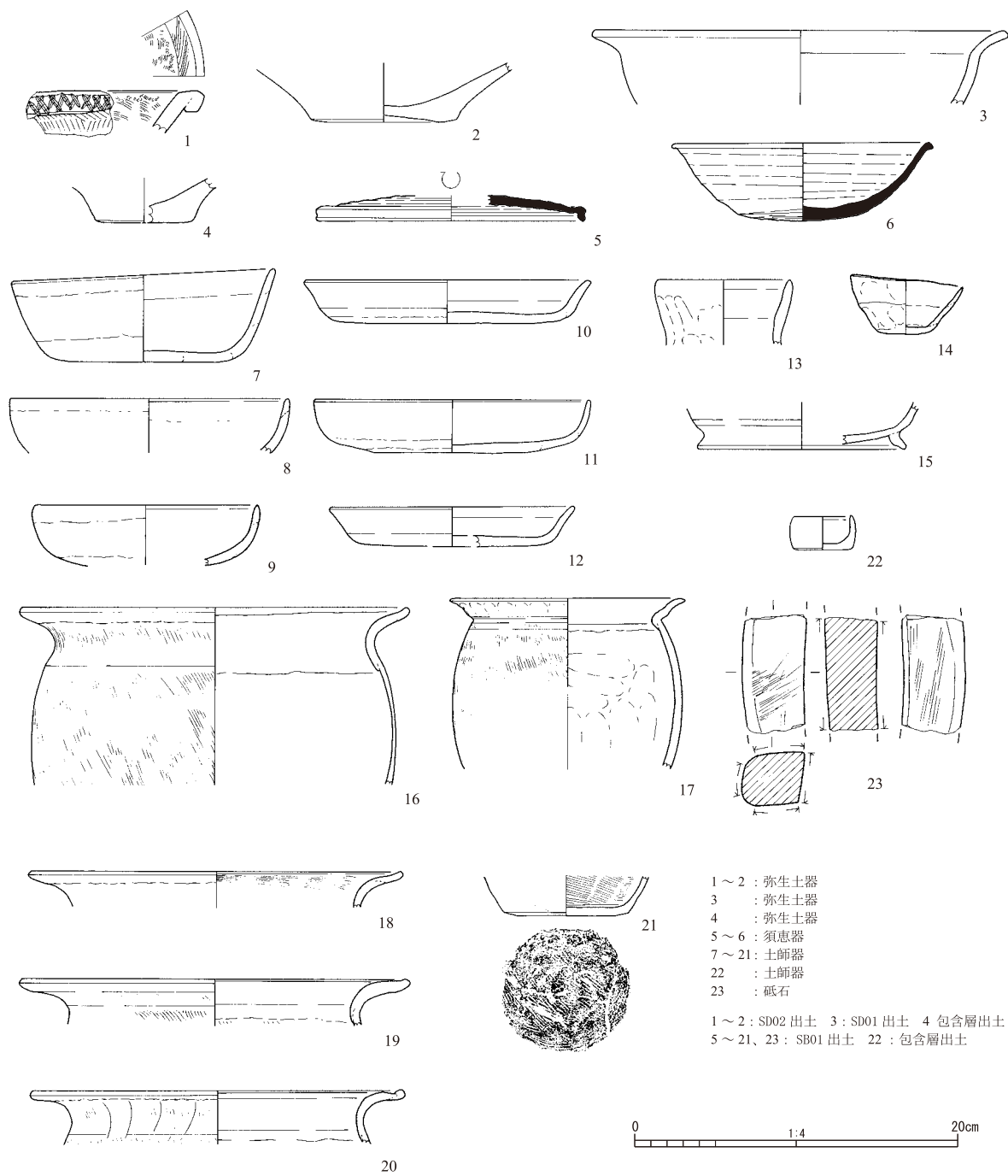


位置図 (2,500分の1)



- | | | | | | |
|---------------|--------------|---------|-----------|-----------|-----------------|
| 1 表土 | SD01 暗灰色粘土 | } 方形周溝墓 | SK01 黒色粘土 | SP01 黒色粘土 | SB01 黒色粘土 (焼土混) |
| 2- 黒色シルト (黒墨) | SD02 暗灰色粘土 | | SK02 黒色粘土 | SP02 黒色粘土 | SB02a 黒色粘土 |
| 3- 暗褐色粘質土 | SD03a 黒色粘土 | | SK03 黒色粘土 | SP03 黒色粘土 | SB02b 暗褐色粘質土 |
| 4 橙色粘質土 | SD03b 暗褐色粘質土 | | | SP04 黒色粘土 | |
| | SD04 黒色粘土 | | | SP05 黒色粘土 | |
| | SD05 黒色粘土 | | | SP06 黒色粘土 | |
| | | | | SP07 黒色粘土 | |

平断面略図 (S=1/200)



出土遺物実測図 (S=1/4)



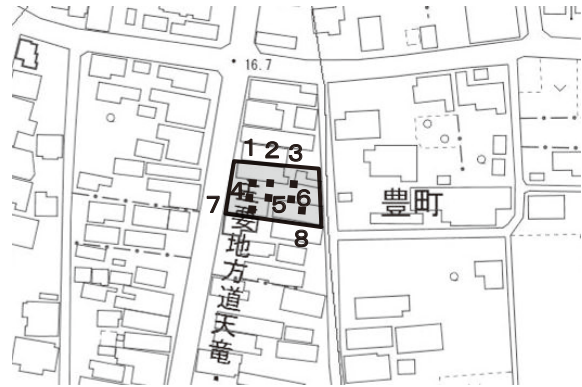
調査溝 1 SD02土層堆積状況



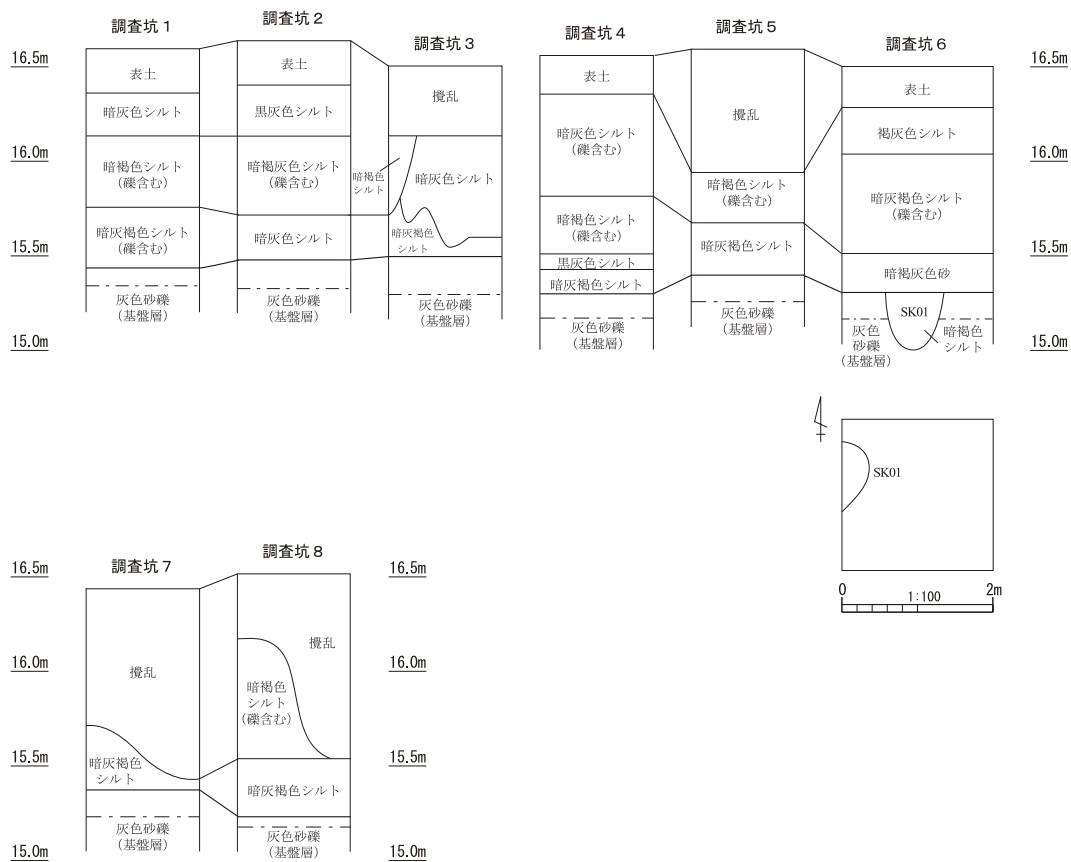
主な出土遺物

23 笠井上組遺跡 9 次（かさいかみぐみいせき）

所在地 東区笠井町字東浦 6-2 外
 調査期間 2019 年 9 月 25 日
 調査原因 宅地造成
 調査面積 32 m²
 検出遺構 土坑 出土遺物 須恵器、土師器
 調査結果 遺構・遺物を確認したことから、調査坑6
 周辺は遺跡が展開しているが、その他の
 箇所は遺跡内の希薄な地点と判断される。
 調査担当 川西啓喜



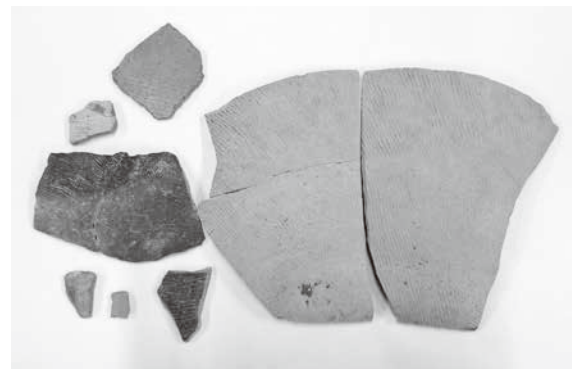
位置図 (2, 500分の1)



土層柱状図 (S=1/40) 及び調査坑 6 平面模式図 (S=1/100)



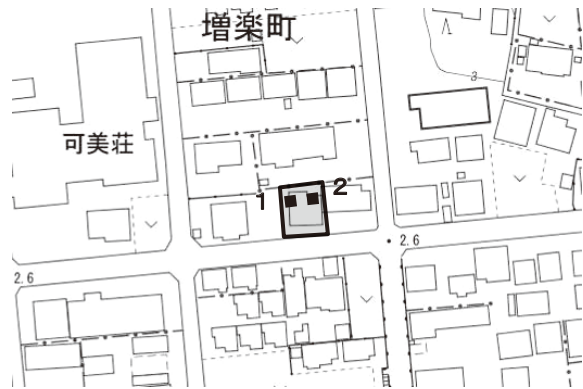
調査坑 6 完掘状況



主な出土遺物

24 増楽遺跡11次（ぞうらいせき）

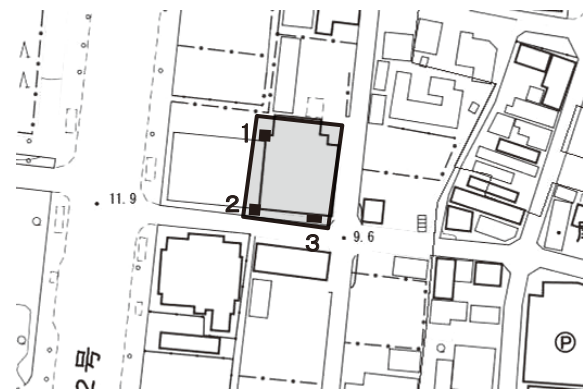
所在地 南区増楽町 1501
 調査期間 2019 年 9 月 30 日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 8 m²
 検出遺構 溝、土坑
 出土遺物 土師器、須恵器、山茶碗、土師質土器
 調査結果 いずれの調査坑内においても遺構・遺物を確認したことから、当該地は遺跡の範囲内と判断される。
 ※詳細は第 4 章 1（133 頁）に掲載。
 調査担当 川西啓喜



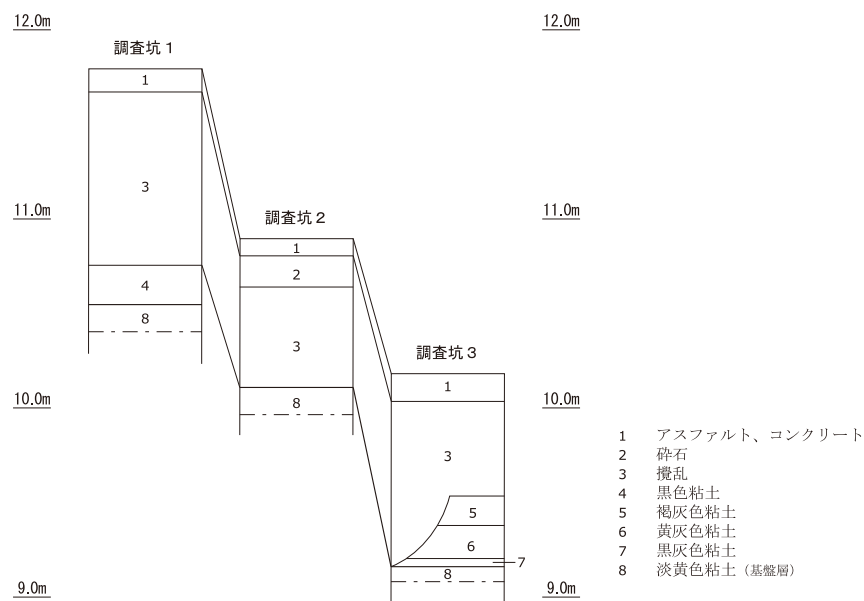
位置図（2, 500分の1）

25 浜松城跡30次（はまつじょうあと）

所在地 中区元城町 114-8、115-1
 調査期間 2019 年 10 月 23 日
 調査原因 社屋建設
 調査面積 8 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 焙烙、近代陶磁器
 調査結果 遺構は確認されず、遺物も攪乱土内に限られるが、周辺には三の丸に関わる遺構・遺物が及んでいる可能性がある。
 調査担当 川西啓喜



位置図（2, 500分の1）



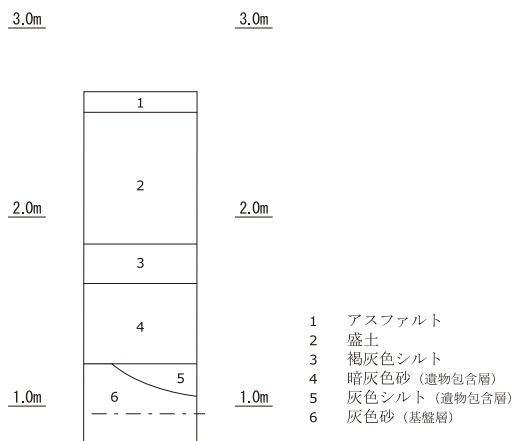
土層柱状図（S=1/40）

26 城山遺跡17次（しろやまいせき）

所在地 南区若林町 443-14
 調査期間 2019 年 10 月 25 日
 調査原因 下水道管工事
 調査面積 6 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 須恵器・土師器
 調査結果 遺構は確認できなかった。遺物も少量であることから、当該地は遺跡内の希薄地点と考えられる。
 調査担当 川西啓喜



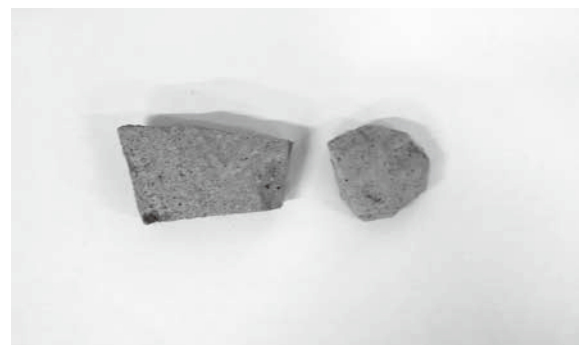
位置図（2, 500分の1）



土層柱状図 (S=1/40)



調査坑土層堆積状況



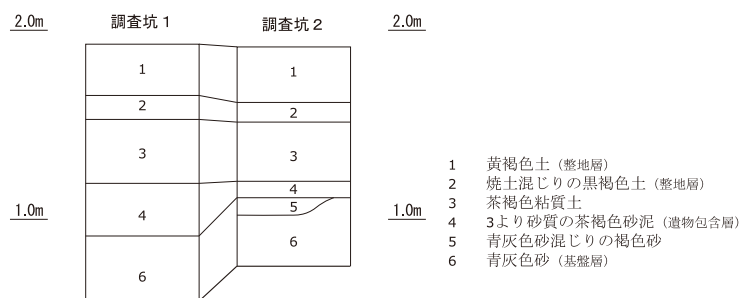
出土遺物

27 入野町村前遺跡 1 次 （いりのちょうむらまえいせき）

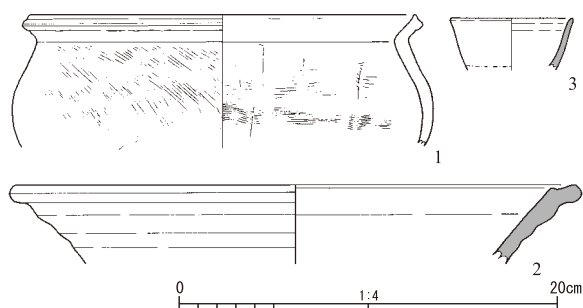
所在地 西区入野町 9627
 調査期間 2019 年 10 月 28 日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 8 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 古瀬戸系折縁深皿、内耳鍋、近世陶磁器
 調査結果 遺構は確認できなかったが、遺物の包含層が認められたため、当該地は遺跡の範囲内と考えられる。
 調査担当 栗原雅也



位置図（2, 500分の1）

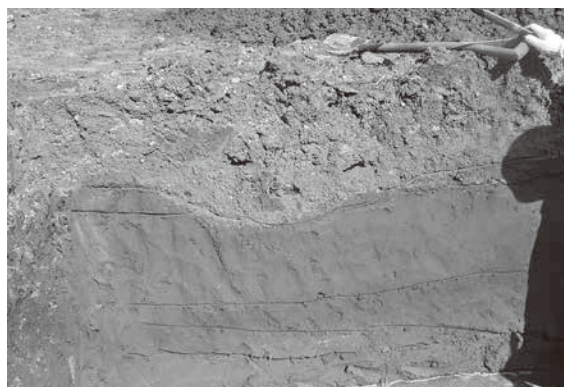


土層柱状図 (S=1/40)



1: 土師器（銅） 2: 陶器（古瀬戸・鉢） 3: 陶器（瀬戸美濃・小碗）
 1～3: 調査坑 2 出土

出土遺物実測図 (S=1/4)



調査坑 2 土層堆積状況

28 浜松城跡 29 次（はまつじょうあと）

所在地 中区元目町 118-5 外
調査期間 2019 年 10 月 28 日～31 日
調査原因 集合住宅建設
調査面積 27 m²
検出遺構 堀跡
出土遺物 かわらけ、土鍋、木製品
調査結果 対象地の東側で堀跡を検出した。江戸時代の絵図に表現された下垂口北側の堀と捉えられる。※ 2021 年報告書刊行予定。

調査担当 和田達也



位置図 (2,500分の1)



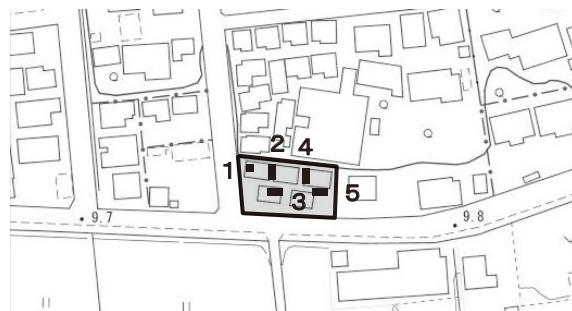
調査溝 1 東側土層堆積状況



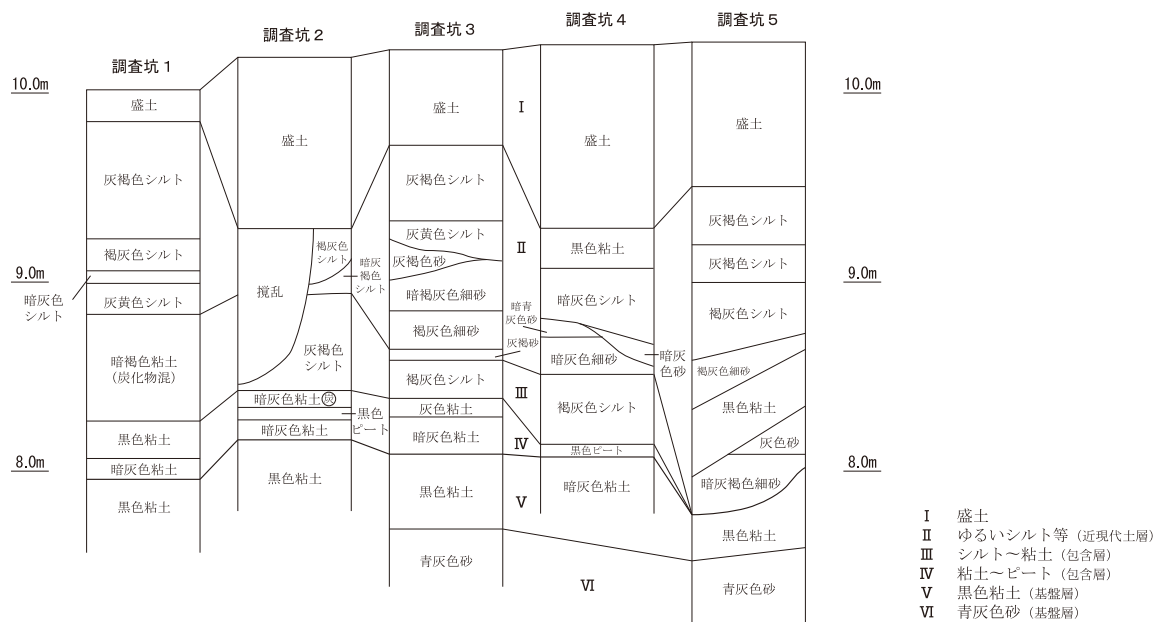
調査溝 2 東側土層堆積状況

29 西脇前遺跡3次（にしわきまえいせき）

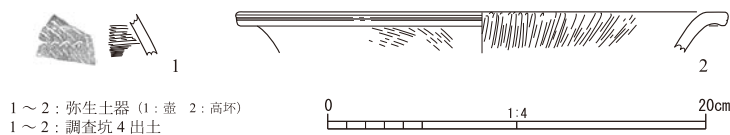
所在地 東区市野町字西脇 477-1、477-4
 調査期間 2019年10月31日
 調査原因 賃貸住宅建設
 調査面積 19 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 弥生土器、土師器
 調査結果 遺構は確認できなかったが、すべての調査坑で遺物が検出された。
 調査担当 鈴木京太郎



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)



出土遺物実測図 (S=1/4)

30 松東遺跡10次（まつひがしいせき）

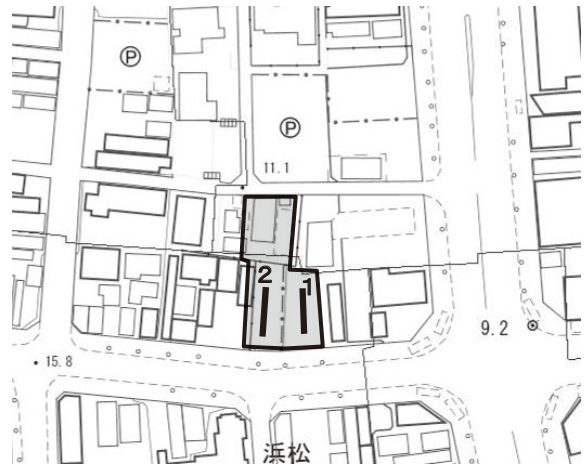
所在地 東区天龍川町地内
 調査期間 2019年11月7日
 調査原因 市道拡幅
 調査面積 16 m²
 検出遺構 土坑
 出土遺物 弥生土器、須恵器、土師器
 調査結果 密度はやや薄いものの一定量の遺物・遺構が確認された。※詳細は『松東遺跡4』（2021年3月刊行予定）に掲載。
 調査担当 鈴木京太郎



位置図 (2,500分の1)

31 浜松城跡31次（はままつじょうあと）

所在地	中区元城町 217-4 外、紺屋町 217-18 外
調査期間	2019 年 11 月 18 日
調査原因	集合住宅建設
調査面積	31 m ²
検出遺構	堀跡
出土遺物	瓦、内耳鍋、陶器
調査結果	当該地南側において堀跡を検出した。 江戸時代の絵図に表現された大手門西側の堀と捉えられる。近世浜松城の範囲や構造を明らかにする上で非常に重要な成果といえる。※詳細は『浜松城跡 14』（2021 年 3 月刊行）に掲載予定。
調査担当	和田達也



位置図 (2,500分の1)



調査溝 1 堀跡検出状況



調査溝 2 堀跡検出状況

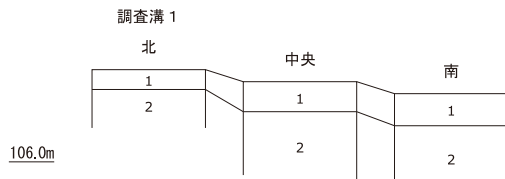
32 北新屋A古墳群 1 次 (きたあらやえーこふんぐん)

所在地	浜北区四大地 9-477
調査期間	2019 年 11 月 26 日
調査原因	倉庫建設
調査面積	20.5 m ²
検出遺構	なし
出土遺物	なし
調査結果	遺物・遺構ともに確認できなかったことから、平坦面まで古墳群の分布は広がっていないものと考えられる。
調査担当	鈴木京太郎



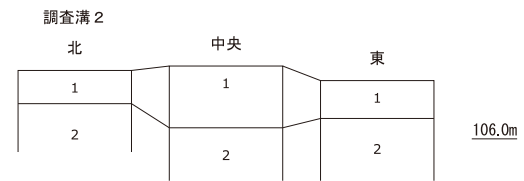
位置図 (5,000分の1)

107.0m



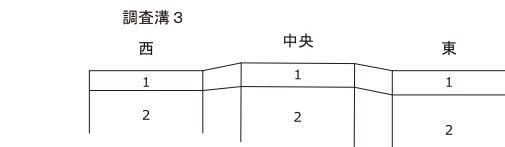
106.0m

107.0m



106.0m

107.0m



106.0m

107.0m

106.0m

- 1 表土・攪乱土
2 橙色粘質土（基盤層、小～中型円礫含）

土層柱状図 (S=1/40)

33 入野町村前遺跡 2 次 (いりのちょうむらまえいせき)

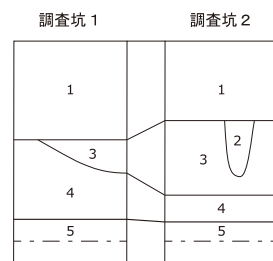
所在地 西区入野町 9586 外
調査期間 2019 年 12 月 3 日
調査原因 集合住宅建設
調査面積 16 m²
検出遺構 なし
出土遺物 なし
調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。
遺跡の範囲外と考えられる。
調査担当 川西啓喜



位置図 (2, 500分の1)

2.0m

1.0m



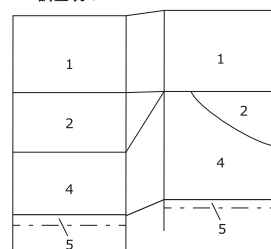
調査坑 2

調査坑 3

調査坑 4

2.0m

1.0m

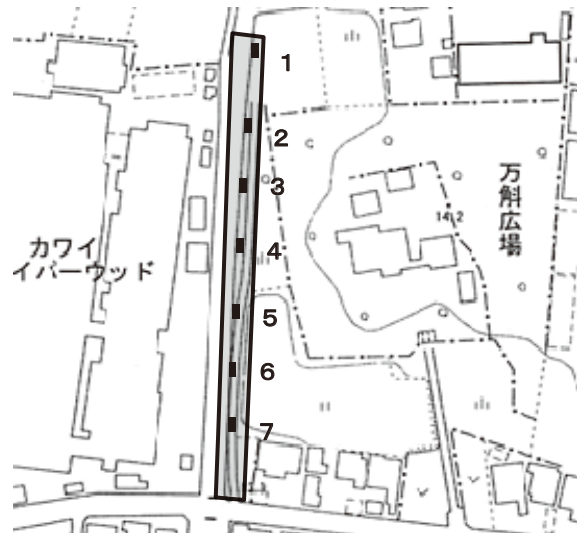


- 1 盛土
2 攪乱
3 茶灰色砂
4 茶褐色砂
5 黄灰色砂（基盤層）

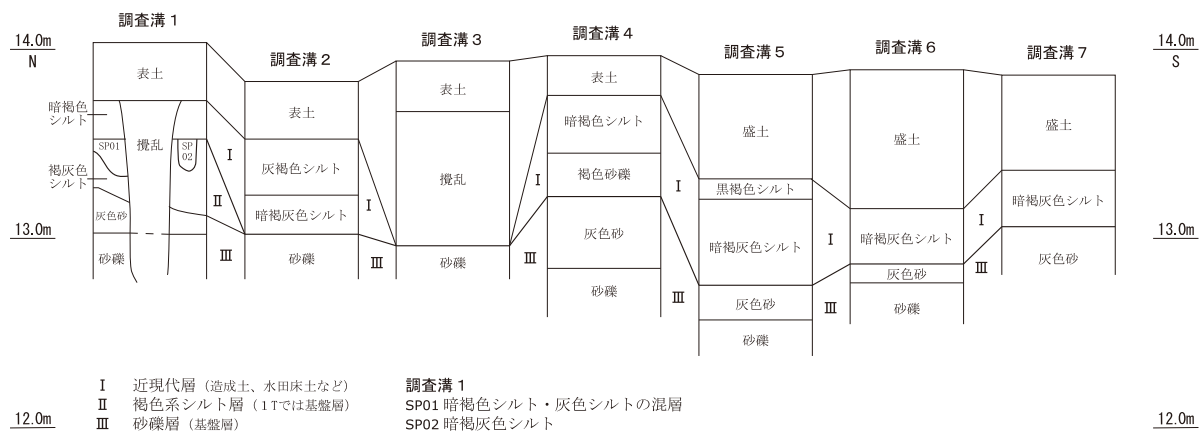
土層柱状図 (S=1/40)

34 万斛西遺跡 6 次（まんごくにしせいせき）

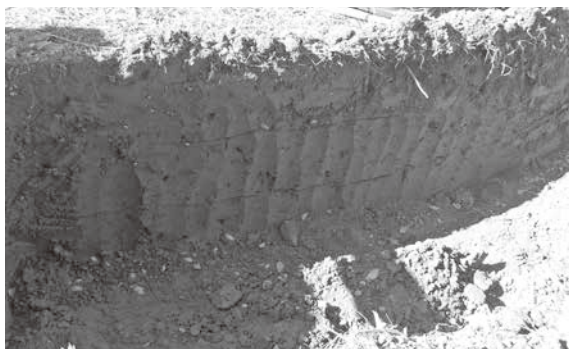
所在地 東区中郡町 979、991 地先
 調査期間 2019 年 12 月 3 日
 調査原因 市道拡幅
 調査面積 21 m²
 検出遺構 小穴
 出土遺物 土師器、須恵器、陶器
 調査結果 当該地の大半は遺構・遺物の希薄地点と考えられるが、北端部については奈良時代の遺構・遺物が良好な状態で残存していることが明らかとなった。
 ※詳細は今後発刊の報告書に掲載予定。
 調査担当 鈴木京太郎



位置図（2,500分の1）



土層柱状図（S=1/40）



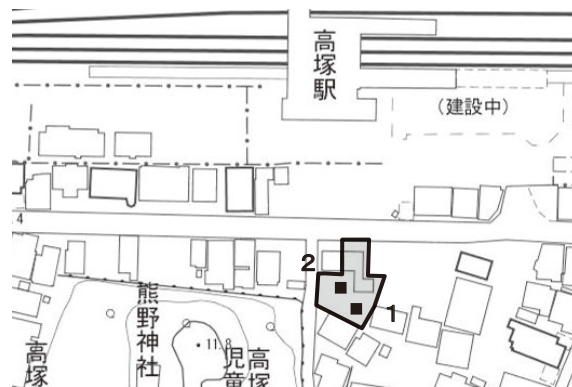
調査溝 2 土層堆積状況



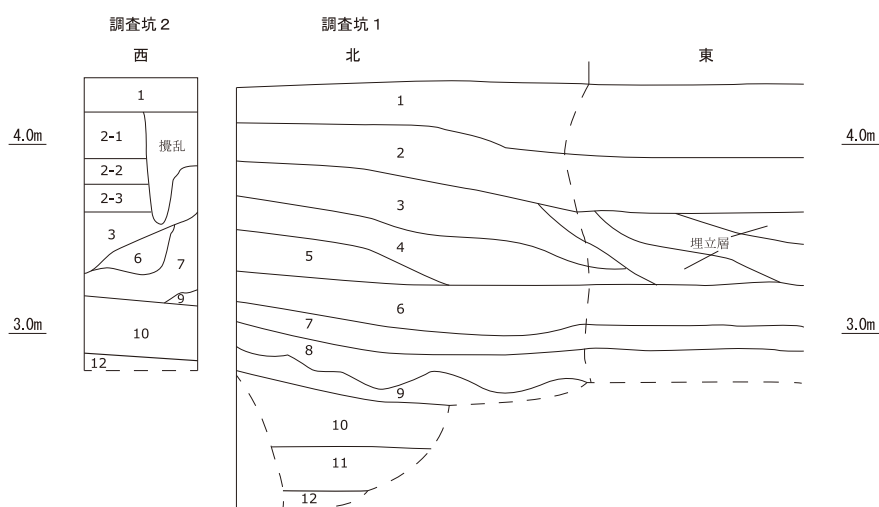
出土遺物

35 高塚町村西遺跡 9次 (たかつかちょうむらにしいせき)

所在地 南区高塚町 4790-30 外
調査期間 2019年12月5日
調査原因 集合住宅建設
調査面積 8 m²
検出遺構 なし
出土遺物 須恵器、土師器、灰釉陶器、古瀬戸
天目茶碗、鉄製品
調査結果 遺構は検出されなかったが、遺物包
含層を確認した。
調査担当 栗原雅也

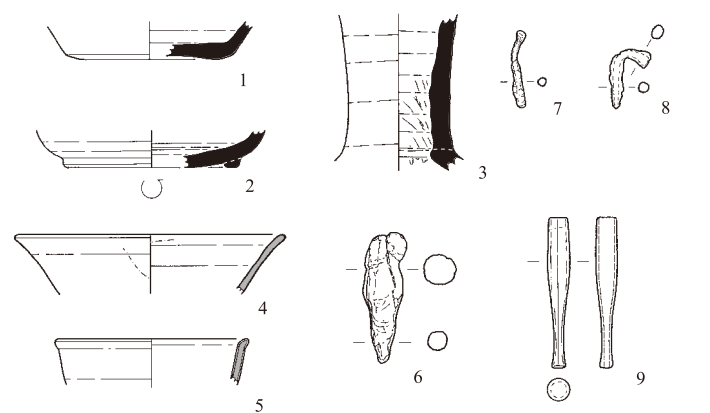


位置図 (2, 500分の1)

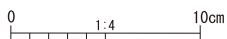


- | | | |
|-------------------|-----------------------|-----------------------------|
| 1 褐色砂 (表土) | 3 黄褐色砂泥 (埋め立て層) | 8 黄褐色砂 (褐色土ブロックが混じる) |
| 2 黄褐色砂、黒褐色砂が縞状に走る | 4 褐色砂、黒色土粒を含む (埋め立て層) | 9 黒褐色砂泥、やや粘質 (遺物包含層) |
| 2-1 褐色砂泥 | 5 黄褐色砂 (埋め立て層) | 10 暗褐色粘質土、砂混り、9より粘質 (遺物包含層) |
| 2-2 黄褐色砂泥 | 6 褐色砂、5より粒が粗い | 11 黒褐色粘質土、砂混り、10より粘質 |
| 2-3 暗褐色砂泥 | 7 暗褐色砂 | 12 黄褐色砂 (基盤層) |

土層柱状図 (S=1/40)



- 1～2: 須恵器 (碗) 3: 須恵器 (長頸壺) 4: 灰釉陶器 (碗)
5: 陶器 (碗) 6～8: 鉄製品 (釘か) 9: 銅製キセル
1～4: 調査坑2出土 5～9: 調査坑1出土



出土遺物実測図 (S=1/4)



調査坑1 土層堆積状況

36 若林町村西遺跡14次

(わかばやしちょうむらにしいせき)

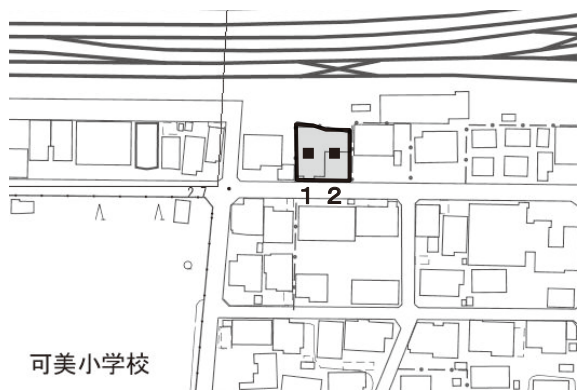
所在地 南区若林町 1443-1、1444-1
 調査期間 2019年12月11日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 9 m²
 検出遺構 土坑
 出土遺物 須恵器、土師器、内耳鍋
 調査結果 調査坑4において、奈良時代の遺物
 包含層と遺構が確認された。
 ※詳細は第4章2（137頁）に掲載。
 調査担当 川西啓喜



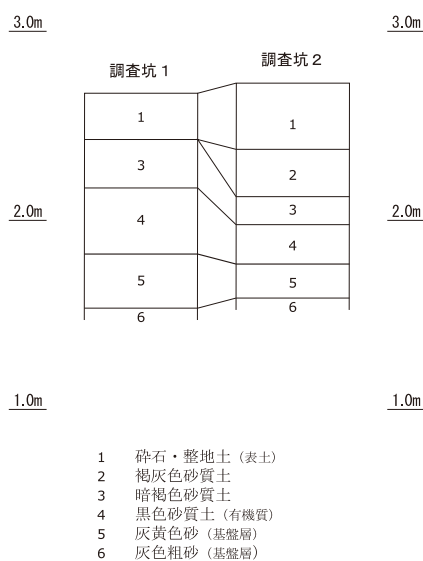
位置図 (2,500分の1)

37 増楽遺跡13次 (ぞうらいせき)

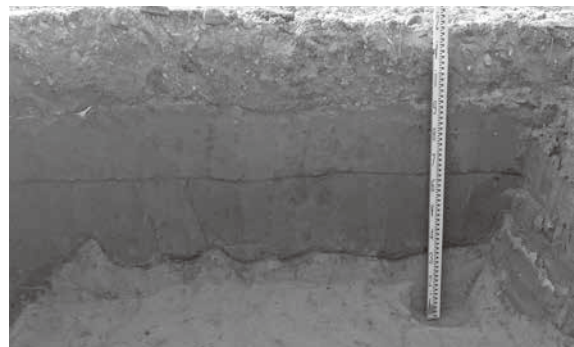
所在地 南区若林町 1631-1 外
 調査期間 2019年12月12日
 調査原因 集合住宅建設
 調査面積 8 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 土師器
 調査結果 当該地は遺跡の範囲内ではあるが、
 遺構や遺物の分布が希薄な地点と捉
 えられる。
 調査担当 和田達也



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)



調査坑 1 土層堆積状況



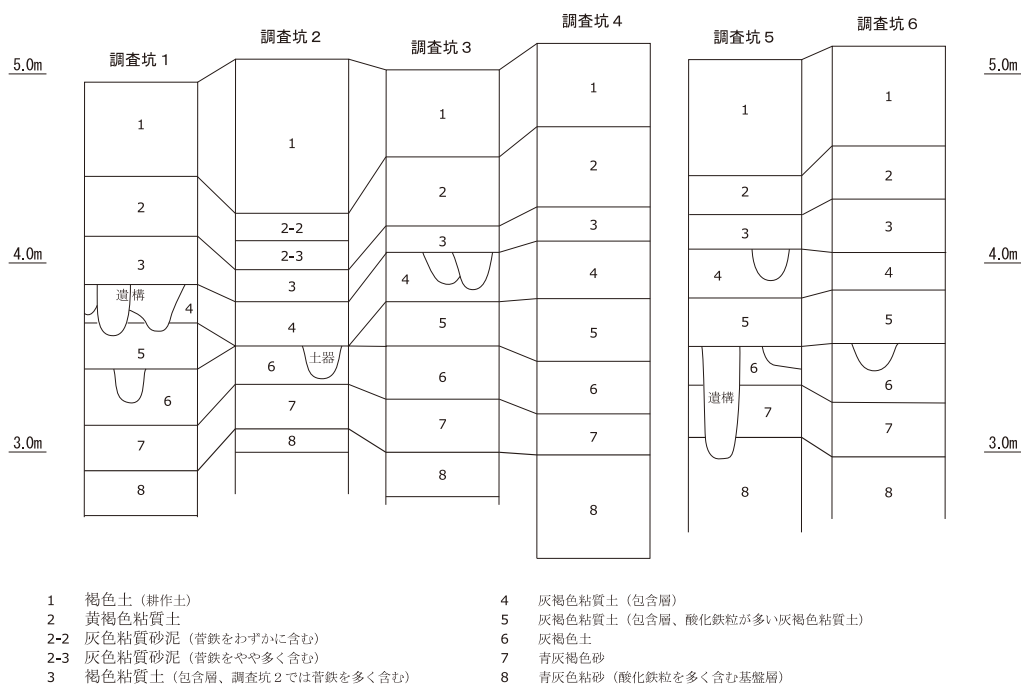
調査坑 2 土層堆積状況

38 山寺野遺跡10次（さんじのいせき）

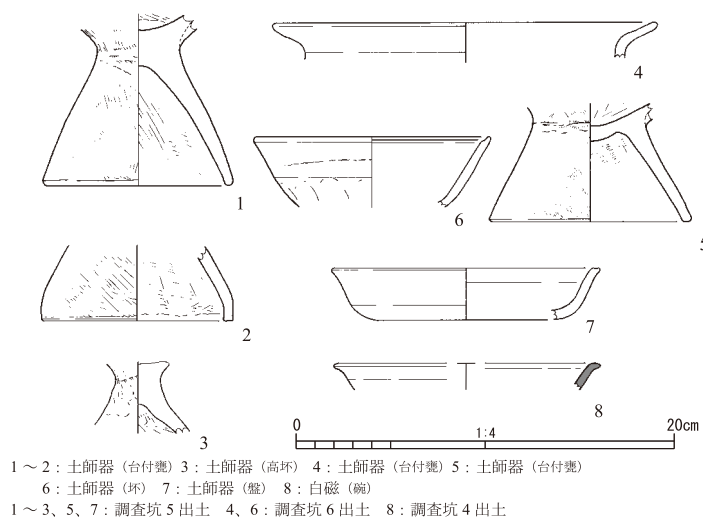
所在地 南区飯田町 790、791
 調査期間 2019 年 12 月 24 日
 調査原因 集合住宅・事務所建設
 調査面積 24 m²
 検出遺構 小穴状遺構
 出土遺物 弥生土器、須恵器、土師器、灰釉陶器
 調査結果 安定的な遺物包含層と遺構面の存在が確認できたことから調査位置はすべて遺跡の範囲内にあると考えられる。
 調査担当 栗原雅也



位置図 (2, 500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)



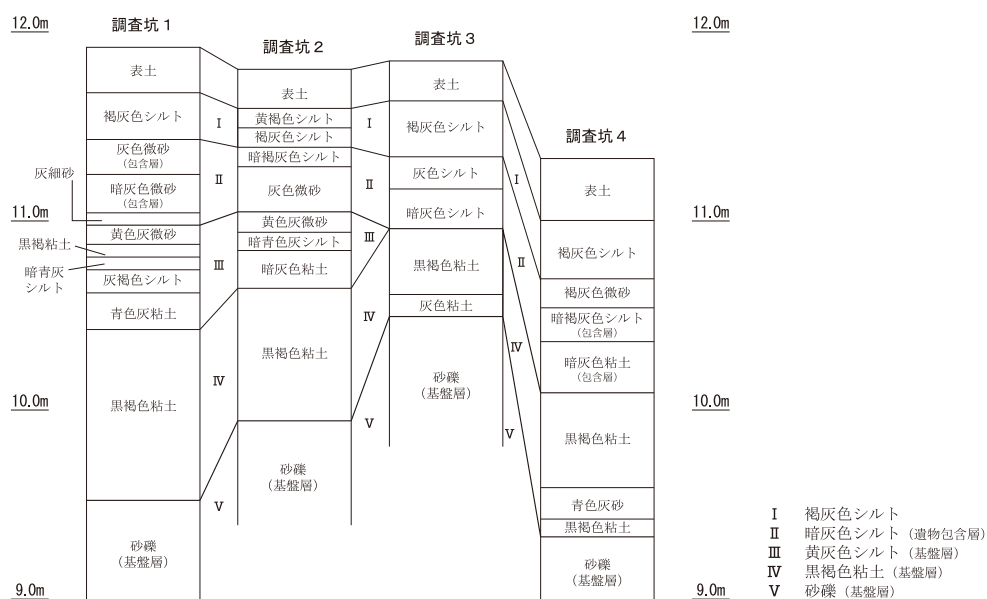
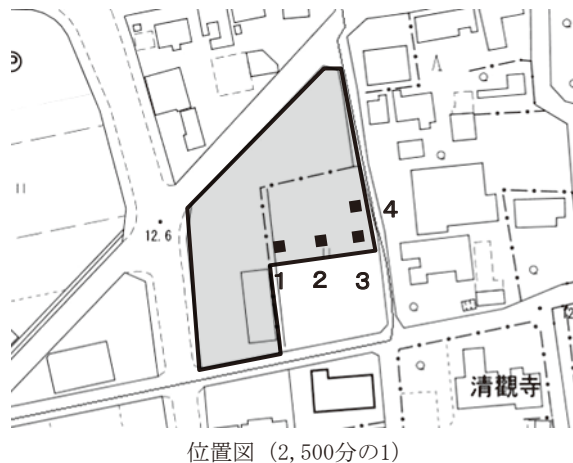
出土遺物実測図 (S=1/4)



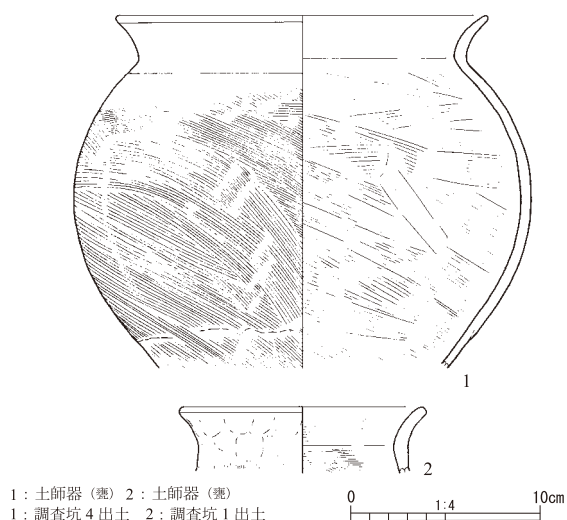
調査坑 1 土層堆積状

39 恒武西宮遺跡27次 (つねたけにしみやいせき)

所在地 東区恒武町字丁田 213、211-1
 調査期間 2020 年 1 月 27 日
 調査原因 店舗建設
 調査面積 16 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 土師器
 調査結果 当該地は調査坑 1・4 周辺を中心に遺跡が残存していることが明確となった。
 調査担当 鈴木京太郎



土層柱状図 (S=1/40)



出土遺物実測図 (S=1/4)



調査坑 4 土層堆積状況

40 浜松城跡32次（はまつじょうあと）

所在地 中区元城町 114-8
 調査期間 2020 年 1 月 28 日、30 日
 調査原因 社屋建設
 調査面積 40 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 調査区の全域にわたって攪乱が及んでいることを確認した。当該地における遺跡の大半は、すでに消滅していると判断される。※詳細は今後発刊の報告書に掲載予定。
 調査担当 川西啓喜



位置図（2, 500分の1）

41 恒武西宮遺跡28次（つねたけにしみやいせき）

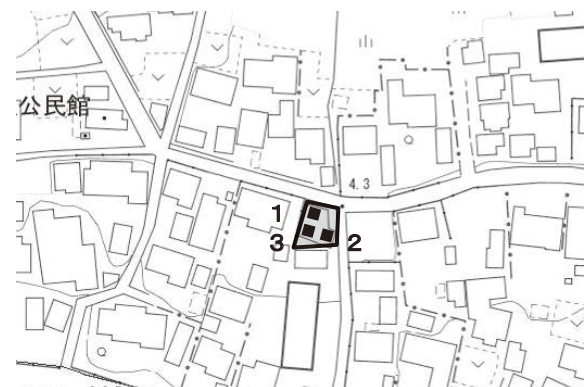
所在地 東区恒武町 130 外、上石田町 1 外、笠井新田町 1039
 調査期間 2020 年 2 月 25 日、26 日
 調査原因 工場建設
 調査面積 120 m²
 検出遺構 河川跡（大溝）
 出土遺物 木製品、土師器、須恵器
 調査結果 調査対象地北西部で山ノ花大溝が検出され、南東部でも一定量の遺物が確認された。
 ※詳細は第 4 章 3（141 頁）に掲載。
 調査担当 鈴木京太郎



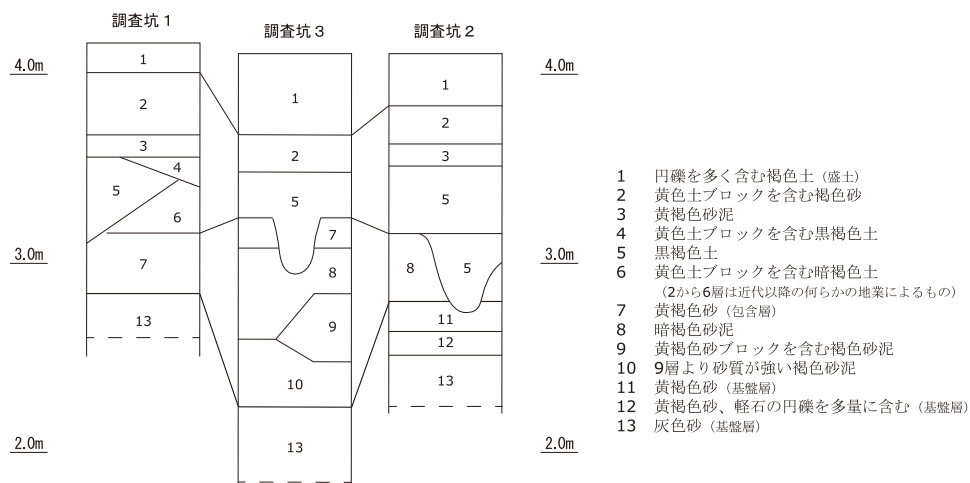
位置図（2, 500分の1）

42 中脇遺跡 4 次（なかわきいせき）

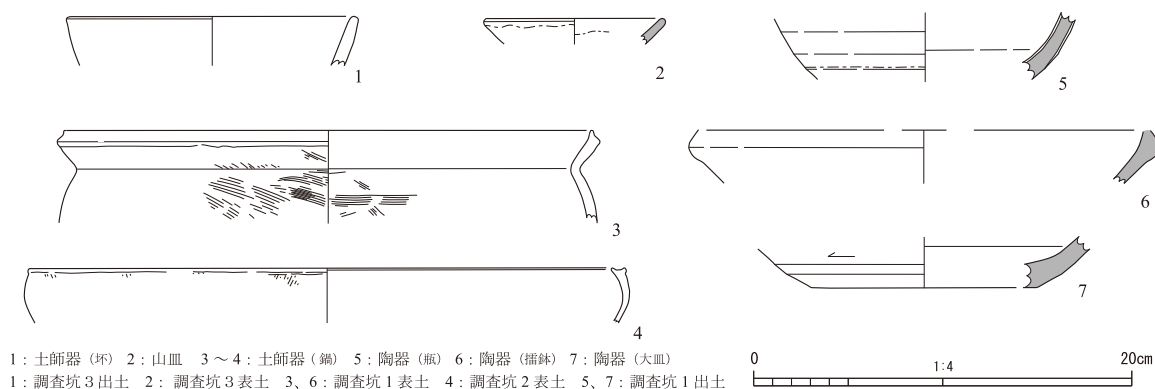
所在地 西区志都呂町 1479-2、1479-10 の一部
 調査期間 2020 年 3 月 2 日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 12 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 須恵器、山茶碗、中世陶器（大皿、播鉢）、土鍋、かわらけ
 調査結果 遺構は確認できなかったが、遺物包含層を確認したことから、当該地は遺跡の範囲内にあると判断される。
 調査担当 栗原雅也



位置図（2, 500分の1）



土層柱状図（S=1/40）



出土遺物実測図（S=1/4）

43 恒武西宮遺跡29次（つねたけにしみやいせき）

所在地 東区恒武町 225-1 外

調査期間 2020年3月5日、6日

調査原因 整備工場新設

調査面積 68 m²

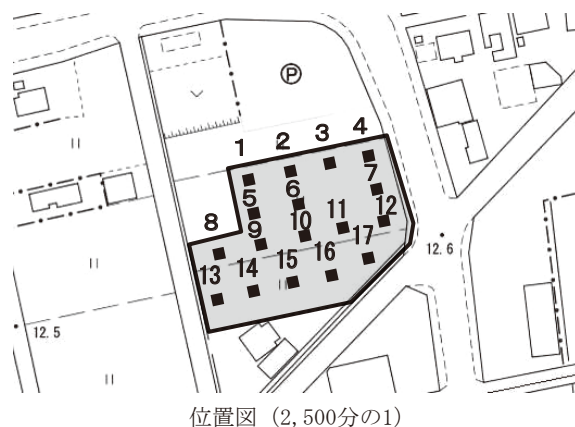
検出遺構 溝、土坑、小穴

出土遺物 土師器、須恵器、山皿、内耳鍋、かわらけ

調査結果 ほぼすべての調査坑より遺物・遺構を確認したことから、当該地の全域は遺跡の範囲内と考えられる。

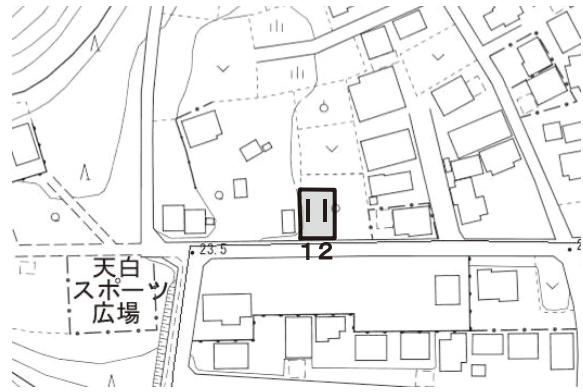
※詳細は第4章3（141頁）に掲載。

調査担当 川西啓喜

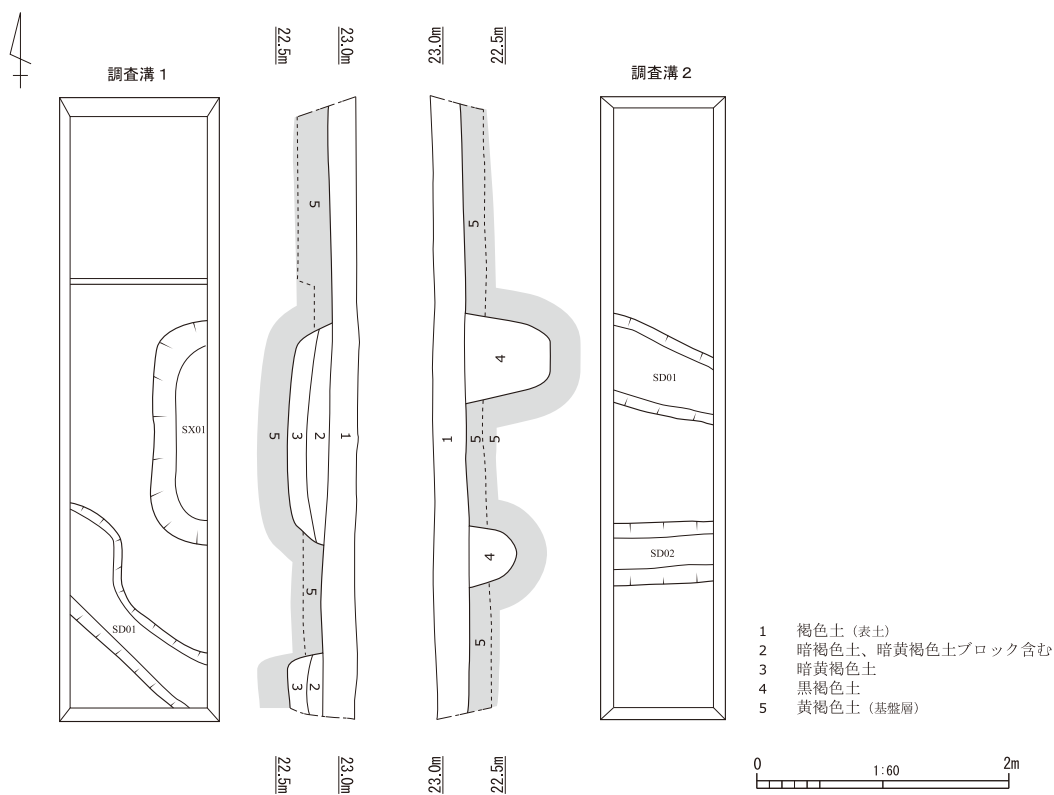


44 天白遺跡6次（てんぱくいせき）

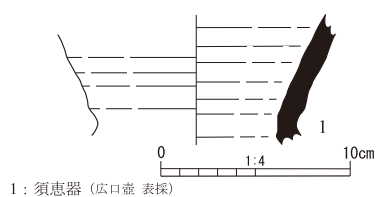
所在地 北区引佐町井伊谷 1145-1 の一部
 調査期間 2020 年 3 月 9 日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 10 m²
 検出遺構 溝、土坑
 出土遺物 土師器、中近世陶器
 調査結果 時期を明確に示しうる遺物は得られなかったが、遺構の検出状況から当該地は遺跡の範囲内にあると考えられる。
 調査担当 栗原雅也



位置図（2,500分の1）



調査溝平面図及び土層断面図（S=1/60）



1：須恵器（広口壺 表採）

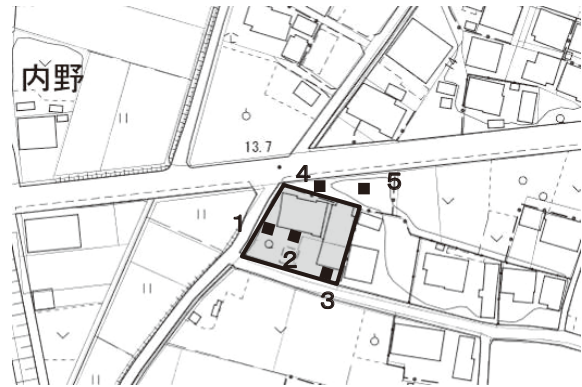
出土遺物実測図（S=1/4）



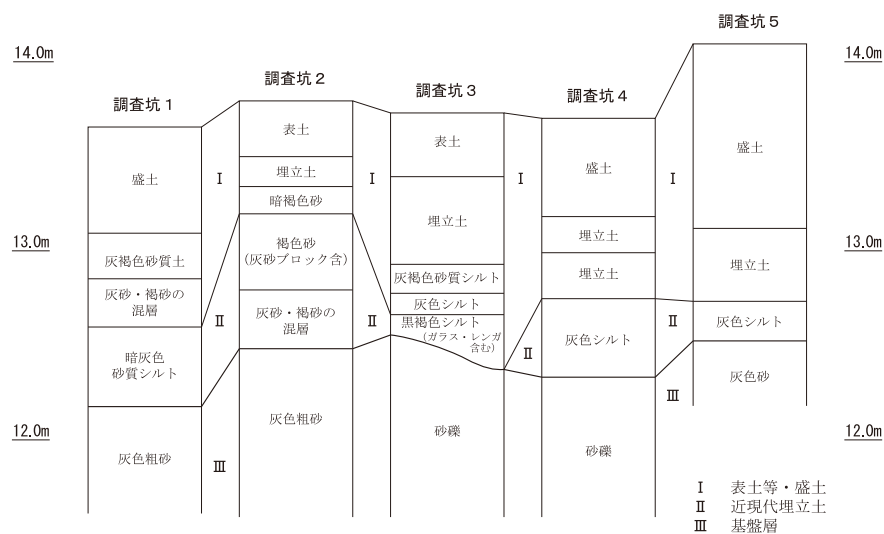
調査溝 2 遺構検出状況

45 井下石遺跡5次 (いしたごくいせき)

所在地 浜北区内野 320-4
 調査期間 2020年3月9日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 14 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺跡範囲の端部であることを鑑みると、当該地は遺跡の範囲外にあたる
 と考えられる。
 調査担当 鈴木京太郎



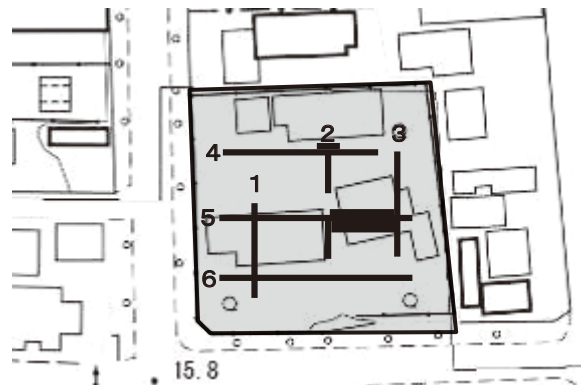
位置図 (2, 500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)

46 浜松城下町遺跡12次 (はまつじょうかまちいせき)

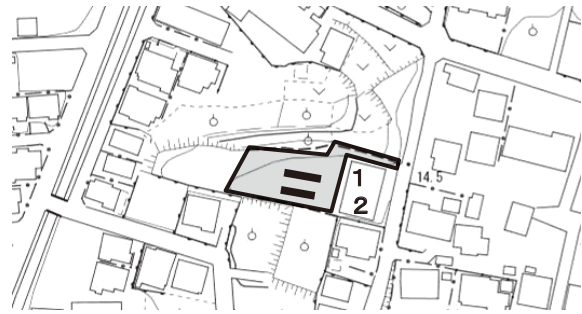
所在地 中区利町 306-30
 調査期間 2020年3月16～19日、24日、25日
 調査原因 浜松城下町に関する確認調査
 調査面積 179 m²
 検出遺構 小穴、溝、自然流路
 出土遺物 須恵器、瓦、かわらけ、陶器
 調査結果 近世の小穴、近世に埋め立てられた
 とみられる埋没河川を検出した。
 ※詳細は第4章4 (157頁) に掲載。
 調査担当 和田達也



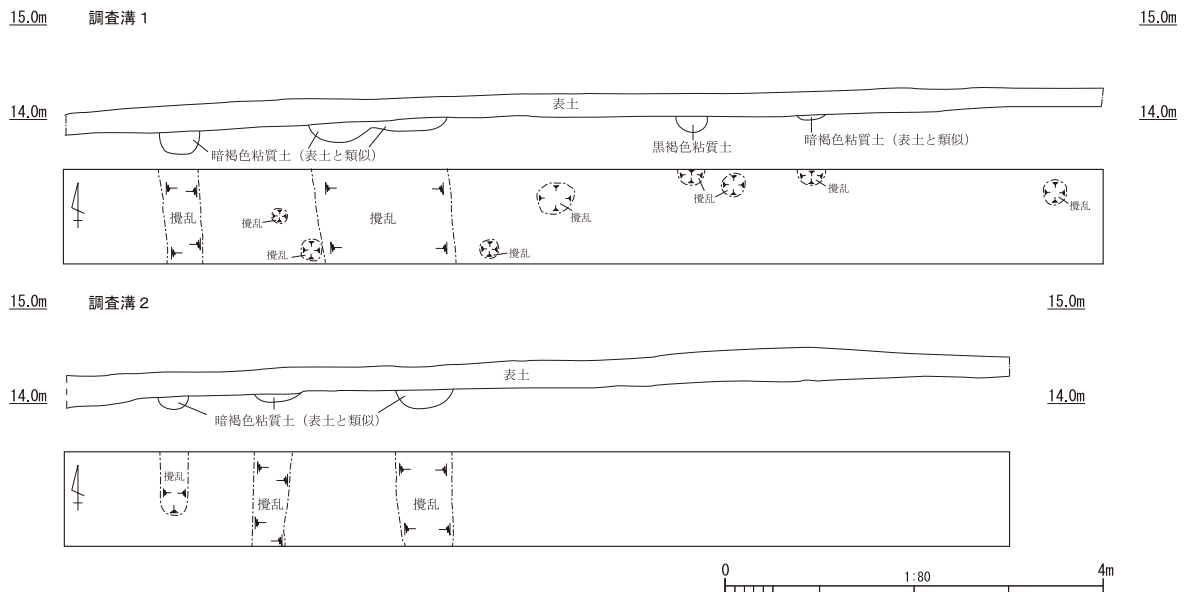
位置図 (2, 500分の1)

47 南屋敷遺跡 3 次 (みなみやしきいせき)

所在地 北区細江町三和 219-5 外
 調査期間 2020 年 3 月 23 日
 調査原因 個人住宅建設 調査面積 21 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。
 遺跡の範囲外と考えられる。
 調査担当 鈴木京太郎



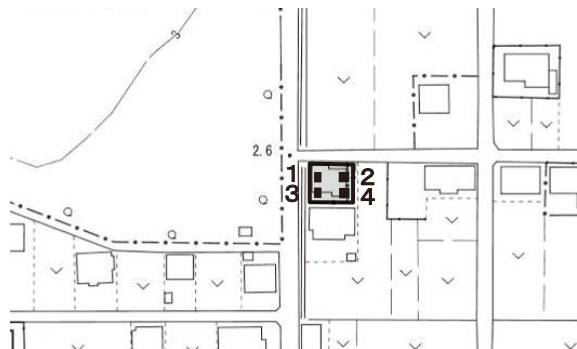
位置図 (2, 500分の1)



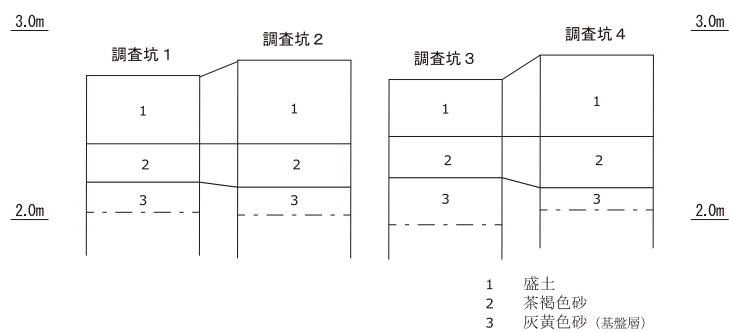
平断面略図 (S=1/80)

48 篠原町西前遺跡 6 次 (しのはらちようにしまえいせき)

所在地 西区篠原町 20317-2
 調査期間 2020 年 3 月 24 日
 調査原因 個人住宅建設 調査面積 6 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。
 遺跡内の希薄地点と考えられる。
 調査担当 川西啓喜



位置図 (2, 500分の1)

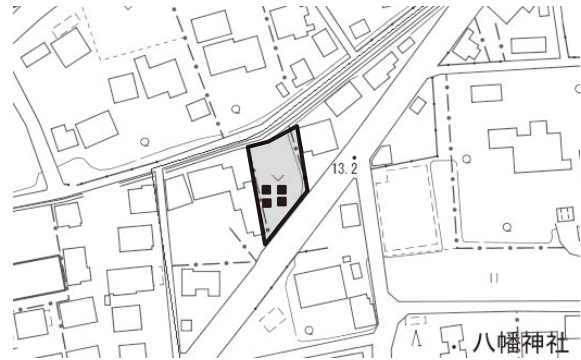


土層柱状図 (S=1/40)

工事立会報告

1 恒武西宮遺跡（つねたけにしみやいせき）

所在地 東区貴平町 1694
 立会日 2019 年 4 月 15 日
 調査原因 カーポート設置
 検出遺構 なし
 出土遺物 かわらけ、土器（時期不明）
 立会結果 かわらけと、土器の小片を 1 点ずつ確認した。



位置図（2,500分の1）

2 恒武西宮遺跡（つねたけにしみやいせき）

所在地 東区恒武町 254-2、256
 立会日 2019 年 4 月 16 日
 調査原因 カーポート設置
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

3 恒武西宮遺跡（つねたけにしみやいせき）

所在地 東区恒武町
 立会日 2019 年 4 月 17 日
 調査原因 擁壁設置
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 掘削は表土に収まった。



位置図（2,500分の1）

4 篠原町西前遺跡 （しのはらちょうにしまえいせき）

所在地 西区篠原町 20140
 立会日 2019 年 4 月 18 日
 調査原因 建物基礎
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

5 山ノ花遺跡（やまのはないせき）

所在地 東区恒武町 5-1
 立会日 2019 年 4 月 18 日
 調査原因 建物基礎
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 掘削は近代の土層に収まった。



位置図（2,500分の1）

6 増楽遺跡（ぞうらいせき）

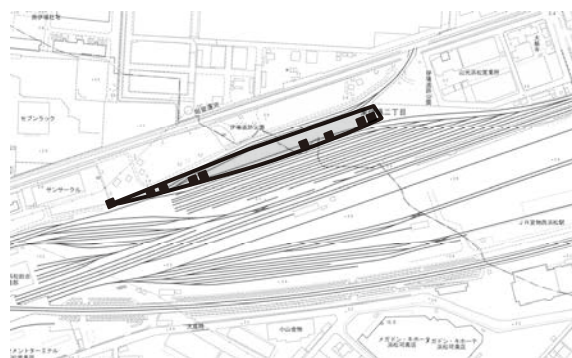
所在地 南区増楽町 1534-1、1535-1
 立会日 2019 年 4 月 22 日
 調査原因 フェンス設置
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 基盤層は北が高かった。



位置図（2,500分の1）

7 伊場遺跡（いばいせき）

所在地 中区東伊場二丁目 211 外、南区東若林町 32-12 外
 立会日 2019 年 5 月 8 日～17 日
 調査原因 電柱設置
 検出遺構 なし
 出土遺物 土師器
 立会結果 掘削は基盤層に到達しなかった。



位置図（10,000分の1）

8 宮竹野際遺跡（みやたけのぎわいせき）

所在地 東区上西町 1286
 立会日 2019 年 5 月 9 日
 調査原因 ガス管引込
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 掘削は基盤層に到達しなかった。



位置図（2,500分の1）

9 大屋敷遺跡（おおやしきいせき）

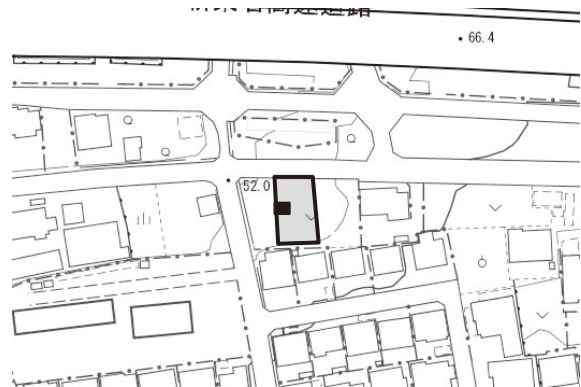
所在地 浜北区宮口 2-27
 立会日 2019年5月15日
 調査原因 浄化槽設置
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

10 中屋遺跡（なかやいせき）

所在地 浜北区根堅 289-18
 立会日 2019年5月15日
 調査原因 浄化槽設置
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

11 恒武西宮遺跡（つねたけにしみやいせき）

所在地 東区貴平町 1650、1654-2 外
 立会日 2019年5月16日、6月3日
 調査原因 農業用倉庫建設
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 掘削は近現代遺物の出土層にとどまった。



位置図（2,500分の1）

12 将監名遺跡（しょうげんみょういせき）

所在地 東区神立町 116-9 外
 立会日 2019年5月23日
 調査原因 側溝整備
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 掘削は包含層に到達しなかった。



位置図（2,500分の1）

13 村裏遺跡（むらうらいせき）

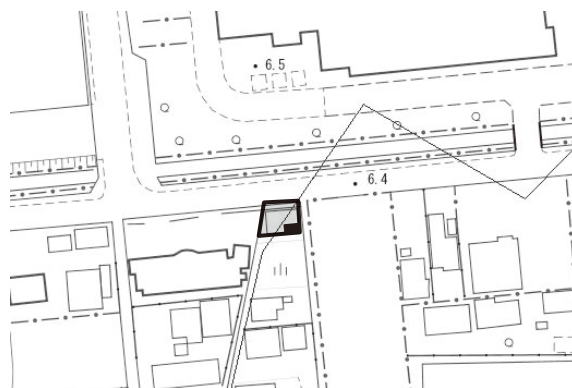
所在地 南区東若林町 701-1 近接地
 立会日 2019 年 5 月 27 日
 調査原因 地下埋設物抜き取り
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 基礎埋設時の掘削内に収まった。



位置図（2,500分の1）

14 宮竹野際遺跡（みやたけのぎわいせき）

所在地 東区宮竹町 331
 立会日 2019 年 6 月 3 日
 調査原因 都市計画道路高林芳川線（歩道拡幅、側溝、水道管理設等）
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

15 大通西遺跡（おおどおりにしいせき）

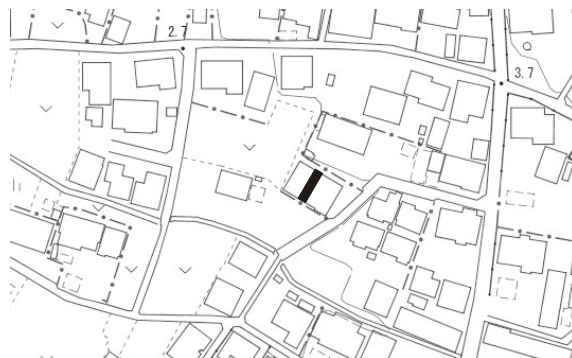
所在地 東区豊町 2354、2358
 立会日 2019 年 6 月 5 日
 調査原因 深基礎掘削
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

16 国方遺跡（くにがたいせき）

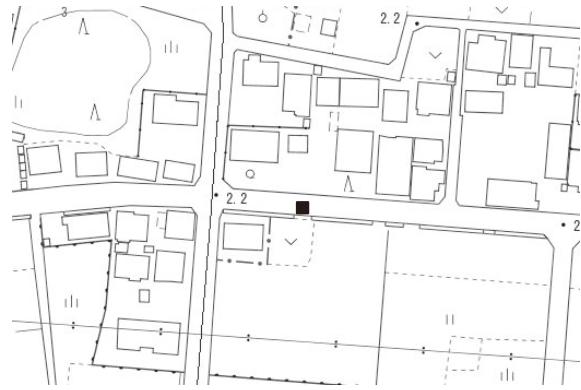
所在地 西区篠原町地内
 立会日 2019 年 6 月 11 日
 調査原因 深基礎掘削
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

17 井村遺跡 (いむらいせき)

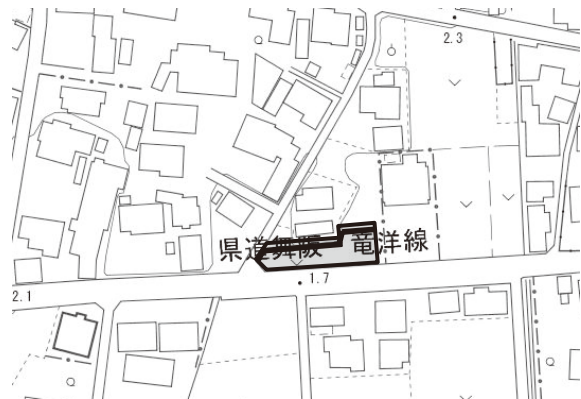
所在地 南区若林町 2811-1
 立会日 2019 年 6 月 24 日
 調査原因 ガス管理設
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 掘削は盛土層にとどまった。



位置図 (2, 500分の1)

18 大畑貝塚 (おおはたかいづか)

所在地 南区白羽町大畑 771-1、771-2 外
 立会日 2019 年 6 月 25 日
 調査原因 擁壁工事
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の範囲外と考えられる。



位置図 (2, 500分の1)

19 八反田遺跡 (はったんだいせき)

所在地 西区入野町 6166、6165-2 外
 立会日 2019 年 6 月 28 日
 調査原因 基礎解体
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2, 500分の1)

20 村裏遺跡 (むらうらいせき)

所在地 南区東若林町 1027
 立会日 2019 年 7 月 2 日
 調査原因 ガス管理設
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2, 500分の1)

21 天王遺跡（てんのういせき）

所在地 東区天王町字諏訪 823-3
 立会日 2019年7月2日
 調査原因 鉄塔建設
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 掘削の深さは包含層の上部にとどまったと考えられる。



位置図（2, 500分の1）

22 橋爪遺跡（はしづめいせき）

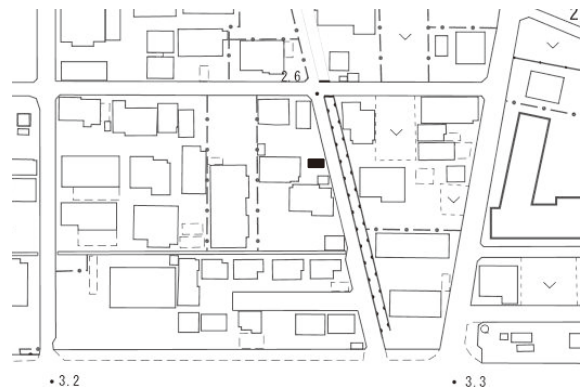
所在地 東区中郡町 370-1
 立会日 2019年7月13日
 調査原因 カーポート設置
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 掘削は盛土内に収まった。



位置図（2, 500分の1）

23 篠原町西前遺跡 （しのはらちょうにしまえいせき）

所在地 西区篠原町 20140
 立会日 2019年7月29日
 調査原因 浄化槽埋設
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2, 500分の1）

24 大塚古墳群（おおつかこふんぐん）

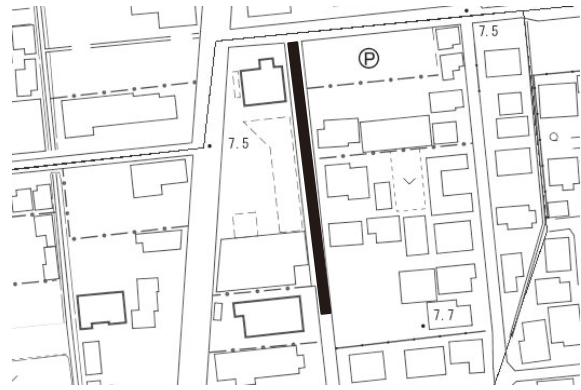
所在地 中区住吉五丁目 19-1 地先
 立会日 2019年7月29日
 調査原因 道路舗装、側溝布設
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2, 500分の1）

25 天王中野遺跡（てんのうなかのいせき）

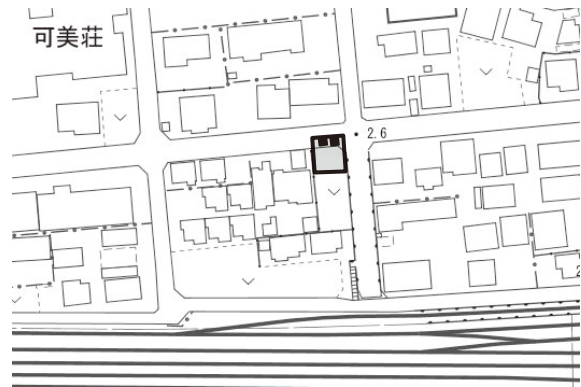
所在地 東区原島町地内
 立会日 2019年7月31日～8月2日
 調査原因 水道管工事
 検出遺構 なし
 出土遺物 陶器（中世か）
 立会結果 遺構は確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

26 増楽遺跡（ぞうらいせき）

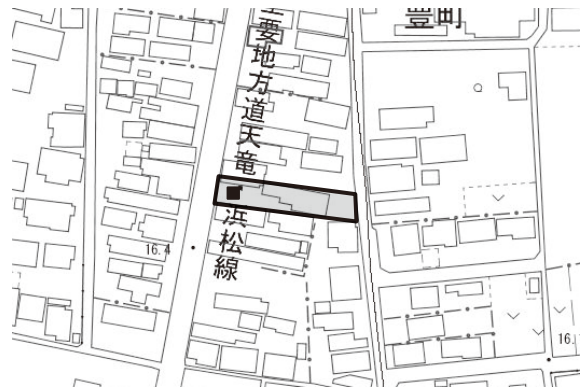
所在地 南区増楽町 1355-1、同地先
 立会日 2019年8月2日
 調査原因 ガス管埋設
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 掘削は基盤層に到達しなかった。



位置図（2,500分の1）

27 笠井上組遺跡（かさいかみぐみいせき）

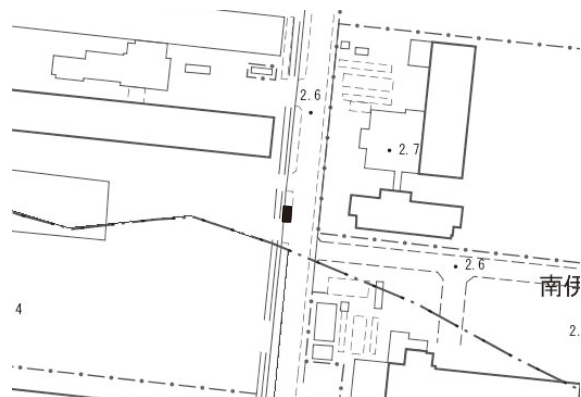
所在地 東区笠井町 12-1
 立会日 2019年8月2日
 調査原因 木造2階建て専用住宅新築、ベタ基礎、一部地中梁施工
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

28 城山遺跡（しろやまいせき）

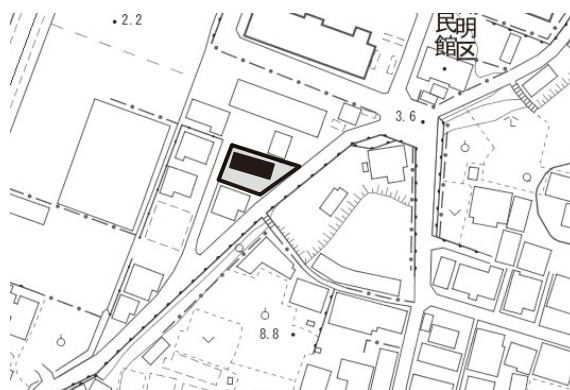
所在地 中区南伊場町
 立会日 2019年8月2日
 調査原因 橋梁撤去工事
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

29 殿畑遺跡（とのばたいせき）

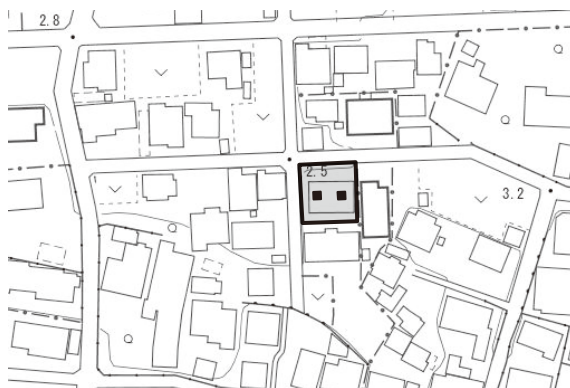
所在地 北区三ヶ日町三ヶ日 179-14
 立会日 2019年8月5日
 調査原因 住宅新築
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 掘削は包含層に到達しなかった。



位置図（2,500分の1）

30 増楽町村中遺跡（ぞうらちょうむらなかいせき）

所在地 南区増楽町 442-1
 立会日 2019年8月6日
 調査原因 集合住宅解体
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

31 中屋遺跡（なかやいせき）

所在地 浜北区根堅 197-1
 立会日 2019年8月20日
 調査原因 浄化槽設置
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

32 井伊氏館跡（いしやかたあと）

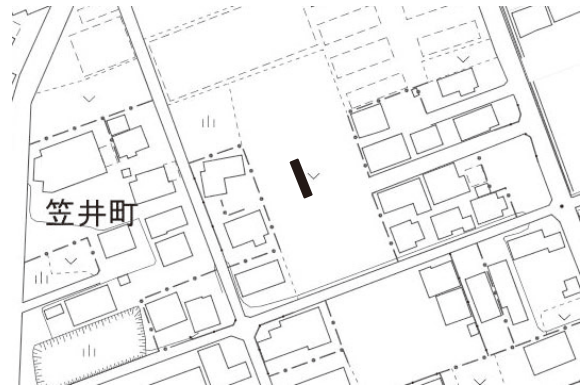
所在地 北区引佐町井伊谷 605-16、609-5 外
 立会日 2019年8月23日
 調査原因 見切り工
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 掘削は基盤層に到達しなかった。



位置図（2,500分の1）

33 笠井若林遺跡 (かさいわかばやしせいせき)

所在地 東区笠井町 1440-4、1440-6 外
 立会日 2019 年 8 月 30 日
 調査原因 見切工
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2, 500分の1)

34 若林町村西遺跡 (わかばやしちょうむらにせいせき)

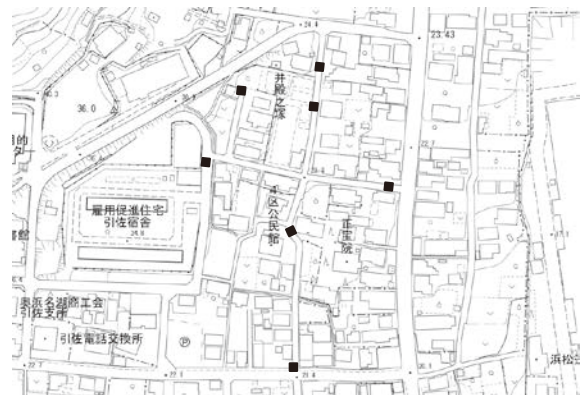
所在地 南区若林町 1507-6
 立会日 2019 年 9 月 17 日
 調査原因 ガス管理設
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2, 500分の1)

35 井伊氏館跡 (いーしやかたあと)

所在地 北区引佐町井伊谷 605-1 地先
 立会日 2019 年 9 月 25 日～10 月 24 日
 調査原因 水道管設置
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2, 500分の1)

36 大屋敷遺跡 (おおやしきせいせき)

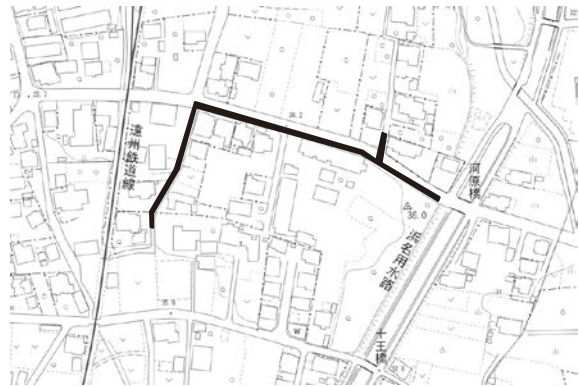
所在地 浜北区宮口 201-4
 立会日 2019 年 9 月 30 日
 調査原因 個人住宅建設
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2, 500分の1)

37 芝本遺跡（しばもといせき）

所在地 浜北区於呂地内
 立会日 2019年10月8日、11月8日
 調査原因 水道管工事
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（5,000分の1）

38 棕木遺跡（むくぎいせき）

所在地 東区子安町地内
 立会日 2019年10月16日
 調査原因 ガス管工事
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

39 高塚町村東遺跡 （たかつかちょうむらひがしいせき）

所在地 南区高塚町 84
 立会日 2019年10月23日
 調査原因 建物基礎
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

40 浜松城跡（はまつじょうあと）

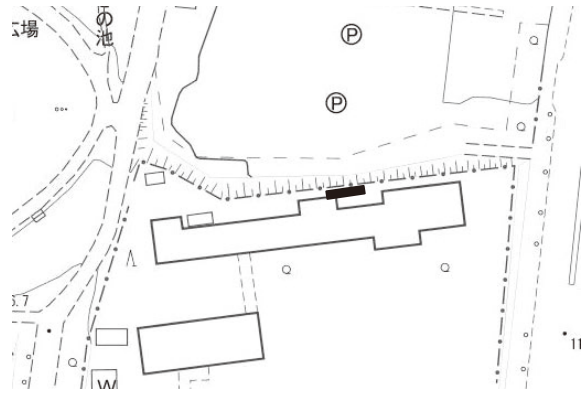
所在地 中区紺屋町・元城町地内
 立会日 2019年10月25日
 調査原因 基礎解体
 検出遺構 小穴
 出土遺物 瓦片
 立会結果 近世以前の遺構・遺物が残存している可能性がある。※詳細は『浜松城跡14』（2021年3月刊行予定）にて掲載。



位置図（2,500分の1）

41 浜松城跡（はまつじょうあと）

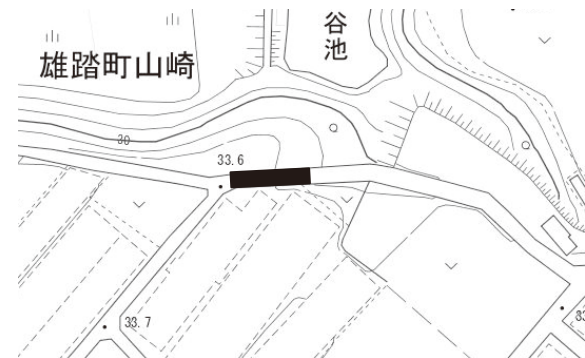
所在地 中区元城町地内
 立会日 2019年10月28日
 調査原因 法面工事
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

42 長者平遺跡（ちょうじゃびらいせき）

所在地 西区雄踏町山崎地内
 立会日 2019年10月31日
 調査原因 農道舗装
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 包含層に到達しなかった。



位置図（2,500分の1）

43 鳥居松遺跡（とりいまついせき）

所在地 中区森田町畷東 93
 立会日 2019年11月1日
 調査原因 建物基礎
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

44 上新屋遺跡（かみあらやいせき）

所在地 東区上新屋町地内
 立会日 2019年11月13日
 調査原因 擁壁工事
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

45 増楽遺跡（ぞうらいせき）

所在地 南区増楽町 1491
 立会日 2019 年 11 月 26 日
 調査原因 建物基礎
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

46 本屋敷遺跡（もとやしきいせき）

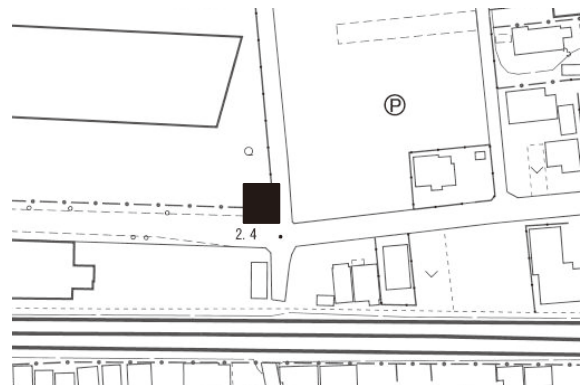
所在地 北区引佐町金指地内
 立会日 2019 年 11 月 28 日、12 月 3 日
 調査原因 水道管埋設
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

47 日晩遺跡（ひばんいせき）

所在地 南区高塚町 300
 立会日 2019 年 11 月 29 日
 調査原因 ガス管工事
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

48 恒武西宮遺跡（つねたけにしみやいせき）

所在地 東区貴平町 1721
 立会日 2019 年 12 月 3 日
 調査原因 浄化槽設置
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

49 権現谷遺跡（ごんげんやいせき）

所在地 中区和合町地内
 立会日 2019年12月6日
 調査原因 ガス管工事
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

50 東若林遺跡（ひがしわかばやしいせき）

所在地 南区若林町
 立会日 2019年12月9日
 調査原因 建物基礎
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

51 暇東遺跡（なわてひがしいせき）

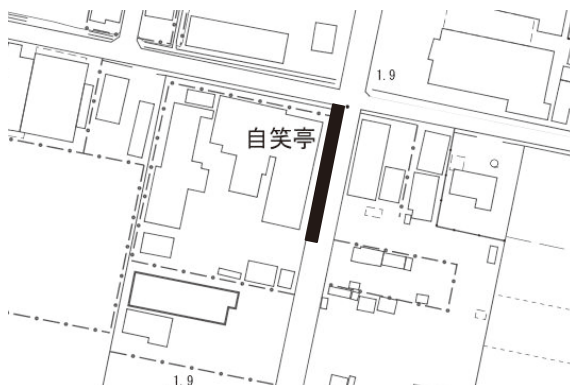
所在地 中区森田町95地先
 立会日 2019年12月11日
 調査原因 ガス管工事
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

52 鳥居松遺跡（とりいまついせき）

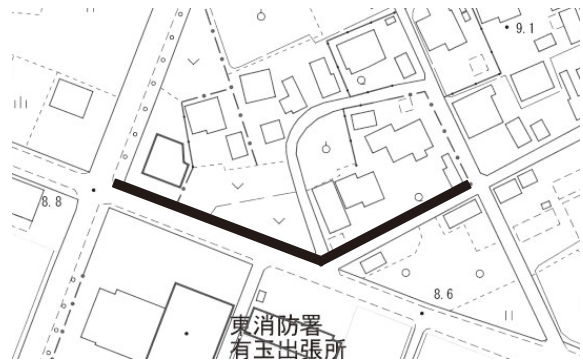
所在地 中区森田町
 立会日 2019年12月19日、20日
 調査原因 ガス管工事
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

53 東畑屋遺跡（ひがしはたやいせき）

所在地 東区有玉南町 1328 地先
立会日 2019 年 12 月 19 日～2020 年 1 月 16 日
調査原因 排水溝築造工事
検出遺構 土坑
出土遺物 山茶碗、かわらけ
立会結果 本調査の行われた消防署の北側に位置する。やや遺構・遺物が希薄である。



位置図（2,500分の1）

54 万斛西遺跡（まんごくにしいせき）

所在地 東区中郡町 980 番地外
立会日 2019 年 12 月 23 日
調査原因 公園整備工事
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

55 落合遺跡（おちあいいせき）

所在地 北区細江町気賀 167-1 地先
立会日 2020 年 1 月 9 日、20 日
調査原因 水道管理設工事
検出遺構 なし
出土遺物 土師器小片
立会結果 遺構は確認できなかった。遺跡の希薄地点だと考えられる。



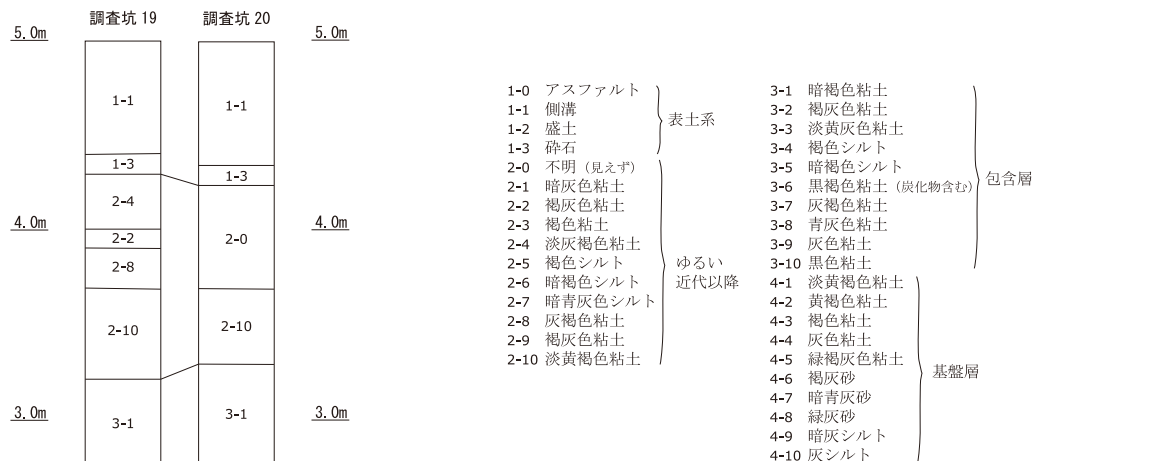
位置図（2,500分の1）

56 将監名遺跡 7 次（しょうげんみょういせき）

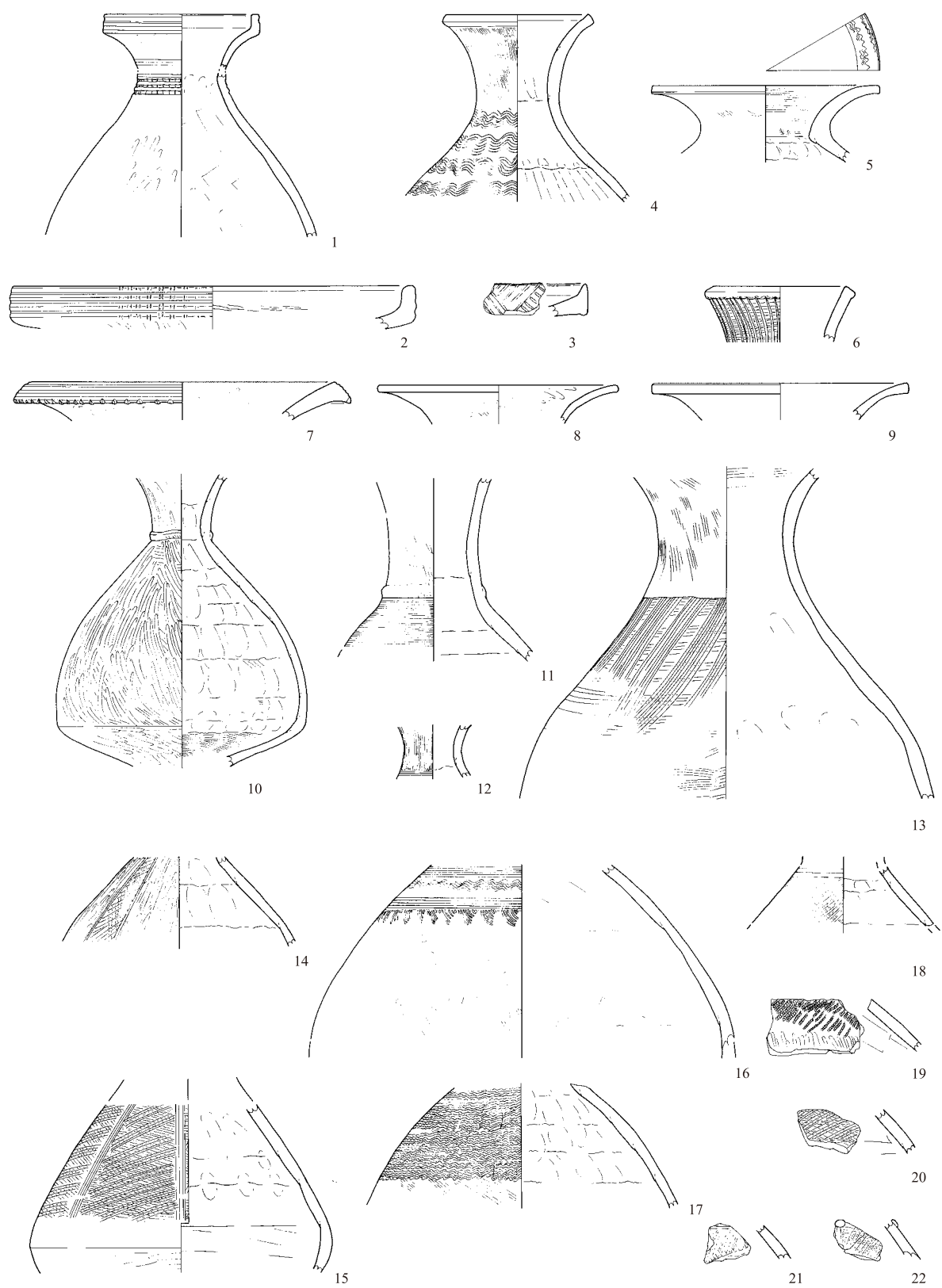
所在地 東区将監町 16-1 地先
立会日 2020 年 1 月 14 日～2 月 14 日
調査原因 水道管理設
検出遺構 土坑
出土遺物 弥生土器（中期・後期）
立会結果 遺跡の範囲は、これまでの想定よりも南へ広がっている。遺跡範囲の変更について検討をする。



位置図（5,000分の1）



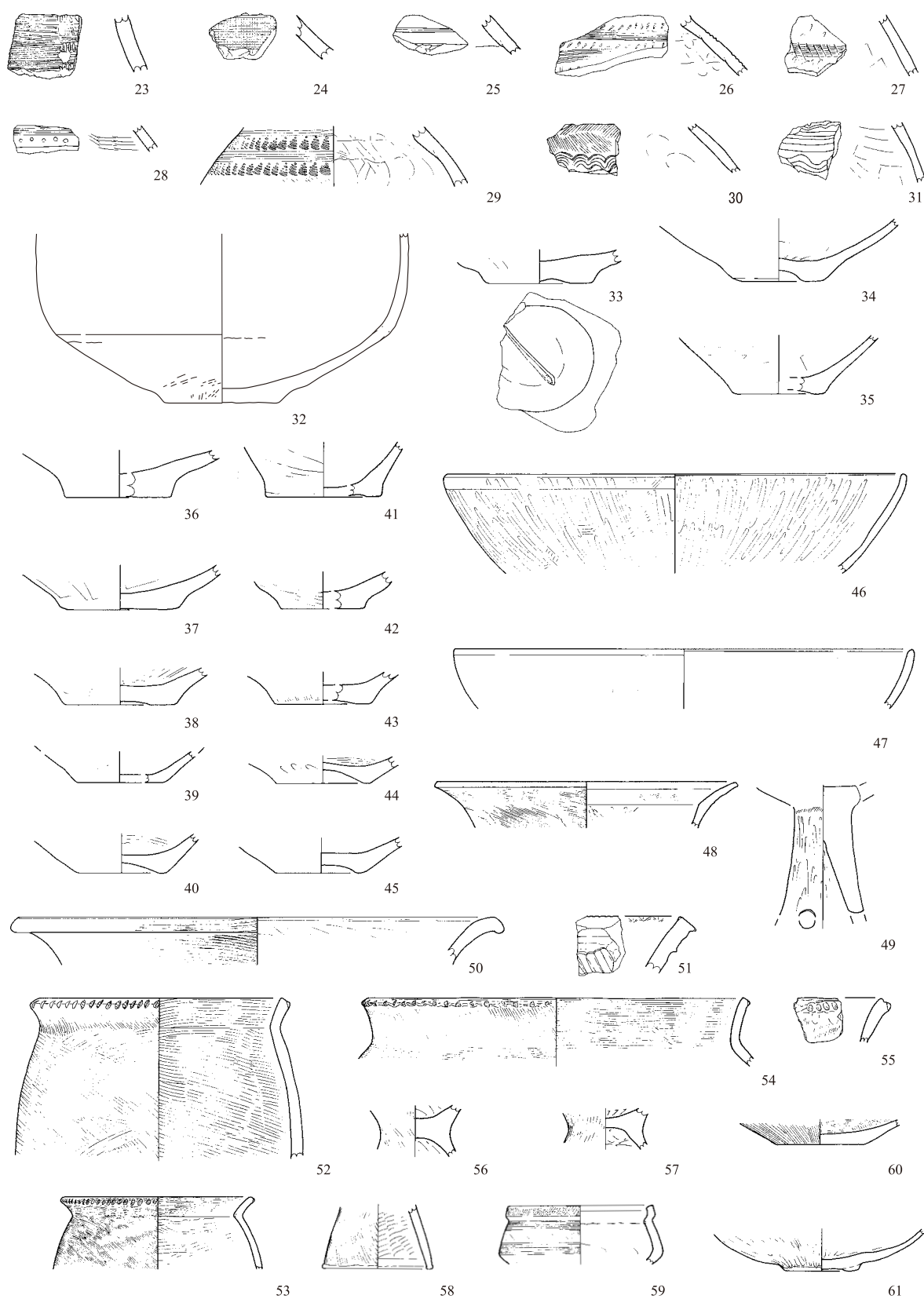
124



1 ~ 22: 弥生土器 (壺)
1 ~ 22: 土坑内一括

0 1:4 20cm

出土遺物実測図 (S=1/4)



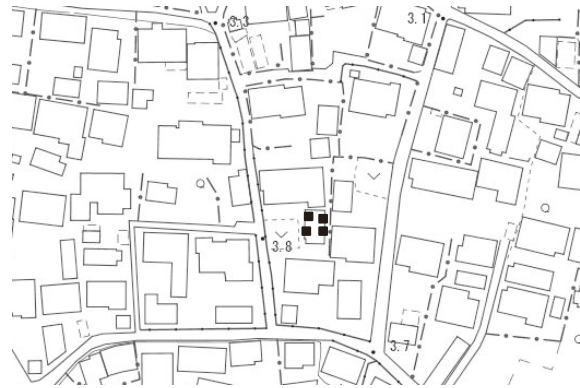
23 ~ 45: 弥生土器 (壺) 46 ~ 49: 弥生土器 (高坏) 50 ~ 58: 弥生土器 (甕) 59 ~ 61: 弥生土器 (鉢)
23 ~ 61: 土坑内一括

0 1:4 20cm

出土遺物実測図 (S=1/4)

57 国方遺跡 (くにがたいせき)

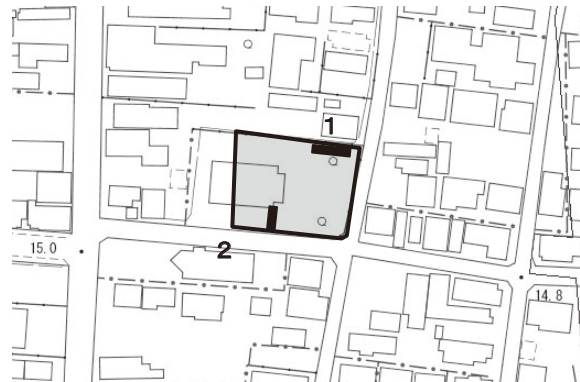
所在地 西区篠原町字国方 9284-1
 立会日 2020 年 1 月 27 日
 調査原因 カーポート新設
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2, 500分の1)

58 笠井下組遺跡 (かさいしもぐみいせき)

所在地 東区笠井町 69-1、71-1
 立会日 2020 年 1 月 29 日
 調査原因 見切工
 検出遺構 なし
 出土遺物 須恵器、土師器 (表採による)
 立会結果 掘削工事では、遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2, 500分の1)



立会箇所 2 土層堆積状況

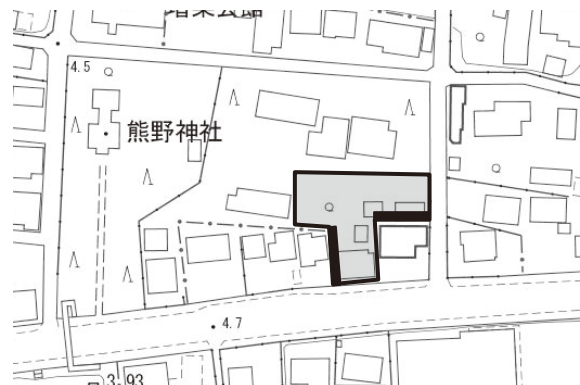


1: 須恵器 (表採)

出土遺物実測図 (S=1/4)

59 増楽町村中遺跡 (ぞうらちょうむらなかいせき)

所在地 南区増楽町 391-1 外
 立会日 2020 年 1 月 29 日、2 月 14 日
 調査原因 見切工
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2, 500分の1)

60 東若林遺跡（ひがしわかばやしせき）

所在地 南区東若林町 977
 立会日 2020 年 1 月 30 日
 調査原因 ガス管工事
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

61 大屋敷遺跡（おおやしきいせき）

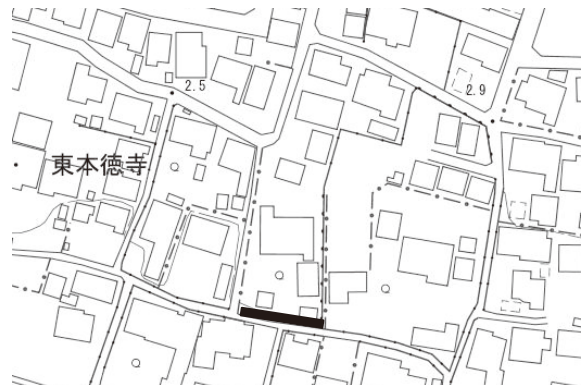
所在地 浜北区宮口 380
 立会日 2020 年 2 月 3 日
 調査原因 住宅新築
 検出遺構 落ち込み 2ヶ所
 出土遺物 なし
 立会結果 落ち込みを確認。



位置図（2,500分の1）

62 柳ノ内遺跡（やなぎのうちにせき）

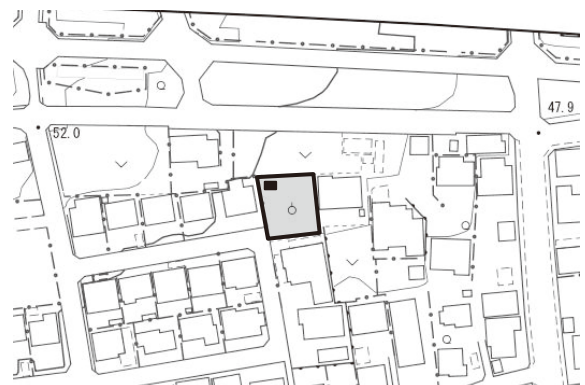
所在地 西区馬郡町 1260-2、1260-3
 立会日 2020 年 2 月 3 日
 調査原因 道路拡幅
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 包含層に到達せず、遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

63 中屋遺跡（なかやいせき）

所在地 浜北区根堅 1702-1
 立会日 2020 年 2 月 10 日
 調査原因 浄化槽設置
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

64 笠井若林遺跡（かさいわかばやしせいせき）

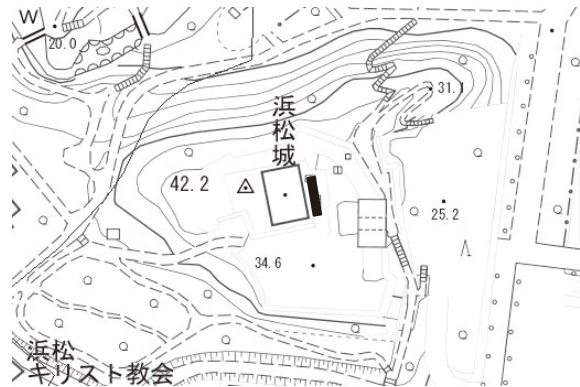
所在地 東区笠井町字若林 1450-1
 立会日 2020年2月10日
 調査原因 擁壁工事
 検出遺構 なし
 出土遺物 土師器
 立会結果 包含層には到達せず。遺構も確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

65 浜松城跡（はまつじょうあと）

所在地 中区元城町地内
 立会日 2020年2月12日、13日
 調査原因 天守台手すり設置工事
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 天守付き櫓台石段の隙間を掘削。遺物・遺構共に確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

66 井通遺跡（いどおりいせき）

所在地 北区細江町気賀地内
 立会日 2020年2月12日、13日
 調査原因 上水道管修繕・補強
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

67 寺西遺跡（てらにしいせき）

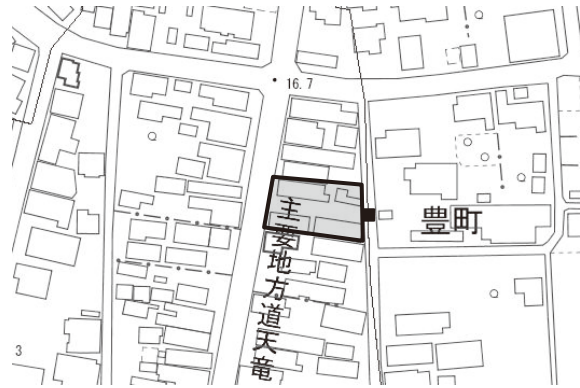
所在地 南区飯田町 817
 立会日 2020年2月13日
 調査原因 電柱建替工事
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

68 笠井上組遺跡 (かさいかみぐみいせき)

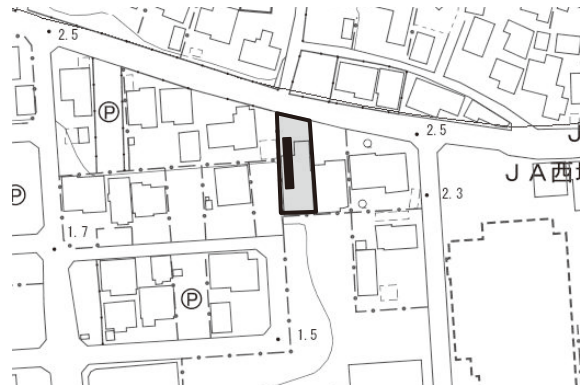
所在地 東区笠井町 6-2、7-1 外
 立会日 2020 年 2 月 14 日
 調査原因 下水道管引き込み
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

69 中脇遺跡 (なかわきいせき)

所在地 西区志都呂町 1002-37、1002-38
 立会日 2020 年 2 月 18 日
 調査原因 集合住宅建設
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

70 増楽遺跡 (ぞうらいせき)

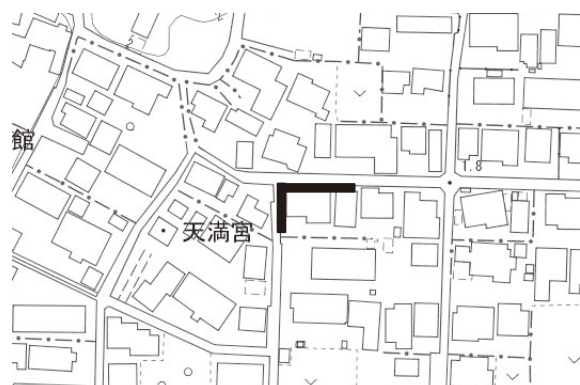
所在地 南区若林町 1476 番 3
 立会日 2020 年 2 月 25 日
 調査原因 電波塔建設
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

71 入野町村前遺跡 (いりのちょうむらまえいせき)

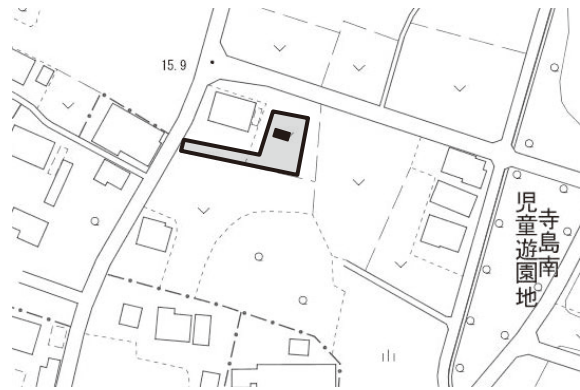
所在地 西区入野町 9630 番 2
 立会日 2020 年 2 月 25 日
 調査原因 道路拡幅
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 包含層に到達せず。



位置図 (2,500分の1)

72 宮東遺跡（みやひがしいせき）

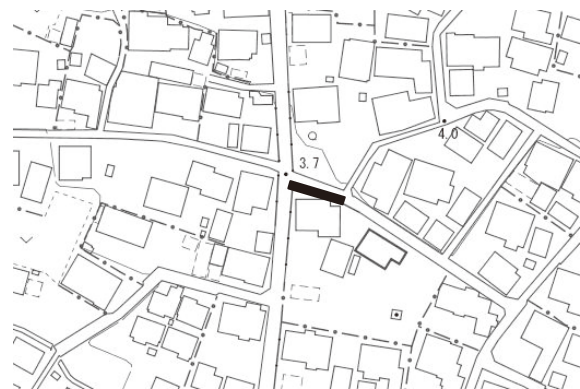
所在地 浜北区寺島 444-4、449-5
 立会日 2020年2月26日
 調査原因 浄化槽設置
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

73 国方遺跡（くにがたいせき）

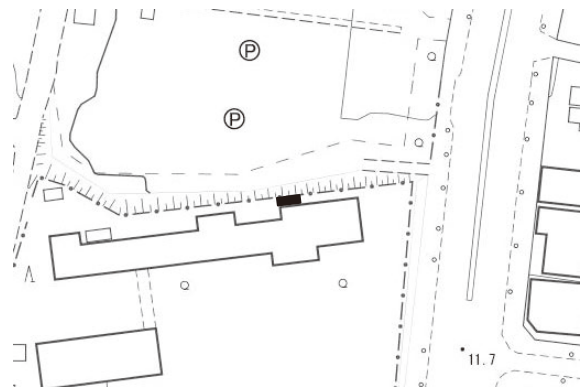
所在地 西区篠原町 9483-4
 立会日 2020年3月5日
 調査原因 道路拡幅に伴う境界ブロックの附設
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

74 浜松城跡（はまつじょうあと）

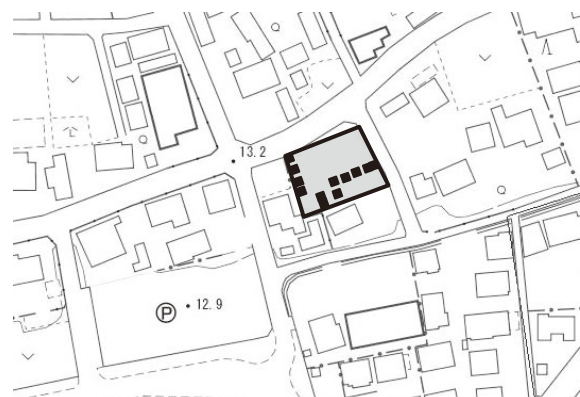
所在地 中区元城町地内
 立会日 2020年3月9日
 調査原因 安全対策工事
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

75 恒武西宮遺跡（つねたけにしみやいせき）

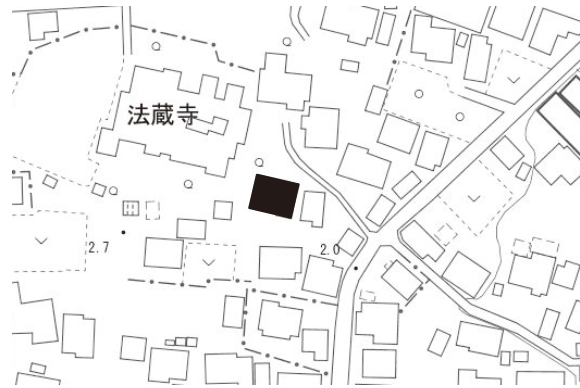
所在地 東区恒武町 245-1 外
 立会日 2020年3月11日、17日、27日
 調査原因 宅地分譲
 検出遺構 なし
 出土遺物 土師器、近世陶器
 立会結果 遺物包含層を確認した。



位置図（2,500分の1）

76 西脇貝塚（にしわきかいづか）

所在地 南区白羽町 890
 立会日 2020 年 3 月 26 日
 調査原因 住居解体
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。

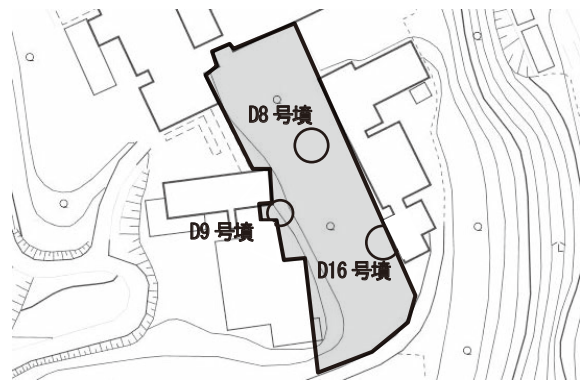


位置図（2,500分の1）

77 半田山CDEF古墳群

（はんだやましーでいーいーえふこふんぐん）

所在地 東区半田山一丁目 20-1
 立会日 2020 年 3 月 31 日
 調査原因 大学構内の整備
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 掘削工事が各古墳に及ばないことを確認した。



位置図（2,500分の1）

第4章 詳細報告

1 増楽遺跡11・12次調査報告

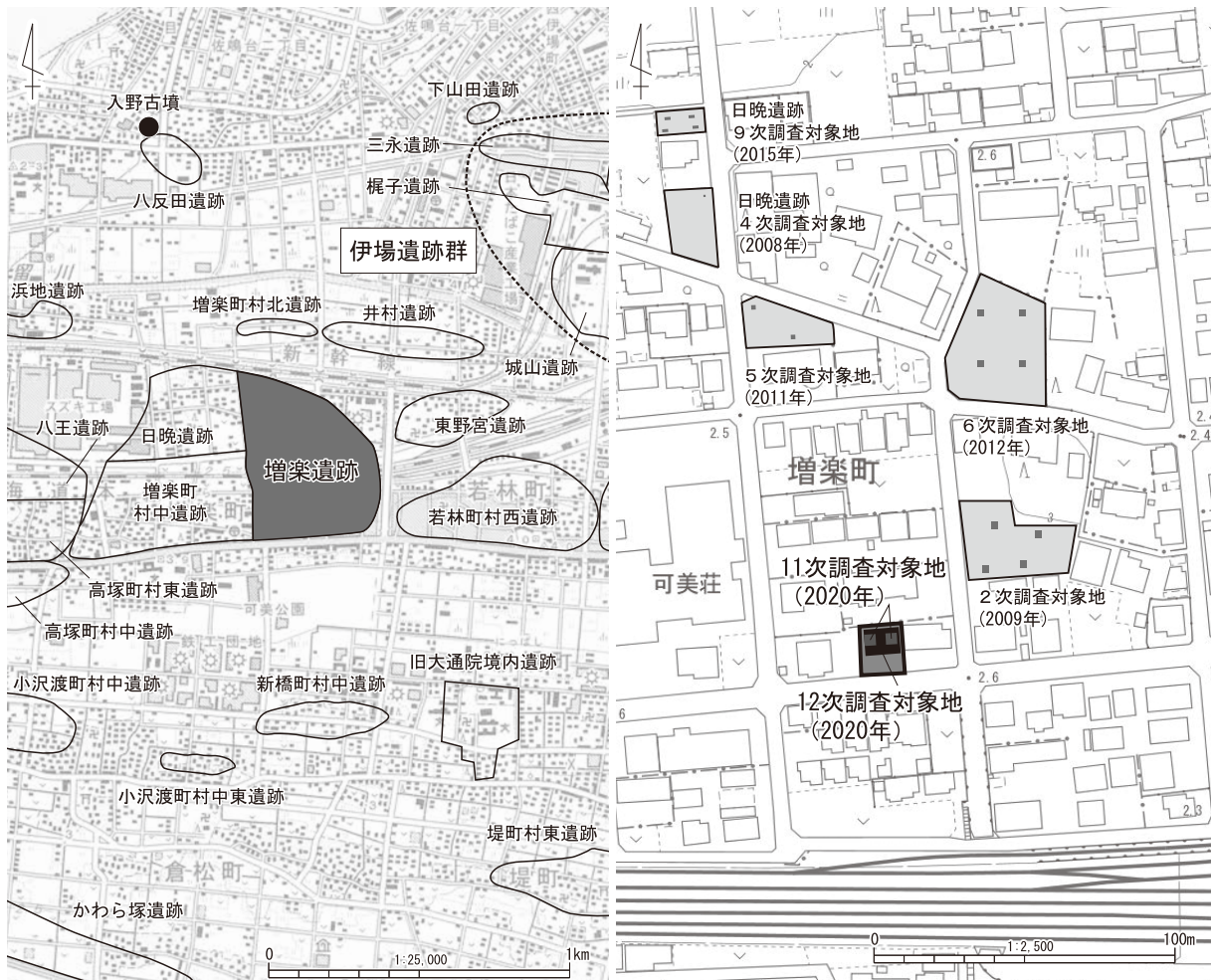
(1) 遺跡の概要と調査経緯

遺跡の位置と概要 増楽遺跡は、浜松市南区増楽町に所在する古代～中世を中心とした複合遺跡である。当遺跡は、浜松市南部の東西に延びる砂堤列上に位置し、周辺には日晩遺跡、増楽町村中遺跡、若林町村西遺跡等が隣接する。

増楽遺跡では、これまでに10次にわたり部分的な発掘調査が行われている。今回報告する12次調査は、当遺跡において平面的な調査を実施した初めての調査である。

調査の経緯 増楽遺跡の埋蔵文化財包蔵地内において個人住宅の新設工事が計画された。このことを受けて、2019年9月30日に遺跡の埋没状況を確認するための予備調査を実施した（11次調査）。対象地内に2箇所の調査坑を設定し、調査を行った結果、いずれの調査坑においても古代～中世にかけての遺物包含層と遺構が良好な状態で埋没していることが確認された。この結果を踏まえ、遺跡の取扱いについて協議を行った結果、工事により遺跡の保護が図れない部分について、記録保存のための本発掘調査を実施した（12次調査）。

本発掘調査は、2019年10月1日・2日にかけて実施した。調査対象面積は、約63㎡である。



第1図 増楽遺跡の位置と調査の状況

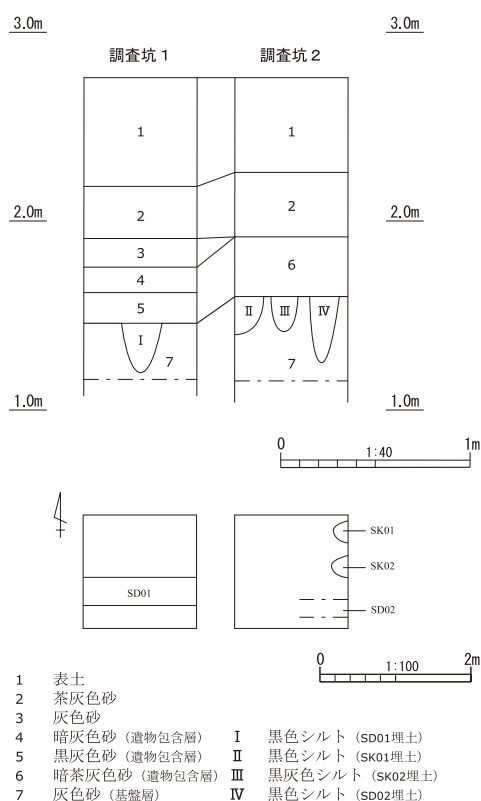
(2) 11次調査

土層堆積状況 調査区内に2箇所の調査坑を設定し、土層堆積状況の確認をおこなった。調査坑内における基本層序は次のとおりである。

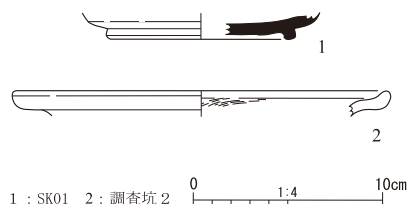
1層：表土、2層：茶灰色砂、3層：暗茶灰色～黒灰色砂（遺物包含層）、4層：灰色砂（基盤層）の順に確認した。

検出遺構 調査区内を精査した結果、各調査坑において基盤層から掘り込まれた遺構を検出した。西側の調査坑（調査坑1）からは溝1条、東側の調査坑（調査坑2）からは溝1条と土坑2基を検出した。両調査坑において検出した溝は、進行方向が対応し、埋土も酷似することから、同一遺構と考えられる。

出土遺物 調査坑内から古代～中世にかけての遺物が出土した。出土した遺物は小片のものが多く、図化できた遺物を第3図に示した。1はSK01から出土した須恵器の有台坏身、2は土師器の甕である。いずれも8世紀代のものと考えられる。



第2図 土層柱状図及び平面略測図



第3図 出土遺物実測図



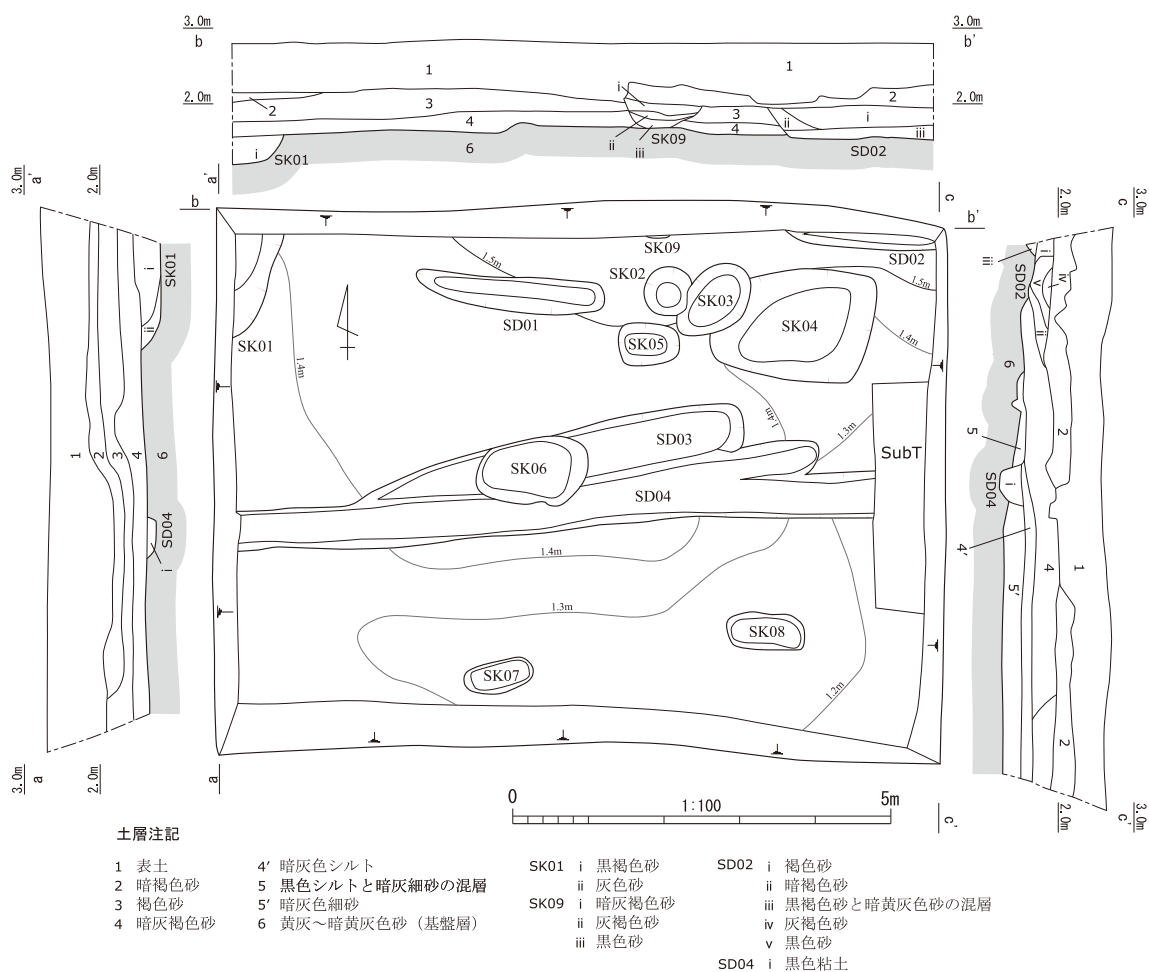
第4図 主な出土遺物

(3) 12次調査

土層堆積状況 調査区内における基本層序は次のとおりである。1層：表土、2層：褐色～暗褐色砂、3層：暗灰褐色～暗灰色シルト（遺物包含層）、4層：暗灰色細砂、5層：暗黄灰色～黄灰色砂（基盤層）の順に確認した。確認した土層堆積状況は、11次調査で確認した土層堆積とおおむね近似している。基盤層は、北側から南側に向かって緩やかに低くなることが認められ、最も低い調査区の南西部において4層の堆積が確認された。

検出遺構 調査区の全域から古代を中心とした時期の溝と土坑を検出した。遺構検出面は、おおむね5層上面であるが、一部3層及び4層から掘り込まれた遺構も存在した。

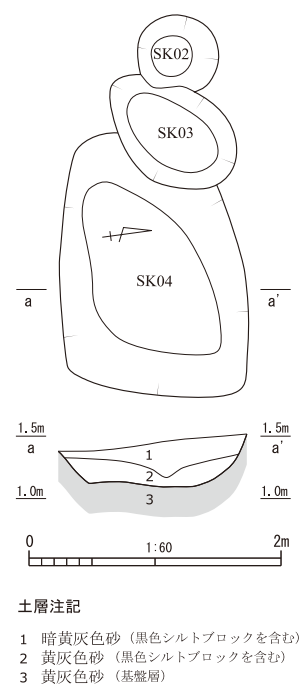
調査区内において東西方向に延びる溝を4条検出した。SD01は、調査区の北側で検出した浅い溝である。全長は1.3m、幅0.25m、深さは0.1m程である。埋土から8世紀代の須恵器と土師器が出土した。調査区の中央で重複して掘り込まれたSD03とSD04を検出した。SD03がSD04を切っ



第5図 平面図及び土層断面図

て掘り込まれている。SD04は調査区外へと延びているため全容は不明であるが、幅0.6m、深さ0.3m、埋土は黒色粘土である。なお、SD04は、11次調査で確認された溝と同一のものである。SD01とSD04より8世紀代の須恵器と土師器が出土したことから、同時代の遺構と考えられる。

調査区内において土坑を8基検出した。SK01は調査区の北東隅で検出した土坑である。SK01の大部分は調査区外であり、調査区内で確認できたのは全体の四分の一程と考えられる。そのため全容は不明であるが、調査区内で確認した規模は、長辺1.4m、短辺0.6mである。出土した遺物から8世紀代の遺構と考えられる。SK04は調査区の北東部で検出した土坑である。一部SK03によって切られているが、おおむね良好に残存している。規模は、長辺2.1m、短辺1.5m、深さ0.4m、埋土は暗黄灰色砂と黄灰色砂である。出土した遺物から8世紀代の遺構と考えられる。その他の土坑からは遺物は確認されなかったが、埋土が酷似していることから8世紀代の遺構であると考えられる。



第6図 SK04詳細図

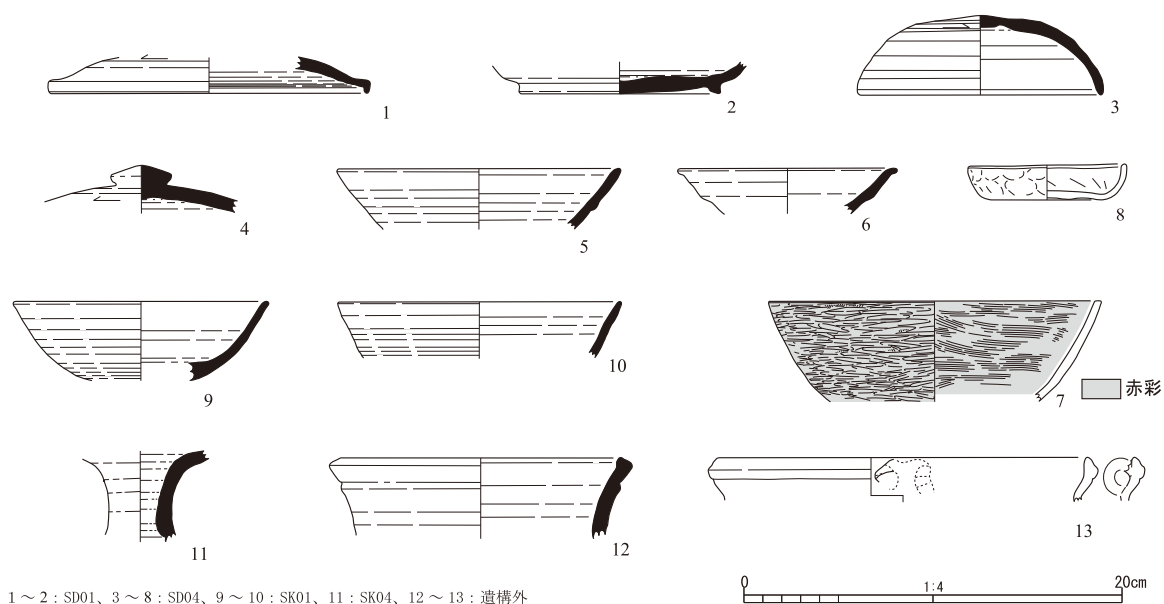
出土遺物 出土遺物は、小片のものが中心であるが図化できた遺物を第7図に示す。1～11は遺構内、12・13は3層（包含層）内からの出土遺物である。1・2はSD01から出土した須恵器である。1は蓋、2は有台坏身である。8世紀のものと考えられる。3～8はSD04から出土した遺物である。3～6は須恵器、7は土師器の碗であり、内外面ともに赤採が施されている。いずれも7～8世紀のものと考えられる。8は手づくね成形のかわらけであり、混入品と考えられる。9・10はSK01から出土した須恵器の碗、11はSK04から出土した須恵器のハソウである。いずれも8世紀のものと考えられる。12は須恵器の瓶類の口縁部、13は内耳鍋の口縁部である。12は8世紀、13は15～16世紀のものと考えられる。

（4）結語

今回の調査の結果、土坑と溝を確認し、古代を中心とする遺跡が展開していることが明らかとなった。当該地の地形は北東部で基盤層が最も高く、南に向かって低くなることが確認された。さらに、南側では遺構・遺物も少なくなる傾向がみられることから、遺跡の中心は当該地の北東側に展開していると考えられる。

また、少量ながら古墳時代及び中世の遺物も確認された。明確な遺構は確認されなかったが、周辺で行われた調査においても古墳時代から中世にかけての遺物が確認されていることから、当該地の周辺には長期的に遺跡が展開していたと考えられる。

（川西啓喜）



第7図 出土遺物実測図

2 若林町村西遺跡14・15次調査報告

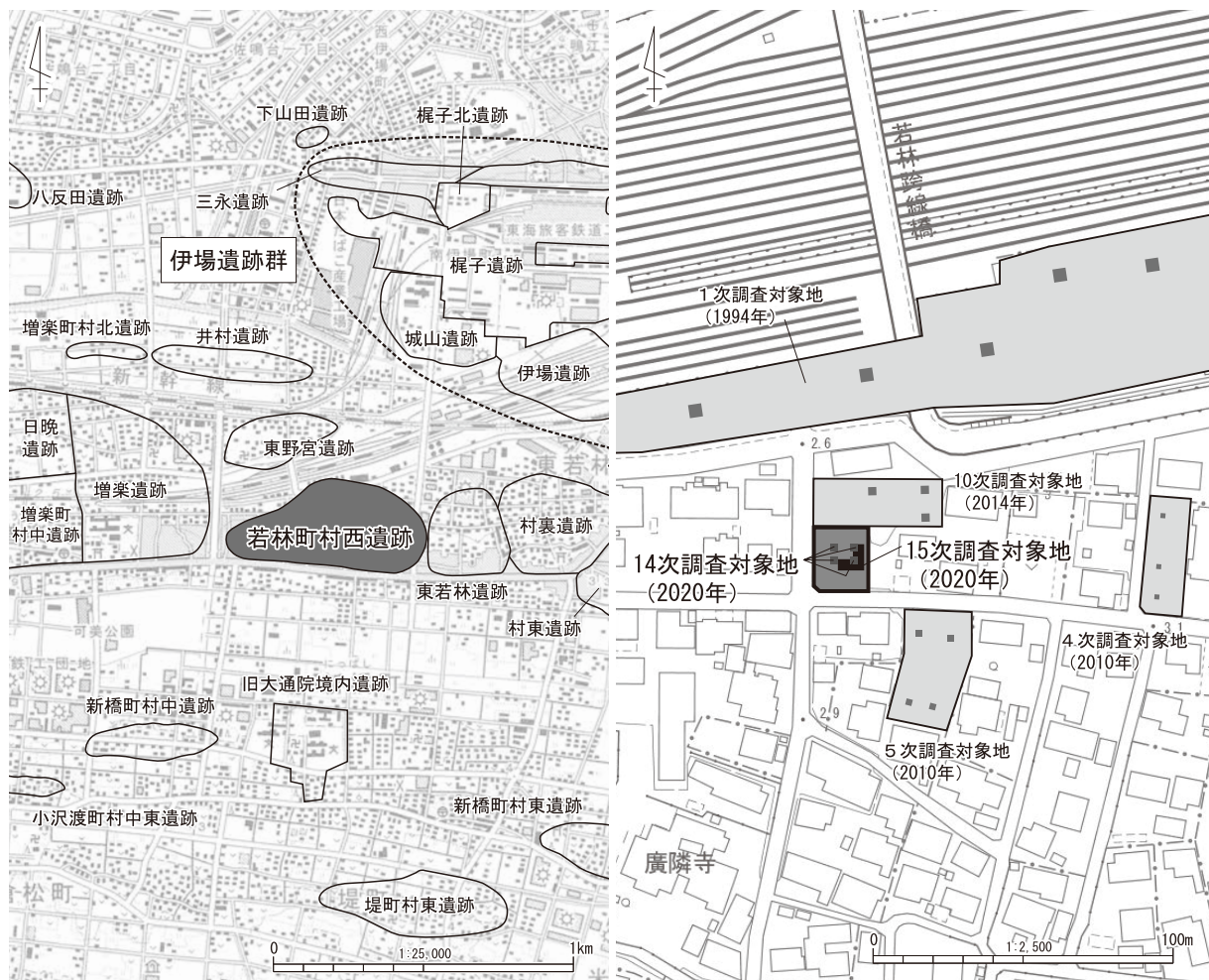
(1) 遺跡の概要と調査経緯

遺跡の位置と概要 若林町村西遺跡は、浜松市南部の海岸平野に展開する縄文時代～近世にかけての集落遺跡である。海岸平野上には東西に延びる砂堤が形成され、砂堤と砂堤との間には湿地が広がる。砂堤は、三方原台地直下に最初に形成された砂堤（第1砂堤列）が位置し、現在は雄踏街道が通る。これまでに現在の中田島砂丘を含めて、8条の砂堤列が確認されており、若林町村西遺跡は、北から3番目の砂堤列（第3砂堤列）上に位置する。

若林町村西遺跡では、これまでに13次にわたる発掘調査が行われている。なかでも、宅地造成に伴い実施した1次調査（浜松市文化協会 1996）では、奈良時代から江戸時代にかけての遺物が数多く確認されている。遺構・遺物の中心となるのは、8世紀と16世紀であり、それぞれ竪穴建物跡22基、掘立柱建物跡3基が検出されており、集落跡が展開していたと考えられる。

調査の経緯 若林町村西遺跡の埋蔵文化財包蔵地内において個人住宅の新設工事が計画された。このことを受けて、2019年12月11日に遺跡の埋没状況を確認するための予備調査を実施した（14次調査）。対象地内に4箇所の調査坑を設定し、調査を行った結果、対象地の南東部において遺構及び遺物包含層が確認された。この結果を踏まえ、遺跡の取扱いについて協議を行った結果、工事により遺跡の保護が図れない部分について、記録保存のための本発掘調査を実施した（15次調査）。

本発掘調査は、2019年12月12日・13日にかけて実施した。調査対象面積は、約13㎡である。



第8図 若林町村西遺跡の位置と調査の状況

(2) 14次調査

土層堆積状況 調査区内に4箇所の調査坑を設定し、土層堆積状況の確認をおこなった。調査坑内における基本層序は次のとおりである。1層：盛土、2層：暗褐色砂（旧表土）、3層：茶褐色砂、4層：黒色砂（黄灰色砂のブロックを含む遺物包含層）、5層：黄灰色砂（基盤層）の順に確認した。

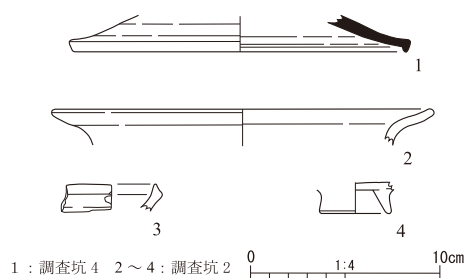
検出遺構 調査区内を精査した結果、南東部に設定した調査坑（調査坑4）において、土坑2基を検出した。いずれの土坑も調査区外へと延びているため、全容は不明である。

SK01は、出土遺物より8世紀代の遺構と考えられる。SK02においても埋土が酷似することから、同時代の遺構と考えられる。

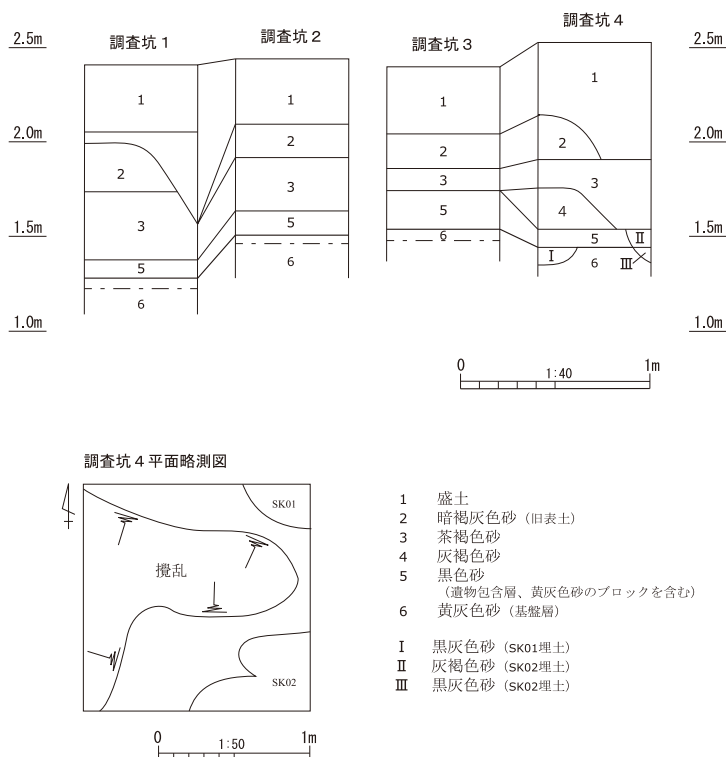
出土遺物 調査坑内から古代～中世にかけての遺物が出土した。

出土した遺物は小片のことが多いが、図化できた遺物を第11図に示した。

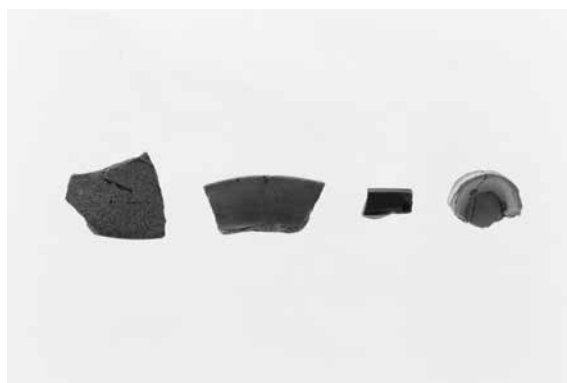
1は須恵器の蓋、2は土師器の甕である。いずれも8世紀代のものと考えられる。3は内耳鍋の口縁部、4は土師質土器の高台部である。



第10図 出土遺物実測図



第9図 土層柱状図及び平面略測図



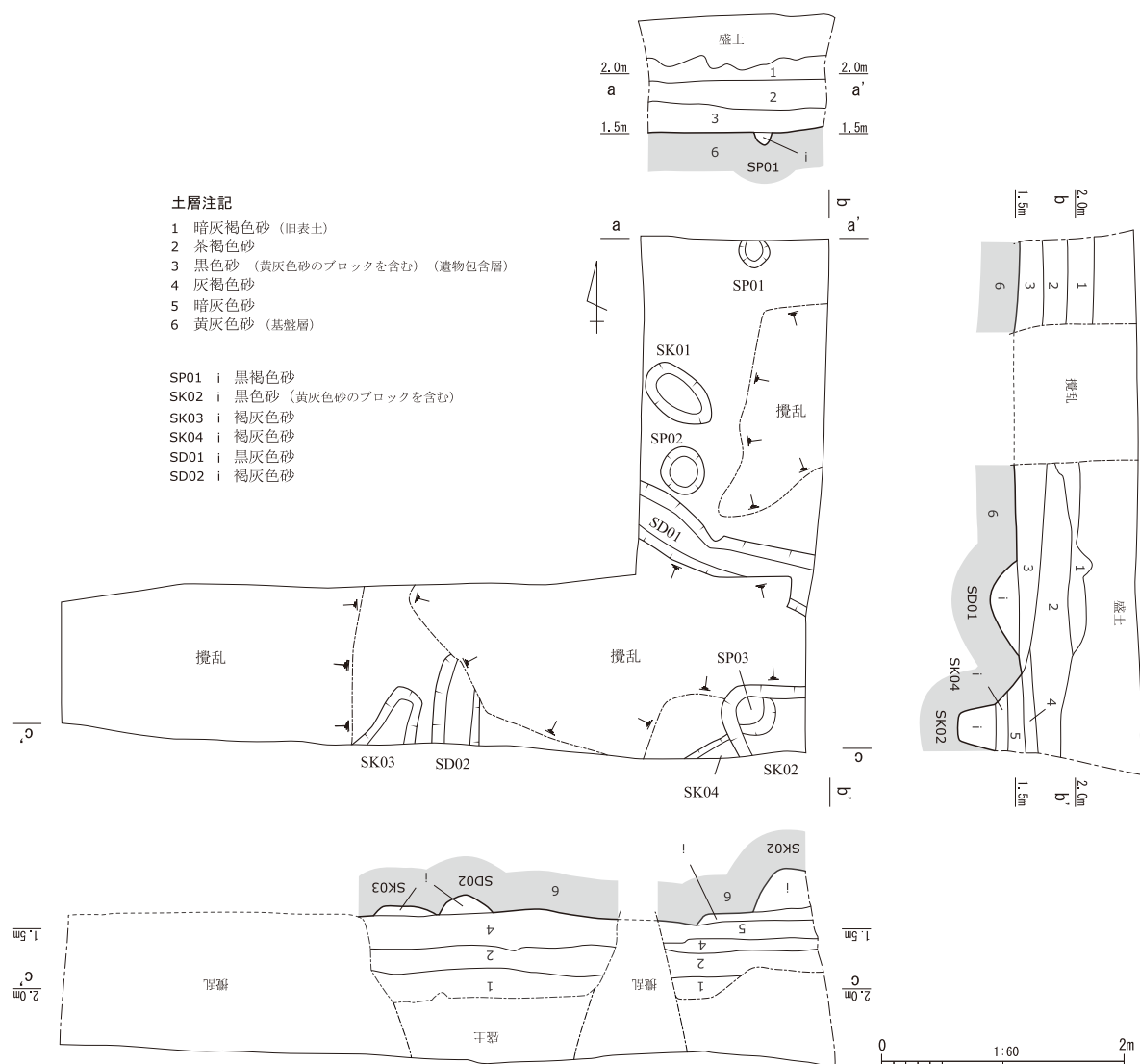
第11図 主な出土遺物

(3) 15次調査

土層堆積状況 調査対象地内は、後世の攪乱の影響を受けており、特に調査区の南部で顕著に見られた。調査区内における基本層序はおおむね14次調査と近似するが、調査区の南部では、基盤層（黄灰色砂）直上に灰褐色砂と暗灰色砂の堆積が確認された。

検出遺構 検出した遺構の多くは後世の攪乱の影響を受けていたため、全容がわかるものは少ないが、調査区内で溝2条、土坑3基、小穴3基を検出した。また、遺構内からの出土遺物は小片であり図化できたものはないが、7～8世紀代と考えられる須恵器と土師器が各遺構から出土していることから、いずれも同時代の遺構と捉えられる。

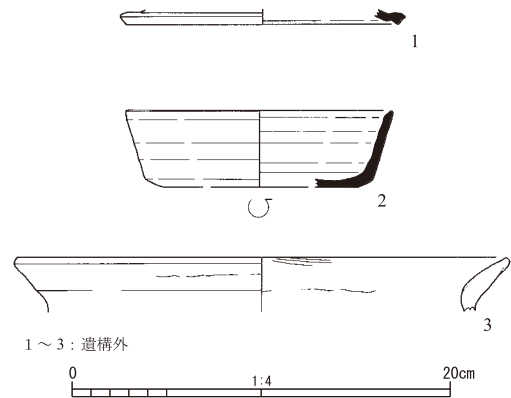
SD01は、調査区の中央部で検出した溝である。SD01の両端は調査区外へと延びているため全体の規模は不明であるが、調査区内で確認した規模は、全長1.6m、幅0.4m、深さ0.25m、埋土は黒灰色砂である。SD02は、調査区の南西部で検出した溝である。北端は攪乱により消滅しており、南端は調査区外へと延びているため、全容は不明であるが、調査区内で確認した規模は、全長0.75m、幅0.4m、深さ0.2m、埋土は褐灰色砂である。SK01は長辺0.7m、短辺0.4m、深さ0.1m程の土坑である。調査区の南東隅でSK02、SK04、SP03を検出した。いずれも調査区外へと延びているか遺構同士で切り合っているため、全容が明確なものはないが、切り合い関係からSK04→SP03→SK02の順に掘削されたことがわかる。SK03は調査区の南西部で検出した土坑である。南側は調査区外へと延びているが、調査区内で確認した規模は長辺短辺ともに0.5mであり、本来は細長い形状を呈すると考えられる。深さは0.1m、埋土は褐灰色砂である。調査区の北側から中央にかけてSP01とSP02を検出した。SP01は直径0.25m、深さ0.1m、SP02は直径0.4m、深さ0.1m、埋土はいずれも黒褐色砂である。



第12図 平面図及び土層断面図

出土遺物 出土した遺物は、7～8世紀代の須恵器と土師器が中心であるが、僅かに戦国時代の土師質土器も出土している。なお、遺物の大半は小片であり、図化できたものは多くないが、図化できた遺物を第13図に示す。

1・2は須恵器である。1は蓋の口縁部、2は箱形の坏身である。3は土師器の甕の口縁部である。1・2は8世紀、3は7～8世紀代のものと考えられる。



第13図 出土遺物実測図

(4) 結語

今回の調査の結果、小片ではあるものの包含層及び遺構内から出土した遺物より、7～8世紀代の遺跡が展開していることが明らかとなった。しかし、検出した遺構の大半が攪乱の影響を受けていたことと、調査面積が狭小であることから、建物跡等の明確に遺構の性格を捉えることはできなかった。

これまでの周辺の調査結果では、当該地の北西側で実施した1次調査では奈良時代の竪穴住居跡等が検出され、集落の展開が確認されており、北側隣接地で実施した10次調査（浜松市教育委員会 2014）においても、奈良時代を中心とした遺構・遺物が確認されていることから、北側を中心とした周辺に同時代の遺跡が展開していると考えられる。

（川西啓喜）

参考文献

- （財）浜松市文化協会 1996『若林村西遺跡』
浜松市教育委員会 2016『平成26年度 浜松市文化財調査報告』

3 恒武西宮遺跡26・28・29次調査報告

(1) 遺跡の概要と調査経緯

遺跡の立地と概要 恒武西宮遺跡は、天竜川平野の東区恒武町から貴平町にかけて広がる古墳時代から中世の遺跡であり、周辺に分布している複数の遺跡を含めて恒武・笠井遺跡群と総称されることもある。本遺跡や隣接する山ノ花遺跡では、古墳時代中～後期の遺構・遺物が広範に認められるが、天竜川平野全体における当該時期の集落跡は少ないことから、本遺跡周辺に拠点的な集落が展開していたと考えられる。

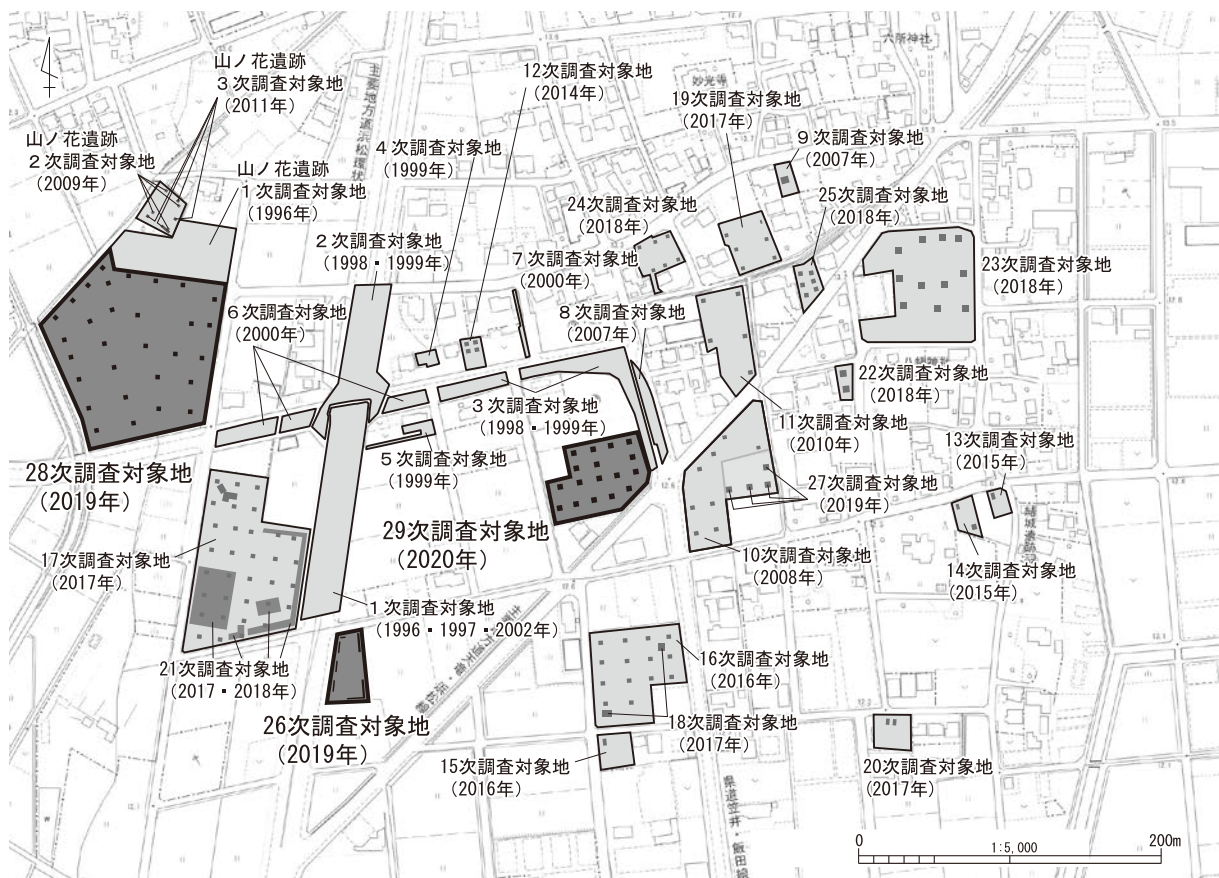
本遺跡では、令和元（2019）年に26～29次調査が行われた。いずれも別々の箇所における確認調査であるが、全ての調査で遺構・遺物が確認された。特に26・28・29次は比較的調査規模も大きく、一定の成果が得られたため、本節で報告する。

調査経緯と経過 26次調査は、墓地の増設に伴う擁壁工事に先立って実施された確認調査である。期間は平成31年4月8日～11日で、調査溝6箇所計約53㎡の調査を実施した。

28次調査は、倉庫建設計画に伴って実施された確認調査である。期間は令和2年2月25～26日で、調査対象地10,770㎡に対して調査坑30箇所計120㎡の調査を実施した。

29次調査は、工場建設計画に伴って実施された確認調査である。期間は令和2年3月5～6日で、調査対象地3,430㎡に対して調査坑17箇所計68㎡の調査を実施した。

（鈴木京太郎）



第14図 恒武西宮遺跡の範囲と調査の状況

(2) 26次調査の成果

調査の概要 調査対象地は、遺跡範囲の南端部にあたり、従来遺構・遺物の希薄な地点と想定されてきたが、調査溝1～6のうち、調査対象地北東部の調査溝1と南東部の調査溝2において一定量の遺構・遺物が確認された。一方で西部寄りに設定した調査溝3～6では明確な遺構は少なく、遺物も調査溝3・5で土師器細片が1点ずつ確認されたのみであった。

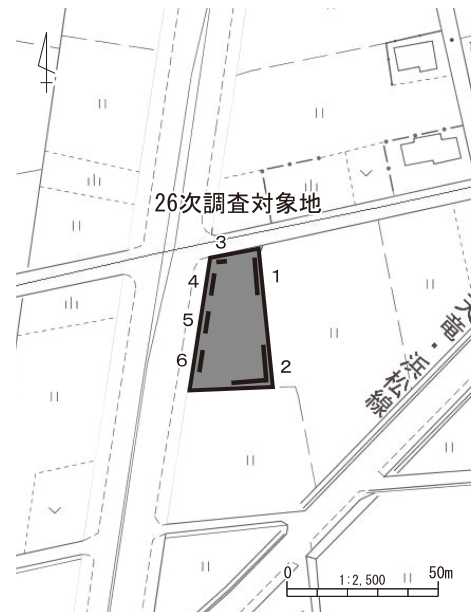
土層堆積状況 各調査坑における土層堆積状況は次のとおりである。1・2層：暗褐色～黒褐色シルト。表土または水田床土である。既往調査のⅠ層に相当する。3層：黄灰色～暗褐灰色シルト。古墳時代の遺物包含層である。既往調査のⅡ層（上層）に相当する。4層以下は基盤層である。4層：褐灰色砂質シルト。3層に類似するがやや砂質が強い。5層：黒色砂質シルト、6層：灰～暗灰色細砂、7層：灰～暗褐灰色砂質シルト。4～7層は既往調査のⅡ層（下層）に相当するとみられる。8層：暗灰色粘土。既往調査のⅢ層に相当する。基盤層の標高は約11.2m、1層上面からの深さは約30cmである。

検出遺構 調査溝1では溝3条、土坑6基を検出した。

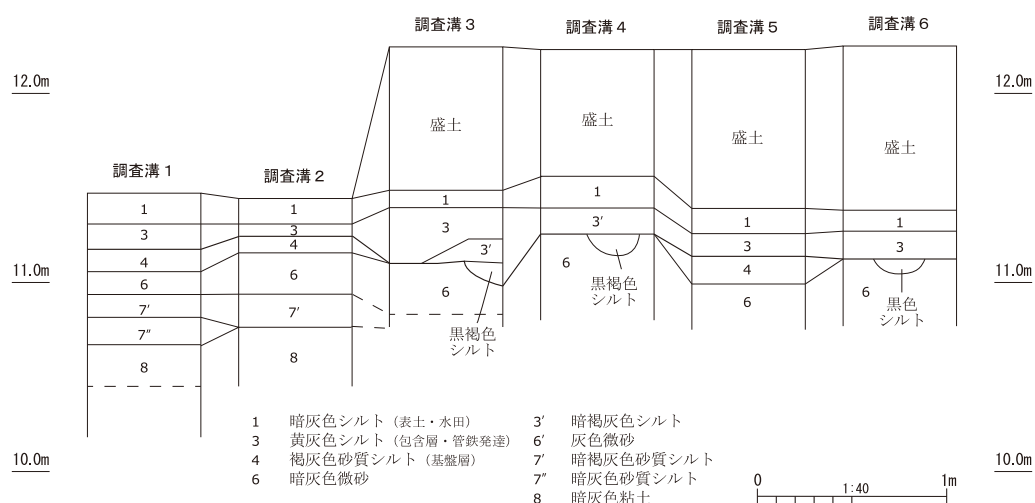
SD01は、調査溝1で検出された北北東－南南西に延びる溝である。北端は調査区外に及んでおり、南端は攪乱によって不明である。やや形状が歪で幅に変化がある。検出部分で長さ2.4m、最狭部の幅約40cm、深さ約20cmを測る。須恵器・土師器・砥石が出土している。

SD02は、SD01・SD03に挟まれており、両溝とほぼ平行に延びている。やや形状が歪で幅に変化がある。両端は調査区外に及んでおり、検出部分で長さ4.3m、最狭部の幅約38cm、深さ約22cmを測る。土師器が出土している。

SD03は、SD02に近接してほぼ平行に延びている。両端は調査区外に及んでおり、検出部分で長さ4.2m、最狭部の幅約32cm、深さ約18cmを測る。土師器が出土している。



第15図 26次調査溝配置図



第16図 26次調査土層柱状図

SK01 は、調査区の北西隅で検出された円形の土坑である。約 2/3 が調査区外に及んでいるとみられ、検出部分で長径 1 m、短径 60 cm、深さ 18 cm を測る。土師器が出土している。

SK02 は、調査区の北東隅で検出された。土層確認のため調査初期段階で設けた試掘坑によって一部破壊されている。土層観察における規模は径 78 cm、深さ 16 cm を測る。須恵器、土師器が出土している。

SK03 は、西側が調査区外に及んでいる。検出部分で径 70 cm、深さ 16 cm を測る。須恵器・土師器が出土している。

SK04 は、SK03 に隣接し、同様に西側が調査区外に及んでいる。検出部分で径 1.05 m、深さ 14 cm を測る。須恵器・土師器・勾玉形石製品が出土している。

SK05 は、東側は攪乱で失われ、西側は調査区外に及んでいるため全体像が不明であるが、残存部の規模は径 1.1 m、深さ 30 cm を測る。遺物は出土していない。

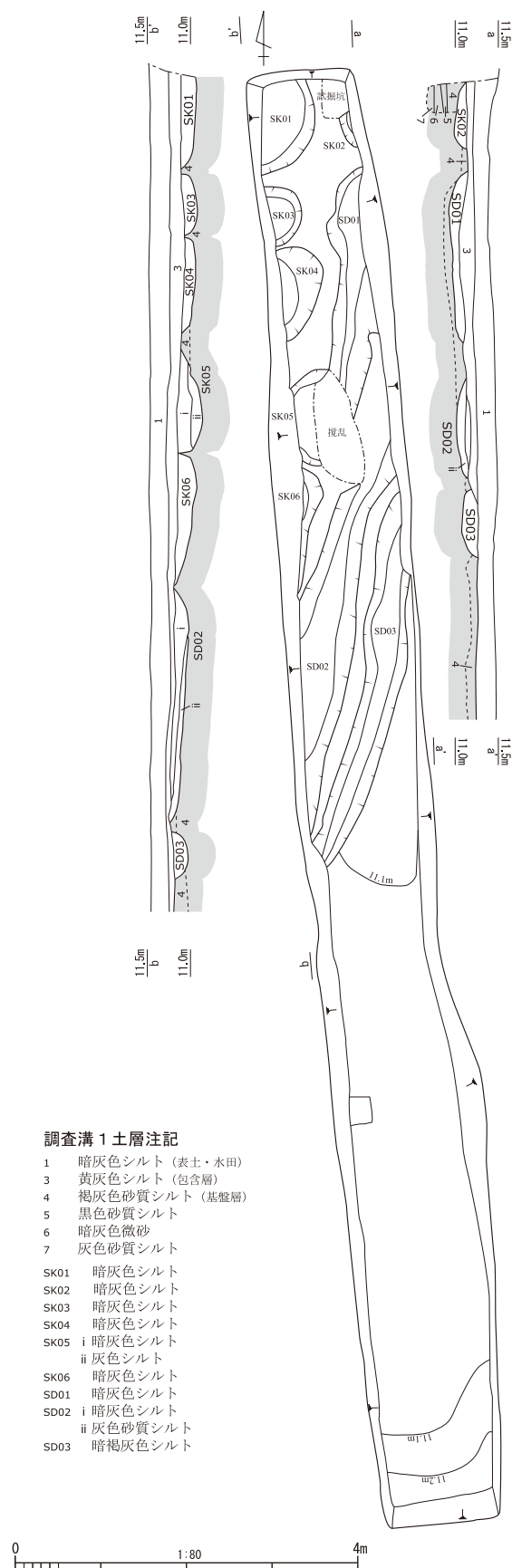
SK06 は、大半が調査区外に及んでいるため、土坑としたものの全体像が不明である。溝になる可能性もある。調査区断面で確認される規模は 1.56 m、深さは 22 cm である。遺物は出土していない。

調査溝 2 では、溝 4 条、土坑 1 基を検出した。

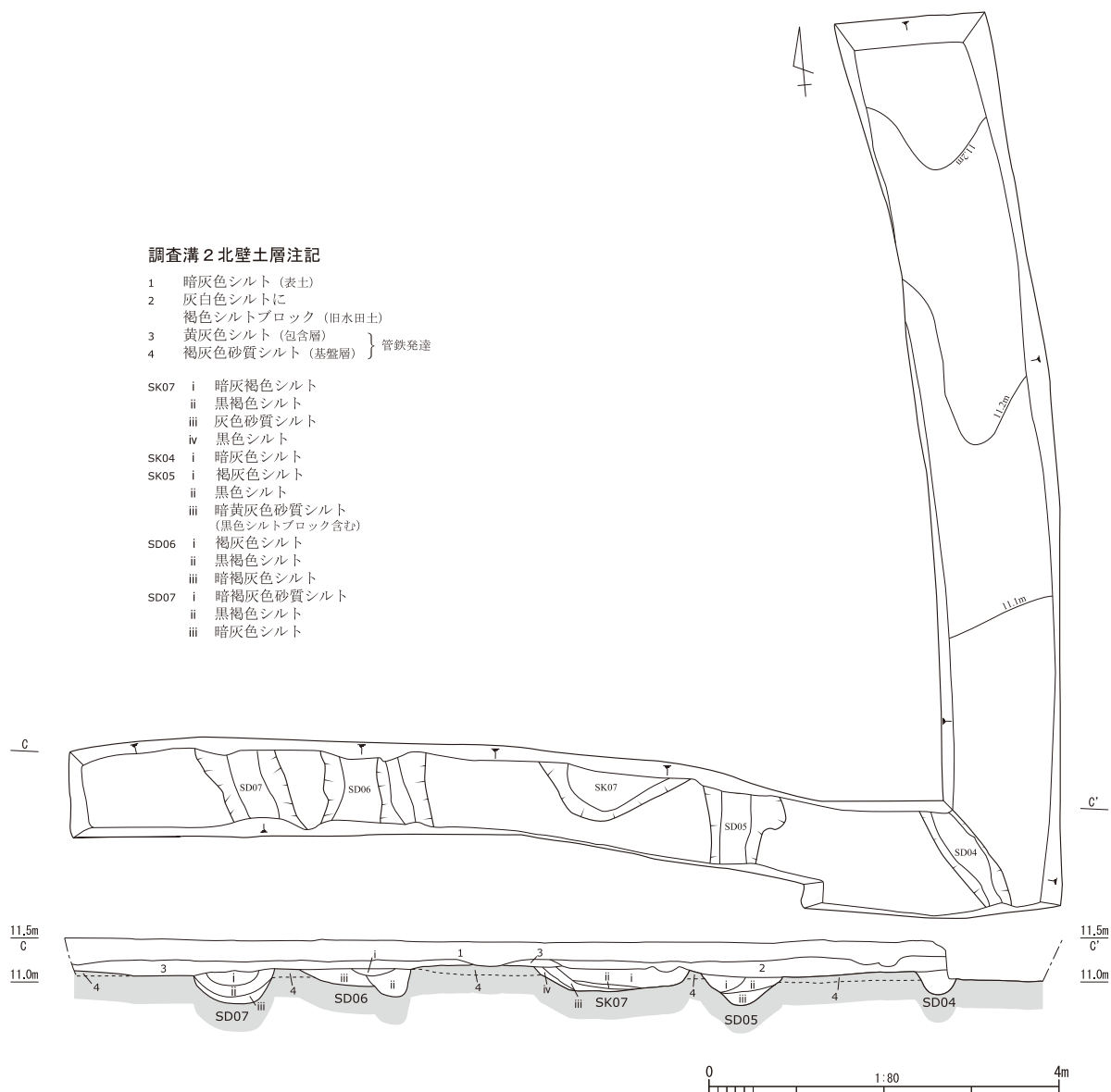
SD04 は、調査区の南東端部で検出された。北西 - 南東に延びており、両端部は調査区外に及んでいる。検出部分で長さ 1.3 m、最狭部の幅約 30 cm、深さ約 25 cm を測る。土師器が出土している。

SD05 は、調査区を横断する形で検出された。北 - 南の方向に延びており、両端部は調査区外に及んでいる。やや形状が歪で幅に変化がある。検出部分で長さ 86 cm、最狭部の幅約 52 cm、深さ約 30 cm を測る。土師器が出土している。

SD06 は、調査区を横断する形で検出された。北 - 南に延びており、両端部は調査区外に及んでいる。底部は 2 段である。検出部分で長さ 84 m、最狭部の幅約 1.15 m、深さ約 32 cm を



第17図 26次調査溝 1 全体図



第18図 26次調査溝 2 全体図

測る。土師器が出土している。

SD07 は、調査区を横断する形で検出された。北北西 - 南南東方向に延びており、両端部は調査区外に及んでいる。底部は 2 段である。検出部分で長さ 98 cm、最狭部の幅約 75 cm、深さ約 36 cm を測る。土師器が出土している。

SK07 は、北側の大部分が調査区外に及んでいる。隅丸方形状にもみえるが全体像は不明である。調査区断面で確認できる規模は、長さ 1.78 m、深さ 22 cm である。土師器が出土している。

出土遺物 1 ～ 4 は SD01 出土遺物である。1 は須恵器蓋坏の身である。口径 9.8 cm、器高 4.6 cm を測る。器形は小型化しているが、器壁に厚みがあり底部のヘラケズリは体部半ば付近まで行われている。2 は土師器高坏の脚部である。下半の破片であり脚部半ばから屈折して直線的に広がっている。底径 11.2 cm を測る。3 は小型の土師器台付甕である。胴部にはやや小さめの把手が付けられている。口径 13.0 cm を測る。台部を欠失しているため器高は不明である。4 は砥石である。平坦面の両面に使用痕が認められる。被熱の痕跡が残る。

5はSD03出土の土師器甕の口縁部～胴部上半である。口径13.4cmを測る。

6はSK01出土の土師器甕または鉢の底部である。底径4.6cmを測る。

7はSK02出土の須恵器脚付長頸壺である。口縁部と脚部を欠失している。頸部から胴部にかけてカキメ調整が行われ、肩部と胴部下半には回転ヘラケズリが行われている。肩部から胴部上半にかけては櫛状工具による2段の刺突文が施されている。わずかに残る脚部の付け根から脚部スカシが3方向であったことがうかがえる。器径（胴部径）15.9cmを測る。

8～12はSK04の出土遺物である。8・9は須恵器である。8は無蓋高坏の口縁部である。口径10.0cmを測る。9は壺類の口縁部～頸部である。口径9.1cmを測る。10・11は土師器である。10は鉢の口縁部とみられるが摩滅が著しい。口径14.2cmを測る。11は甕の口縁部～肩部である。口径16.5cmを測る。12は勾玉形の滑石製模造品である。全長3.5cm、厚さ0.45mm、重量4.7gである。

13～24は、調査溝1の包含層や排土等遺構外から出土した遺物である。13～16は須恵器である。13は蓋坏の蓋、14は身である。口径は13が12.6cm、14が8.7cmである。15は壺の口縁部で口径15.5cmを測る。16は壺の底部とみられる。底径は6.4cmを測る。17～24は土師器である。17～19は甕の破片で、17は口径36.3cmと大型である。18は口径26.6cmを測る。19は底部で底径5.4cmを測る。20は壺の口縁部で、口径9.5cmを測る。21～23は高坏脚部の破片である。21は脚部先端が大きく反って広がっており、底径8.8cmを測る。22は脚部下半付近から屈折して広がるが、脚部先端は欠失している。23も脚部下半を欠失している。24は甗の把手である。

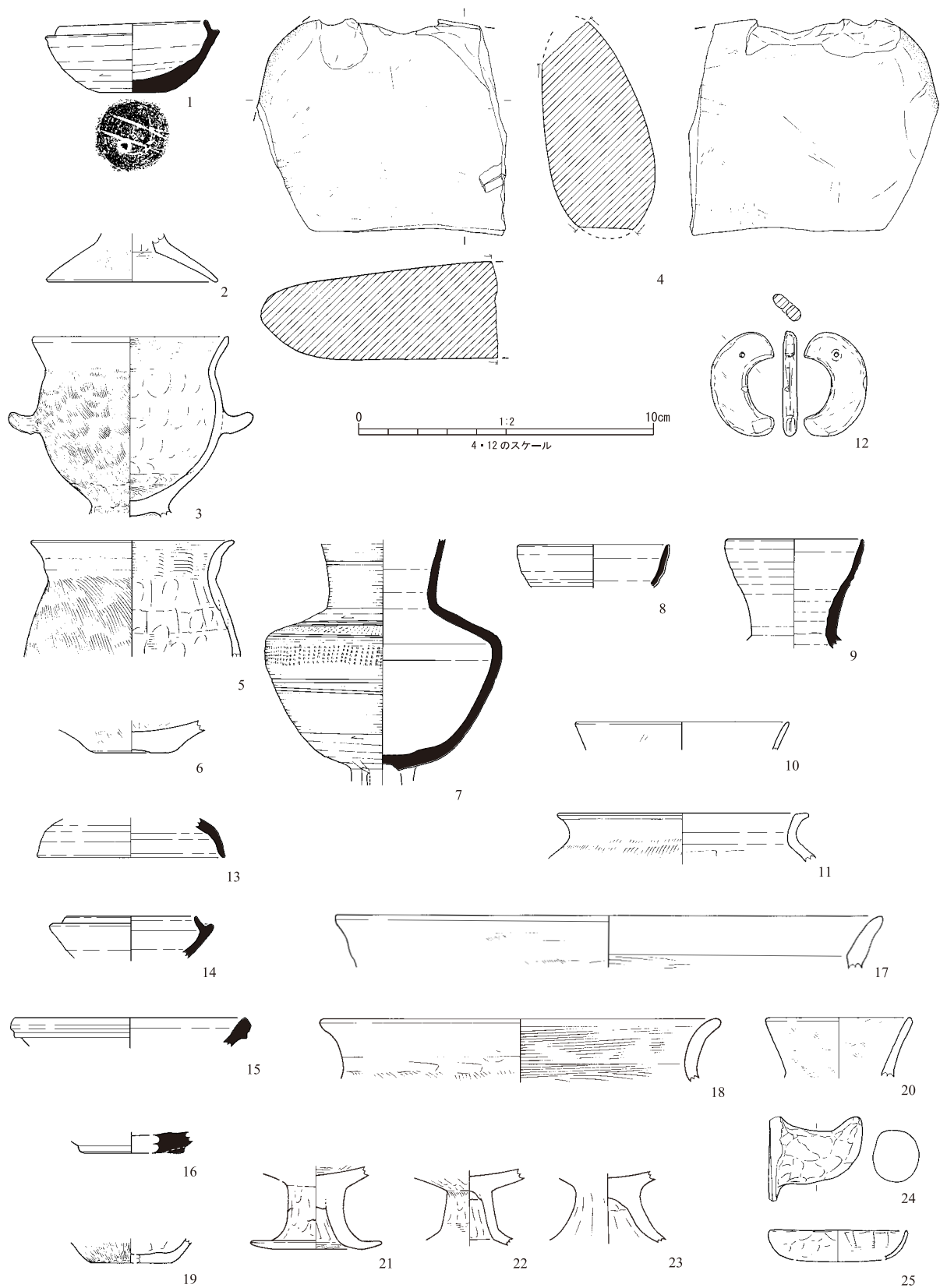
25は、調査溝5の表土中から出土した、非ロクロ成形の中世土師器皿の口縁部である。口径9.2cmを測る。

なお、SD02・04～07とSK03・05・07でも須恵器・土師器が出土しているが、いずれも小片であることから図示できなかった。

小 結 今回の調査では、調査対象地東寄りの調査溝1・2を中心に一定量の遺構・遺物を確認した。一方で調査対象地西寄り（調査溝3～6）では遺構・遺物が希薄であった。このことから、今回の調査対象地は遺跡範囲の南端ではあるが、東寄りの部分、特に調査溝1を設定した北東部分には集落の範囲が及んでいると考えられる。出土遺物の年代は6世紀中葉～7世紀初頭と若干の幅があるが、おおむね当該地において集落が営まれていた期間を示していると考えられる。

また、出土遺物として注目されるのは、勾玉形の滑石製模造品（12）である。今回の調査では1点のみの出土であったが、過去の恒武西宮遺跡の調査（1次SF09、21次SD47）や山ノ花遺跡の調査（1次自然流路）など周辺での出土例は多く、調査対象地周辺で祭祀行為の際に用いられていたことがうかがえる。こうした滑石製模造品については、既往の調査では5世紀代に位置付けられているが、今回滑石製模造品を出土したSK04では、破片ばかりではあるが共伴する土器は6世紀代に位置付けられる。また、21次調査で滑石製模造品2点を出土したSD47でも、共伴する土器の多くは6世紀代である。両事例とも滑石製模造品の出土点数が1～2点と少ないことから混入の可能性も考えられるが、6世紀代においても、滑石製模造品が小規模な祭祀行為に使用されていた可能性を併せて指摘しておきたい。

（鈴木京太郎）



調査溝 1 : (1 ~ 4 : SD01、5 : SD03、6 : SK01、7 : SK02、8 ~ 12 : SK03・04、13 ~ 24 : 遺構外)
調査溝 5 : (25 : 表土)

第19図 26次調査出土遺物実測図

（３）28次調査の成果

調査の概要 今回の調査対象地は、遺跡範囲の北西端にあたり、北を山ノ花遺跡と接する。山ノ花遺跡との境には過去の調査（山ノ花遺跡1次）で5世紀代の木製品や土器、石製模造品を大量に出土した自然流路である「恒武大溝」が確認されている。また調査対象地南東側の近隣地における調査（恒武西宮遺跡21次）でも、古墳時代後期を主体とした遺構・遺物が確認されている。そうした状況から、今回の計画地にも遺跡が及んでいる可能性が高いと考え、確認調査を実施した。

確認調査では対象地に2×2mの調査坑30箇所をなるべく均等に配置した。調査の結果、調査坑15で恒武大溝の南辺部を検出したほか、調査溝3・8・10・27・30においても自然流路とみられる土層堆積を確認したが、土坑や溝など人為的な遺構は検出されなかった。

遺物は調査坑15で多数の土師器や木製品が出土したほか、北西部の調査坑11・12や、南東部の調査坑24・27などで須恵器や土師器が出土した。他の調査坑では遺物が出土しないか、出土しても土器片が少量のみであり、全体的に出土量はわずかであった。

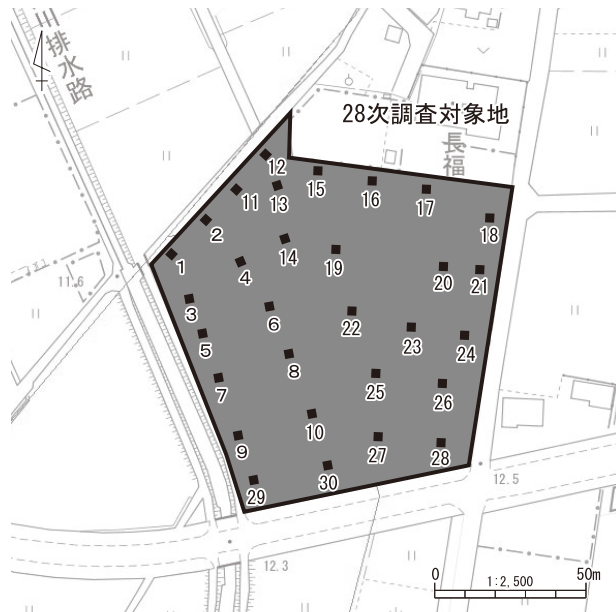
土層堆積状況 調査対象地の現況は、北東部の高位面（畑地）と南～西部の低位面（水田）に大別される。高位面の土層は既往の恒武西宮遺跡における調査と同様にⅠ～Ⅵ層に大別される。Ⅰ層：近現代の盛土・耕作土等である。Ⅱ層：褐色系シルト。箇所によって2層に分層され、上層にやや暗めの暗褐色シルト等が堆積する。既往の調査では上層が古墳時代中期以降の遺物包含層（Ⅱa層）で、下層（Ⅱb層）上面が遺構検出面に相当するが、今回の調査では出土遺物量も少なく、遺構も検出されていないため確認することはできなかった。Ⅲ層：灰～褐色系粘土である。Ⅳ層：黒色系粘土である。Ⅴ層：灰色～褐色砂である。Ⅵ層：砂礫である。

一方、低位面の土層は、Ⅰ層及びⅤ・Ⅵ層は高位面と共通するが、高位面Ⅱ～Ⅳ層に相当する部分の土層は堆積状況が異なる。調査坑の箇所によっても状況が異なるが、概ね次の2層に大別できる。A層（上層）：褐色系シルト。箇所により複数層に分層され、粘土層や砂層も挟む。色調もさまざまである。比較的新しい時期の層と考えられる。B層（下層）：灰～褐色系粘土。箇所によって色調は異なるが、基本的には単層である。調査対象地の北西部ではわずかながら古墳時代の遺物を含むため、当該時期の堆積層と考えられる。

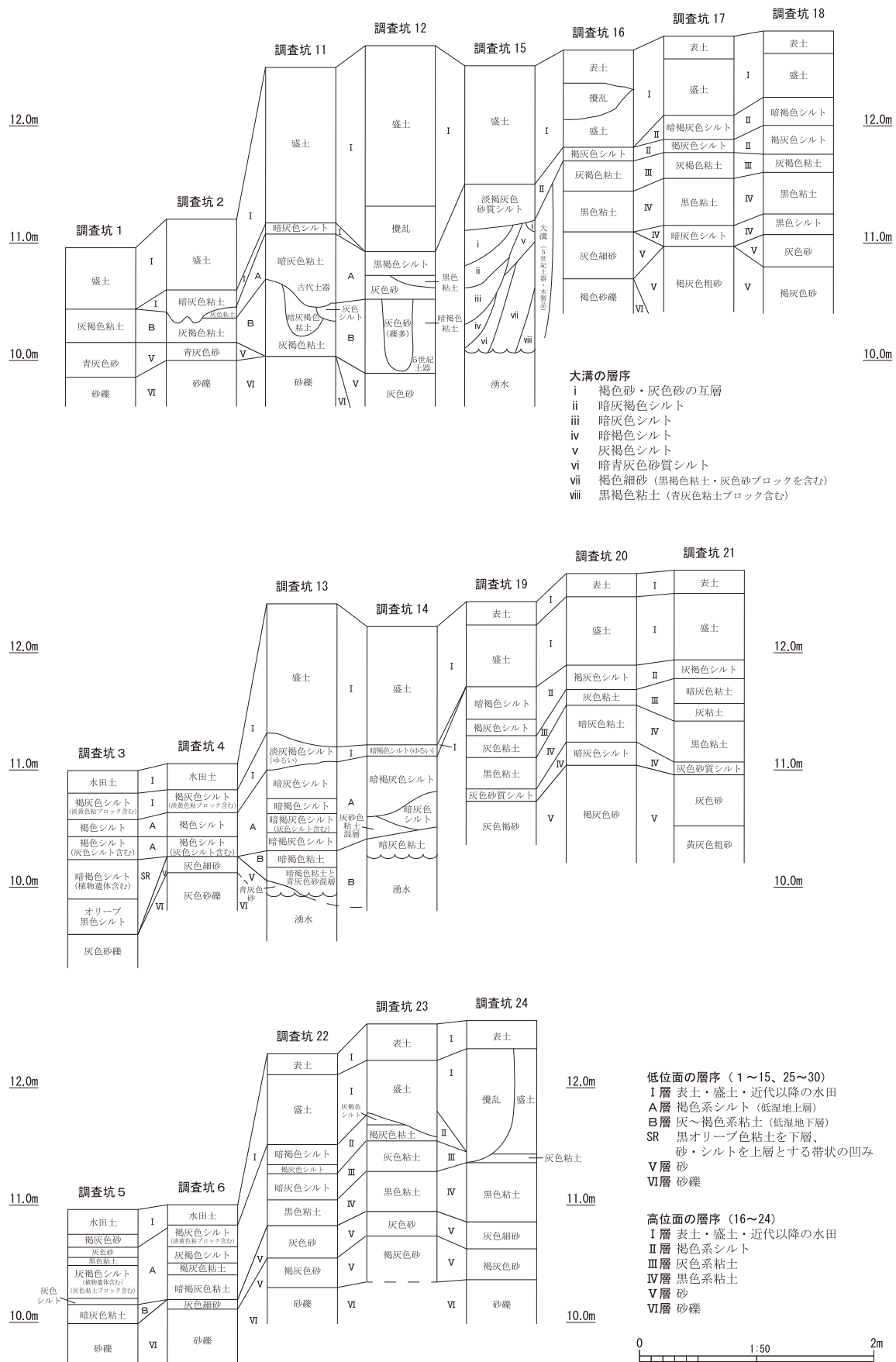
検出遺構 自然流路が調査坑15（恒武大溝）、調査坑3・8・10・27・30（SR）で確認された。

恒武大溝は、山ノ花遺跡1次調査によって、北東から南西に向かって流れる幅約20m、深さ約2mの自然流路であることが明らかになり、南側斜面を中心におびただしい量の木製品と自然の流木、土器、石製品が出土している。今回の調査対象地は、山ノ花遺跡1次調査区の南側隣接地であり、大溝の延長上と想定される位置に調査坑1・2・11・12・15を設定して調査を行った。

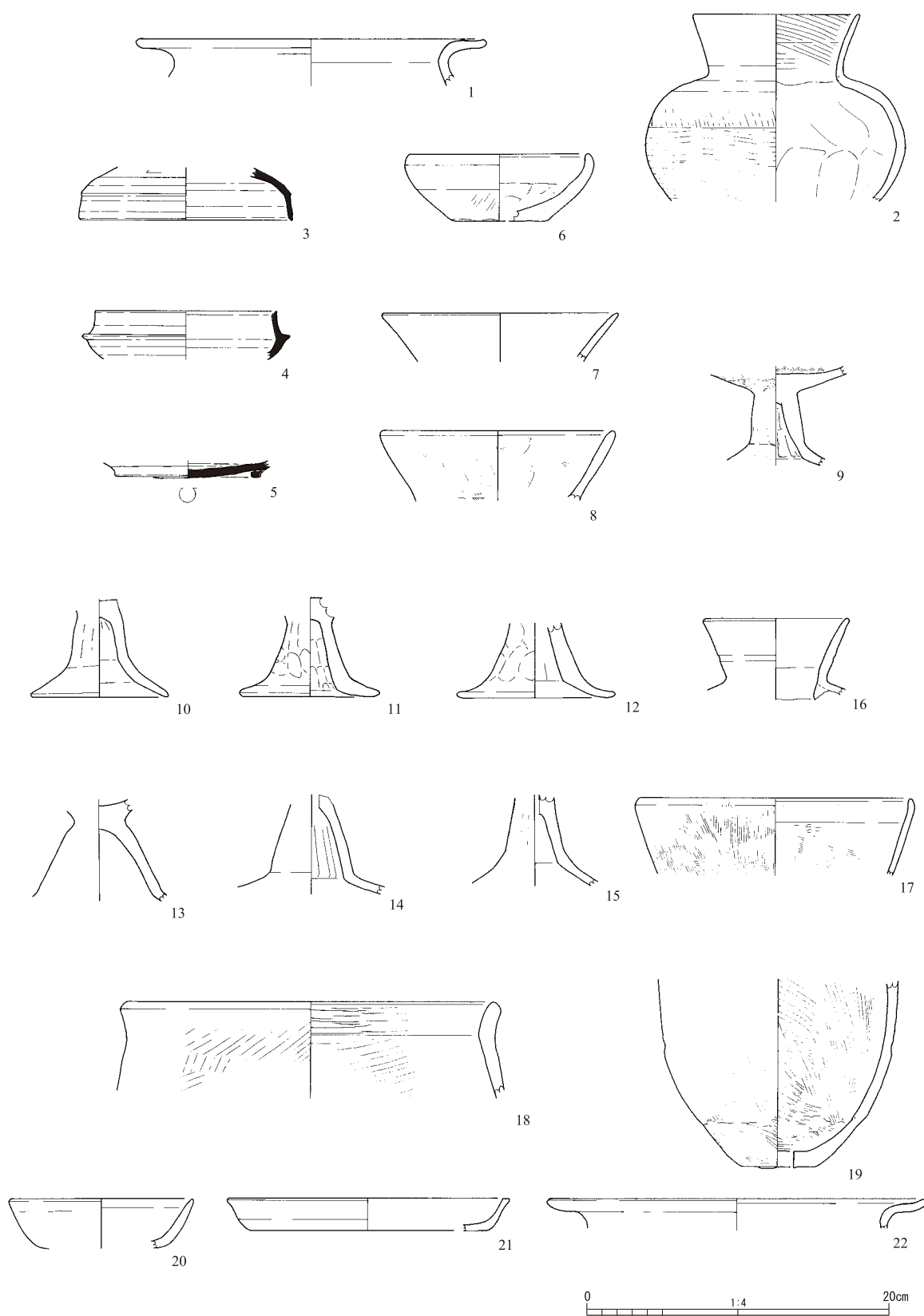
調査の結果、調査坑15で恒武大溝の南辺部の堆積状況を確認した。湧水により底面までは確認できなかったが、深さは1m以上に及び、木製品（自然木を含む）や土器が大量に出土した。遺物



第20図 28次調査坑配置図

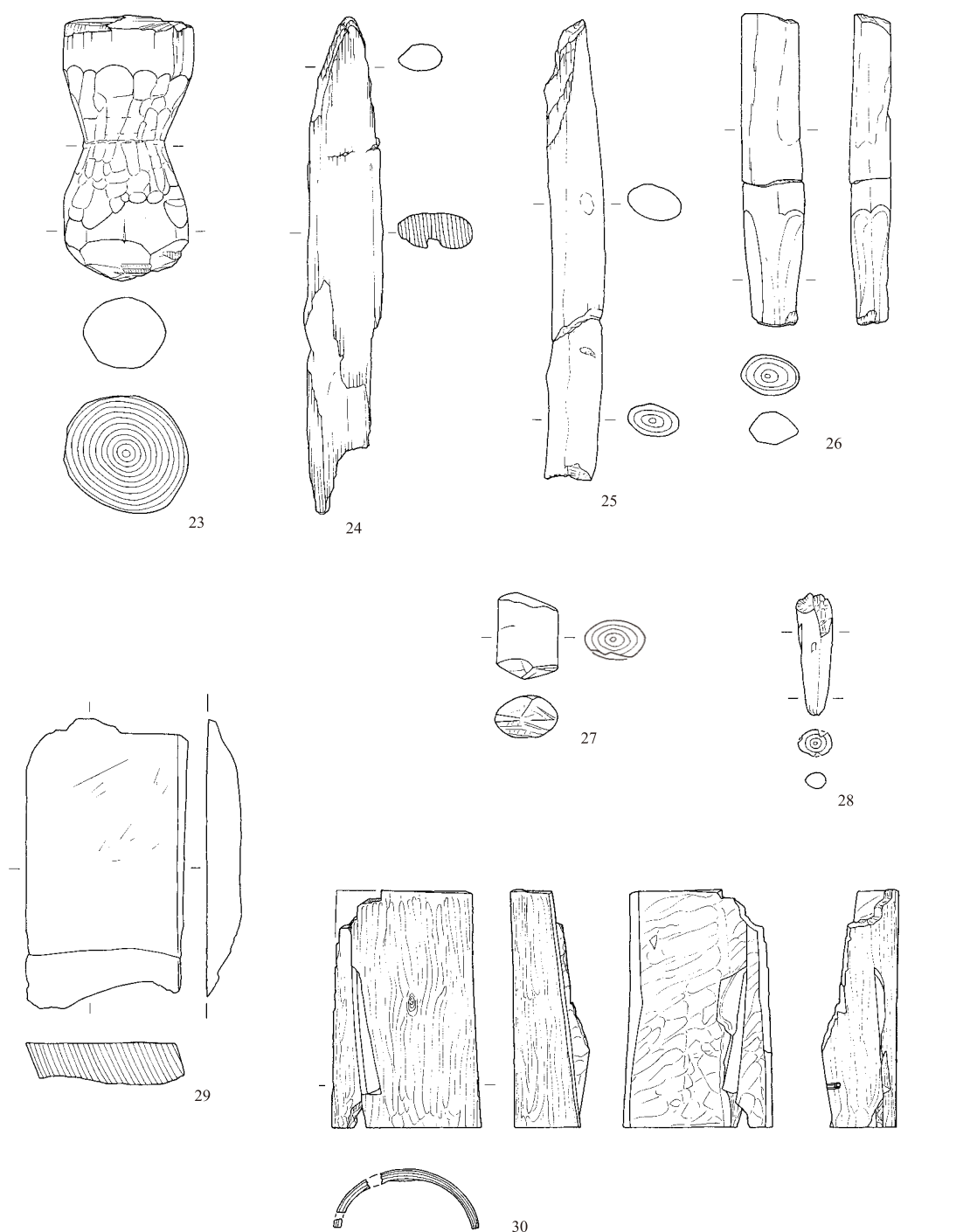


第21図 28次調査土層柱状図 (1)



1: 調査坑 11 2: 調査坑 12 3 ~ 19: 調査坑 15 (恒武大溝) 20: 調査坑 24 21 ~ 22: 調査坑 27

第23図 28次出土遺物実測図 (土器)



23～30：調査坑15（恒武大溝）

0 1:4 20cm

第24図 28次出土遺物実測図（木製品）

が10.4cmを測る。16・17は中型壺の口縁部である。16は口縁部が直線的に開き、口径9.2cmを測る。17は口縁端部が内湾しており、口径は17.8cmを測る。18は大型の鉢の口縁部と考えられる。頸部の屈曲は弱く、器面には粗いハケメが施されている。口径は24.0cmを測る。19は甗の胴部～底部である。底部は単孔で、把手は確認できない。底径は4.6cmを測る。土師器は9の高坏脚部が大溝ii層からの出土であるが、他は排土中から発見されたものである。時期は5世紀中葉～後葉と考え



第25図 28次調査対象地の様相

られる。23～30は木製品である。23は木錘である。ほぼ完形品で全長16.0cm、最大径7.5cmを測る。24は刀形木製品の先端部である。25～28は丸棒状に加工した木製品である。太さはさまざまで、26～28は先端部を尖らせている。29は板状に加工された木製品である。幅9.6cmを測り、断面形状は平行四辺形である。30は半円筒状に加工された木製品である。内外面とも丁寧なケズリによって加工されており、側面の1箇所には孔が穿たれている。全長14.3cm、幅9.0cm、厚さ0.7cmを測る。図示した以外にも棒状や板状に加工された木製品が多数出土しているが、紙幅の都合上割愛した。いずれの木製品も出土した層位を厳密に確定できないが、大溝ii～iv層中と推定される。

20は調査坑24のI層から出土した土師器の坏である。内外面とも摩滅が著しい。口径は11.9cmを測る。8～9世紀頃のものと考えられる。

21・22は調査坑27のA層から出土した土師器である。21は皿で口径18.4cm、器高2.1cmを測る。22は甕の口縁部で、口径24.6cmを測る。いずれも8世紀代のものと考えられる。

小 結 調査対象地北部の調査坑15で恒武大溝の南斜面部が検出され、5世紀代の遺物が多数出土した。また、南東部の低位面では、水田耕作土を中心に8世紀代の遺物が少量出土した。一方で、自然流路SRを検出した西部の低位面や、恒武西宮遺跡の標準的な土層堆積状況が確認された東部の高位面では、人為的な遺構は検出されず、遺物の出土量も希薄であった。西部は現状で遺跡の範囲外とされているため、それを追認した形となったが、東部の高位面についても古墳時代や古代における生活域からはやや離れた位置と推測される。

なお、恒武大溝の延長上にあるとみられていた調査対象地北西部の調査坑1・2・11・12で、大溝の土層堆積状況が確認されなかった点については、高位面から低位面へ地形が転換する辺りで低湿地帯へ合流している可能性を考えたが、断片的な確認調査であるため確証を得ることはできなかった。今後も周辺の調査を丹念に積み上げることで、大溝の流路の状況や、大溝に大量の遺物をもたらした集落や祭祀場の状況について明らかにしていく必要がある。

(鈴木京太郎)

(3) 29次調査

土層堆積状況 調査対象地内に 17 箇所の調査坑を設定し、調査を実施した結果、全ての調査坑で近似した土層堆積状況を確認した。上層より、Ⅰ層：暗灰色粘土（水田耕作土、床土）、Ⅱa層：暗褐色～灰褐色シルト（遺物包含層）、Ⅱb層：褐灰色～灰褐色砂質シルト・灰色～褐灰色砂、Ⅲ層：灰褐色～褐灰色粘土、Ⅳ層：黒灰色～暗灰色粘土、Ⅴ層：青灰色砂（基盤層）の順に確認した。Ⅱa層が遺物包含層である。含まれる遺物は、古墳時代～奈良時代のものが中心である。なお、少量ではあるが、中世の遺物も含まれる。また、各調査坑の壁面において土層堆積を確認したところ、遺構の多くはⅡb層より掘り込まれているが、一部Ⅱa層より掘り込まれているものも確認された。Ⅱa層とⅡb層は、色調が非常に近似しているが、Ⅱb層の方がやや砂質が強い特徴が見られる。なお、Ⅱb層以下は、遺構・遺物の存在が確認されなかった。

検出遺構 調査面積が限られていたため、遺構の全容や性格がわかるものはなかったが、北側の調査坑を中心として遺構が検出された。

調査坑 1 において土坑（SK01）を 1 基検出した。調査区内で検出できたのは全体の 25%程度と考えられ、本来の大きさは直径 2.0 m 程であると想定される。埋土は褐灰色シルトである。

調査坑 2 において土坑（SK01）と小穴（SP01）をそれぞれ 1 基検出した。SK01 は調査坑の北東隅で検出した。調査区内で検出できたのは全体の 25%程度と考えられ、本来の大きさは直径 1.6 m 程であると想定される。埋土は暗灰褐色砂質シルトである。SP01 は調査坑の北西部で検出した。SP01 も大半は調査区外へと延びているため全容は不明であるが、北壁で確認したところ直径 0.6 m 程であると推測される。埋土は暗灰褐色砂質シルトである。

調査坑 3 において溝 1 条（SD01）と土坑 2 基（SK01・SK02）を検出した。SD01 は東西方向に延びる溝である。確認した規模は幅 0.85 m、深さ 0.45 m、埋土は暗褐灰色砂質シルトである。SK01 は不定形な円形を呈する土坑である。検出した規模は直径 0.8 m、埋土は暗褐灰色砂質シルトである。SK02 は調査坑の北部で検出した。大半は調査区外へと延びているため全容は不明であるが、北壁で確認したところ直径 1.0 m 程であると推測される。埋土は茶灰褐色砂質シルトである。

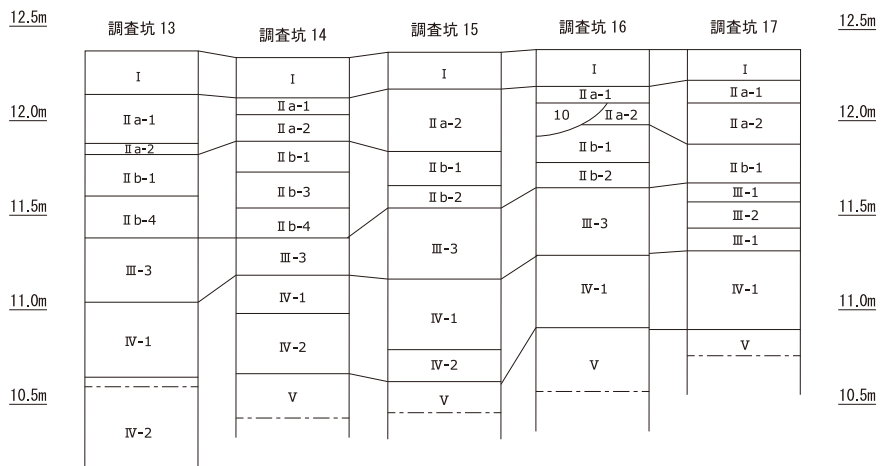
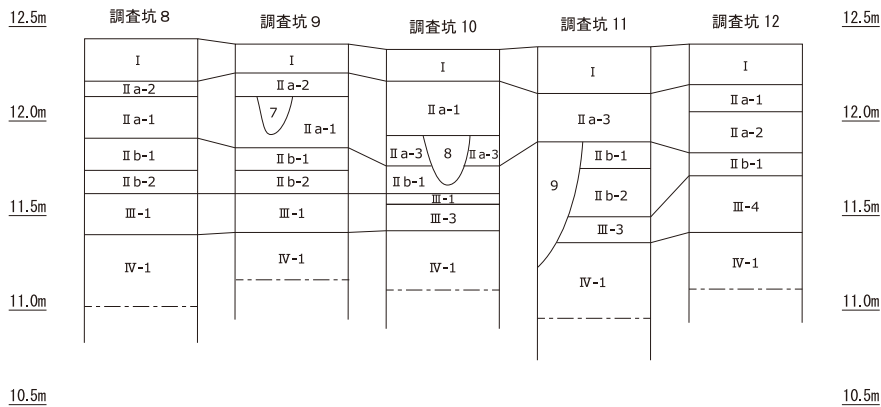
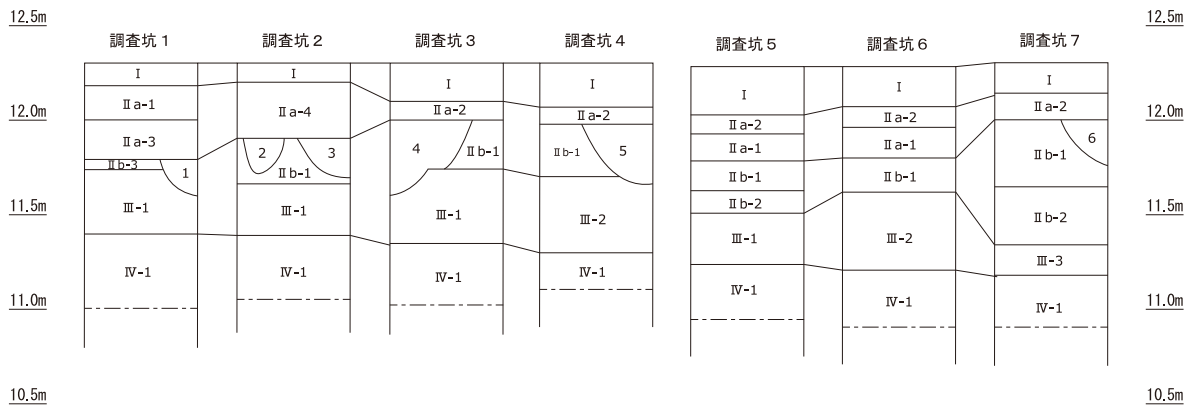
調査坑 4 において溝 1 条（SD01）を検出した。SD01 は南北に延びる溝である。調査坑内で確認した規模は幅 1.5 m、埋土は暗褐色シルトである。

調査坑 7 において溝 1 条（SD01）と土坑 1 基（SK01）を検出した。SD01 と SK01 は重複して掘り込まれており、SD01 が SK01 を切って掘り込まれている。SD01 は南北に延びる溝である。調査坑内で確認した規模は幅 0.9 m、埋土は暗褐色シルトである。SK01 は調査坑の北西隅で検出した。調査区内で検出できたのは全体の 25%程度と考えられ、本来の大きさは直径 1.2 m 程であると想定される。埋土は茶褐色シルトである。

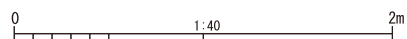
調査坑 9 において土坑 1 基（SK01）を検出した。SK01 の西側は調査区外へと延びているため全体の規模は不明であるが、調査坑内で確認した規模は、東西 0.55 m、南北 0.65 m である。6～7 世紀代の土師器に混じり、古墳時代前期と考えられる壺も確認された。



第26図 29次調査坑配置図

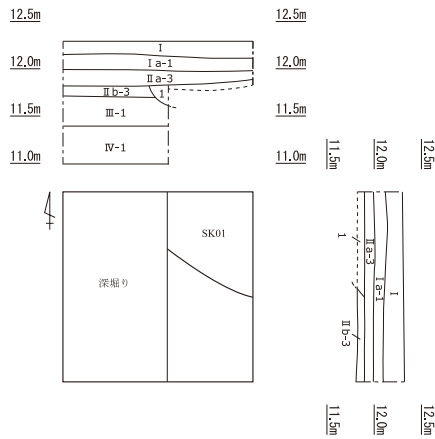


- | | | | |
|--------|------------------|----|-------------------------------|
| I | 暗灰色粘土 (水田耕作土、床土) | 1 | 褐灰色シルト (調査坑1 SK01埋土) |
| II a-1 | 灰褐色シルト (遺物包含層) | 2 | 暗灰褐色砂質シルト (調査坑2 SP01埋土) |
| II a-2 | 褐灰色シルト (遺物包含層) | 3 | 暗灰褐色砂質シルト (調査坑3 SK01埋土) |
| II a-3 | 茶灰色シルト (遺物包含層) | 4 | 暗褐灰色砂質シルト (調査坑3 SD01埋土) |
| II a-4 | 暗褐色シルト (遺物包含層) | 5 | 暗褐色シルト (調査坑4 SD01埋土) |
| II b-1 | 褐灰色砂質シルト | 6 | 暗褐色シルト (調査坑7 SD01埋土) |
| II b-2 | 灰褐色砂質シルト | 7 | 灰褐色シルト (調査坑9 SK01埋土) |
| II b-3 | 灰色砂 | 8 | 灰褐色シルト (調査坑10 SP01埋土) |
| II b-4 | 褐灰色砂 | 9 | 黒灰色粘土と褐色シルトの混層 (調査坑11 SK01埋土) |
| III-1 | 褐灰色粘土 | 10 | 茶灰色シルト (調査坑16 SK01埋土) |
| III-2 | 褐灰色粘土とシルトの混層 | | |
| III-3 | 灰褐色粘土 | | |
| III-4 | 褐灰色粘土と灰色砂の混層 | | |
| IV-1 | 黒灰色粘土 | | |
| IV-1 | 暗灰色粘土 | | |
| V | 青灰色砂 | | |

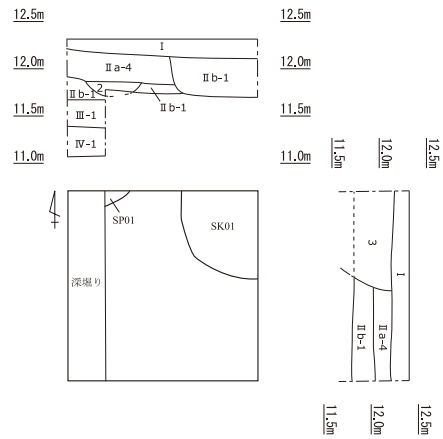


第27図 29次土層柱状図

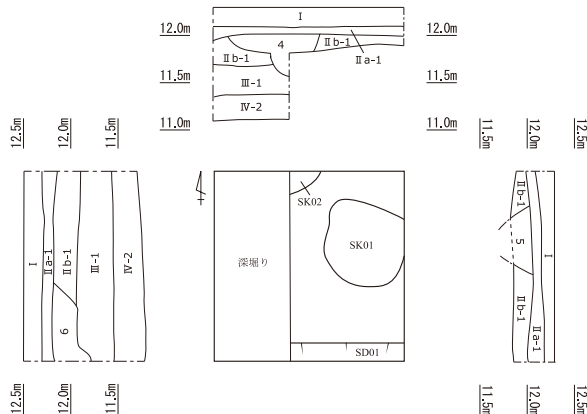
調査坑 1



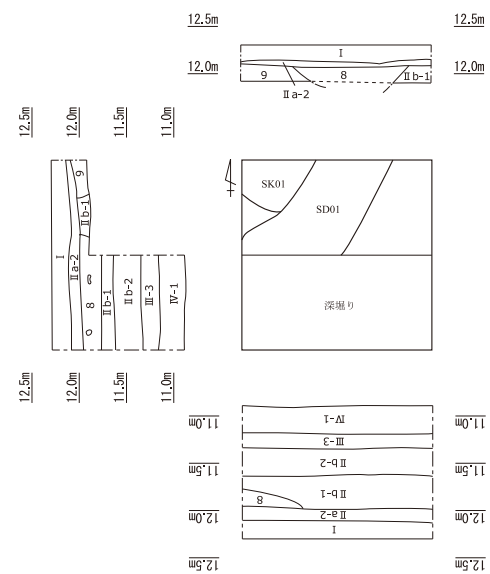
調査坑 2



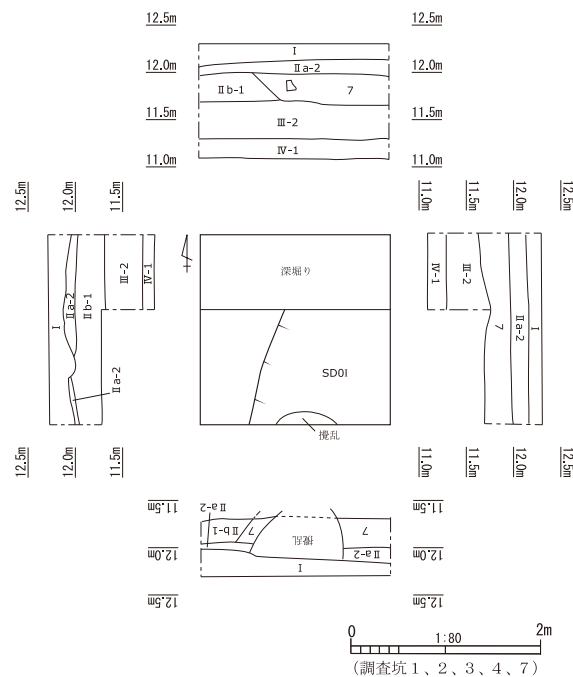
調査坑 3



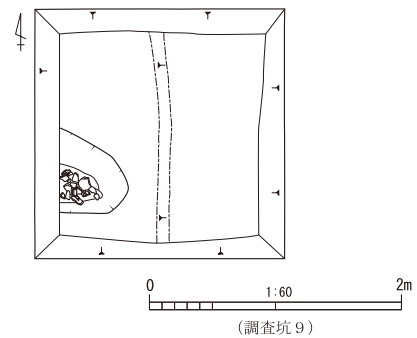
調査坑 7



調査坑 4



調査坑 9



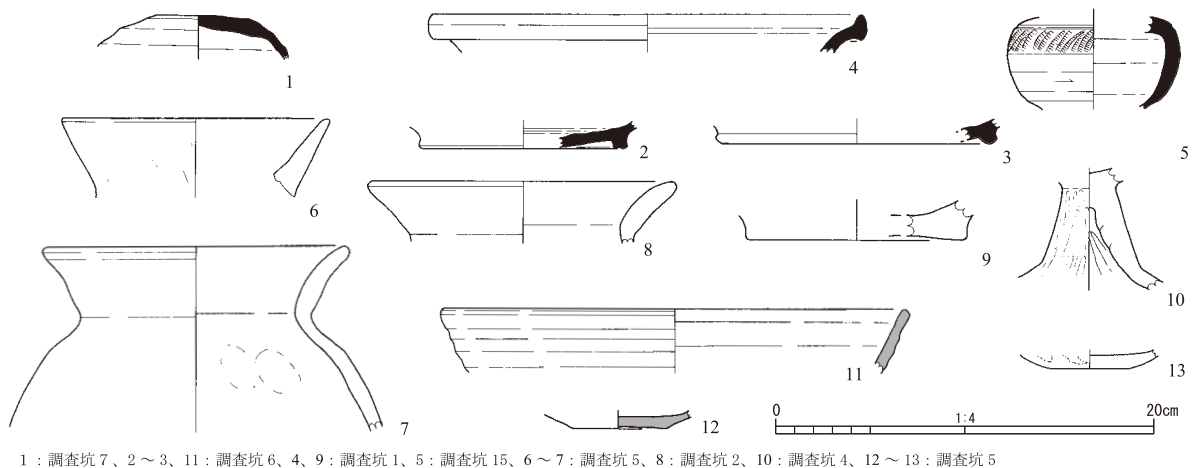
I 暗灰色粘土
I a-1 灰褐色シルト (遺物包含層)
II a-1 褐灰色シルト (遺物包含層)
II a-2 褐灰色シルト (遺物包含層)
II a-3 茶灰色シルト (遺物包含層)

II a-4 暗褐色シルト (遺物包含層)
II b-1 灰褐色砂質シルト
II b-2 灰褐色砂質シルト
II b-3 灰色砂
III-1 褐灰色粘土

III-2 褐灰色粘土とシルトの混層
III-3 灰褐色粘土
IV-1 黒灰色粘土
IV-2 黒灰色粘土

1 褐灰色シルト (SK01埋土)
2 暗灰褐色砂質シルト (SP01埋土)
3 暗灰褐色砂質シルト (SK01埋土)
4 茶灰褐色砂質シルト (SK02埋土)
5 暗褐灰色砂質シルト (SK01埋土)
6 暗褐灰色砂質シルト (SD01埋土)
7 暗褐色シルト (SD01埋土)
8 暗褐色シルト (SD01埋土)
9 茶褐色シルト (SK01埋土)

第28図 29次平面図及び土層断面図



1 : 調査坑 7、2～3、11 : 調査坑 6、4、9 : 調査坑 1、5 : 調査坑 15、6～7 : 調査坑 5、8 : 調査坑 2、10 : 調査坑 4、12～13 : 調査坑 5

第29図 29次出土遺物実測図

出土遺物 第29図に出土した遺物を示す。1～5は須恵器である。1は蓋、2・3は有台坏身の底部、4は壺の口縁部、5はハソウである。1・5は6世紀代、その他は8世紀代のものと考えられる。6～10は土師器である。6～9は甕である。6・7は調査坑9のSK01から出土した。8は口縁部、9は底部である。いずれも6～7世紀代のものと考えられる。10は高坏の脚部で5世紀代のものと考えられる。11は灰釉陶器の碗である。口径は24.0cmと大型の碗であり、10～11世紀頃のものと考えられる。12は山皿、13はかわらけである。

結 語 今回の調査の結果、調査区の全域において古墳時代から奈良時代を中心とした遺物が確認された。出土遺物は、包含層内からのものが大半を占めており、遺構内から出土した遺物は限られているため、遺構の年代は不明であると言わざるを得ない。しかし、近接地で行われた3次調査（浜松市文化協会 2002）及び8次調査（浜松市文化振興財団 2009）では、古墳時代中期～終末期と戦国時代を中心とした遺構が確認されており、土層堆積や埋土の状況が酷似することから、当該地において検出した遺構も同時代のものである可能性が高いと推察される。

また、調査坑9で検出したSK01より6～7世紀代の土師器に混じり、古墳時代前期の土師器の壺が確認された。当該地の北側で実施した3次調査では古墳時代前期の方形周溝墓及び土器集積が確認され、8次調査においても古墳時代前期の壺を共伴する土坑が確認されている。今回の調査では、この他には同時期の土器は確認されなかったが、周辺に関連する遺構が埋没している可能性が想定される。

（川西啓喜）

参考文献

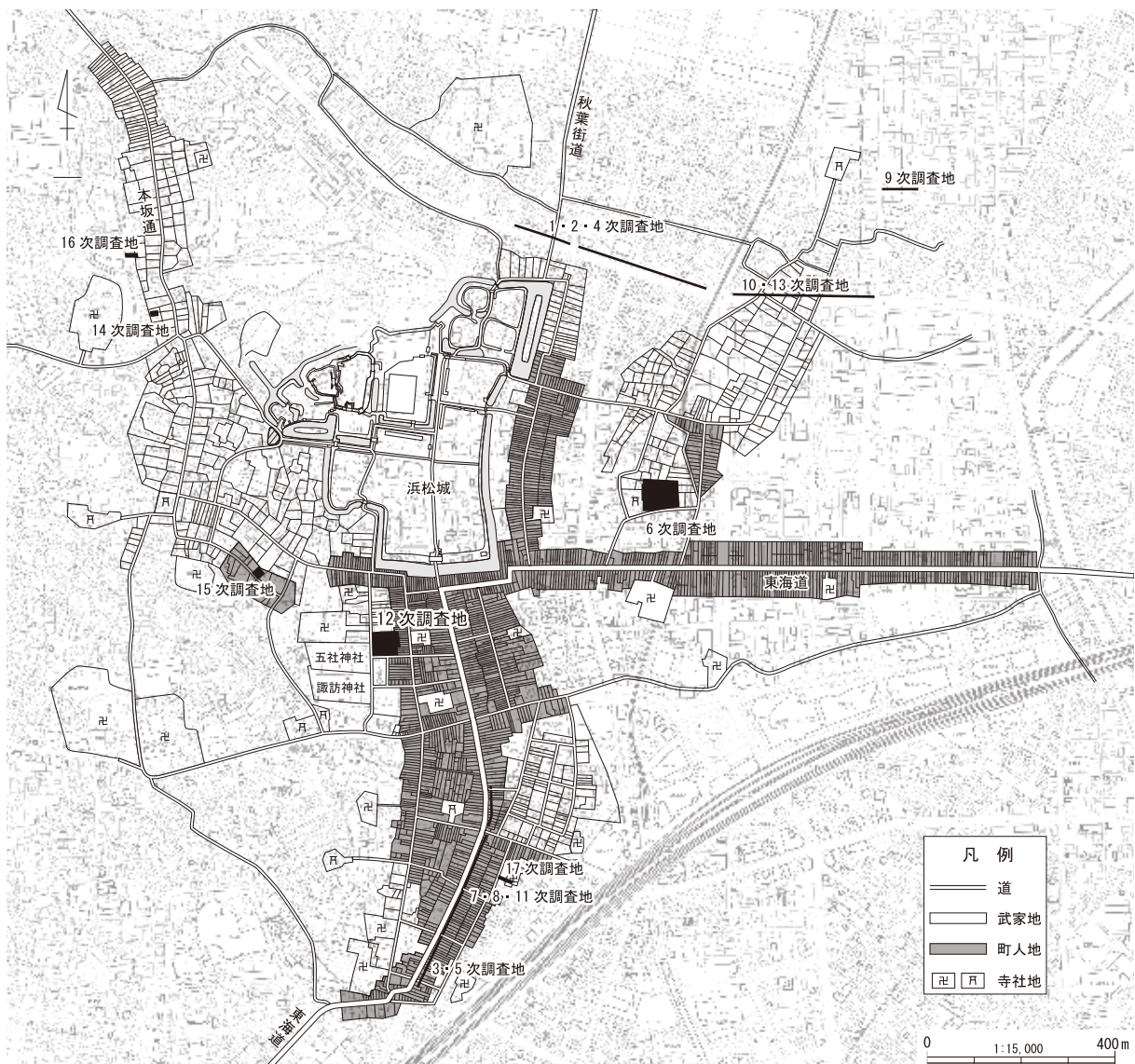
- （財）静岡県埋蔵文化財調査研究所 2000『恒武西宮・西浦遺跡』
- （財）静岡県埋蔵文化財調査研究所 2002『恒武西宮遺跡Ⅱ 笠井若林遺跡』
- （財）浜松市文化協会 1998『山ノ花遺跡』遺構図版編・土器編（図版）・木器編（図版）
- （財）浜松市文化協会 2002『恒武西宮遺跡』
- （財）浜松市文化振興財団 2009『恒武西宮遺跡8次』
- 浜松市教育委員会 2018『恒武西宮遺跡6』

4 浜松城下町遺跡12次調査報告

(1) 遺跡の概要と調査経緯

遺跡の概要 浜松城下町遺跡は、浜松城の周辺に、武家地、町人地、宿場町が整備された城下町遺跡である。令和3年3月までに17度の発掘調査が行われている。城下町遺跡の北東部には浜松八幡宮を起点として中世都市「ひくま」が展開し、17世紀には城下町の一部になったとされる(太田1996)。城下町遺跡の南部では、三方原台地の裾部に近世東海道を中心として城下町が造営された。発掘調査により城下町南部地域では遅くとも16世紀後葉には城下町の形成が始まっていたことが明らかになっている(浜松市教委2017・2020)。本調査対象地は、天正8年(1580)に浜松城内から移転した五社神社(江戸時代以前は、五社大明神)の東側に位置し、五社神社の神主を務めた森氏の屋敷地であったことを江戸時代の城下町絵図からうかがい知ることができる場所である。

調査経緯 対象地においてマンションの建設工事が計画されたため、遺跡の有無と内容の確認を目的として発掘調査を実施した。調査期間は令和2年3月16日～25日、調査面積は179㎡である。



第30図 浜松城下町遺跡12次調査対象地とその周辺の調査状況

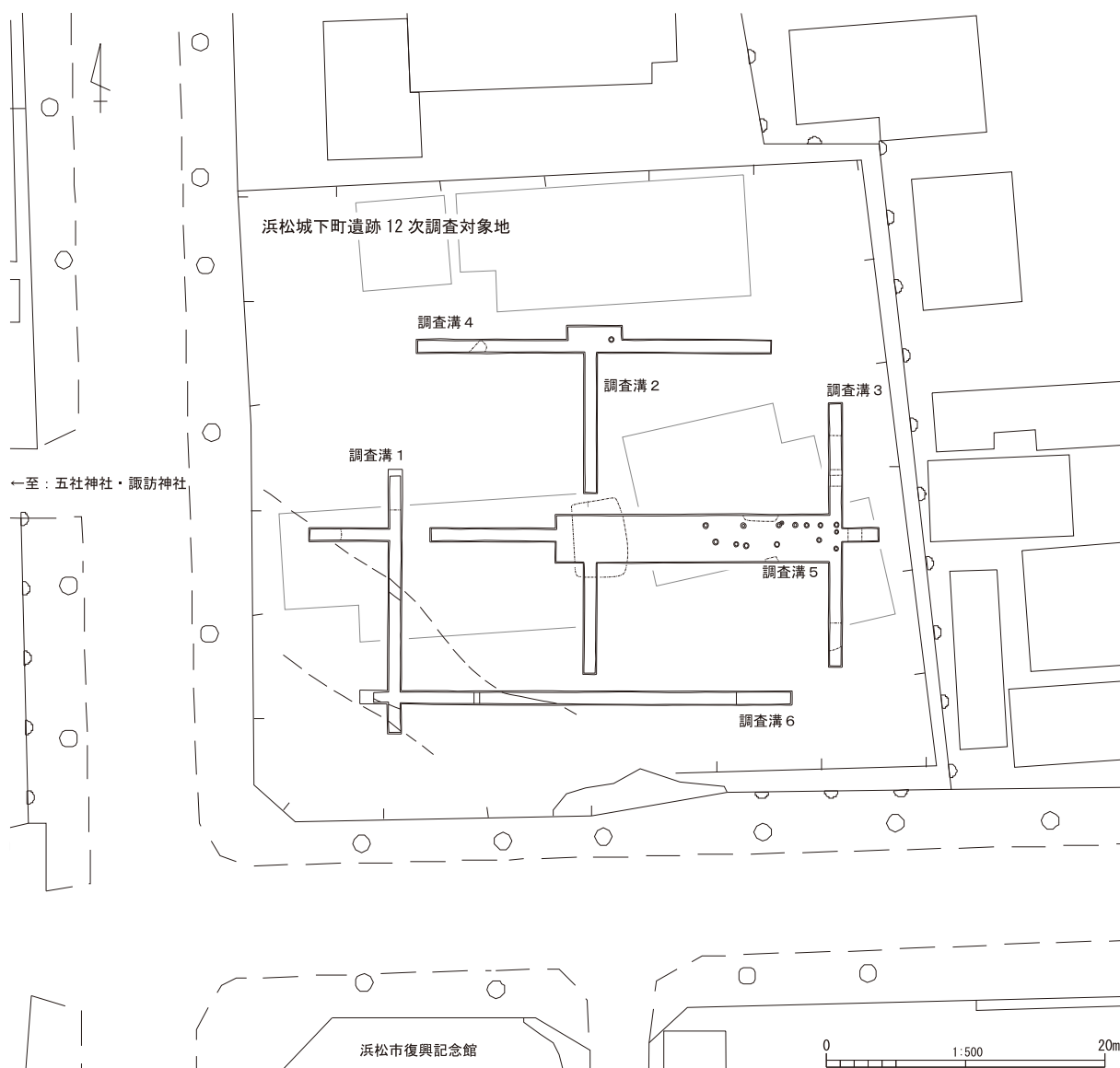
(2) 調査の詳細

調査の方法と経過 対象地における遺跡の残存状況を確認するため、幅1mの調査溝を格子状に設定し、重機（バックホー）を用いて、遺構や遺物の有無や土質などを層位毎に観察しながら掘削を行った。遺構や遺物が確認できた地点については、調査区を拡張し記録を作成した。

土層堆積状況 対象地内の土層は大きく3つの層位に分けて認識することができる。Ⅰ層は近現代の表土・攪乱である。攪乱のうち、大規模なものは、基盤層に到達している。

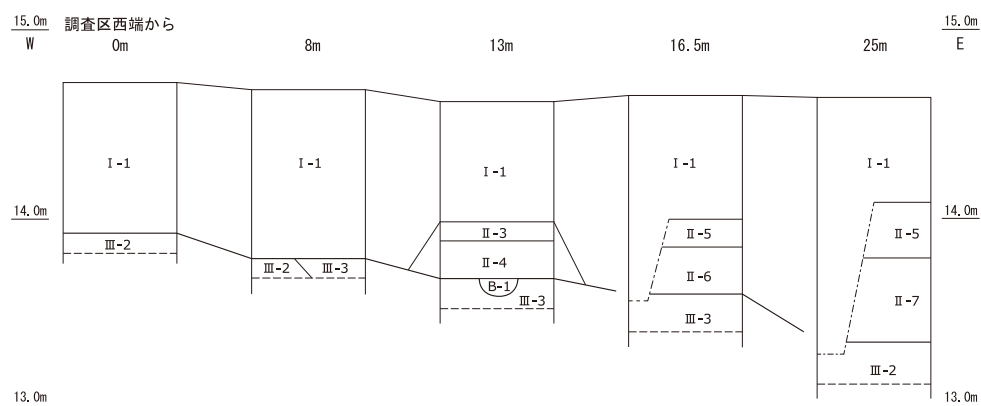
Ⅱ層は近世以前の堆積土や造成土である。Ⅱ-10層～Ⅱ-13層を掘削した小穴が多数みられるが、Ⅱ-8・9層を掘削して形成された遺構はみられない。Ⅱ-10層～Ⅱ-13層やこの層を掘削して形成された小穴の埋土から出土した遺物の時期は17世紀前半までのものに限られており、Ⅱ-10層～Ⅱ-13層は、17世紀前半を中心とした時期の造成土と捉えられる。Ⅱ-8・9層は、近代の土層であるⅠ-4層と17世紀前半を中心とした時期に造成されたとみられるⅡ-10層～Ⅱ-13層に挟まれており、17世紀後葉から近代のいずれかの時期に形成された土層と捉えられる。

Ⅲ層は基盤層であり、橙色や黄褐色、褐色の粘質土や砂礫土が主体である。

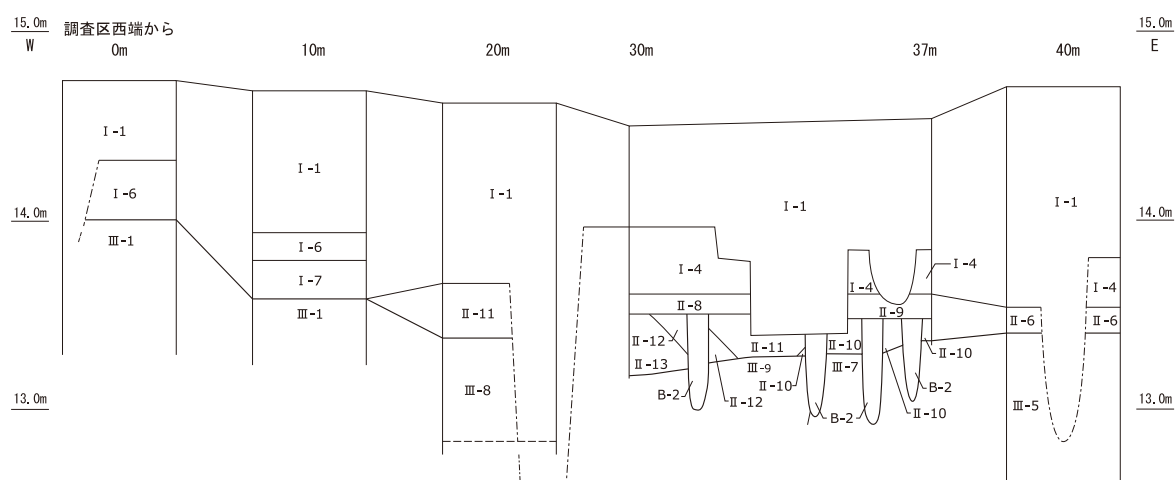


第31図 浜松城下町遺跡12次調査 調査区配置図

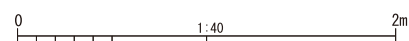
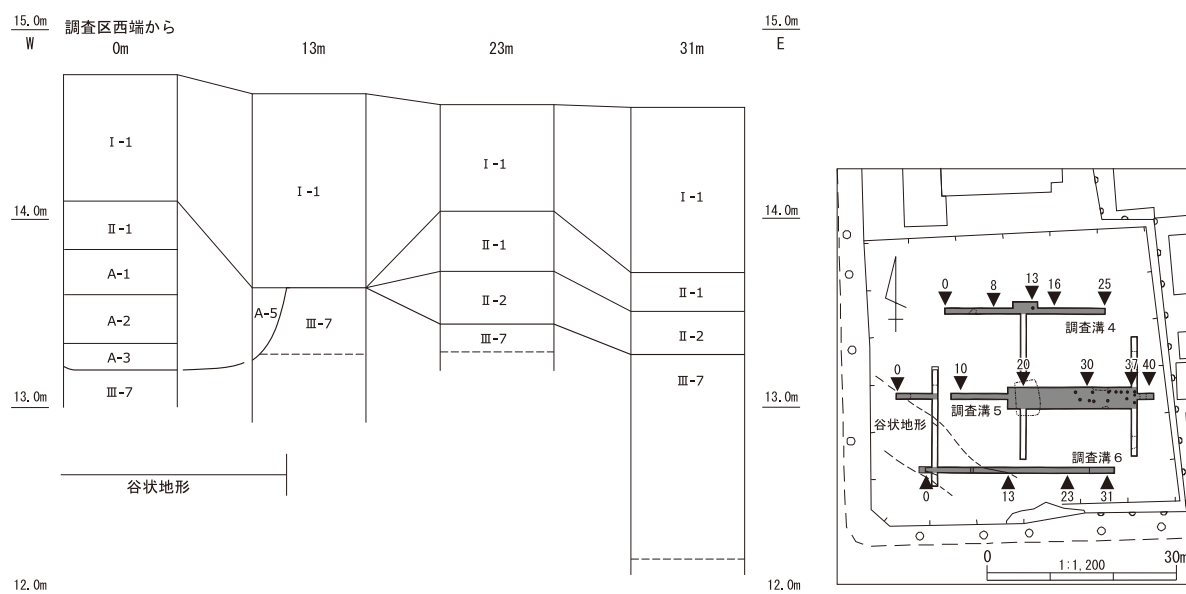
調査溝 4



調査溝 5

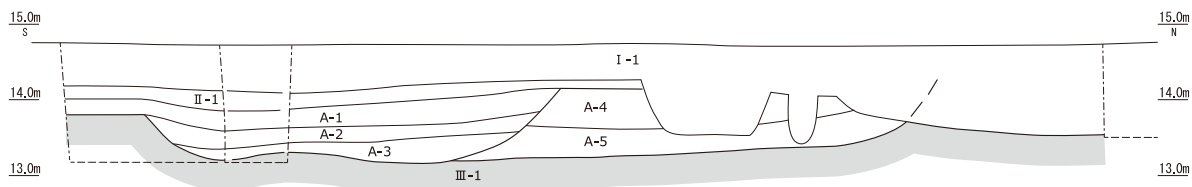


調査溝 6

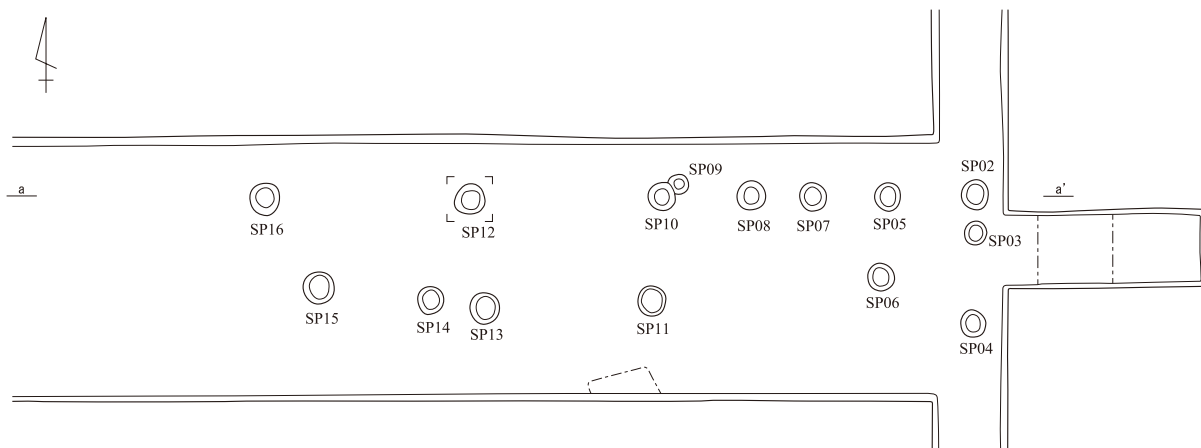


第33図 浜松城下町遺跡12次調査 土層柱状図 (2)

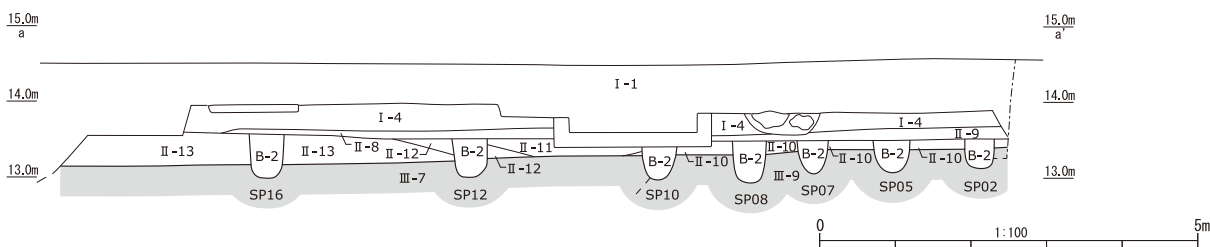
調査溝 1 谷状地形土層断面図



調査溝 5 検出遺構平面図



調査溝 5 土層断面図



基本層序

I 層 近現代の土層

- I-1 暗褐色系の粘質土
- I-2 暗灰黄色土
- I-3 黒灰色粘質土
- I-4 黒褐色土
- I-5 暗褐色土
- I-6 暗灰色土
- I-7 灰褐色土
- I-8 暗赤褐色土

II 層 近世以前の土層

- II-1 褐灰色土
- II-2 暗褐色粘質土
- II-3 暗黄褐色土
- II-4 灰褐色土
- II-5 暗褐色土
- II-6 褐色土
- II-7 灰黄色土
- II-8 明赤褐色粘質土 (近世の造成土か)
- II-9 暗褐色粘質土 (近世の造成土か)
- II-10 褐色粘質土 (近世の造成土か)
- II-11 灰黄色粘質土 (近世の造成土か)
- II-12 灰黄褐色粘質土 (近世の造成土か)
- II-13 褐色粘質土 (整地層か、基盤層由来)

III 層 基盤層

- III-1 黄橙色粘質土
- III-2 橙色粘質土
- III-3 黄色砂礫
- III-4 灰黄色礫土
- III-5 橙色礫土
- III-6 灰黄色砂礫
- III-7 褐色粘質土
- III-8 黄褐色粘質土
- III-9 明褐色土

谷状地形埋土

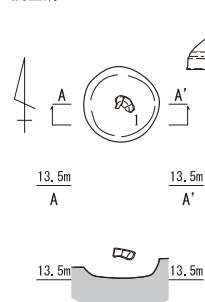
- A-1 灰褐色粘質土
- A-2 灰黄褐色粘質土
- A-3 暗灰褐色粘質土
- A-4 暗黄褐色粘質土
- A-5 暗褐色粘質土

遺構埋土

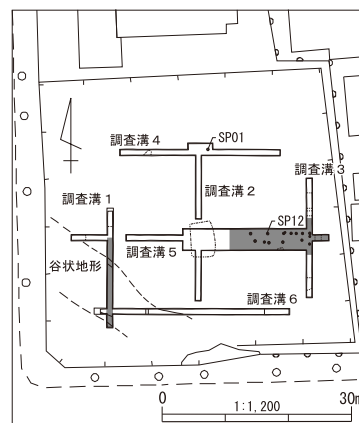
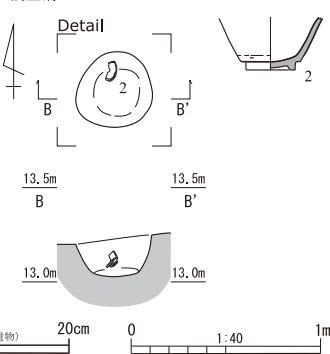
- B-1 灰褐色土粘質土 (SP01 埋土)
- B-2 暗褐色粘質土 (その他 SP 埋土)

遺物出土状態図

調査溝 4-SP01



調査溝 5-SP12

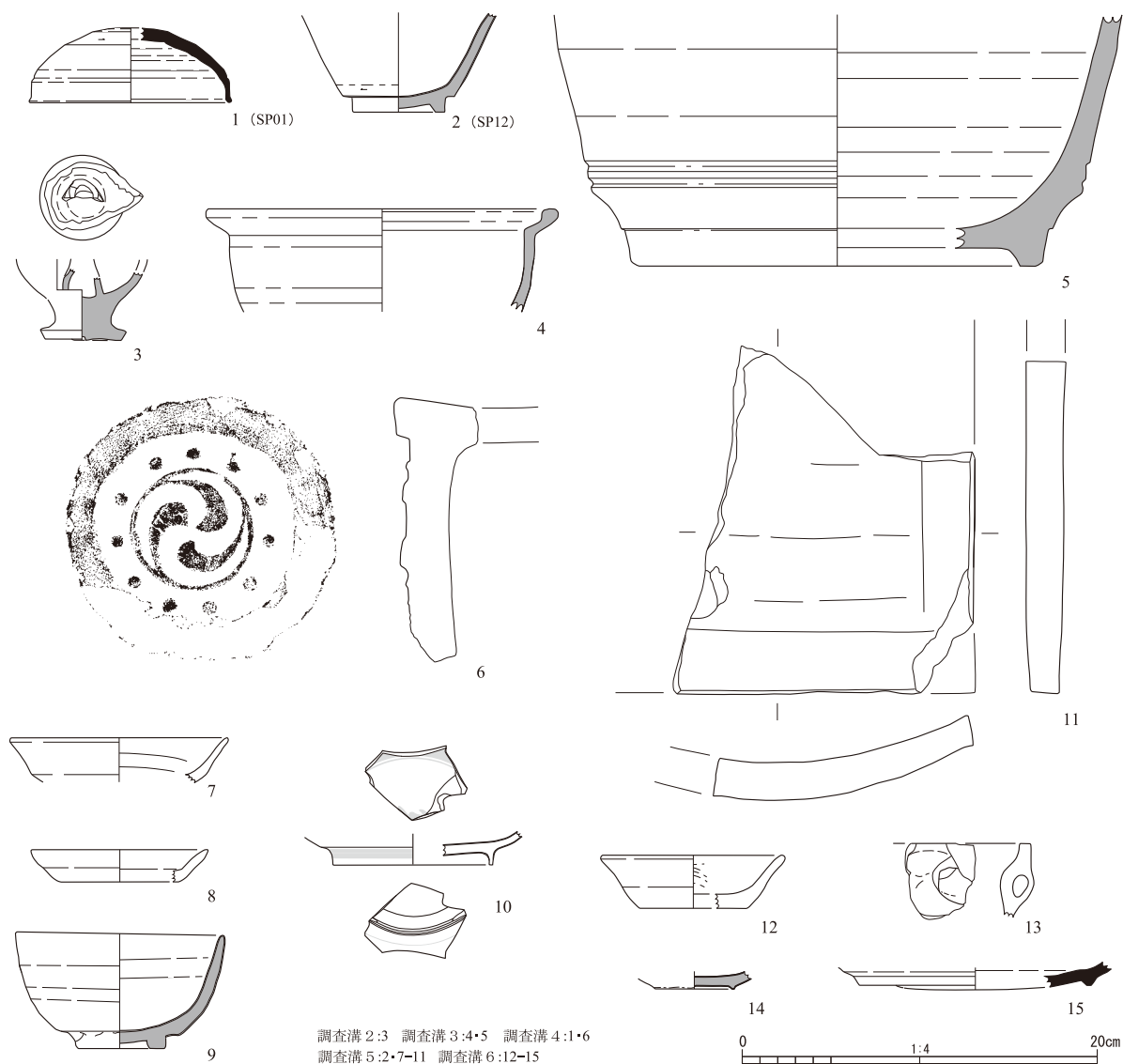


第34図 浜松城下町遺跡12次調査 遺構詳細図

検出遺構 谷状地形と小穴 16 基を確認した。谷状地形は、調査溝 1 西側と調査溝 6 南側において検出し、調査対象地西側中央部付近から南側中央部付近に向けて谷状地形が続いていると推定できる。谷状地形の埋土中から出土した遺物はなく埋没の時期は明確ではないが、一定量の出土遺物が認められる 16 世紀後葉から 17 世紀前半までには埋没していたと推定できる。

小穴は、調査溝 2 で 1 基、調査溝 5 で 15 基の計 16 基を確認し、連番を付した。調査溝 2 の SP01 は、基盤層直上で検出した。検出面で直径 40 cm、検出面からの深さ 10 cm である。埋土中からは須恵器蓋坏蓋（第 35 図 1）が出土し、古墳時代に遡る可能性がある。調査溝 5 では 15 基の小穴（SP02～SP16）を検出した。遺構が検出できた範囲は東西約 10 m、南北約 3 m の限られた範囲のみである。本発掘調査における遺構の検出面は基盤層直上であるが、遺構はⅡ-10 層～13 層よりも上位から掘削されている。小穴は検出面で直径約 40 cm のものが多く、深さは最大で 55 cm である。小穴は東西方向に列をなして検出できたものが多いが、小穴の中央を基準とした小穴の間隔は 0.9 m～2.8 m と多様であり建築物の構造は不明である。

出土遺物 遺構からの出土遺物は 1・2 である。このほかの遺物はⅡ層やⅠ層中や攪乱中からの出土



第35図 浜松城下町遺跡12次調査 出土遺物

である。1はSP01から出土した須恵器蓋坏蓋で、6世紀末葉から7世紀初頭にかけてのものと捉えられる。2は調査溝5のSP12から出土した瀬戸窯産の白天目茶碗である。登窯第1・2小期（17世紀前半）に生産されたものと捉えられる。3は調査溝2のⅠ層中から出土した乗燭で、18世紀後半から19世紀前半にかけて生産されたものと捉えられる。4・5は調査溝3から出土した。4は鍋で19世紀のものと捉えられる。5は瀬戸窯産の半胴であり、17世紀後半のものと捉えられる。6は調査溝4のⅠ層中から出土した三つ巴紋軒丸瓦である。瓦当の直径は15.0cm、三つ巴紋の外周には圈線が巡り、巴の尾部がそれぞれに圈線と連結する。圈線の外周には連珠紋がみられ珠紋の数は11点である。瓦当にはハナレ砂（離型材）が多くみられる。17世紀代に生産されたものと捉えられる。7～11は調査溝5から出土した。7・8は遺構検出時にⅡ-10～13層から出土したロクロ成形のかわらけである。7は口径12.4cm、8は口径10.2cmある。8の口縁部にはススの付着がみられ、灯明皿として使用されたことがうかがえる。9はⅠ層中から出土した瀬戸窯・美濃窯産の灰釉丸碗で、大窯4段階のものと捉えられる。10は表土掘削中に出土した染付皿である。11はⅠ層中から出土した平瓦である。広端面と側端面の一部が残存する。12～15は調査溝6のⅡ-2層から出土した。12はロクロ成形のかわらけで、口径10.4cm、器高3.0cm、底径6.0cmである。13は内湾口縁内耳鍋であり16世紀から17世紀前半を中心とした時期のものと捉えられる。14は灰釉が全面に施された瀬戸窯・美濃窯産の丸皿もしくは端反皿で大窯3・4段階のものと捉えられる。15は須恵器の有台坏身で8世紀前半のものと捉えられる。

（3）結 語

調査対象地の大部分は、攪乱が顕著な部分もあるが江戸時代を中心とした時期の遺構が部分的に残存していることが明らかになった。出土遺物は、古代までのものと大窯3段階以降のものに偏っている。古墳時代や古代の遺物は、浜松城跡や浜松城下町遺跡においてこれまでに行われた発掘調査においても多くの地点で出土しており、浜松城跡や浜松城下町遺跡とその周辺には古墳時代や古代の遺跡が広範囲に存在していると想定できる。

いっぽう、大窯3段階以降の遺物は、天正8年（1580）に五社神社が現在の地に移転した時期と整合的であり、五社神社の移転を契機として調査対象地とその周辺においても開発が進められたことを示していると捉えられる。また、Ⅱ層を中心に出土した遺物は、17世紀前半までに生産されたものに限られており、17世紀前半以降に大規模な造成が行われた可能性を示している。寛永11年（1634）から寛永18年（1641）にかけて五社神社の大規模な改修と、諏訪神社の五社神社南側への移転が行われており、浜松城下町遺跡12次調査で確認したⅡ-10層～13層を中心とした造成土を伴う神主の屋敷地造営は、これらの事業と同時期に行われた可能性が指摘できる。なお、17世紀後葉に浜松藩主を務めた青山氏により作成された青山家御家中配列図（浜松市博物館蔵）には対象地の南半が竹林、北半が屋敷地として記録されている。調査溝5で検出した小穴群は竹林と屋敷地の境界部分にあたり、堀などの区画施設の一部であった可能性がある。

（和田達也）

参考文献

- 東京国立博物館 1996『調査研究報告書 五社神社・諏訪神社 社殿等修理関係資料』
- 太田好治 1996『浜松城跡 考古学的調査の記録』浜松市教育委員会
- 藤沢良祐 2007「総論」『愛知県史 別冊 窯跡2 瀬戸系』愛知県
- 浜松市教育委員会 2017『浜松城下町遺跡』
- 浜松市教育委員会 2020『浜松城下町遺跡2』

上級領主		城主・城代	西暦	和暦	陶器編年 (瀬戸・美濃)	浜松城下町遺跡12次調査成果		おもなできごと	
						古墳時代・奈良時代：古墳・集落等が展開したとみられる		16世紀初頭か：現在の浜松城跡二の丸北西部に五社神社（明神）建立	
今川	飯尾氏 (引間城)		1565	永祿		前半	第3段階	1560年：桶狭間の戦い	
			1570 1570 1573	元龜				1570年：家康、浜松城築城開始	
徳川	徳川家康		1580	天正		後半	大窯	1580年：五社神社、現在の地に移転	
		(城代：曾沼定政)	1586					1572年：三方ヶ原の戦い	
豊臣	堀尾 吉晴 忠氏		1590	文祿		前半	第4段階	1578年～1581年：浜松城修築	
			1596	天保				1579年：秀忠誕生 (五社神社・諏訪神社、産土神として崇敬される)	
徳川	松平忠頼		1600 1601	慶長		後半	末	1582年：天正壬午の乱（戦国大名・武田家滅亡）	
			1609					1586年：家康、秀吉の臣下となる、駿府移転	
秀忠	水野重仲		1615	元和		第1小期	第1段階	1590年：家康、関東移封	
			1619					1600年：関ヶ原の戦い	
家光	高力忠房		1623	寛永		第2小期	第1段階	1615年：五社神社、元和の造替（棟札）	
			1623					1616年：家康没する	
家綱	松平乗寿		1638	元禄		第3小期	第1段階	1632年：秀忠没する	
			1644 1644	延宝				1634年：寛永期の造営開始 諏訪神社、五社神社南隣に移転	
家綱	太田 資宗		1648 1648	天明		第4小期	第1段階	1641年：五社神社・諏訪神社の竣工・遷座（棟札） 五社神社と諏訪神社が並立した景観が成立	
			1652 1652 1655 1655 1658 1658 1661 1661	天明				秀忠の没後、家光によって東照宮や家康・秀忠・徳川氏祖先の菩提寺、産土神の造替・造立が数多く行われる。	
家綱	太田 資次		1673	延宝		第5小期	第1段階	1675年：五社神社・諏訪神社、延宝の修理（棟札）	
			1678	享和				17世紀後葉：調査対象地の南半は竹林、北半は屋敷地（青山家御家中配列図）	
綱吉	青山 忠重		1681 1681 1684 1684 1688 1688	元禄		第6小期	第2段階	1707年：宝永地震	
			1700 1702	宝永				1738年：諏訪神社神殿、元文の修理（棟札）	
吉宗	本庄 資俊 (松平)		1711 1711 1716 1716	享保		第7小期	第2段階	1745年：五社神社・諏訪神社、延享の修理（棟札）	
			1729	天明				1854年：安政地震	
家重	松平 信祝		1736	天明		第8小期	第3段階	1859年：五社神社、安政の修理（棟札）	
			1741 1741 1744 1744 1748 1748	天明				1872年：岡部氏が五社神社の祠官になる 神主の屋敷地は、平野氏が所有	
家重	松平 資訓 (本庄)		1749 1751	天明		第9小期	第3段階	1874年：廃城令	
			1758	天明				1945年：空襲により焼失	
家治	正定		1764 1764 1772 1772	天明		第10小期	第3段階		
			1781 1781	天明					
家治	井上 正甫		1800 1801 1804 1804	天明		第11小期	第3段階		
			1817 1818	天明					
家治	水野 忠邦		1830	天明		第12小期	第3段階		
			1845 1844 1848 1848	天明					
家慶	正春		1854 1854 1860 1860	天明		第13小期	第3段階		
			1868 1868	天明					
家慶	井上 正直		1868 1868	天明		第14小期	第3段階		
			1868 1868	天明					

第36図 浜松城下町遺跡の調査地とその周辺の動態



1 増楽遺跡12次 調査区西半（南東から）



2 増楽遺跡12次 調査区東半（北西から）

図版 2



1 増楽遺跡12次SD01完掘状況（北西から）



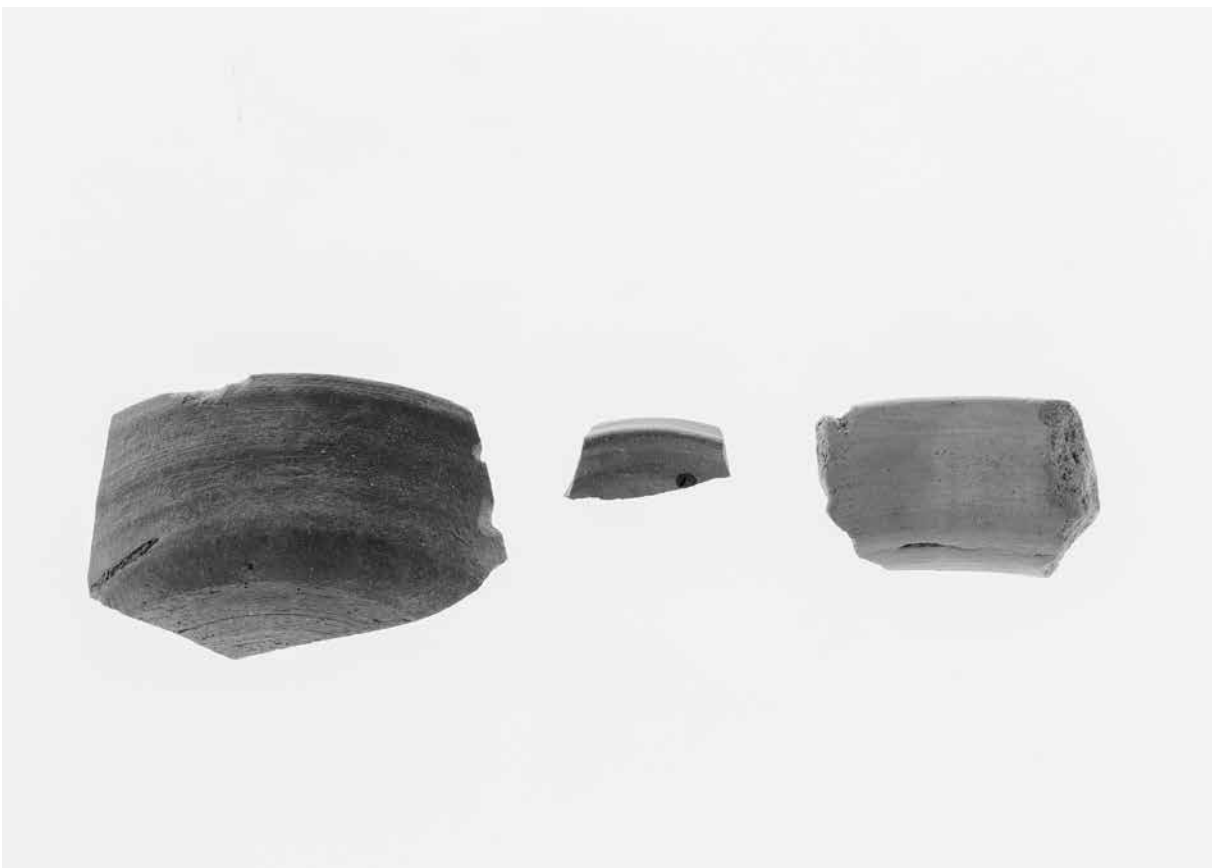
2 増楽遺跡12次SK02. 03. 04完掘状況（南東から）



3 増楽遺跡12次出土遺物



1 若林町村西遺跡15次 調査区東側全景（南から）



2 若林町村西遺跡15次出土遺物



1 恒武西宮遺跡26次調査 調査溝 1 全景（北から）



2 恒武西宮遺跡26次調査 調査溝 1 SK02・SD01遺物出土状況（北西から）



1 恒武西宮遺跡26次調査 調査溝2全景（東から）



2 恒武西宮遺跡26次調査SD04（北東から）



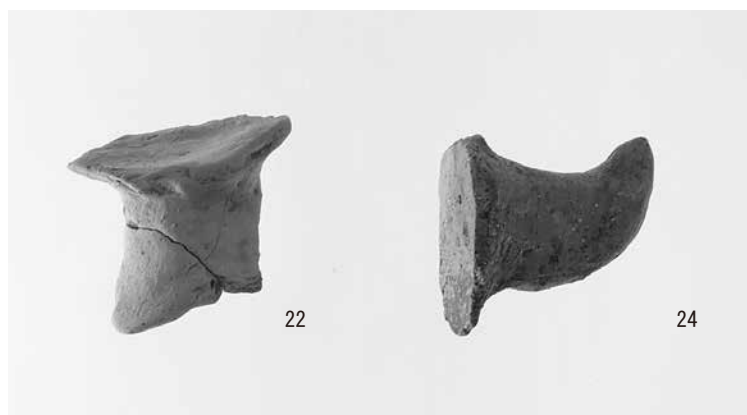
3 恒武西宮遺跡26次調査SD06（北から）

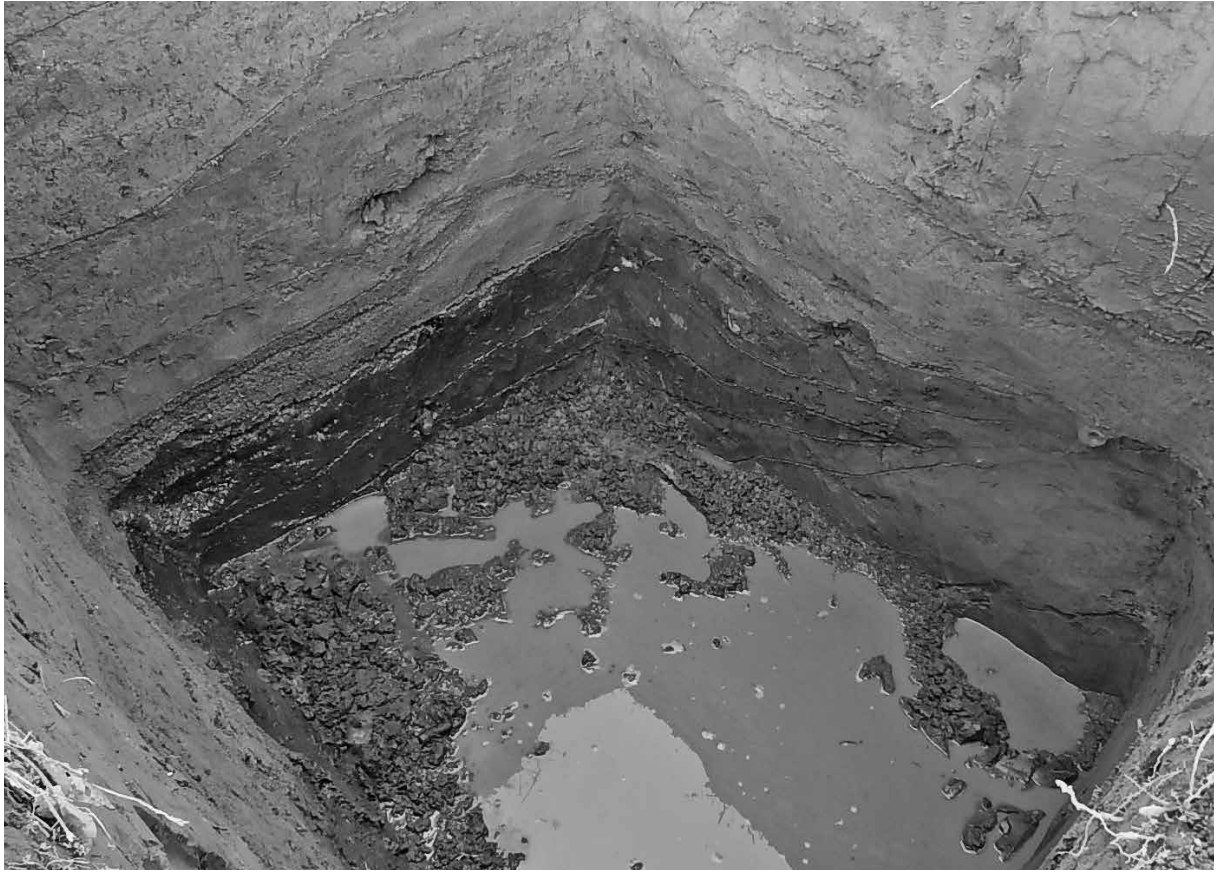


4 恒武西宮遺跡26次調査SD07（北から）



5 恒武西宮遺跡26次調査SK07（北から）

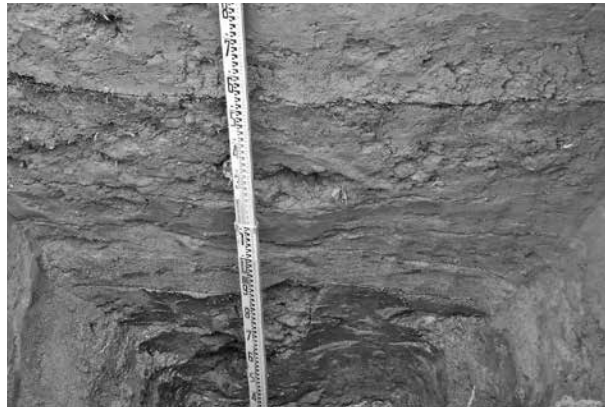




1 恒武西宮遺跡28次調査 調査坑15 恒武大溝検出状況（南西から）



2 恒武西宮遺跡28次調査 調査坑11（南西から）



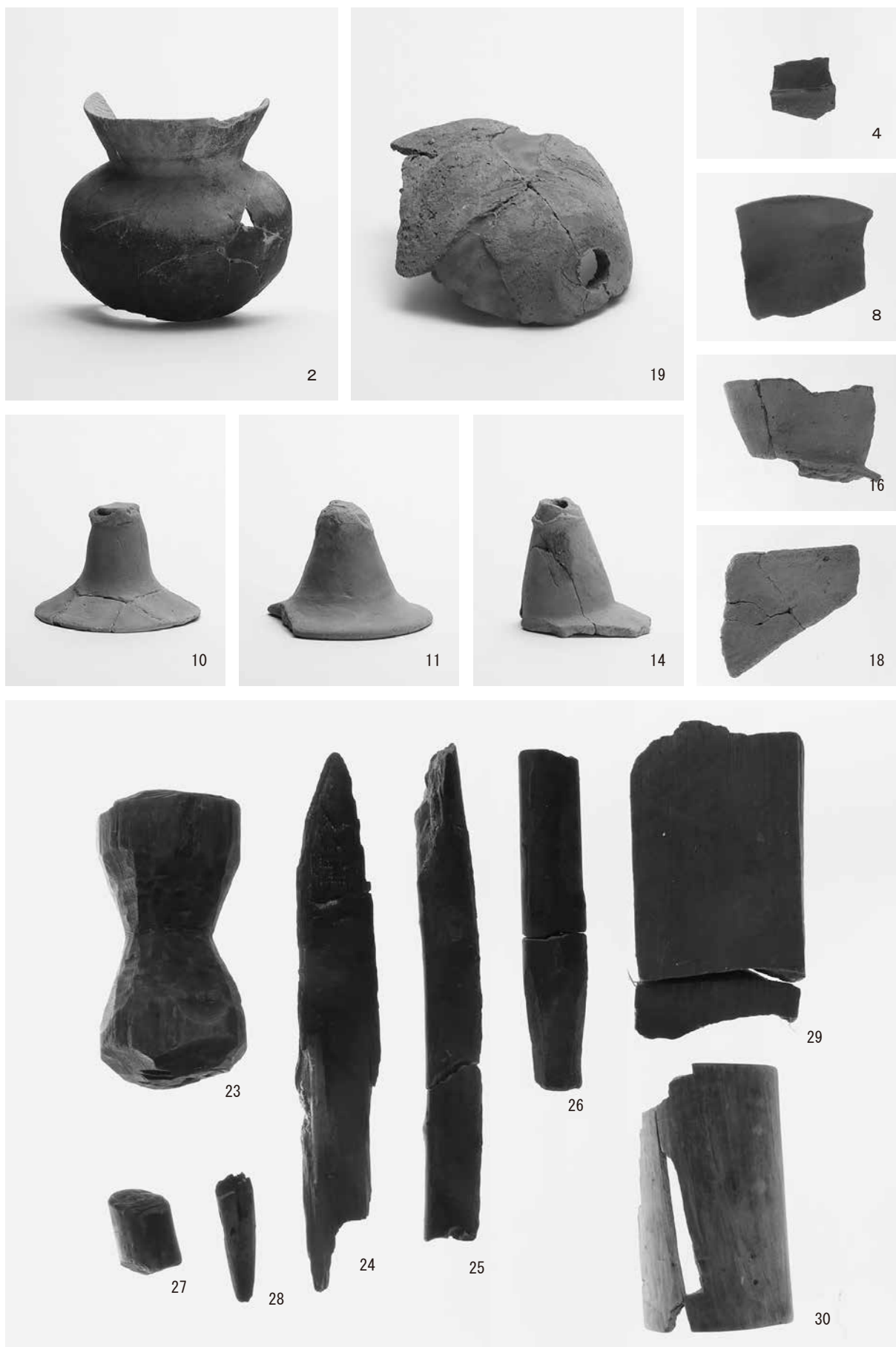
3 恒武西宮遺跡28次調査 調査坑12（南西から）

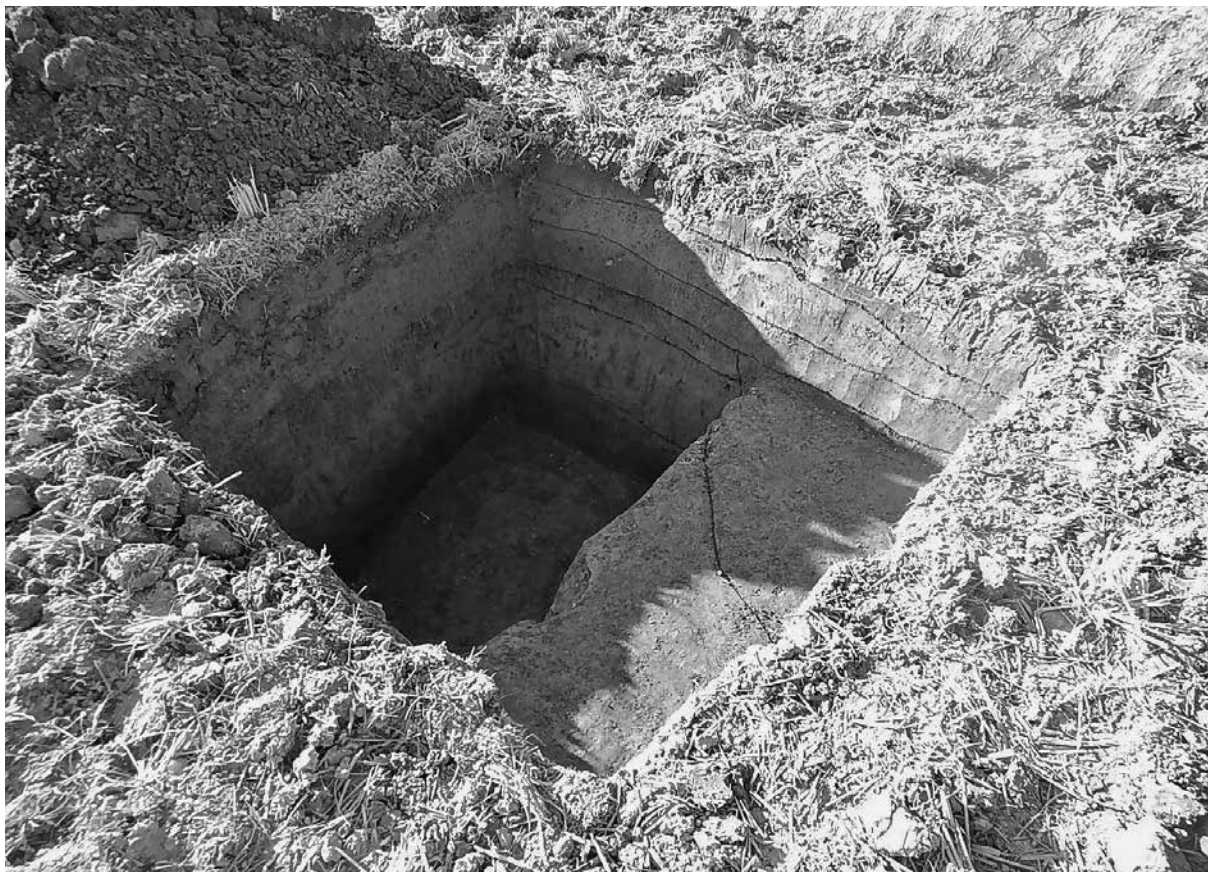


4 恒武西宮遺跡28次調査 調査坑13（北東から）



5 恒武西宮遺跡28次調査 調査坑30（南から）





1 恒武西宮遺跡29次 調査坑 1 全景



2 恒武西宮遺跡29次 調査坑 7 全景



1 恒武西宮遺跡29次 調査坑 9 SK01遺物出土状況



2 恒武西宮遺跡29次 出土遺物



1 浜松城下町遺跡12次調査 調査溝5完掘状況（北東から）



1 浜松城下町遺跡12次調査 調査溝5完掘状況（南西から）



2 SP01遺物出土状況（南東から）



3 SP11 遺物出土状況（南東から）

報告書抄録

書名(ふりがな)	令和元年度 浜松市文化財調査報告 (れいわがんねんど はままつしぶんかざいちょうさほうこく)							
編著者名	鈴木京太郎、和田達也、川西啓喜 ※第２部第４章							
編集発行機関	浜松市教育委員会（浜松市市民部文化財課が補助執行） 浜松市市民部文化財課 〒430-8652 浜松市中区元城町 103-2 TEL (053) 457-2466							
発行年月日	2021 年 3 月 26 日							
ふりがな 遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ぞうらいせき 増楽遺跡	浜松市 南区 増楽町	22134	4-2-9	34 度 41 分 28 秒	137 度 41 分 40 秒	2019 年 10 月 1 日、2 日	63 m ²	個人住宅建設に伴う本発掘調査
わかばやしちようむらにしいせき 若林町村西遺跡	浜松市 南区 若林町	22134	4-2-6	34 度 41 分 24 秒	137 度 42 分 7 秒	2019 年 12 月 12 日、 13 日	13 m ²	個人住宅建設に伴う本発掘調査
つねたけにしみやいせき 恒武西宮遺跡 (26 次)	浜松市 東区 貴平町	22132	2-2-12	34 度 45 分 30 秒	137 度 47 分 35 秒	2019 年 4 月 8 日～11 日	53 m ²	墓地増設に先立つ確認調査
つねたけにしみやいせき 恒武西宮遺跡 (28 次)	浜松市 東区 恒武町外	22132	2-2-12	34 度 45 分 36 秒	137 度 47 分 29 秒	2019 年 2 月 25 日、 26 日	120 m ²	工場建設に先立つ確認調査
つねたけにしみやいせき 恒武西宮遺跡 (29 次)	浜松市 東区 恒武町	22132	2-2-12	34 度 45 分 34 秒	137 度 47 分 42 秒	2020 年 3 月 5 日、6 日	68 m ²	工場建設に先立つ確認調査
はままつじょう かまちいせき 浜松城下町遺跡	浜松市 中区 利町	22131	1-4-18	34 度 42 分 23 秒	137 度 43 分 34 秒	2020 年 3 月 16～19 日、 24 日、25 日	179 m ²	浜松城下町遺跡に関する確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
増楽遺跡	集落跡	奈良時代		溝・土坑		須恵器、土師器		
若林町村西遺跡	集落跡	奈良時代		溝・土坑・小穴		須恵器、土師器		
恒武西宮遺跡 (26 次)	集落跡	古墳時代		溝・土坑		須恵器、土師器、勾玉形石製品、砥石		
恒武西宮遺跡 (28 次)	集落跡	古墳時代・奈良時代		自然流路 (大溝)		木製品、須恵器、土師器	山ノ花大溝を確認	
恒武西宮遺跡 (29 次)	集落跡	古墳時代～戦国時代		溝・土坑・小穴		須恵器、土師器、山皿、内耳鍋、かわらけ		
浜松城下町遺跡	城下町	古墳時代・江戸時代		小穴・溝・自然流路		須恵器、瓦、土師質土器、陶器		
要約	<p>令和元年度に実施された小規模本発掘調査（増楽遺跡 12 次、若林町村西遺跡 15 次）と、大きな成果が得られた確認調査（恒武西宮遺跡 26・28・29 次）、重要遺跡における調査（浜松城下町遺跡 12 次）の計 6 件の発掘調査について報告した。</p> <p>増楽遺跡は、浜松市南部の東西に延びる砂定列上に位置する古代～中世を中心とした複合遺跡である。12 次調査では、溝 4 条、土坑 8 基を検出し、古代を中心とした遺物が確認された。</p> <p>若林町村西遺跡は、浜松市何文の海岸平野上に位置する縄文時代～近世にかけての集落遺跡である。15 次調査では、後世の擾乱の影響を受けていたものの、7～8 世紀代の遺構・遺物が確認された。</p> <p>恒武西宮遺跡は、天竜川沖積平野に位置する古墳時代～戦国時代の遺跡である。26 次調査では、土坑 7 基、溝 7 条が確認され、古墳時代後期（6 世紀）の異物が出土した。28 次調査では、30 箇所の確認調査坑を掘削し、調査対象地の北部において山ノ花大溝の流路とみられる土層堆積状況を確認した。山ノ花大溝内からは多数の木製品や古墳時代中期の土師器が出土した。29 次調査では、17 箇所の確認調査坑を掘削し、調査対象に全域で古墳時代を中心とした遺構・遺物が確認された。</p> <p>浜松城下町遺跡 12 次調査地点は、江戸時代に五社神社の神主屋敷が存在したと推定される地点である。後世の擾乱が顕著であったが、部分的に古墳時代や近世の遺構や遺物を確認した。また、調査対象地南西部には谷状の地形があり、江戸時代以前に埋め立てられたと捉えられる。</p>							

令和元年度 浜松市文化財調査報告

2021年 3月26日

発行 浜松市教育委員会

(浜松市市民部文化財課が補助執行)

印刷 松本印刷 株式会社

